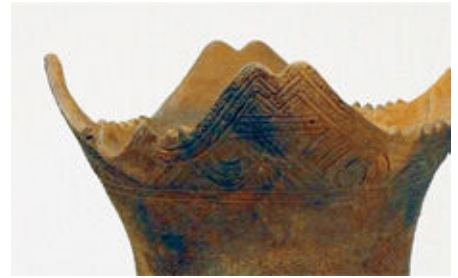




松戸市

文化財保存活用 地域計画

松戸市教育委員会



2023年7月

はじめに

私たちは進化に進化を重ねて、現在の文化を創ってきました。その流れの中で、目の前の新しい文化に関心や評価が強く限定されてしまうことは避けなければなりません。積み重ねられたその一つ一つの文化には、それぞれの貴重な存在意義があり、歴史のそれぞれの局面で努力されたものの中には、現代の最先端を以てしても真似できないものも多く存在します。それらを含めた文化財、そこからの文化を確認することは、私たちにとって、さらに続く未来を創るための重大な責務なのです。



しかしながら、平成から令和に移り変わる時期に、社会の複雑化、急速なICT化など様々な背景の変化の中で、その文化財の在り方が危機的状況にあると警鐘が鳴らされ、それぞれの地域の歴史的・文化的資産の保存・活用の計画性が訴えられました。

本県では、「千葉県文化財保存活用大綱」が令和2年10月に示され、本年度、本市として「松戸市文化財保存活用地域計画」を策定しました。この計画を通して、旧石器時代からと言われる本市各時代の考証からしてみても、多くの価値を有している松戸市域の文化財の保存、修理、活用に努力します。

文化財の活用・保存を通して、市民の郷土への愛着や identity を育てることは、松戸市教育改革の際に示された Responsibility に通底するものであると考えます。このことが市民の皆様の様々なつながりを生む土台となり「文化と教養のまちづくり」の基礎作りとなります。文化を大切にする街となり、混沌とした未来に残る街になるのです。市民の皆さんのご理解とご支援を宜しくお願いします。

令和5年7月

松戸市教育委員会
教育長 伊藤 純一

目 次

第1章 計画作成の趣旨	1
第1節 背景と目的.....	1
第2節 計画における文化財の定義.....	2
第3節 計画の位置付け.....	3
第4節 計画期間.....	8
第2章 松戸市の概要	9
第1節 松戸市の地理的環境と自然.....	9
第2節 松戸市の現況.....	12
1. 松戸市の沿革.....	12
2. 人口動態と社会の動向.....	12
3. 土地利用.....	14
4. 産業.....	15
5. 交通.....	16
第3章 松戸市の歴史	18
1. 旧石器時代.....	18
2. 縄文時代.....	19
3. 弥生時代.....	21
4. 古墳時代.....	22
5. 奈良時代・平安時代.....	24
6. 中世.....	26
7. 近世.....	30
8. 近代から現代.....	34
第4章 松戸市の文化財の概要と特徴	39
第1節 指定等文化財.....	40
第2節 把握している文化財の概要.....	43
第3節 松戸市の歴史文化の特徴.....	48
第5章 計画の基本理念と基本方針	62
第1節 基本理念.....	62
第2節 基本方針.....	62

第6章 調査・保存・活用・支援の現状と課題	64
第1節 「松戸の歴史文化をより深く、より広く調べる」ー現状と課題.....	64
第2節 「大切な文化財を守り、次の世代へ継承する」ー現状と課題.....	70
第3節 「縄文からの松戸の歴史文化を伝える」ー現状と課題.....	74
第4節 「松戸の歴史文化を守るため、地域とのつながりを深める」ー現状と課題.....	81
第7章 松戸市の取組と年次計画	84
第1節 取組の体系.....	84
第2節 「松戸の歴史文化をより深く、より広く調べる」ー取組と年次計画.....	87
第3節 「大切な文化財を守り、次の世代へ継承する」ー取組と年次計画.....	89
第4節 「縄文からの松戸の歴史文化を伝える」ー取組と年次計画.....	93
第5節 「松戸の歴史文化を守るため、地域とのつながりを深める」ー取組と年次計画.....	96
第8章 ストーリーを活かした総合的な取組	97
第1節 歴史文化の特徴を語るストーリーと関連文化財群.....	97
第2節 5つのストーリー.....	98
ストーリー1:豊かな海の記憶と水辺の暮らし.....	98
ストーリー2:交流の広がりから高城氏の時代へ.....	101
ストーリー3:宿場・河岸から街へ.....	104
ストーリー4:小金牧から常盤平団地へ.....	108
ストーリー5:祈りと娯楽の系譜.....	111
第3節 ストーリーを活かした総合的な取組.....	114
第9章 文化財の防災・防火と防犯	126
第1節 現状と課題.....	126
第2節 防災・防火と防犯に関する方針.....	126
第3節 防災・防火と防犯に関する取組.....	127
第10章 計画の評価と推進体制	132
第1節 計画作成の体制.....	132
第2節 進捗管理及び評価.....	135
第3節 推進体制と関係機関及び団体.....	136
第4節 推進体制の現状と課題.....	139
第5節 体制整備の方針.....	139
資料編	

第1章 計画作成の趣旨

第1節 背景と目的

(1)作成の背景

2018(平成30)年、地域における文化財の計画的な保存・活用の促進や、地方文化財行政の推進力強化を目指し、「文化財保護法」及び「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部が改正され、翌2019(平成31)年の4月1日から施行されました。法律改正の背景には、「過疎化・少子高齢化など」文化財継承に係る危機的な状況により、「文化財の滅失や散逸等の防止が緊急の課題」になってきているという現状認識があります。

首都圏に位置する松戸市においては、昭和30年代にはじまる大規模な開発と人口の増加により、都市化が急速に進展してきました。これに伴い、地域の歴史文化を継承する担い手の多くが、急増した転入者やその次世代にあたる人々により占められることになり、伝統的な地域社会の存在感も相対的に希薄となりました。

平成に入ると人口増加は緩やかになり、平成20年代以降にはやがて減少傾向を示すようになります。またこの時代には、人々の意識の上に様々な変化が見られるようになり、従来からの働き方を見直す動きや、男女共同参画社会の実現など、それまでの固定的な観念にとらわれない考え方や価値観が広まり、さらに情報化社会の進展により多様化が促進されました。

令和の現在、市民の多くは、かつての転入者の二世や三世となり、新たな人口の流入も続いています。その結果松戸市では、毎年わずかながら人口が増加するとともに、少子高齢化も着実に進行しているという複雑な状況が現出します。また松戸市民の意識や価値観、ライフスタイルが多様化し、さらに情報化が飛躍的に進展する一方、地域や人と人とのつながりはますます希薄になってきています。

首都近郊に特有ともいえるこうした状況下であって、本市においても「文化財の滅失や散逸等」は目前の危機として存在し、その「防止が緊急の課題」であることは間違いありません。

(2)計画の目的

多様な考え方や認識を踏まえつつ、市民の「ふるさと松戸」への愛着と誇りを醸成し、地域固有の歴史的・文化的な資産を次世代へ引き継いでいくためには、文化財の保存と活用を今まで以上に計画的かつ戦略的に進める必要があります。

「松戸市文化財保存活用地域計画(以下、「本計画」)」は、行政や関係団体のみならず、地域に暮らす人々とも積極的に連携・協働し、文化財の保存・活用を推進するための基本的な考え方を

まとめたマスタープランであり、第7章以降に掲載した具体的な取組については、それぞれ役割を分担する主体や計画期間を設定しています。本計画が掲げるこれらの施策を推進することで文化財の保存・活用と、それを担う人材を育成し、魅力あるまちづくりに繋がりたいと考えています。

第2節 計画における文化財の定義

「文化財保護法」では、文化財を有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物群の6類型に分類し、我が国にとって歴史上または芸術上の価値が高いもの、生活の推移や生業についての理解に欠くことのできないものについて、指定、選定、登録、選択等により保護を図るものとしています。またこれに加えて文化財の保存技術と埋蔵文化財についても保護の対象としています。

その上で本計画においては、「文化財保護法」に示される文化財の範疇に加え、人々の営みから生み出され、引き継がれてきた事物や事象のうち、歴史的・文化的な価値を有するものを文化財と定義づけることとします。さらに言えば、松戸市民が地域の歴史や文化を理解する上で不可欠なもの、また多くの人々や地域にとって大切なもの、将来にわたって守り伝えていくべきであると認識される事物や事象について、指定の有無にかかわらず、広く本計画の対象とします。

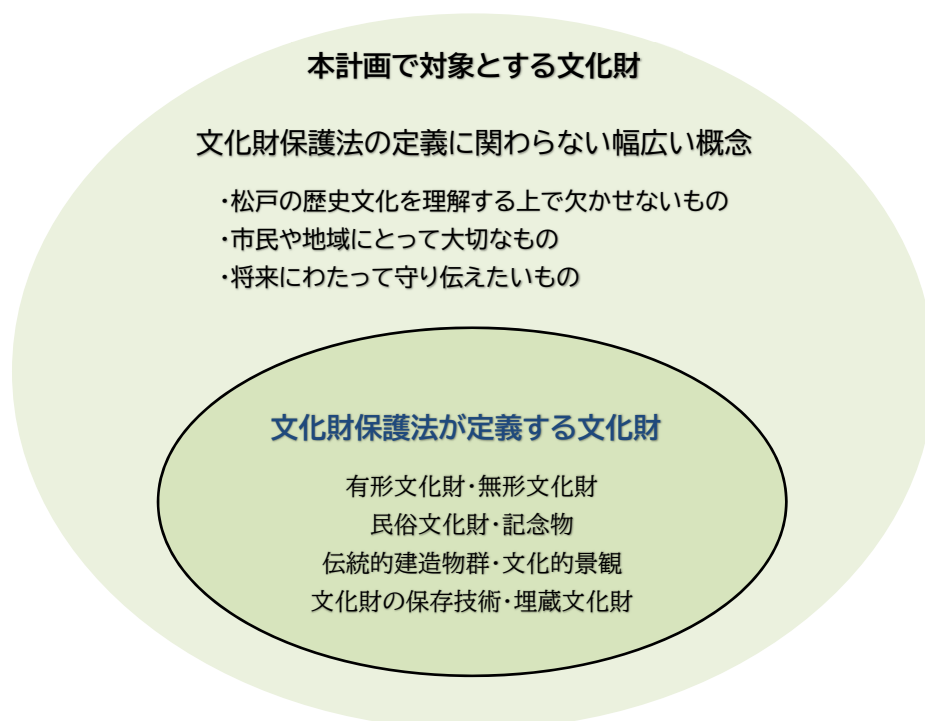


図1 本計画が対象とする文化財

第3節 計画の位置付け

本計画は、「千葉県文化財保存活用大綱」との整合を図りながら、市の最上位計画である「松戸市総合計画」を根幹に据え、2021(令和3)年に定められた教育委員会の指針「学びの松戸モデル」の基本理念に則り作成しました。

作成に際しては、地域の特徴ある景観を保全し、次世代へ継承するための総合的な指針である「松戸市景観基本計画」をはじめ、既存の他の分野別の基本計画や「松戸市都市計画マスタープラン」との整合を図りつつ、「博物館リニューアル基本構想・基本計画」や「名勝旧徳川昭武庭園^{あきたけ}(戸定邸庭園)保存活用計画」を包括し、総合計画や「学びの松戸モデル」が定める施策の基本目標実現と、内容の充実を図るものとしています。

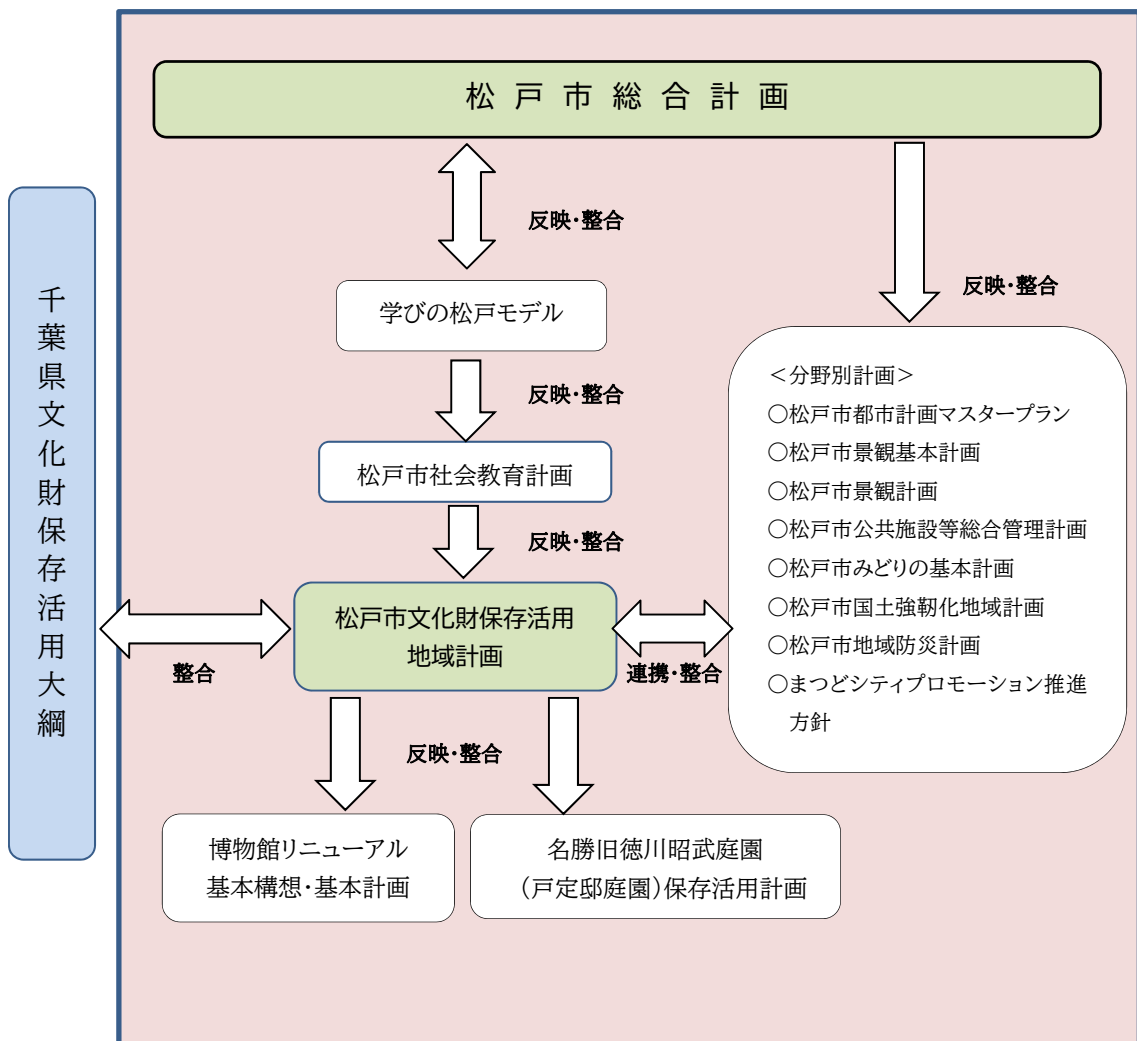


図2 松戸市文化財保存活用地域計画の位置付け

(1)上位計画等の概要(図2)

【松戸市総合計画】 期間:2022(令和4)年度~2029(同11)年度

●将来都市像

「多世代がともにいきいきと思いきいに暮らすことができるまち やさシティ、まつど。 ~つよくなやかに みんなで松戸の新たな時代を創ろう~」

(将来都市像を実現するため設定した基本目標)

基本目標1:子育て・教育・文化~子育て・教育・文化を軸とした都市ブランドづくり~

基本目標2:高齢者・障害者・福祉・健康・地域共生~誰もがいきいきと暮らせるまちづくり~

基本目標3:まちの再生・リニューアル~居心地の良い魅力的なまちづくり~

基本目標4:雇用創出・経済活性化~地域経済が活力にあふれ、自分らしく働けるまちづくり~

基本目標5:防災・防犯・安全安心~安全で安心して暮らせるまちづくり~

基本目標6:SDGs(持続可能な開発目標)を推進する社会~人と環境にやさしいまちづくり~

【学びの松戸モデル】 期間:2021(令和3)年~2030(同12)年

●基本理念

「ことばを育み 人がつながる 学びの松戸 ~文化と教養のまちづくり~」

(基本理念の実現に向け、学びを通じて市民に期待する姿)

【自立】自身の存在の確立と利他の心を意識しながら、これからの時代の変化に対しても主体的に行動し、自らの人生を豊かにするとともに、地域のより良い未来をつくる姿。

【誇り】本市特有の歴史・文化を知り、次代へ引き継ぐだけでなく、多様性に配慮した、これからの地域社会を構築していく中で築かれる、新しい松戸の価値や魅力を内外に発信し、地域のさらなる発展に貢献していく姿。

【つながり】日々の暮らしの中で多様な考え方や選択を認め合いながら、誰もが役割を担い、人だけでなく、施設、関係機関、団体など、多様なつながりの中で、人を育み、地域を豊かにしていく姿。

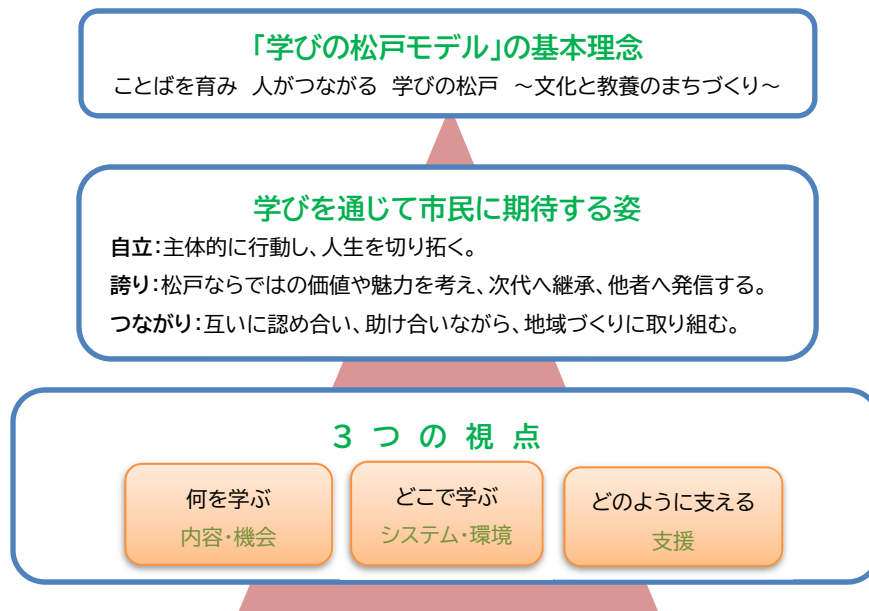


図3 「学びの松戸モデル」の考え方を示す概念図

(具体的な施策と方向性)

I-1-1 文化財の保存や活用による歴史的・文化的資源への興味・関心を高めます。

I-1-2 博物館の展示リニューアルにより、松戸の歴史的価値を伝えます。

I-1-3 戸定歴史館の魅力を高めます。

【第二次松戸市社会教育計画】 期間:2023(令和5)年度~2030(同12)年度

●基本理念

「ことばを育み 人がつながる 学びの松戸~文化と教養のまちづくり~」

基本施策Ⅰ:学ぶ内容・機会「何を学ぶ」

基本施策Ⅱ:学ぶ環境・システム「どこで学ぶ」

基本施策Ⅲ:学びの支援「どのように支える」

(2)本計画に包括される計画等の概要(図2)

【名勝旧徳川昭武庭園(戸定邸庭園)保存活用計画】 2019(平成31)年度制定

戸定邸は、最後の水戸藩主徳川昭武によって建設された私邸で、1890(明治23)年までには庭園も造られています。1991(平成3)年11月には旧敷地を含む周辺の土地約2.3haが整備され、「戸定が丘歴史公園」がオープンしており、2006(平成18)年には戸定邸が国の重要文化財に、2015(同27)年には庭園が国の名勝にそれぞれ指定されています。

本計画は、戸定邸庭園の変遷及び現状を整理し、文化財としての本質的価値を明らかにするとともに、昭武存命期を基準とした庭園の復元に向けた保存・活用の方針や、その後の具体的な管理方法等について示しています。なお現在は戸定邸建物の保存活用計画策定に向けた準備を行っており、庭園と邸宅の一体的な保存・活用を目指しています。

【博物館リニューアル基本構想・基本計画】 期間:2023(令和5)年度~2032(同14)年度

●策定の方針

これまでの機能・役割を見直し、より高度な資料の保存と活用を通して、多くの分野、地域、人と人、過去から未来への繋ぎ役として新たな文化施設へと進化させることを目的とする。

(3つの使命)

1. 「知」の集積をもとに未来を展望するために誰もが活用できる歴史博物館をめざします。
2. 「ふるさと松戸」に対する愛着と誇りを育むことができる地域博物館をめざします。
3. 「ひとつづくり」に貢献できる文化交流の場をめざします。

(使命達成のための事業目標と方針)

事業目標1:広報戦略 松戸ブランドの価値創出

事業目標2:エリア戦略 広域的な文化交流拠点の形成

事業目標3:ターゲット戦略 新しいファン層の獲得

事業目標4:展示戦略 新たな展示空間の創設

事業目標5:施設戦略 施設の長寿命化

(3) 千葉県の方針(図2)

【千葉県文化財保存活用大綱】 2020(令和2)年10月制定

●千葉県が目指す文化財の保存・活用の将来像

「県民一人一人が文化財の魅力を知り、守り、次世代につなげ、活用する」ことで、「豊かな県民文化を育む」

(保存・活用の方向性)

- ◇県民一人一人が文化財の魅力を知り、主体的に守り伝えます。
- ◇県・市町村・地域の人々が連携して、価値ある文化財を把握し、保存・継承・活用を図ります。

(保存・活用の方針)

- ◇文化財の理解促進と魅力の周知などの普及啓発活動を強化します。
- ◇継続した調査を行い、保存・活用すべき文化財の把握に努め、指定等を推進します。
- ◇計画的な保存・修理等により、価値の維持に努めます。
- ◇文化財の保存・継承への取組を推進し、そのための体制を整備します。
- ◇地域連携を推進し、県民一人一人が参画する文化財の保存・活用を図ります。
- ◇文化財の観光振興等への活用を推進します。
- ◇県と市町村が優先的に取り組むテーマを定め、連携して取り組みます。

(文化財の保存・活用を図るための取組)

◎文化財の理解促進と魅力の周知などの普及啓発活動 ◎文化財の調査、把握、指定等 ◎文化財の保存・修理等 ◎文化財の保存・継承への取組と体制整備 ◎地域連携の推進と、県民一人一人が参画する文化財の保存・活用 ◎文化財の観光振興等への活用の取組 ◎県と市町村が優先的に取り組むテーマ

(市町村及び文化財所有者等への支援)

方針：各市町村がそれぞれの特徴を生かした文化財の保存・活用を図ることができるよう、市町村が行う文化財の保存・活用に係る事業の技術的・財政的支援を市町村の要請に応じて行います。国指定文化財等に関連する業務については、国との連絡調整を行い、また適切な文化財の保存・活用が図られるよう、文化財所有者、管理責任者、管理団体に対し技術的・財政的支援を行います。

取組

- ◇文化財保存活用地域計画の作成、文化財の保存・活用についての指導助言。
- ◇補助金による財政的支援。
- ◇指定候補調査等への技術支援、県の有する情報の提供、災害確認調査の支援。
- ◇記念物等の国指定に係る意見具申、現状変更の手続き、国庫補助事業等や国指定文化財に係る国との連絡調整。
- ◇市町村職員への研修実施、職員派遣。
- ◇歴史的建築物の建築基準法の適用除外に関する支援。
- ◇都道府県及び市町村間、関係機関等との連携と支援、ネットワーク構築と各種会議等の開催。

(防犯・防災及び災害発生時の対応)

方針：日常的な防犯・防災意識を高め、体制づくりに努めるとともに、設備の充実と定期点検や修理・更新など必要な対策を施します。また、災害発生時には、被害情報の収集から応急処置、復旧への対応など、文化財の保全に努めます。

取組：文化財保護のための防犯・防災対策に努め、日頃からの防犯・防災意識の寛容を図るとともに、施設等の整備・維持を推進します。

災害が発生した場合は、人命保護を最優先しつつ、文化財所有者と行政の連携した情報伝達により、県内文化財の被災状況を集約するとともに、国等との情報共有を図ります。

文化財が被災した場合は、文化的価値を損なわないよう被害拡大を防ぎ、文化財所有者、市町村、県、文化庁の連携を密にし、災害復旧にあたり、国、県、市町村及び民間が連携した救済支援体制の構築を進めます。

(4)SDGs (持続可能な開発目標)と本計画の関係

SDGs とは、2015(平成27)年にニューヨークの国連本部で開催された「持続可能な開発サミット」で採択された目標で、2030 年までに達成を目指す 17 のゴール、169 のターゲットが掲げられています。

松戸市は、2020(令和2)年に「地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム」に入会、令和3年には SDGs の達成に向けた取組を原動力とした地方創生を、総合的かつ効果的に推進するため、松戸市地方創生 SDGs 推進本部を設置しました。そして市民、企業、各種団体などのステークホルダー(活動を通

じて関係する全ての相手)とのパートナーシップを推進し、「経済・社会・環境」の調和を保ち、現世代と将来世代がともに安全・安心に暮らせる持続可能な優しいまちを実現させる取組を進めることにより、我が国や世界の SDGs 達成に貢献することを宣言しています。また「松戸市総合計画」において、施策展開の基本目標6に「SDGs(持続可能な開発目標)を推進する社会～人と環境にやさしいまちづくり～」を掲げ、将来にわたり持続可能な松戸市のあり方を示しています。本計画においても、ゴール11の「住み続けられるまちづくり」のターゲット4「世界の文化遺産および自然遺産の保護・保全の努力を強化する」と関連して、松戸の文化遺産や自然遺産の保護と次世代への継承を進め、松戸の魅力を発信してまちづくりや地域振興に繋げることや、全ての人々に配慮した学習の機会を提供し、SDGs の理念に沿った取組を推進していきます。



図4 SDGs
(持続可能な開発目標)

第4節 計画期間

計画期間は、2030年に向けた松戸市教育委員会の方向性を示した指針「学びの松戸モデル」及び上位計画「第二次松戸市社会教育計画」の期間と合わせて、2023(令和5)年度から2030(令和12)年度までの8年間とします。

表1 上位及び関連計画等の期間

計画名称／令和	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
松戸市文化財 保存活用地域計画			■	■	■	■	■	■	■	■
松戸市総合計画		■	■	■	■	■	■	■	■	
学びの松戸モデル	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
第二次 松戸市社会教育計画			■	■	■	■	■	■	■	■
名勝旧徳川昭武庭園(戸 定邸庭園)保存活用計画	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
博物館リニューアル 基本構想・基本計画			■	■	■	■	■	■	■	■

※上記の他、令和5年度より戸定邸保存活用計画(建物編)の策定を開始。

第2章 松戸市の概要

第1節 松戸市の地理的環境と自然

松戸市は千葉県の北西部に位置しています。西側は江戸川を挟んで東京都葛飾区、江戸川区、埼玉県三郷市に隣接し、南側は市川市、東側は鎌ヶ谷市、東側から北側にかけて柏市、流山市と境を接しています。市域は東西約 11.4 km、南北約 11.5 km。外周は 56.145 km、面積はおよそ 61.38 km²です(市ホームページ「松戸市の位置・交通・地形・地名の由来」)。



図5 松戸市の地形類型と字名

松戸市内を地形的に見ると、江戸川沿いに南北に続く低地、下総台地の西端部で谷と台地が入り組んでいる地域、市域の東部に広がる比較的平坦な台地上の地域の3つに分類することができます(図5)。

江戸川沿いの低地

この地域の標高は、おおむね5m以下で、なかには江戸川の河川敷より低く、標高が2mに満たないところもあります。この地域には、台地側から谷伝いに小さな流れがいくつも注ぎ込んでおり、そうした水はさらに坂川や新坂川、六間川といった小河川に集められ、やがて江戸川へ放出されます。治水施設が整備される

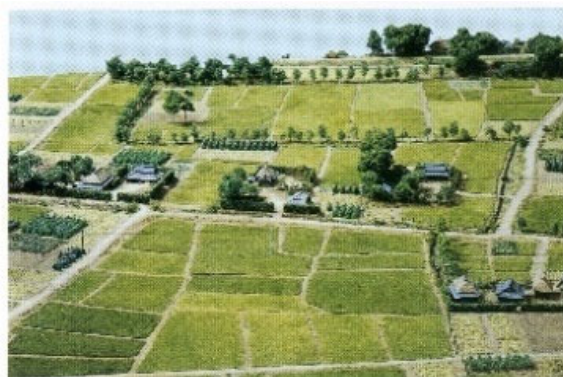


図6 江戸川沿いの低地に広がる景観
(松戸市立博物館常設展示室模型)

以前は、水はけが悪く、江戸川が満水になると川の水が逆流して大規模な水害を引き起こすこともありました。人々は、厳しい環境に向き合いながらも、稲作を生業の中心とした水辺の暮らしを営んでいました。現在の字名ですと、横須賀、新松戸、旭町、古ヶ崎、それに矢切地区などです。

かつてこれらの地域一帯には広々とした水田が続き、その中を貫いて用水路が流れ、畔には刈り取った稲を干すハザ木として利用されるハンノキやトネリコなどが点在する景観が広がっていました(図6)。

谷(谷津)と台地の入り組んだ地域

江戸川沿いの低地に接する下総台地の縁辺部と、市川市側から入り込む国分谷の周辺には、谷と台地が入り組んだ複雑な地形が展開しています。台地上の標高はおおむね 25m 前後で、江戸川沿いの低地との比高は大きいところで20m以上にもなります。台地を侵食してきた細長い湿地帯を、昔からこの地域では



図7 谷と台地が入り組んだ地域の景観
(松戸市立博物館常設展示室模型)

「^{やつ}谷津」と称しています。谷津の奥には湧水^{ゆうすい}があり、それを利用した谷津田が開かれていましたが、谷津田の多くは水はけの悪い湿田であったと言います。この地域には、谷内の地形に制約を受ける不規則な形の^{たんぼ}田圃と、肥料や燃料の供給源ともなる雑木林、野菜を栽培する畑地から構成され

る村々が展開していました。八ヶ崎や千駄堀など、おおむね市内の中央部一帯の地域がこれに該当します。家屋周辺の雑木林には、スギ、マツ、クヌギ、シイ、コナラなどが見られました(図7)。

谷奥部の比較的平坦な台地上の地域

市内の東部には、谷奥の比較的平坦な地域が広がっています。水田が開ける土地は少なく、穀類や野菜類を栽培する畑作が主として行われました。江戸川沿いの低地とは対照的に、常に生活用水の確保が重要な課題でした。台の家屋や畑地の周辺には、薪炭材^{しんたんざい}として利用するスギ、マツ、クヌギの林が点在する景観が広がっていました。金ヶ作、五香、六実、串崎新田などの地区が該当します(図8)。



図8 台地上に広がる景観
(松戸市立博物館常設展示室模型)

松戸市の低地や谷沿いに見られる特色ある自然:斜面林

台地の縁辺を覆う斜面林は、松戸市の景観上のアクセントになっています。林の状態は徐々に変化していますが、現在でも千葉大学園芸学部や戸定が丘歴史公園付近などで見ることができます(図9)。また小山の「浅間神社の極相林^{きまぐさうりん}」には、南西斜面にアカガシ、タブノキ、スダジイ、モチノキ、ヤブツバキ、アオキなどの常緑広葉樹林、北東から北西にかけてはムクノキ、ケヤキ、イロハモミジなどの二次林と思われる落葉広葉樹林が形成されています。ことに南西斜面の常緑広葉樹林はこの地域の極相を示しているとされており、千葉県天然記念物に指定されています(『千葉県の自然誌・本編1・千葉県の自然』)。



図9 矢切の斜面林(「松戸市景観計画」)

松戸市のほぼ中央に位置する「21世紀の森と広場」は、「谷と台地の入り組んだ地域」の環境を活かして整備されました。この地域の地形的特徴である谷津や斜面林、湧水から流れ出る小川や

湿地などを可能な限り保全した自然尊重型都市公園です。園内には、里山の農村風景を再現した「みどりの里」、小川や湿地に生息する水生動物や昆虫、淡水魚、水辺に集まる鳥を観察することができる自然生態園なども設けられています。市街地に囲まれた立地ながら、豊かな自然に囲まれ、しかも地域の「少し昔」の風景を感じられる貴重な場と言えるでしょう(21世紀の森と広場で行っている自然環境保全の取り組みが評価され、1995(平成7)年に日本都市計画学会賞を受賞しました)。

第2節 松戸市の現況

1. 松戸市の沿革

1889(明治22)年に施行された町村制により、現在の市域に松戸町、明^{あきら}村、八柱村、馬橋村、高木村、小金町が発足しました。その後、松戸町は1933(昭和8)年に明村を、1938(同13)年には八柱村、さらにその5年後には高木村と馬橋村を合併して松戸市が誕生します。この時の松戸市の人口は約4万人でした。

戦後の1954(昭和29)年には旧小金町の大部分を編入してほぼ現在の市域になり、市制施行から78年が経過した2021(令和3)年10月1日現在、常住人口は497,065人、男246,332人、女250,733人、世帯数233,105に至ります(市ホームページ「松戸市の人口・統計」)。

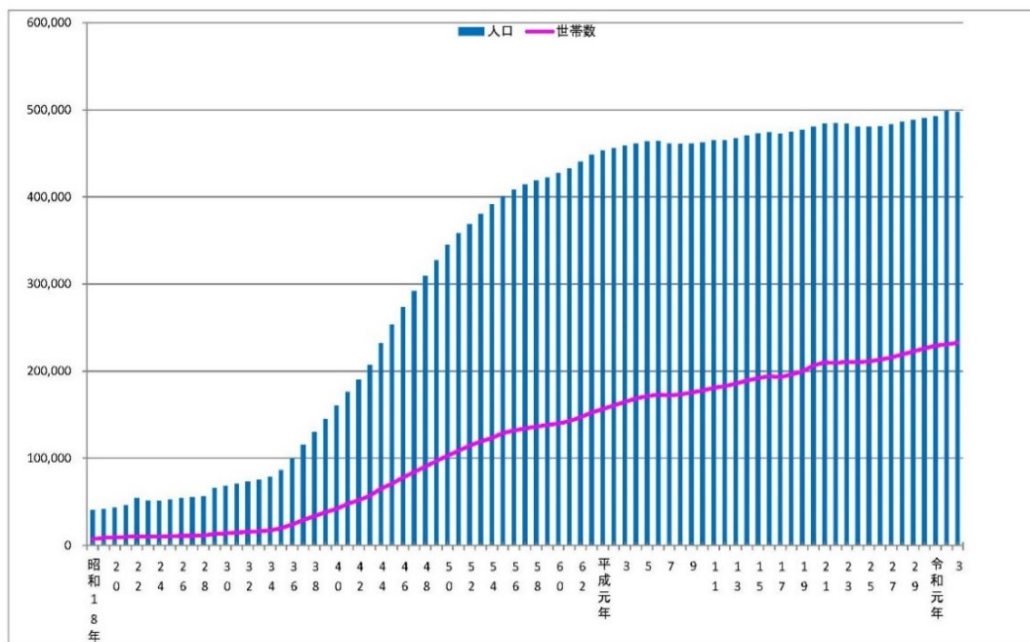


図10 松戸市の常住人口の推移:各年10月1日現在 (市ホームページ「松戸市の人口の推移」)

2. 人口動態と社会の動向

松戸市は、昭和30年代の後半から東京のベッドタウンとして発展し、急速に人口が増加しています。これは転入者の増加、つまり「社会増加数」の飛躍的な拡大によるもので、その受け皿とし

て常盤平地区の土地区画整理と団地造成が行われ(入居開始は昭和35年:『松戸市立博物館常設展示図録』)、さらにその後、小金原地区、牧の原地区など次々に同様の大規模事業が竣工し、入居がはじまりました。昭和40年代には新住民の子どもたちが学齢に達しはじめ、各地区で次々に小学校が開校する一方、既存の学校では校舎の増設が追いつかず、プレハブ校舎で授業を受ける光景が見られるまでになります。

松戸市の人口が40万人を越えた昭和50年代の半ば頃から増加傾向は緩やかになり、やがて平成を迎えると次第に日本全体の問題として「少子高齢化」が論じられるようになります。松戸市でも団地に住む独居老人の孤独死がマスメディアに取り上げられるなど、深刻さを増すようになりました。このころから松戸市の死亡人口と出生人口の差による「自然増加数」は徐々に減少する傾向を示しますが、転入等による「社会増加数」は周期的なマイナスはあるもののむしろ少しずつ増加し、世帯数も安定的に右肩上がりの増加傾向を示すようになります。その一方、世帯あたりの人員数は年々減少する傾向にあり、2014(平成26)年の時点では一世帯あたり 2.17 人でした。また15歳から64歳までの生産人口は減少、65歳以上の老年人口は少しずつ割合を増して

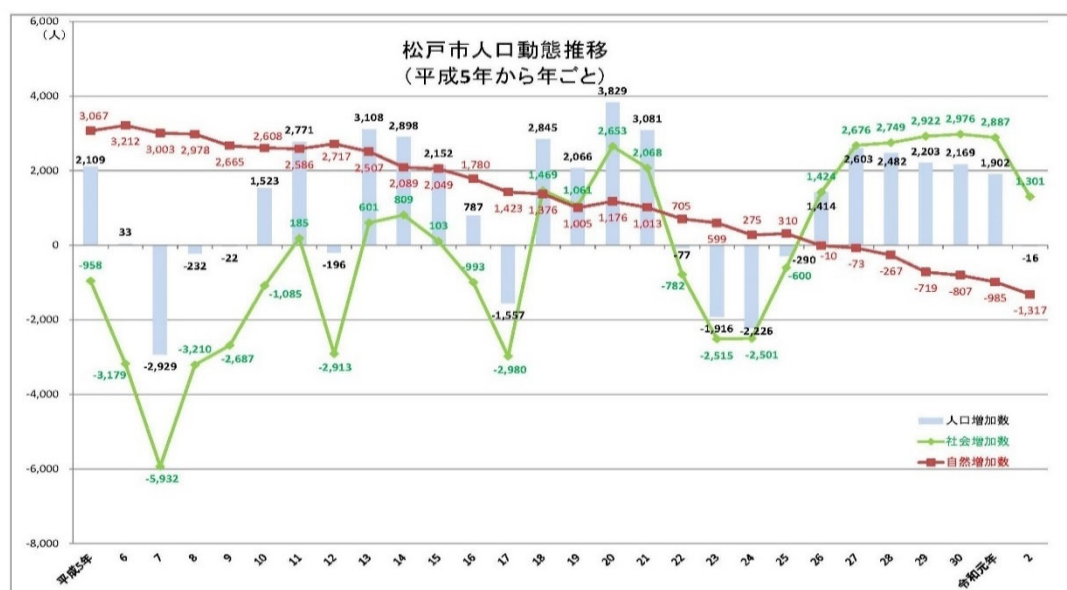


図11 松戸市人口動態推移:平成5年以降 (市ホームページ「松戸市の人口の推移」)

きており、少子高齢化の影響は本市においても明確に進行しています。これに対し、社会増加数の拡大に見る若い世帯の増加傾向は、東京都に隣接するという本市の立地上の特性により今後も継続するものと考えられます(図11)。また地区の開発時期や住民の年齢構成の違いなどを反映して、小学校の統廃合が行われる一方、2016(平成28)年には、29年ぶりに東松戸小学校が新設されました。

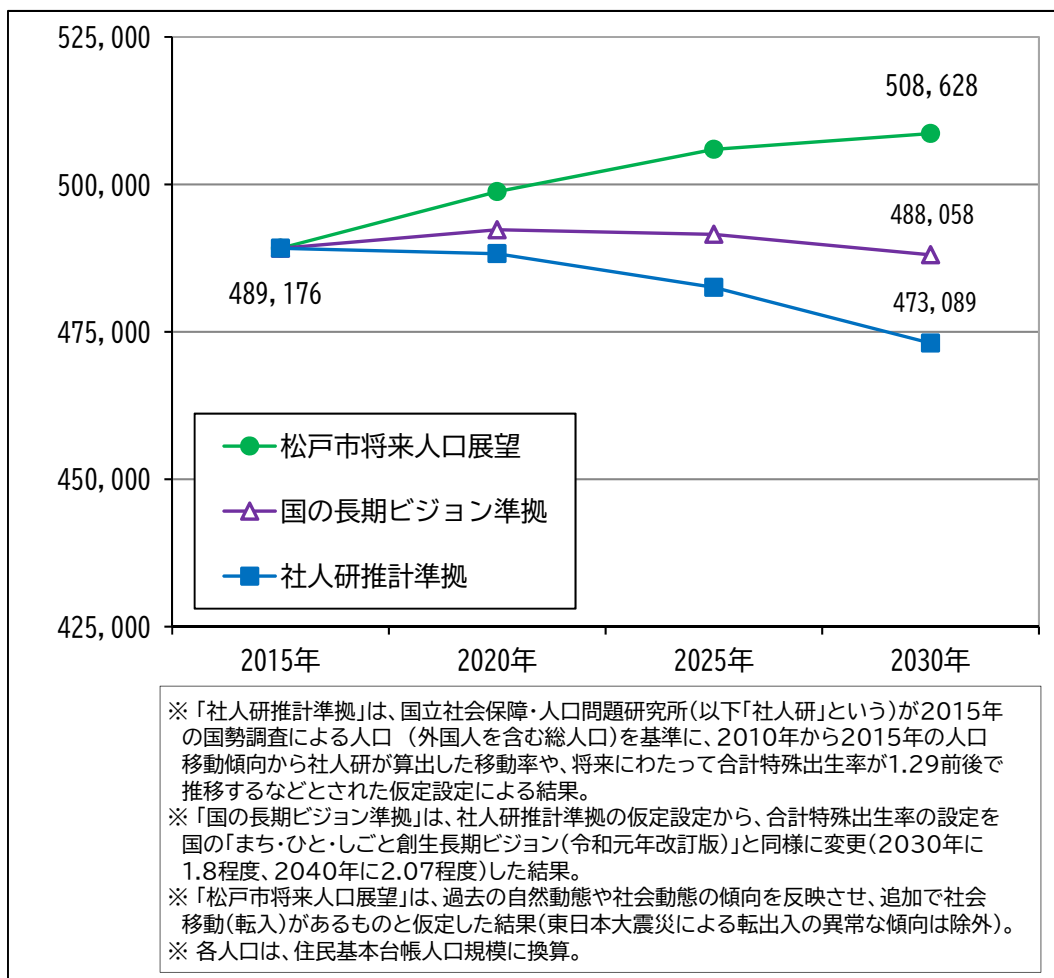


図12 2030年までの人口の展望

国の長期ビジョンや社人研(国立社会保障・人口問題研究所)推計が人口の減少傾向を予測しているのに対し、「松戸市総合計画」では、「出生率の上昇」と「転入の促進」、「若年層の転入傾向の維持」に向けた的確な施策を引き続き展開していくことにより、過去の出生率や移動率などを前提とした社人研推計準拠を上回る将来人口を達成することが十分に可能であり、将来人口を50万人規模で維持できるものと展望しています(図12)。

3. 土地利用

民有地の内訳を地目別に見ると、宅地が69.6%、畑地14.8%、雑種地11.8%、山林 2.4%、田地 1.3%となっています。また都市計画では市街化区域が約 4,444ha(約72.5%)、市街化調整区域が約 1,689ha(約27.5%)であり、市街化区域の用途は住居系が 3,845ha(約86.5%)、商業系が 249ha(約5.6%)、工業系が 350ha(約7.9%)指定されています(「松戸市統計書」令和2年度版)。

市街化区域は、JR常磐線と新京成電鉄の沿線、主要地方道市川松戸線と同松戸野田線沿いの既存の市街地とこれに連続する地域、計画的に宅地造成された小金原・常盤平・八ヶ崎地区、先行的基盤整備が進行する北総開発鉄道の駅周辺などが該当し、市街化調整区域には優良な農地が残る紙敷・七右衛門新田・串崎新田・高塚新田・大橋・旭町・矢切・幸田地区、山林の保全を図る金ヶ作・千駄堀地区などが該当します。

4. 産業

(1) 農業

市域の宅地化・市街化の進展に反比例して、農地が減少する傾向が続いています。2020(令和2)年の統計では全体で468ha。内訳は水田73ha、畑地337ha。樹園地は58ha。また農家総数は662戸、総従事者数 1,304 人であり、うち販売農家464戸、自給的農家は198戸です。また農業従事者の年齢構成は15～59歳が476人、60歳以上が828人となっています(「2020年農林業センサス」)。

(2) 商業

松戸市では卸売業と小売業が売上高の47.9%、企業数の21.3%を占めています。業種別では、次いで製造業、建設業、医療・福祉業の順ですが、近年では医療・福祉業と教育学習支援業の事業所数・従業者数が伸びています。特に医療・福祉業は、高齢者の増加及び多様化に伴い、松戸市立総合医療センターや新松戸中央総合病院、千葉西総合病院、新東京病院といった高度な医療を担う病院も多く、今後も増加と充実が予想されます(「千葉県松戸市基本計画」¹ 基本計画の対象となる区域(促進区域) ③産業構造)。

市内の商業地は、23ある鉄道駅周辺の交通利便性の高い地域を中心に形成されています。特に松戸駅周辺は商業施設の集積が高い地域となっており、複合的な拠点の形成、既存の商業施設のリニューアルと再生、自動車によるアクセスの利便性向上、イメージの刷新などを課題として再開発計画の策定を進めています(市ホームページ「第2章 松戸市の現状」と下から3行目「複合的な拠点の形成」以降は「松戸市商業構造基本調査・商圈調査事業委託 報告書」平成29年1月松戸市)。

(3) 工業

松戸市では近代都市に必要な産業構成をつくるため、1960(昭和35)年から1966(同41)年にかけて、北松戸・捻台・松飛台の3地区に工業団地を造成、「煙を出さない公害のない工業」を条

件として企業を誘致してきました。いずれも最寄りの駅から徒歩10分圏内に立地する工業団地です。

現在、これら3つの工業団地を中心に高い技術を持つモノづくり企業が集積し、高い付加価値や大きな雇用を創出しています。2019(平成31)年度の工業統計調査によれば、事業所数285カ所、従業者数9,291人、製造品出荷額等は3,372億円に達しています(千葉県総合企画部統計課「2020年工業統計調査結果確報」など)。

(4)観光

松戸市は都心部へのアクセスが良く、さらに成田空港にも近いという利便性に大きな強みがあります。市内には、徳川^{あきたけ}昭武の私邸(戸定^{とじょうてい}邸)を中心とした閑静な戸定が丘歴史公園、矢切と対岸の東京都葛飾区柴又を結ぶ情緒豊かな矢切の渡し、四季折々の自然が美しい本土寺、毎年多くの人出で賑わう常盤平のさくらまつりなど、多くの観光資源にも恵まれています。

特産品としては「矢切ねぎ」と梨が広く知られており、特に五香、金ヶ作、高塚新田、六実の各地区の観光梨園では、多くの人々が「梨もぎ(梨狩り)」を楽しんでいます。なお本市が発祥地である「^{にじっせいきなし}二十世紀梨」を介して、生産が盛んな鳥取県倉吉市との多面的な交流(「梨(あり)の実交流宣言」)が続いています。

本市では、2019(平成31)年に「松戸市訪日外国人誘致推進アクションプラン」を作成し、訪日外国人観光客の誘致にも積極的に取り組んできました。松戸市が直面する課題として、宿泊施設のキャパシティを拡充すること、外国人観光客へのコミュニケーション力を強化すること、街中の案内標記やWi-Fi環境などを整備することなどを挙げています。コロナ禍が及ぼす影響は深刻ですが、課題の改善を図りつつ市内事業者と連携し、消費拡大とさらなる外国人観光客誘致を目指しています(市ホームページ「松戸市訪日外国人誘致推進アクションプラン」)。

5. 交通

江戸時代、松戸宿は江戸に最も近い水戸道中の宿場であり、小金宿のほか萬満寺の門前町である馬橋も街道を利用する人々や物資の往来で繁栄していました。また松戸宿には江戸川に面して河岸が設けられ、江戸川を行き交う舟運と、銚子で水揚げされた海産物を陸送する^{なまかいどう}鮮魚街道(生街道)が連動する、経済的に極めて重要な場所でもありました(図13・14)。

現在でも陸路については、水戸道中が国道6号線や県道松戸・柏線、鮮魚街道が県道松戸・鎌ヶ谷に姿を変えつつ、人や物流の重要な役割を担い続けており、さらに2018(平成30)年には東

京外かく環状道路の三郷南 IC - 高谷 JCT 間の15.5kmが開通、首都圏地域の利便性を一層高めています。

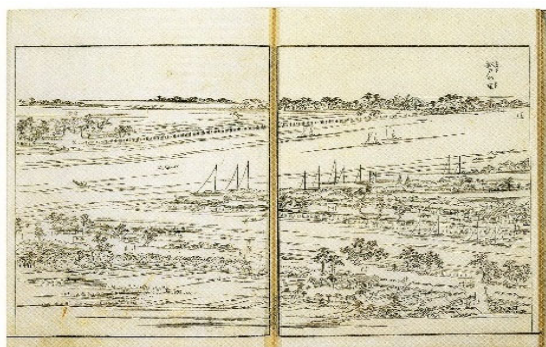


図13 『江戸名所図会』松戸の里
(特別展「川の道江戸川」図録)

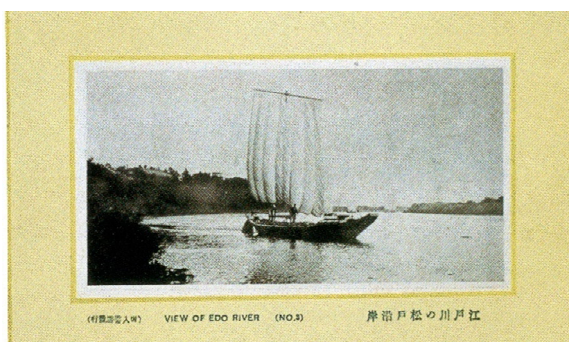


図14 「江戸川の松戸河岸」
(絵葉書 大正～昭和初期 「川の道江戸川」図録)

また、近隣市と比べ松戸市は鉄道網が発達しています。市域を通る鉄道会社及び路線は、JR東日本の常磐線と武蔵野線、新京成電鉄、東武野田線(東武アーバンパークライン)、北総鉄道、流鉄流山線の5社6路線です。各路線とも市内に駅を開設しており、1日当たりの利用者数ではJRでは松戸駅が最も多く199,818人。次いで新松戸駅の78,650人、新八柱駅49,906人。新京成電鉄では松戸駅105,921人、八柱駅45,631人が上位を占めています(2020.国土数値情報ダウンロードサービス)。乗降客の多い駅はいずれも他の路線と連絡している上、相互乗り入れが多いこともあり、利便性をさらに高めています(図15)。



図15 市内の鉄道網(市ホームページ「松戸市の位置・交通・地形・地名の由来」)

最も開業の古いJR常磐線(当初は日本鉄道株式会社土浦線:開業 1896(明治 29)年)をはじめ、松戸市の発展は鉄道網の発達と密接なかかわりがあります。さらに現在では都心部ばかりでなく、成田空港や周辺の地方都市を結ぶ大交通網の中に松戸市は位置しています。

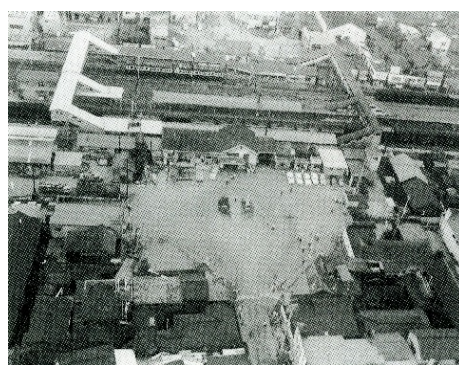


図16 昭和39年松戸駅
(「松戸市制 50 周年記念誌 はばたき」)

なお、バスは令和5年4月現在、4社が26路線を運行しています。

第3章 松戸市の歴史

1. 旧石器時代（原始）

現在の松戸市域内においてヒトの営みが確認できる最も古い時代は、今から約3万年前の旧石器時代です。この時代は今よりも気温が低く、ことに約2万年前は最寒期にあっており、年間の平均気温が今よりも7℃から8℃低温で、海水面が現在より100mほど低かったと推定され、日本列島は大陸と陸続きとなっていました。

人々の活動の痕跡は、台地を侵食して形成された谷の周縁部の赤土（関東ローム層）の中から集中して発見されています。これまでに同時代の

遺物を出土する遺跡は、発掘調査などにより62か所が確認されており、そのうち最も古い資料はせきば
関場遺跡（河原塚）から出土しています（図17）。



図17 主な旧石器時代の遺跡
（『松戸市史』上巻改訂版）

さまざまな石器

発見された石器は、主として狩猟や獲物の解体に用いられたものですが、そのほかさまざまな道具づくりなどにも用いられたようです。刃器であるナイフ形石器は狩猟に用いる刺突具^{しとつ}や解体具として、槍先形尖頭器^{やりさきがたせんとうき}は石槍の穂先^{そうき}、搔器^{さつき}は皮なめし、削器は肉や皮を削ることや骨・角製品を加工する際に用いられたと考えられています。

旧石器時代の生業

この時代の人々は狩猟をおもな生業としていました。狩猟の対象となった獣類は、ナウマンゾウ、オオツノジカ、ニホンジカ、ヒグマ、イノシシ、タヌキなどであったと考えられていますが、ナウマンゾウなどの大型獣が絶滅した旧石器時代の中頃以降は、中小型獣主な対象となったようです。

植物質食料の利用については不明な点が多く、また土器のような煮沸容器^{しゃぶつ}がなかったため、灰汁抜き技術^{あく}は十分に発達していなかったと考えられています。従って生食が可能なものを除き、植物質食料の利用は部分的であったことが推測されます。

石器づくりと石材から分かる人々の動き

旧石器時代の遺跡を発掘調査すると、石器や石の破片が集中して出土することがあります。

これは石器製作の場と考えられていますが、そこから出土した石器や破片をパズルのようにはり合わせても、原石がもとのかたちに還元されることはほとんどありません。これは同じ場所で原石を使い尽くすのではなく、途中で他の場所に移動していることを示しています。その背景として、獲物を追って繰り返される移動生活があったものと考えられています。また石器製作に用いられる原石は、作ろうとする石器の用途に応じて選択されていましたが、そ

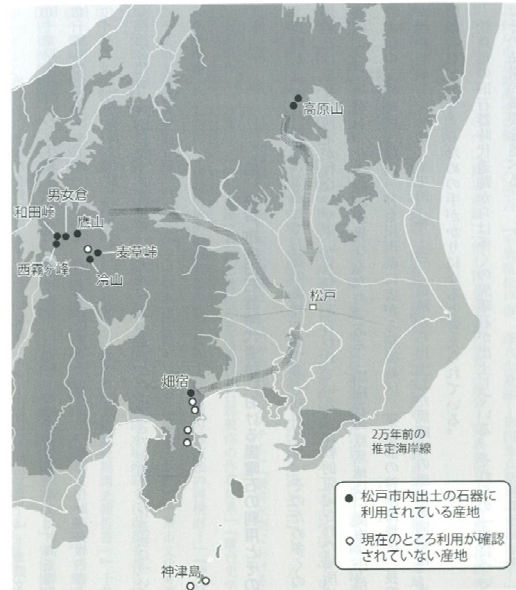


図18 黒曜石の原産地
(『松戸市史』上巻改訂版)

もそも松戸市域周辺には材料となる石材が産出しないため、遠く離れた土地の石材が利用されています。一例として鋭利な刃部を作り出すために多く用いられた^{こくようせき}黒曜石について見ると、原産地は栃木県高原山、神奈川県箱根山、長野県北八ヶ岳・霧ヶ峰地区などであることが分析により確認されています(図18)。市域の旧石器時代人が直接採掘に出向いたものか、何らかの交易が介在したものは不明ですが、人とモノが広範に移動していた時代であったことが考えられます(『房総考古学ライブラリー先土器時代』『松戸市史』上巻改訂版)。

2. 縄文時代 (原始)

約2万年前(旧石器時代)の寒冷期がピークを過ぎると、徐々に気候は温暖化していき氷河期が終わります。縄文時代のはじまる約1万3千年前頃から温暖化は加速し、縄文時代の中頃に当たる約6,000年前には海面の高さが現在より2mも上昇しています(縄文海進^{じょうもんかいしん})。その後海岸線は一転して後退し、徐々に現在の状態に近づいていきます。このように縄文時代は大きな気候変動の影響を受けた時代でした。上記のような環境変化の影響を受け、旧石器時代の針葉樹と広葉樹の混交林が、縄文時代にはナラ類を主体とする落葉広葉樹林へと植生も移り変わりました。

このように海面上昇によって海が近くなり、周囲の植生も環境に応じて変容することで利用可能な植物性食料資源も豊かになりました。また縄文人の狩猟や漁撈^{ぎょらう}の技術も発達し、食料獲得が四季を通じて安定的に行えるようになると、特定の場所に定住することが可能になり、竪穴住居が作られ、やがて居住の場、墓域、貯蔵施設などが計画的に配置されたムラが形成されます。

土器と弓矢の登場

縄文時代のはじまる約1万3千年前から1万年前頃には、煮炊きに用いる土器が出現します。多くは丸底や尖底の高さのある鉢形の土器で、火を焚く場所に土器の底部を直接据えて用いたと考えられています。またこの時期は、槍の穂先である石槍に加え石鏃が出現し、狩猟具の主流が槍から弓矢へと変化していく段階でもあります。

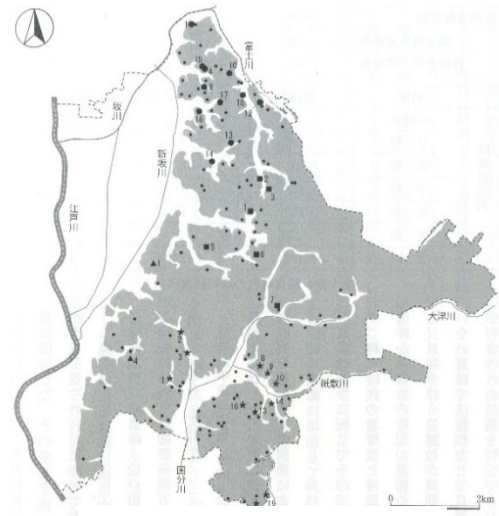


図19 主な縄文時代の遺跡
(『松戸市史』上巻改訂版)

集落形成の進展

1万年前から6,000年前頃にかけて、列島の各地で集落が営まれるようになると、縄文時代特有の生活様式が確立されます。土器は装飾が多様になり、地域差も目立つようになりました。出土する狩猟具としては石鏃が主流となり、弓矢を用いた狩猟が一般化したと考えられます。また堅果類や根茎類のすり潰しに用いたと考えられる磨石や石皿、土掘りや木工に用いたとされる打製石斧や礮器などもこの頃から使われるようになります。また縄文時代の人々の信仰や精神文化にかかわると考えられる土偶も出現しています。八ヶ崎遺跡から出土した土偶は、この時期のものであり、関東では最古クラスに属します。



図20 市立博物館
「縄文の森」:復元された竖穴住居

縄文海進のピークと貝塚

6,000年前から5,000年前になると海面上昇がピークに達し、現在の江戸川沿いに続く低地や春木川沿いの谷へ海水が入り込んできます。台地上では住居の数が増えてムラが形成され、また住居の形状が定型化する傾向が見られるようになります。出土品が重要文化財に指定されている幸田貝塚(幸田)は、この時期を代表する大規模な集落跡でした。ハイガイやマガキ、ハマグリ等を主体とした小規模な貝塚が南北



図21 加曾利E I式土器:根木内遺跡出土 (『松戸市史』上巻改訂版)

250m、東西180mの範囲に点在し、上空から見るとまるで馬の蹄ひづめの形ばてい(馬蹄形)のように連なって分布しています。1930(昭和5)年以来、これまでに行われた発掘調査で住居跡が160軒以上検出されており、拠点的な大集落であったことが明らかになっています。この時期の土器は素地に植物繊維を混ぜ込み、表面には複雑で多様な縄文が施される特徴があります。また口縁部分くわんが波状になるもの、注ぎ口が付されるものも現れ、器種も従来からの深鉢だけではなく、浅鉢も見られるようになります。また髪飾りや耳飾りなどの装飾品も加わり、遺跡から出土する遺物量も増加します。

大規模集落と縄文社会の繁栄

5,000年前から4,000年前の時期にはムラが大規模化し、また数自体も増加して分布も密になります。市内では子こ和わ清水しみず遺跡(日暮)や中なか峠たけ遺跡(紙敷)がこの時期を代表する遺跡です。この時期の浅鉢は、大形化して食物の加工、盛り付けに適した形になりました。また有孔罎ゆうこうつぼつき付土器などをはじめ土器の装飾は造形的になり(図21)、人面やヘビなどをモチーフとしたものも見られるようになります。石器では磨石すりいしのほか、土掘り具と考えられる打製石斧が多く用いられるようになり、当時の人々の信仰や祭祀にかかわるとされる大型の石棒せきぼうなども出土しています。また漁網いしなに付けたおもり錘つりと考えられる土器片どきへん錘すい、魚を突くのに用いたヤス状刺突具しどつぐの出土が最も多くなる時期でもあり、内湾での漁撈が活発であったことをうかがわせます。

海退と縄文時代の終焉

4,000年前から3,000年前には、引き続き海岸線の後退が進みます。前代の終わり頃からムラの数や規模が減少・縮小する傾向が見られたものの、再び活発なムラの形成がはじまり、直径87mの典型的な馬蹄形貝塚として全国的に著名な貝の花遺跡も、この時期を中心に形成されました。土器の種類も増加し、実用とは考え難い特殊な形状の土器も作られています。また土偶や石棒など、縄文人の信仰や祭祀にかかわるとされる遺物も引き続き目立ちます。

縄文時代の最終末期である3,000年前から2,000年前には、遺跡数が激減します。そしてこうした遺跡の減少傾向は、次の弥生時代にも継続して見られます。

3. 弥生時代 (原始)

中国大陸や朝鮮半島から渡来した人々により、稲作を中心とした農耕文化や新しい技術が日本列島にもたらされます。これまでの狩猟や漁撈、採集により食料を獲得していた縄文時代の生活

様式に代わり、土地を耕して食料を生産する新しい暮らしが始まります。

縄文から弥生へ

松戸市域では、縄文時代の終わり頃から弥生時代の初めにかけて遺跡の数が激減します(図19と図22を比較)。今のところ、松戸市内で見つかった最も古い弥生土器は、大谷口遺跡(大谷口)から出土した壺形土器(貯蔵用)や甕形土器(煮炊き用)などで、弥生時代の中頃(紀元前3世紀から紀元前2世紀)のものとされています。この頃から、稲作をともなう農耕文化が、現在の松戸市が位置する地域へ浸透しはじめたようです。また、市域の南端に位置する立出し遺跡(栗山)では、環状の青銅製品が出土しており、僅かながらも新しい技術の伝来を示しています。



図22 主な弥生時代の遺跡
(『松戸市史』上巻改訂版)

広がる人々の暮らし

やがて松戸市内でも少しずつ弥生時代の遺跡数が増加します。その分布と立地の中心は、江戸川沿いの低地に面した台地と国分谷の西岸台地上であり、諏訪原遺跡(和名ヶ谷)など現在までに23か所が確認されています(図22)。

4. 古墳時代(原始)

農耕により食料を生産する新しい暮らしが広まると、やがて富を蓄えた有力者が生まれます。さらに富が偏在する傾向が進展して支配・被支配の関係が生じるようになると、九州から東北の各地に大首長が誕生し、蓄えられた力を基に巨大な墳墓が築かれる時代をむかえることとなります。古墳が築造された時代は、おおむね3世紀の中頃から8世紀初頭までです。またこの新しい時代が到来する背景には、これまでにない列島規模でのモノや人々の移動、あるいは交流の活発化があります。



図23 主な古墳時代の遺跡
(『松戸市史』上巻改訂版)

弥生から古墳時代へ

諏訪原遺跡(和名ヶ谷^{かみやきりみなみだい})と上矢切南台遺跡(上矢切)は、弥生時代から古墳時代へ移り変わる時期に営まれた集落跡です。諏訪原遺跡では23軒、上矢切南台遺跡では9軒の竪穴住居が見つっています。近畿や東海地方から搬入された土器も出土しており、調査区の一隅からは環濠^{かんごう}の可能性のある溝も確認されています(図24)。方形周溝墓も富山遺跡(稔台)^{とみやま}で1基、溜ノ上遺跡(幸谷)で2基見つっています、いずれも古墳時代の初頭に位置付けられています。



図24 上矢切南台遺跡検出の溝
(『松戸市史』上巻改訂版)

5世紀の松戸 河原塚古墳群と小金古墳群

古墳時代の半ば、5世紀になると東アジアの緊迫した情勢の影響を受け、中央のヤマト王権が軍事力を基盤とする政権へ変化します。そしてヤマト王権は地方と結びつきを強めていき、その影響により列島各地で権威を誇示する巨大な前方後円墳が築造されます。一方で朝鮮半島との交流は一層盛んになり、物品ばかりでなく新しい技術を持った工人が渡来するようになります。



図25 河原塚1号墳(市史跡)

河原塚古墳群(河原塚)は5世紀後半を中心に造営されました。国分谷を臨む台地上の5基の円墳のうち、1955(昭和30)年に1号墳(図25)の発掘調査が行われ、墳頂部^{ふんちょうぶ}から二基の埋葬施設が検出されました。1号墳の規模は、径約26m、現存高約4mの円墳で周溝^{しゅうこう}が巡らされています。

縄文時代後期の貝塚上に築かれていた1号墳では、溶け出した貝殻のカルシウムにより、通常では残らない埋葬人骨が遺存していました。第一埋葬施設には、50歳以上の男性と3歳位の幼児が一緒に埋葬されていたことが明らかになっています。副葬品として鉄剣、鉄刀、鉄鏃、鹿



図26 円筒埴輪:小金古墳1号墳出土
(『松戸市史』上巻改訂版)

角装刀子^{かくそうとうす}、ガラス製小玉が出土していますが、埴輪が一片もない点はこの古墳の特徴といえます。市立博物館には、これら副葬品と、被葬者の復元模型が展示されています(p102 図67)。

小金古墳群の小金1号墳(小金)は、2018(平成30)年にはじめて周溝部分を対象とする発掘調査が行われました。墳丘部が径約23mの円墳で、周溝の幅は約5m、深さは1mから1.4m。周溝からは埴輪^{えんどうはにわ}を主体に、朝顔形と動物埴輪も出土しています。円筒埴輪は外面に三条の突帯^{とつたい}が巡り、下から二条目と三条目の間に透かし孔が開けられるという特徴を持ち、口縁付近には「×」字状の線刻が施されたものが認められます。年代は5世紀の終わりから6世紀前半頃と考えられています(図26)。

またこの時期には住居内に作り付けの竈^{かまど}が設けられます。これに伴い、煮炊きに用いていた甕^{かめ}や蒸し器も竈に適応して形態を変化させ、大形化します。さらに煮炊きする場が壁際に固定されて、住居内の中央に広いスペースができ、住まい方にも変化をもたらされたと考えられます。

6世紀から7世紀の松戸 栗山古墳群と立出し遺跡・天神山遺跡

これまで古墳が築かれなかった地域にまで、中小規模の円墳が見られるようになります。被葬者も大首長や特定の支配者などではなく、ムラの有力者やその家族といった階層の人々であったと考えられています。栗山古墳群(栗山)は、市川市域を主体とする国府台古墳群の北端に位置しており、本来は江戸川を臨む台地上に展開する広域な古墳群の一部と考えられています。



図27 馬形埴輪頭部:栗山古墳群出土
(松戸市立博物館『古墳時代の飾り馬』図録)

遺跡範囲内の山林内には、2基の墳丘が現存していますが、このほか隣接する立出し遺跡と天神山遺跡^{てんじんやま}(栗山)で行われた発掘調査で12基以上の円墳が確認されました。多くは墳丘部の径が20m以下のものであり、年代的には6世紀末から7世紀初頭と考えられています。

5. 奈良時代・平安時代 (古代)

古墳時代中期に成立したヤマト政権は、やがて日本列島の北から南までその支配を拡張していきます。支配体制の根幹には、全ての土地と人民を天皇の下に集める公地公民制^{こうちこうみんせい}を基礎とする律令制度^{りつりょう}がありました。これにより中央集権的な官僚制、公民支配、地方行政、身分制、軍事などの制度や機構を整備して統治を確立しました。

古代の行政区分

701(大宝元)年に制定された大宝律令では、全国を国・郡・里(のちに「郷」という行政単位に分け、それぞれ国司・郡司・里長により統治させました。現在の松戸市域は下総国の葛飾郡内に含まれます。当時の葛飾郡の範囲は、東京都葛飾区・江戸川区北東部・墨田区北部から千葉県流山市・市川市・船橋市・柏市・鎌ヶ谷市、埼玉県三郷市付近まで及んでいたと考えられています。



図28 主な古代の遺跡
(『松戸市史』上巻改訂版)

古代の道・国府と市内の遺跡

この時代には交通体系の整備も行われました。武蔵国府・下総国府・常陸国府を結ぶ東海道の本道は、下総国府の比定地である市川市国府台から松戸市内を通り、手賀沼の西岸に達していました。松戸市内にある古代の遺跡も、国府が置かれた市川市寄りの市域南部に集中する傾向が見られます(図28)。



図29 古代の主要駅路

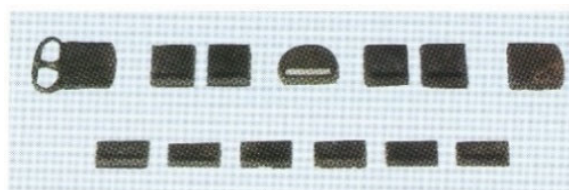


図30 帯金具(市有形):小野遺跡出土

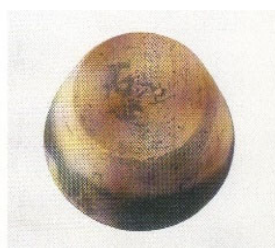


図31 「石世」銘
墨書土器:小野遺跡出土

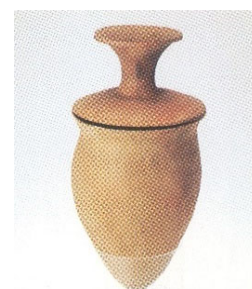


図32 「厨厨」銘
墨書土器(市有形)
:坂花遺跡出土

1992(平成4)年に発見された小野遺跡(胡録台)については、これまでに41地点で発掘調査が行われ、43軒以上の竪穴住居、5基の掘立柱建物跡が検出されています。

住居から出土した遺物では、銅製の帯金具が目立ちます(図30)。これは律令時代の官人の

位階を表す革のベルトに付けられていた金具で、小野遺跡ではバックルの部分からベルト先端部分までが揃って出土しています。また小野遺跡の近くには、下総国府から常陸へむかう東海道が通っていたと推定されており(図29)、下総国府から遠からぬ位置、しかも国府へ通ずる幹線道路沿いに形成された大規模な集落跡であったことが明らかになっています。

坂花遺跡(紙敷)から出土した墨書土器(図32)も、国府との関連をうかがわせる遺物です。墨書土器とは、土師器や須恵器の底や外面などに人面などの絵、地名や施設名、人名などを墨書きしたのですが、坂花遺跡出土の土器には、骨蔵器の蓋部分に国府の食糧や食器の供給施設を意味する「^{くにのくりや}國厨」の墨書が記されています。

6. 中世

東国では長い争乱の時代が続いて荒廃が進む一方、広大な田畑を開墾し富を蓄える者が現れます。こうした在地の有力者は武力を備えた領主でもありました。一方で中央政府による画一的な支配は次第に衰え、地方で力を増したこれら武士階級が新しい時代の担い手として台頭することになります。

鎌倉幕府の成立に大きく貢献した千葉氏は、多くの子孫が幕府の御家人として認められました。市内の上本郷が拠点と考えられる風早氏もその一つで、承久の乱の時は幕府軍の一員として奮戦し、千葉一族全員が負担した香取神宮(香取市)の建て替えという大事業でも名前が挙がるなど、活躍していたことがわかっています。

関東の争乱

鎌倉幕府滅亡から南北朝時代にかけては、関東の武士達を巻き込んだ全国規模の争乱が起きました。続いて室町幕府将軍から関東の支配を任されていた足利氏と、その補佐役の上杉氏の対立が深刻化します。ついに1454(享徳3)年、鎌倉公方足利成氏が関東管領上杉憲忠を謀殺する事件が起き、これを契機として戦国時代に突入します。

下総の千葉氏内部では公方と関東管領のいずれに付くかで対立が生まれ、1456(康正2)年の市河合戦(現市川市の市川から真間・国府台)を経て、庶子の馬加系千葉氏が公方の力を得て主流となります。この馬加系千葉氏を支え、戦乱を通じ重要な役割を果たしたのが重臣の原氏です。やがて古河公方(足利氏が古河へ移ってからの呼称)と関東管領上杉氏との争いは和睦によって終結しますが、その後も上杉氏内部の抗争や、さらには相模国小田原を拠点とした北条氏が対抗して勢力を伸長するなど、新たな局面が展開することになります。

小金城主高城氏

高城氏の出自については諸説ありますが、千葉氏またはその重臣で主家をしのぐ勢力を持っていた原氏の家臣として出奔したと考えられています。信頼できる史料では、『本土寺過去帳』の「永享九(1437)六月 クリカサワ 高城四郎右衛門清高」という記載が初見ですが、同じ15世紀代には他に市内の馬橋や、我孫子でも高城氏の名が見えており、葛飾郡東部から相馬郡南部の各所に拠点を獲得していたことがうかがえます。

相模台合戦

古河公方足利高基と弟足利義明は、公方としての正当性をめぐり対立していました。1517(永正14)年、古河公方を支援する千葉氏は足利義明らの攻撃を受け、原氏の拠点小弓(千葉市)を奪取されてしまいます。これにより原氏は、一時的に小金に拠点を移したようです。その後、千葉氏と原氏は小田原の北条氏に接近、これに対する足利義明は安房の里見氏と連携を図ります。そして1538(天文7)年に両者は市内の相模台を主戦場として衝突、この合戦によって足利義明は討死、里見氏も勢力後退を余儀なくされます(いわゆる第一次国府台合戦)。一方、原氏が小弓へ復帰すると、いよいよ高城氏が小金領の主権を掌握することになります。

上杉謙信の襲来

1561(永禄4)年、由緒ある上杉姓と関東管領職を得た上杉謙信ですが、それは北条氏の本拠小田原城攻撃最中の出来事でした。その際、謙信の下に参集した関東の武家の中に「下総衆」としては唯一、高城氏の名が記されています(「高城下野守 井けた二九やう」『関東幕注文』)。相模台合戦後に再び脅威となっていた安房里見氏に対抗するため、北条氏へ接近していた時期です。高城氏の置かれた立場の微妙さがうかがわれます。

国府台合戦 西原文書～北条氏康書状

上杉謙信が越後へ帰国すると、北条氏は武蔵国の攻略を再開します。これに対し里見氏が市川へ進出、反北条の太田氏へ救援の兵糧を送る準備をしていました。松戸市指定有形文化財の西原文書(図33 北条氏康書状)は、まさに国府台合戦前夜の緊迫した状況を伝えています。この西原文書によると、江戸城の遠山氏と小金城の

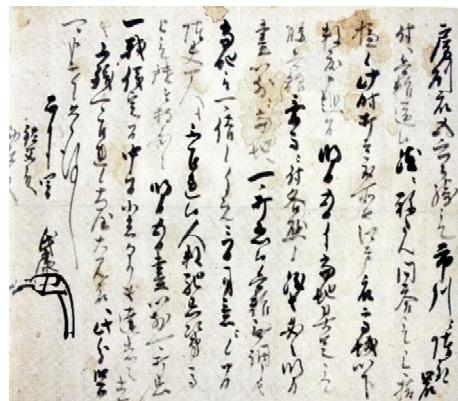


図33 北条氏康書状 西原文書(市有形)

高城氏が、兵糧の値段で折り合いがつかずに時間を空費する里見軍の状況を察知、北条氏康に対して早く攻撃を仕掛けるべきであると何度も進言していたことが分かります。結果、北条氏康は進言を受けて電撃作戦を展開し、里見氏を退けることに成功しました。1564(永禄7)年正月の出来事です。



図34 根木内城跡(昭和 22・23 年頃
米軍撮影:国土地理院長の許可を得て複製)

高城氏に関わる中世の城

〔根木内城(図34・35)〕 旧小金宿の町並みから谷を隔てて約1km東の位置、細い谷津に挟まれて半島のよう^{しゅかく}に北へ伸びる台地上に築かれています。主郭を中心とした6つの郭^{くわ}が台地北側の先端部に配され、その南側には台地を横断する二条の空堀によって区切られたやや広い区画が続いています。2003(平成15)年に実施した発掘調査では、障子堀^{しょうじぼり}が発見されました(図35)。



図35 根木内城跡 検出した障子堀

障子堀は、防御力を高めるため、堀底に仕切りを連続させた形状の空堀です。いずれも後に埋め立てられ堀底道に造り替えられていますが、この改変は城を取り巻く情勢の変化を反映したものと考えられます。城跡の調査により出土した瀬戸・美濃地方産の陶磁器の年代は、おおよそ15世紀後半から16世紀前半に集中しており、城としての最盛期もこの時期であったと思われます。出土遺物について見ると、小金城跡に比べ権威を象徴する輸入陶磁器などが相対的に少なく、在地産の土器類を含め日常生活に伴う雑器が主体となっています。

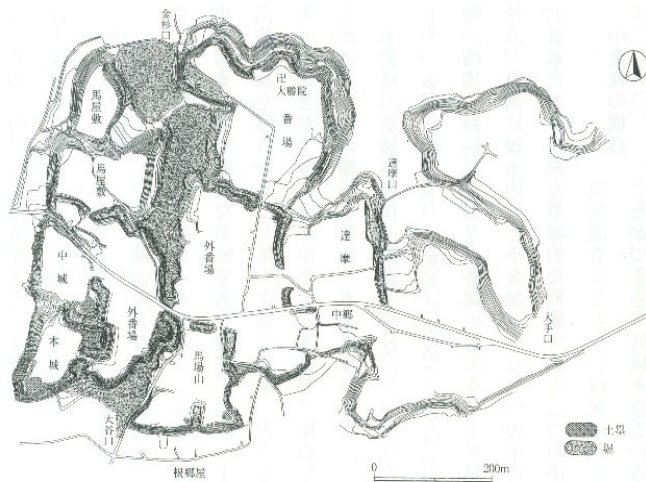


図36 小金城跡測量図(『松戸市史』上巻改訂版)

〔小金城(図36)〕 現在の JR 北小金駅の北西一帯、西方の低地を臨む台地上

に位置しています。城域の南北二方にはやや大きな谷が入り込み、その先端が湾曲することで城域東端の台地を狭めています。このように周囲を谷に囲まれた独立性の高い地形を利用し、随所

に大規模な改変を加えることで小金城は築かれています。小金城の主郭は城域内の南西隅に設けられていました。

小字で「本城」と称される範囲がこれに該当します。これより北へは同じく小字「中城」・「馬屋敷」に郭が連続し、「本城」・「中城」を覆うように「外番場」の郭が配されています。

これらの郭群は、北側の金杉口と南側の大谷口から入り込む谷と空堀によって独立性を一層高めており、小金城の枢要部であることがうかがえます。この郭群の東側には「番場」・「外番場」・「馬場山」に郭が並列し、大手口側には「達摩」・「中郷」などにやや広い郭群が配置されていました。これまでに城域から出土した国産陶磁器類の年代は、15世紀後半からほぼ16世紀全般にわたりますが、この期間がそのまま小金城が機能していた期間と見て間違いのないようです。

ところで江戸川流域から手賀沼沿岸にかけての領域は、小金城を中心に政治と経済のまとまりとして、小金領と称されていました。現在の松戸市・市川市・流山市と、柏市・我孫子市・鎌ヶ谷市・船橋市の各一部を含む範囲です。その成立は、高城氏が小金城主になる1540年頃よりも前に原氏によって形成された可能性が高いと考えられています。発掘調査で明らかにされた小金城の特徴は、15世紀後半から近世初頭まで継続的に出土遺物が見られること、輸入陶磁器が相対的に多く出土していることです。これは小金領の本拠に相応した様相であり、交通の要衝に位置していた小金の宿は、小金城の城下町として位置付けられることになります。

松戸市の主な中世寺院

〔萬満寺：馬橋 臨濟宗〕 鎌倉時代の創建とされています。大正時代に行われた補修の際、山門に並ぶ木造金剛力士像の^{うんぎょう}胎内から、「平朝臣□□再興也 文明六年甲午七月上旬」の墨書が発見されています。文明六年は西暦では1474年にあたり、時代区分では戦国時代になります。この年に再興したとすれば^{さかのぼ}建立年代はさらにそれ以前に遡ります。

〔本土寺：平賀 日蓮宗〕 創建の時期は13世紀後半から14世紀初頭、鎌倉時代後半頃とされています。開山は日蓮の直弟子の日朗、またはその高弟の日伝(のちに日典)です。時勢の移り変わりによる大きな影響を^{こうむ}被りながら、原氏や高城氏の帰依により発展を遂げました。ここに伝わる『本土寺過去帳』は、1583(^{てんしょう}天正11)年にそれまでの古い過去帳を転写し改訂を加えて成立したものです。15世紀から17世紀にかけての200年以上にわたる膨大な記録であり、そこには他に例をみないほど豊富な情報が記載されています。

〔東漸寺：^{とうぜんじ}小金 浄土宗〕 高城氏とともに根木内から移転してきたとされています。小金の町の中心に建てられており、高城氏による町場支配の要、小金城のいわば出先機関としての役割も果た

していたと見なされます。江戸時代には浄土宗の関東十八檀林(学問所)の一つに数えられ、また二代将軍秀忠の葬儀に際して大導師を務めた増上寺の法主了学(元東漸寺住職)は、高城氏の一族であったと言われています。

〔大勝院:大谷口 真言宗〕小金城域内の北端に建ち、東漸寺同様に根木内から移転してきたとされています。15世紀に成立したとされる徳蔵院(日暮)や、1416(応永23)年銘の阿弥陀如来立像(市有形)を所蔵する光明寺(ニツ木)など多くの末寺を有しています。

〔慶林寺:殿平賀 曹洞宗〕高城胤吉が亡き妻「桂林尼」の菩提を弔うために建立した寺院で、小金城の外郭部、大手口付近に位置しています。また慶林寺には、胴の内側に「1584(天正十二)年甲申四月十一日」の墨書銘がある太鼓が伝来しています。

小田原合戦と高城氏の退場

16世紀後半頃から北条氏への従属度を増していた高城氏は、1590(天正18)年の小田原合戦に北条方として参戦しています。戦いは豊臣秀吉の勝利で終結し、これにより高城氏は松戸市域から退場し、本拠である小金城も歴史的役割を終えることになります。

7. 近世

17世紀初頭に成立した徳川幕府は、村を行政単位とする支配体制を確立します。村は名主や組頭などの村役人、年貢などの直接的な負担者であり村の正式な構成員である本百姓、小作によって生計を維持する無高の百姓によって構成されていました。これに対し領主は、村単位に年貢や諸役を課して徴収、宗門改めや五人組制度によって農民支配を進めました。

江戸時代の松戸市域には57の村があり、幕府の直轄地に加えて旗本領や大名領に分かれていました。

新田開発

市内には〇〇新田という地名がいくつかありますが、これは江戸時代に新たに開墾された新田村落の名残です。初期には江戸川沿いの低地、その後は江戸川沿いの低地と小金牧の周縁部、18世紀前半には小金牧内を対象として実施され、低地では水田が、台地上では畑地が新たに開かれました。江戸川沿いの低地で



図37 江戸時代に開発された新田

は、七右衛門新田・主水新田・九郎左衛門新田・伝兵衛新田などが水田として開発され、台地上では松戸新田・高塚新田・金ヶ作・串崎新田・田中新田が田畑として開発されました(図37)。

治水の歴史

成立間もない江戸幕府は洪水対策と河川交通の便を図るため、利根川の流路変更に着手します。それまで江戸湾に流入していた利根川を、渡良瀬川^{わたらせ}や常陸川^{ひたち}と合流させて流路を変え、銚子から太平洋へ流すという大事業でした。その一環として渡良瀬川の下流部分に当たる現在の江戸川にも大規模な開削が実施されました。その後も流路の屈曲部分を直線的に改修する工事などが随所で行われ、それに伴い沿岸の河岸や舟運による輸送ルートの整備も次第に進められます。

また江戸川沿いの低地は、台地縁辺の谷頭^{たにがしら}からの湧水^{ゆうすい}や台地上に降った雨水が流れ込む場所でもあり、たびたび洪水による被害に遭っていました。こうした悪水の流れを、農耕経営に適した流路に整備して江戸川へ落とすため、坂川の開削が行われます。しかし江戸川堤防や悪水排出口^{いりひ}(扒樋)の耐久性の問題や、江戸川の水位によっては排水どころか逆流さえあったことから、根本的な問題解消には至らず、地域の人々は長年にわたって水害に悩まされます。

江戸川の河岸と鮮魚^{なま}(生)街道

はじめ銚子から江戸への鮮魚輸送は、布佐(我孫子市)から手賀沼の水路を通り白井で陸揚げするか、利根川の木下河岸^{きおろしがし}で陸揚げして大森(印西市)・平塚(白井市)・鎌ヶ谷・行徳(市川市)を陸送する行徳道が本道でした。その後手賀沼周辺の開発が進んだことで布佐から平塚までの近道ができ、これにより富塚(白井市)、市内の金ヶ作を経て松戸河岸へ至る鮮魚街道が主流となります。

江戸川沿いに設けられた松戸の河岸には、金町松戸関所^{しもよこちょう}と下横町を結ぶ渡船の往還河岸、船宿が設けられ舟運船の停泊地となった平瀧河岸^{ひらかた}、その中間に荷扱いの河岸として発達した納屋河岸^{なや}(良庵河岸^{りょうあん})がありました。(鮮魚街道と水戸道中のルートについては p107 図72参照)

水戸道中と二つの宿場

水戸道中は、江戸と水戸を結ぶ当時の主要な街道の一つでした。日光道中千住宿(足立区)から分岐、最初の宿の新宿^{にいじゆく}(葛飾区)でさらに佐倉道と分かれ、金町松戸関所を経て江戸川を渡り松戸宿、次の3番目の宿が小金宿、その後我孫子や取手、土浦などを経て水戸徳川家の本拠水戸城下に至ります。江戸日本橋から水戸までの総距離は30里14丁(約 119.3 km)、一般の旅行者で

2泊3日、水戸藩主が通行する場合は3泊4日を要しました。

宿場は武士などの公的な通行を保証し、人足や馬を常備して人や荷物を次の宿まで継ぎ送り、休泊の場を提供した町場です。宿の中央には人馬の手配をする問屋場、本陣と脇本陣が置かれていました。

松戸宿には下横町・宮前町・三丁目・二丁目・一丁目・納屋河岸・平潟^{ひらかた}の7つの町場が形成され、1851(嘉永^{かえい}4)年には468戸、人口2,224人(『松戸市史 中巻』)を数えるほどの大きな宿場に発展しています。宿場の中心は本陣や問屋場の置かれた宮前町で、街道沿いには商店や旅籠^{はたご}が軒を連ねていました。また毎月4と9のつく日には市場が立ち、周辺の農村からも大勢の人々が集まりました。

小金宿は中世以来の交通の要衝で、早くから町場が形成されていました。宿内は上町・中町・下町・横町の4つの町場に区分され、中町に本陣や問屋場のほか、水戸徳川家専用の旅館「水戸御殿」がありました。宿場の規模は松戸宿よりやや小さいものの、上町には小金牧を管理した野馬^{のま}奉行綿貫^{ぶぎょうわたぬき}氏の役宅、中町には関東十八檀林^{だんりん}のひとつである東漸寺、下町には普化宗の一月寺があるなど特徴的な町並みを形成していました。

一茶と馬橋 近世後期の文化と交流

松戸宿と小金宿の間にある馬橋の町場は、鎌倉時代の創建とされる萬満寺(臨濟宗)の門前町として古くより発展していたようです。この馬橋で油絞り問屋を営んでいた大川平右衛門は、栢日庵立砂^{はくじつあんりゅうさ}の号を持つ葛飾派の俳人でした。息子斗圍^{とゆう}も父の俳業を継承し、地方俳壇の中心的な存在として活躍しました。また二人は小林一茶との親交が深く、後援者として、また友人として親しく交際していた様子が一茶の句日記からうかがえます。

小金牧

慶長年間(1596～1615)に徳川幕府によって開設された馬の牧場小金牧は、当初は七牧で始まり、高田台牧・上野牧・中野牧・下野牧・印西牧の五牧が継続して運営されました。その範囲は、北は現在の野田市から南は千葉市の一部に及ぶ広大なもので、松戸市域は中野牧に重なります。

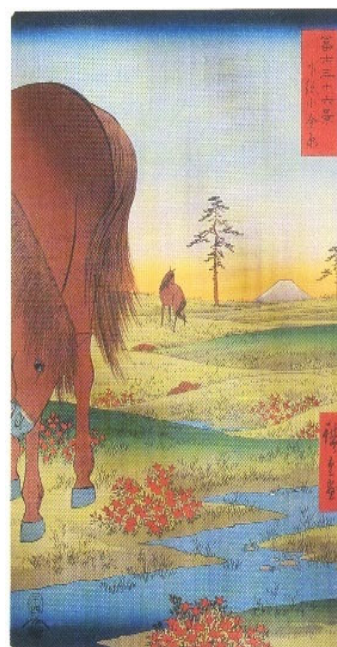


図38 歌川広重
『富士三十六景下総小金原』
(松戸市立博物館『馬と牧』図録)

(1)野馬の管理と牧士

広大な牧は村々や耕作地、道路などと隣接しています。そのため野馬が人の生活圏へ入り込むことを防ぎ、野犬などが牧内へ侵入しないようにするため、牧との境には野馬除土手や野馬堀が巡らされていました。これら牧の運営には、小金に役宅を持つ野馬奉行の綿貫氏があたっていましたが、享保年間(1716～1736)に金ヶ作役所が設置されると、両者が分担して経営するようになります。

野馬奉行の下で働く牧士は名字帯刀、乗馬、鉄砲の所持を許された武士で、牧の周辺に住んでいました。年1回行われる「野馬捕り」の指揮のほか、毎月6回の巡視を行い、野馬の世話や野馬土手の修繕など牧の実際的な管理を担っていました。

(2)野馬捕り

村々から動員された勢子たちが、牧内の「捕込」という囲いの中へ野馬を追い立て、牧士の指揮に従って野馬を捕獲しました。優良な雄馬は武士の騎乗用に、他は農耕・使役馬としてセリに掛け民間に払い下げられました。市指定文化財「幸谷観音野馬捕りの献額」(福昌寺)(幸谷)には、活気ある野馬捕りの様子が描かれています。

(3)御鹿狩

牧内にはシカやイノシシなどがたくさん生息していました。これらの駆除と軍事教練も兼ねた「御鹿狩」が、8代将軍吉宗の1725(享保10)年と1726(同11)年、11代家齊の1795(寛政7)年、

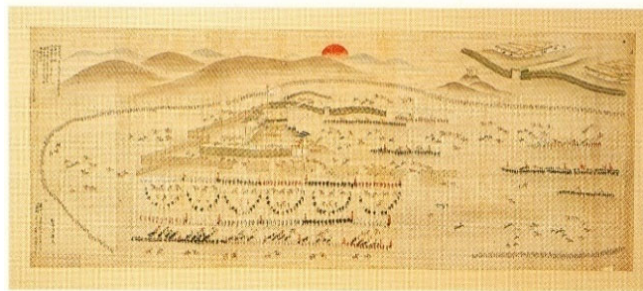


図39 寛政七年小金原御鹿狩絵図(市有形)

12代家慶の1849(嘉永2)年の4回実施されています。1回目の御鹿狩の際には12,000人余の勢子が動員され、シカ832頭とイノシシ5頭、オオカミ1頭の獲物があったと記録されています。また市指定文化財の「寛政七年小金原御鹿狩絵図」(図39)には、将軍の御座所である「御立場」を中心に3回目の狩りの様子が描かれています。御立場は、現在の五香公園付近にありました。その後は、牧内で植林や開発が行われて次第に牧内の獣が減少し、4回目の御鹿狩では遠隔地で獲ったシカやイノシシを放ちました。

徳川昭武と戸定邸

徳川昭武は水戸藩主徳川齊昭の第18男です。16歳年長の兄、江戸幕府15代将軍慶喜よしのぶにより才能を見出され、1867(慶応3)年(日本出発当時満13歳)、パリ万国博覧会に將軍名代みょうだい(代理)として派遣されました。昭武は滞在国フランス以外にも5か国を歴訪して各国元首げんしゅと交流し、先進的なヨーロッパ文明を視察します。慶喜が年若い昭武を派遣したのは、西洋の教養を身につけて各国宮廷で人脈を築き、将来、国政を担わせる意図があったと考えられます。しかしパリでの留学生活に入る1867(慶応3)年12月頃には幕府主導の政治体制はすでになく、昭武が明治政府下で政治に関わることはありませんでした。1876~1881(明治9~14)年には、再びヨーロッパで留学生活を送るとともに、個人的な旅行や留学生との交流を通じて、知見を広げました。

1883(明治16)年には、29歳の若さで水戸徳川家の家督を甥に譲って隠居します。これに先立ち、私邸である戸定邸の建設を始め、1884(明治17)年に生活の拠点を移します。1882(同15)年に再会した兄・慶喜とは晩年に至るまで親密に交際し、戸定邸や松戸の近郊で共通の趣味の釣りや狩猟、写真撮影などを楽んでいます。



図40 徳川昭武肖像
(松戸市教育委員会所蔵)

8. 近代から現代

明治を迎えた松戸は、廃藩置県で葛飾県、後に印旛県を経て千葉県に属し、政府の文明開化政策により近代化への道を歩みます。この時代、松戸町には東葛飾郡役所や郵便局、警察署、裁判所が設けられ、東葛の行政の中心地として発展しました。

五香六実の開墾

明治維新直後の東京は世情が不安定で、人々の暮らしは苦しいものでした。

新政府はこうした困窮者じゆさんに対する授産事業として、旧小金牧の開墾を計画します。はじめ東京の有力商人たちに開墾会社を作らせ、これに事業を請負わせる方法をとりましたが、間もなく挫折してしまいます。



図41 六実地区の畑 (昭和35年)
(『五香六実の歴史』)

その後、周辺の村々から移住してきた農民により開拓は進捗し、徐々に原野が拓かれていきました。五香六実地区はこうして拓かれた新しい土地です(図41)。

にじっせいきなし 二十世紀梨の誕生

松戸における梨栽培の歴史は江戸後期に遡り、幕末頃にはすでに江戸の市場でも名声を博していたと言われています。明治に入ると梨の需要は著しく増大、これに伴って松戸市内の梨の作付面積は年々増加していきます。そうしたなか大橋(当時八柱村)の松戸覚之助は、親戚宅で見つけた発芽したばかりの梨の苗を育て、1898(明治 31)年にはじめて成熟果を得ることに成功します。

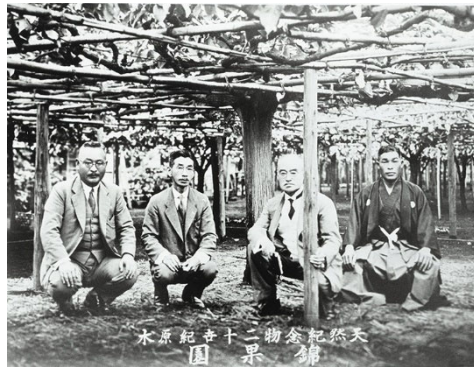


図42 「天然記念物指定の日」(昭和10年)
(『松戸市制50周年記念誌 はばたき』)

その梨は、果肉が白くてあっさりした甘味と滴^{したた}るような水分があり、後に「二十世紀」という新品種名を与えられ、一躍全国にその名を知られるようになりました。

県立園芸学校の創立

日露戦争後の不況が続くなか、資本主義の発展に対応した実業教育の振興が求められるようになります。千葉県は「専門学校」を設立する計画を進め、1909(明治 42)年、松戸町に千葉県立園芸専門学校を創立しました。1914(大正3)年には名称を千葉県立高等園芸学校に変更、あらためて園芸に関する高度な学問技術の教授を目指しました。

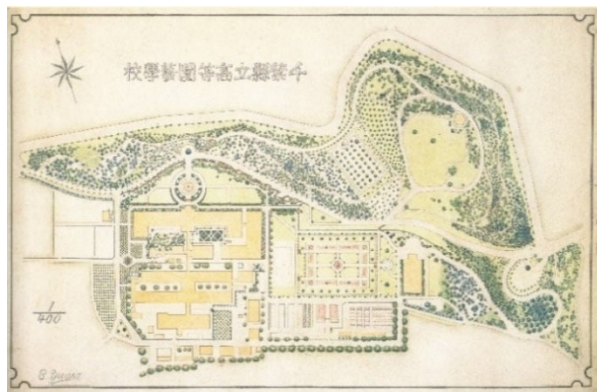


図43 湯浅四郎<千葉県立高等園芸学校>
(千葉大学園芸学部所蔵 大正6年頃)

その後、1929(昭和4)年には文部省の所管となって千葉高等園芸学校と改称され、戦後の1949(昭和24)年に千葉大学園芸学部、2007(平成19)年には同大学大学院園芸学研究科となり今日に至ります。

当初の千葉大学園芸学部のキャンパスには、西側に校舎と庭園、東側に温室と露地の花卉・野菜・果樹などの圃場^{ほじょう}と、それぞれの研究棟が配置され、一体的で実践的な教育体制が採られていました。その後1991(平成3)年に付属農場は柏キャンパスに移転しましたが、旧農場区域は引き

続き各研究室の実験圃場となっています。このほかイタリア・フランス・イギリスの各様式の庭園やロックガーデンなども整備されており、2009(平成21)年には(公社)日本造園学会から「近代造園遺産」に選定されています(「千葉大学園芸学部のキャンパスと庭園」『庭園の記憶』2009 藤井英二郎)。

松戸競馬場の開設

日清・日露戦争の反省から、日本在来馬の体格向上と供給体制の整備が、緊急かつ重要な課題とされました。そのため国産馬の改良は官民挙げて進められます。なかでも競馬会の開催は民間の優良馬輸入を促し、優れた国産馬の選抜を進める早道と考えられ、推奨されました。1905(明治38)年から翌年にかけて松戸で開催された競馬会は、こうした趣旨に基づいたもので、相模台の地で春秋2回にわたり開催されました。

1906(明治39)年から総武牧場株式会社が組織され、競馬場の設備が整えられました。翌年、社団法人の認可を受けて総武競馬会が発足しましたが、政府の方針により馬券売買が禁止されます。1909(明治42)年に公益法人松戸競馬倶楽部^{くらぶ}が運営を引き継ぎますが、1918(大正7)年末頃には陸軍工兵学校用地として陸軍がこの土地を買収し、松戸競馬場は短い歴史に幕を閉じます。なお松戸競馬倶楽部は、その後船橋へ移転して中山競馬倶楽部と改称、やがて現在のJRA 中山競馬場へ発展していきます。

八柱霊園

1930(昭和5)年当時の東京市は、人口増加に伴う墓地不足解消のため新墓地造成計画を作成し、八柱村田中新田の土地を買収しました。1935(昭和10)年7月には、ここに東京市営八柱霊園を開園します(開園時:面積約74.5ha、現在:105.2ha)。八柱霊園は、日本ではじめて「霊園」の名称が付けられた郊外型公園墓地で、ケヤキ並木の参道(延長700m)を有し、敷地面積の半分が墓所、残りは園路・緑地・広場等で構成されています。園内には嘉納治五郎^{かのうじごろう}(柔道家)や西条八十^{やそ}(詩人)、田中寅三^{とらぞう}(洋画家)、板倉鼎^{かなえ}(洋画家)、奥山儀八郎(版画家)、小松崎茂(挿絵画家)などをはじめ、多くの著名人の墓所があります。

陸軍工兵学校と千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)

1919(大正8)年11月、松戸競馬場のあった相模台の地に陸軍工兵学校が開校しました。この学校は、目まぐるしく進歩する近代戦に対応するため、工兵将校と下士官を育成するとともに、新たな技術と戦略の研究を行うことを目的として設立されました。現在の松戸中央公園と聖徳大学

・聖徳大学短期大学部、松戸市立第一中学校のある範囲が工兵学校の敷地であり、その南側は付属する校南作業場でした。

なお中央公園の正門は陸軍工兵学校当時のものであり、傍らに建つ^{ほしやうしやうしや}歩哨哨舎とともに市有形文化財に指定されています(図44)。また正門左手にあった将校集会所前の庭園は、千葉県立高等園芸学校(現千葉大学園芸学部)^{はやしのぶみ}林脩己教授の設計指導により造園さ

れたものです。このほか工兵学校関連では、第一中学校の東側に相模台^{れんべいじやう}練兵場、現在の稔台地区には広大な八柱作業場(演習場)があり、胡録台^{そうこう}には装甲作業車両の訓練基地(後に兵舎に変更)が設けられていました。

松戸の工兵学校と津田沼の鉄道連隊が敷設した演習用の^{けいべんてつどう}軽便鉄道の^{きどうしき}軌道敷は、戦後払い下げを受けた新京成電鉄が引継ぎ、ルートの一部改変しながら 1955(昭和30)年に松戸と京成津田沼を結ぶ全区間を開通させ、沿線地域の発展に大きく貢献しています(『新京成電鉄』2012 編著白土貞夫 彩流社)。

終戦直後の 1945(昭和20)年10月には、東京芝浦にあった東京工業専門学校が旧陸軍工兵学校の校舎に移転してきます。この学校は、1921(大正10)年に設立された東京高等工芸学校を前身に持ちます。同校は、1949(昭和24)年に学制改革による新制大学発足により千葉大学工芸学部となり、1951(昭和26)年には工学部に改組され、1964(同39)年に一部の施設を残して千葉市に移転しました。

逓信省航空局中央航空機乗員養成所の開設と帝都防衛

日中戦争の最中、旧松戸町串崎新田、東葛飾郡高木村五香六実などに広がる山林や畑地約130万㎡の土地が整備され、^{ていしんしやう}逓信省航空局中央航空機乗員養成所が建設されました(図45)。着工は 1939(昭和14)

年。工事は請負会社のほか、周辺市町村の警防団や青年団、中等学校の勤労奉仕隊など延べ17,000人が参加して進められ、1940(昭和15)年5月に竣工しました。松飛台の地名はこの飛行場に由来するものです。養成所は民間の飛



図44 旧陸軍工兵学校正門(市有形)
:現松戸中央公園正門



図45 逓信省航空局中央航空機乗員養成所
(『松戸市制50周年記念誌 はばたき』)

行士及び整備士の育成を目的とするものでしたが、有事の際に陸軍航空隊の乗員確保と首都防空用の飛行場として利用することが想定されていました。実際に戦局が悪化した1944(昭和19)年には、首都の防空を担う陸軍航空隊(第53戦隊)の基地として使用されました。終戦後は一部が自衛隊の駐屯地になりましたが、大部分は工業団地や住宅地として再開発され、今日に至っています。

こうした世情の中、1943(昭和18)年に松戸市は誕生し、戦後の1954(同29)年には旧小金町の大部分を編入してほぼ現在と同じ姿になります。

都市化と常盤平団地の生活

戦後の混乱を経て日本経済が回復し始めた昭和30年代に入ると、市域の大半を占めていた田園地帯が首都圏の住宅都市へと変貌していきます。その先駆けが常盤平団地の造成です。それまで畑と樹林が広がっていた金ケ作の農村地帯に、ショッピングセンターや集会所、病院、学校、郵便局などの施設が備わる新しい街が建設されました。1960(昭和35)年4月に入居が開始されると、松戸市の人口も急激に増加していきます。松戸市発展の象徴ともいえる常盤平団地では、食事をする場と寝室を別にする「食寝分離」、しよくしんぶんりダイニングキッチンの原型となる「食事のできる台所」、水洗トイレやガス風呂など、今日につながる新しい時代の生活様式が導入されていました。



図46 常盤平団地:星形住宅

第4章 松戸市の文化財の概要と特徴

本章では、市内に所在する文化財の特徴を明らかにするため地区ごとの集計を行い、あわせて文化財を種類・種別ごとに概観し、地域的な傾向と特徴を整理します。

整理に用いる地区分けは、近世以来の地域的なまとまりを継承する 1889(明治22)年の旧行政区をベースとし、これに第2章「松戸の地理的環境と自然」で指摘した地形の3類型による区分を重ねて設定しました。

松戸市内にあった近世の村々は、町村制の施行によりあきら小金町、やはしら馬橋村、高木村、明村、八柱村、松戸町の6町村に再編されました。当時、これらに含まれていなかった根木内や高柳、あるいは小金などの飛地については、便宜的にそれぞれ隣接する地区に含めています。またこうして新たに設定した地区を、現在でも通用している地域名を用い、小金地区、馬橋地区、高木地区、明地区、東部地区(旧八柱村)、松戸地区と称することにします。さらに第2章の「松戸の地理的環境

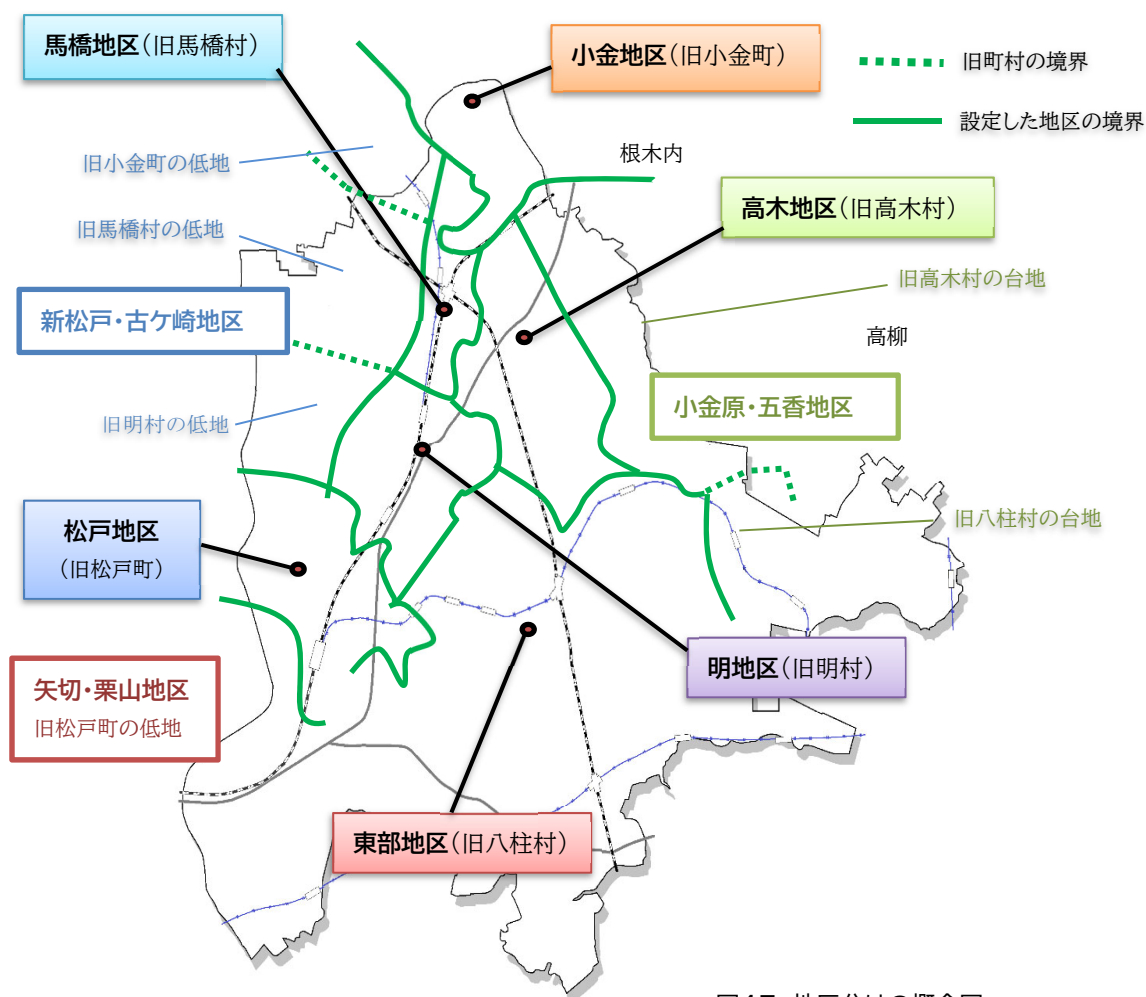


図4.7 地区分けの概念図

と自然」で指摘した地形の3類型をこれに重ね、小金・馬橋・明地区の西側低地部分を新松戸・古ヶ崎地区、旧松戸町の南西側を矢切・栗山地区とします。比較的平坦な台地上の地域については、高木地区の栗ヶ沢、金ヶ作、常盤平、小金原に東部地区の松飛台・串崎をあわせた範囲を小金原・五香地区とし、最終的に市内を9地区に分割します(図47)。

第1節 指定等文化財

令和4年度末現在、松戸市には58件の指定文化財と2件の国登録文化財があります。指定区分の内訳は国指定7件、県指定5件、市指定46件。種別毎では建造物14件、美術工芸品29件(絵画3、彫刻6、工芸品4、古文書9、歴史資料4、考古資料3)、無形の民俗文化財2件、記念物13件(遺跡10、名勝1、動物・植物・地質鉱物2)。国登録文化財は建造物が2件、国選定保存技術が1件(歌舞伎^{かつら}製作)です。

表2 指定等文化財の種別と件数

種類・種別		国指定	県指定	市指定	国登録	県登録	国選定	県選定	市選定	合計	
有形文化財	建造物	1	0	13	2	0	—	—	—	16	
	美術工芸品	絵画	0	0	3	0	0	—	—	—	3
		彫刻	1	0	5	0	0	—	—	—	6
		工芸品	1	1	2	0	0	—	—	—	4
		書跡・典籍・古文書等	2	2	5	0	0	—	—	—	9
		歴史資料	0	0	4	0	0	—	—	—	4
		考古資料	1	0	2	0	0	—	—	—	3
無形文化財		0	0	0	0	0	—	—	—	0	
民俗文化財	有形の民俗文化財	0	0	0	0	0	—	—	—	0	
	無形の民俗文化財	0	1	1	0	0	—	—	—	2	
記念物	遺跡	0	0	10	0	0	—	—	—	10	
	名勝地	1	0	0	0	0	—	—	—	1	
	動物・植物・地質鉱物	0	1	1	0	0	—	—	—	2	
文化的景観		—	—	—	—	—	0	0	—	0	
伝統的建造物群		—	—	—	—	—	0	0	—	0	
選定保存技術		—	—	—	—	—	1	0	0	1	
合計		7	5	46	2	0	1	0	0	61	

* 上表は、令和4年度作成の「指定文化財・登録文化財一覧」(資料編所収)を基に集計している。

* 県指定の無形の民俗文化財「松戸の三匹獅子舞」は、上本郷、和名ヶ谷、大橋の3地区、計4か所の神社に伝承されているが、指定件数は1件としている。

指定文化財の「種類・種別」に見る傾向と概要(表2)

種類・種別毎に見ると、有形文化財の美術工芸品29件が突出しています。このうち古文書は、^{だいがくさぶろうごしょ}「大学三郎御書」など本土寺が所蔵する5件をはじめ、市立博物館が所蔵する2件(^{にしはらもんじょ}「西原文書」^{ぶぜんしもんじょ}「豊前氏文書」)など、最多の9件を数えます。古文書については、鎌倉時代以来の歴史を有する本土寺の所蔵文書と、小金城主高城氏に関わる文書が中心となっており、松戸市の歴史文化の特徴を反映した結果になっています。

彫刻では、萬満寺所蔵の^{もくぞうこんごうりきしりゅうぞう}「木造金剛力士立像」ほか4件と、光明寺の^{あみだによらいりゅうぞう}「阿弥陀如来立像」、本福寺の^{あみださんぞんぶつ}「阿弥陀三尊仏」の計6件の仏像が続きます。また工芸品4件は仏具が主であり、美術工芸品の多くが、歴史ある寺院の所蔵する文化財であることが分かります。

有形文化財の建造物16件では、^{いちげつじいせき}「一月寺遺石」や^{こうしんいたび}「庚申板碑」など石造物が半数近くの7件を数え、年代的には近世が中心です。^{きゅうとくがわけまつどとしょうてい}「旧徳川家松戸戸定邸」や^{やなぎはらすいこう}「柳原水閘」、^{まつどちゅうおうこうえんせいもんもんちゅう}「松戸中央公園正門門柱(旧陸軍工兵学校正門門柱)」、登録文化財の^{きゅうさいとうけじゅうたくしゅおく}「旧齋藤家住宅主屋」(図48)など建築物は、近代

以降が主となっています。記念物では、松戸が発祥である^{にじっせいきなしたんじょうち}「二十世紀梨誕生の地」のほか、^{こうでかいづか}「幸田貝塚」、^{かわらづか}「河原塚1号古墳」と同「4号墳」(図49)、^{こがねまきごこうむつみのまよけどて}「小金牧五香六美野馬除土手」など、松戸の歴史文化を特徴付ける埋蔵文化財を指定しています。

なおこれまでのところ、本市においては無形文化財、有形の民俗文化財、文化的景観、伝統的建造物群についての文化財指定、登録及び選定はありません。



図48 旧齋藤家住宅主屋(国登録)



図49 河原塚古墳4号墳(市有形)

指定文化財が所在する「地区」に見る傾向と概要(表3・図54)

本土寺(国指定重文3件・県指定3件)と東漸寺(市指定3件)が所在する小金地区には、指定文化財が集中しています。中世の文化財が目立ちますが、なかでも県指定^{ほんどじかごちょう}「本土寺過去帳」は、15世紀から17世紀にかけての200年以上にわたる膨大な記録であり、記された人についての情報のほか政治的な出来事についての記事も見られ、関東の中世史研究における重要な史料と

して高く評価されています。また東漸寺の天然記念物「シダレザクラ」については、指定に際して実施したDNA分析の結果から、長野県塩尻市の天然記念物で名前も同じ東漸寺にあるシダレザクラと近親関係にあることが明らかにされています。山号の同じ二つの東漸寺は、ともに^{きやうよくていしやうにん}経譽愚底上人により開創ないし^{ちゆうこう}中興された寺院であり、いずれもシダレザクラが有名です。



図50 東漸寺のシダレザクラ(市有形)

馬橋地区では、鎌倉時代の創建になる萬満寺に、^{うんけい}運慶作との伝承がある「木造金剛力士立像」(図51)や、中国明代の作とされる優美な「^{ちゆうぞうぎょらんかんのんりゆうぞう}鑄造魚籃観音立像」などが所蔵されており、彫刻(仏像)の4件が特筆されます。

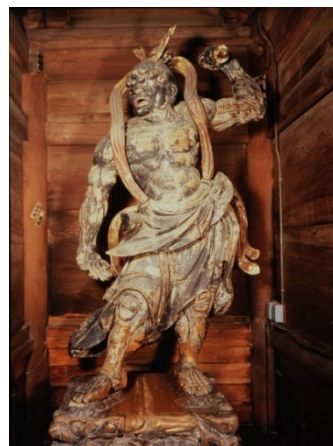


図51 木造金剛力士立像(阿形)
(国重文)

明地区と東部地区は、旧齋藤家住宅や長屋門など農村部の建造物と、^{こうりゆうじ}廣龍寺の「^{かえいごねんめいこうしんとう}嘉永五年銘庚申塔」、^{じしゅうほんぶくじ}時宗本福寺の「阿弥陀三尊仏」に「^{しやうこ}鉦鼓」、4か所の神社に伝承される「^{さんびきししまい}三匹獅子舞」など、地域の人々の生活や信仰に関わる文化財が多く見られます。

松戸地区は、国の重要文化財と名勝に指定されている「旧徳川家松戸戸定邸」と「^{きゆうとくがわあきたけていえん としやうていていえん}旧徳川昭武庭園(戸定邸庭園)」のほか、「^{しやうりゆうじさんもん}松戸龍寺山門」や「^{まつとじんじやかぐらでんでんじやうえ}松戸神社神楽殿天井絵及び杉戸絵」(図52)など、徳川昭武関係や旧松戸宿内の文化財が中心です。



図52 左:松戸神社神楽殿杉戸絵(市有形)

矢切・栗山地区では治水の歴史に関わる「^{やなぎはら}柳原水閘」(図53)が市指定の有形文化財、水道事業に関わる「千葉県水道局栗山配水塔」が国登録有形文化財となっています。いずれも江戸川に関わる近代の建造物であり、地域の歴史を如実に物語る文化財といえます。



図53 柳原水閘(市有形)

これに対し、八ヶ崎や千駄堀などを含む高木地区や、江戸川沿いの北部の低地にあたる新松戸・古ヶ崎地区、小金牧の範囲内に含まれていたため土地利用の歴史が浅い小金原・五香地区については指定文化財の件数が極端に少ない状況にあります。

表 3 指定等文化財の地区別一覧

種類・種別		小金	馬橋	明	古ヶ崎 新松戸	高木	東部	五香	小金原	松戸	栗山 矢切	合計
有形	建造物	0	3	2	1	2	2	0	2	4	16	
	美術 工芸品	絵画	1	0	0	0	0	0	1	1	0	3
		彫刻	1	4	1	0	0	0	0	0	0	6
		工芸品	3	0	1	0	0	0	0	0	0	4
		書跡・典籍・古文 書等*1	8	1	0	0	0	0	0	0	0	9
		歴史資料	1	1	0	0	0	0	0	2	0	4
		考古資料	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3
無形文化財		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
民俗	有形の民俗文化財	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	無形の民俗文化財*2	0	0	3	0	0	2	0	0	0	5	
記念物	遺跡	5	0	0	0	0	2	1	2	0	10	
	名勝地	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	
	動物・植物 ・地質鉱物	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	
文化的景観		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
伝統的建造物群		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
文化財の保存技術		0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
合計		21	9	9	1	2	7	2	9	4	64	

*1「西原文書」「豊前氏古文書」は、小金城主に関連するものとして小金地区にカウントした。

*2「万作踊り」は明地区(本福寺)にカウントした。「松戸の三匹獅子舞」は、登録件数は1件だが、東部地区(日枝神社・胡籙神社)と明地区(明治神社・風早神社)で各2か所に分けたため、合計数は、表2の61件より3件多くなる。

第2節 把握している文化財の概要

松戸市の市史編纂事業は、市制施行十周年記念事業の一つとして、1954(昭和29)年に始まりました。これに伴い基礎的な史料の調査と整理が進められ、1958(同33)年には『松戸市史料』を刊行しています。その後も、教育委員会が行ってきた調査研究の進展により、多くの知見が蓄積されてきています。



図54 指定文化財・登録文化財の所在地

表4は、過去の調査を基に作成した文化財の一覧であり、調査報告書や資料目録等が刊行されているものからカウントしました。総計2,367件の内訳は、建造物が1,769件(うち石造物1,705件)、美術工芸品135件、民俗文化財74件、記念物3件です。

埋蔵文化財は、時代別件数をそのまま集計すると386件となりますが、多くの遺跡がいわゆる複合遺跡であり、実際に市内に所在する遺跡数を大幅に上回ります(野馬除土手を1遺跡としてカウントすれば、市内に所在する遺跡数は200か所です。資料編の3-(5)埋蔵文化財参照)。

時代別では縄文時代の遺跡数が154か所と突出しており、しかも貝塚を伴うケースが66例もあります。表4の集計結果を見ても、本市の縄文時代の遺跡が、江戸川沿いの低地や国分谷に面する台地上に濃密に分布し、その多くに貝塚が形成されていた状況を見ることができます。

表 4 把握している文化財(指定等を除く)の地区別一覧

種類・種別		小金	馬橋	明	古ヶ崎	新松戸	高木	東部	五香	小金原	松戸	栗山	矢切	合計
有形文化財	建造物	建造物	12	3	1	6	3	23	4	9	3			64
		石造物	243	127	312	214	173	213	94	204	125			1,705
	美術工芸品	絵画	2	0	6	0	4	1	1	12	4			30
		彫刻	0	0	1	0	0	0	0	0	0			1
		工芸品	0	0	3	0	0	0	0	0	0			3
		書跡・典籍・古文書等	25	7	10	7	11	10	4	15	6			95
		歴史資料	1	0	2	0	0	0	0	0	0			3
		考古資料	0	1	0	0	1	1	0	0	0			3
無形文化財		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
民俗文化財	工芸技術	0	0	1	0	0	0	0	0	4	0			5
	芸能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	年中行事	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			0
	人生儀礼	2	0	0	2	2	3	0	0	0				9
	村落・家	4	0	0	2	0	4	2	0	0				12
	信仰	11	5	5	7	2	6	4	2	3				45
	民話・伝承	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
	生産・生業	1	0	0	0	1	1	0	0	0				3
埋蔵文化財	縄文時代	35	3	9	0	22	64	16	4	1				154
	(上記のうち貝塚)	(16)	(1)	(3)	(0)	(8)	(26)	(9)	(3)	(0)				(66)
	古墳時代	19	2	10	0	7	21	0	2	3				64
	中近世城館跡	3	4	2	0	0	0	0	1	0				10
	野馬除土手	0	0	1	0	0	3	3	1	0				8
	その他	24	7	15	1	16	66	6	6	9				150
記念物	遺跡	0	0	0	0	0	0	0	1	0				1
	名勝地・景観	0	0	0	0	0	0	0	0	1				1
	動物・植物・地質鉱物	0	0	0	0	0	0	0	1	0				1
文化的景観		0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
伝統的建造物群		0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
選定保存技術		0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
松戸の歴史文化を特徴付ける広義の文化財		0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
合計		382	159	378	239	242	416	134	262	155				2,367

*集計の便宜上、グラフィックデザイン・版画・写真は絵画、陶芸・インテリアは工芸品、資料・その他は歴史資料としてカウントしている。

石造物の1,705件は、昭和60年代に刊行された文化ホールの所在調査を基準として算出した数字です。念仏塔や庚申塔、巡礼塔など、人々の素朴な信仰に由来するものに混じり、少数ではありますが松尾芭蕉(図55)や小林一茶などの句碑も見受けられます。



図55 市内にある芭蕉の句碑:左から本土寺(平賀)、妙典寺(小金)、蘇羽鷹神社(二ツ木)

石造物を除く建造物については、民家調査と旧宿場町建築物調査の成果から、令和3年度末時点で現存する件数を集計しました。現存総数の内訳は、寺院や神社の建造物13件、民家51件です。地区別では東部地区の民家23件が突出しており、小金地区の寺社5件・民家7件、松戸地区の寺社7件・民家2件がこれに続きます。

近世以前の美術品に関する把握調査は未実施ですが、近代以降の千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)関係や松戸に住んだ作家については、これまで精力的に調査研究を進めてきています。図56は、矢切の渡しをテーマとした奥山儀八郎の作品です。1954(昭和29)年から下矢切に住まいを定めた奥山は、野菊の墓文学碑建設に尽力し、また在野の考古学研究者である湯浅喜代治氏が設立した下総史料館の木製看板(図58)の制作も行うなど、地域と深く関わりを持った作家でした。また「原爆の図」で知られる丸木位里・俊^{まるきいり とし}夫妻も、1964(昭和39)年から二年ほど市内の八ヶ崎に住んでいました。当時、付近では小金原団地造成に先行する貝の花遺跡の発掘調査が行われており、夫妻は、その調査現場をし

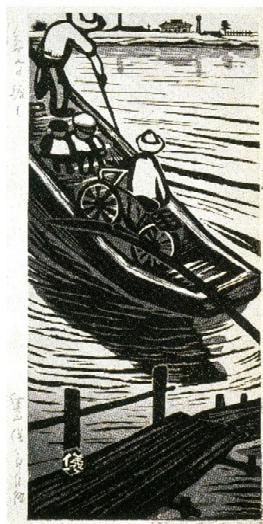


図56 奥山儀八郎
《矢切れの渡し》
昭和30～33年頃
(松戸市教育委員会所蔵)



図57 貝の花公園
貝塚跡記念碑
(制作:本田晶彦)

ばしば見学しています。住まいの近くで採集した縄文土器が、東松山市の「原爆の図丸木美術館」で大切に保管されているほか、発掘調査の様子を描いた「松戸市貝花塚発掘」と題する俊のデッサンも残されています[1965 松戸市教育委員会所蔵]。なお絵画・彫刻・工芸品については、松戸神社が所在する松戸地区が12件と最も多く、千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)のあった岩瀬を含む明地区が10件でこれに続きます(資料編参照)。

書跡・典籍・古文書等は、長い歴史を有する本土寺や東漸寺に所在し、水戸道中の宿場として繁栄した小金地区が25件と最多です。旧村関係の古文書が多く保存されている東部地区・明地区・高木地区、宿場と河岸を中心に栄えた松戸地区、鎌倉時代の創建に

なる萬満寺が所在する馬橋地区がこれに続きます。土地利用の歴史が相対的に浅い小金原・五香地区、新松戸・古ヶ崎地区、矢切・栗山地区にも、小金牧や坂川の治水に関わる記録が伝えられており、地域ごとの特色ある歴史を伝えています。

歴史資料は東漸寺所蔵資料(額・雲板・棟札)、千葉大学工学部(旧東京工芸学校)関係作品文書資料及びその他資料、考古資料は千葉県立松戸高等学校所蔵資料、王子神社境内出土常滑壺、湯浅喜代治考古コレクションの各3件ずつです。



図 58 奥山儀八郎 <<下総史料館>> 看板
昭和 40～49 年頃(松戸市教育委員会所蔵)

千葉県立松戸高等学校所蔵資料は、1965(昭和40)年、当時の同校社会クラブが行った発掘調査の出土品が主体です(『松戸市史考古資料集2』2008 松戸市立博物館)。これらの出土資料は、2003(平成15)年、同校の施設工事に伴う埋蔵文化財の取り扱いに関する協議の過程で見出され、教育委員会と県立松戸高等学校の協力により再整理が進められたものです。王子神社境内出土の常滑壺は、神社境内の整地作業中に発見された資料です。常滑産の壺に渥美産の陶器の蓋、壺内に収められていたカワラケ 2 点と一緒に出土しています(『松戸市立博物館紀要6』1999)。

民俗文化財は、1960 年代に松戸市域で行われた民俗調査の報告である『農村松戸の民俗』(2014 松戸市立博物館)のほか、『伝統的工芸品一覧』(2002 千葉県商工労働部観光コンベンション課)、『千葉県の諸職』(1985 千葉県教育委員会)を基に集計しました。『農村松戸の民俗』にまとめられている調査は、市史編纂事業の一環として行われたもので、事前に、「村落基礎調査」と「村落別講調査」についてアンケート調査を行っています。集計には本文の記述と「村落別講調査」の結果を参考としました。また調査報告書に「農村松戸」のタイトルが付されていますが、松戸や小金などの町場も調査地に選定されており、おおむね松戸市全体を対象として調査は実施されています。その成果は、半世紀以上前、都市化が進行する以前の「古い松戸」の民俗を記録した貴重な資料です。

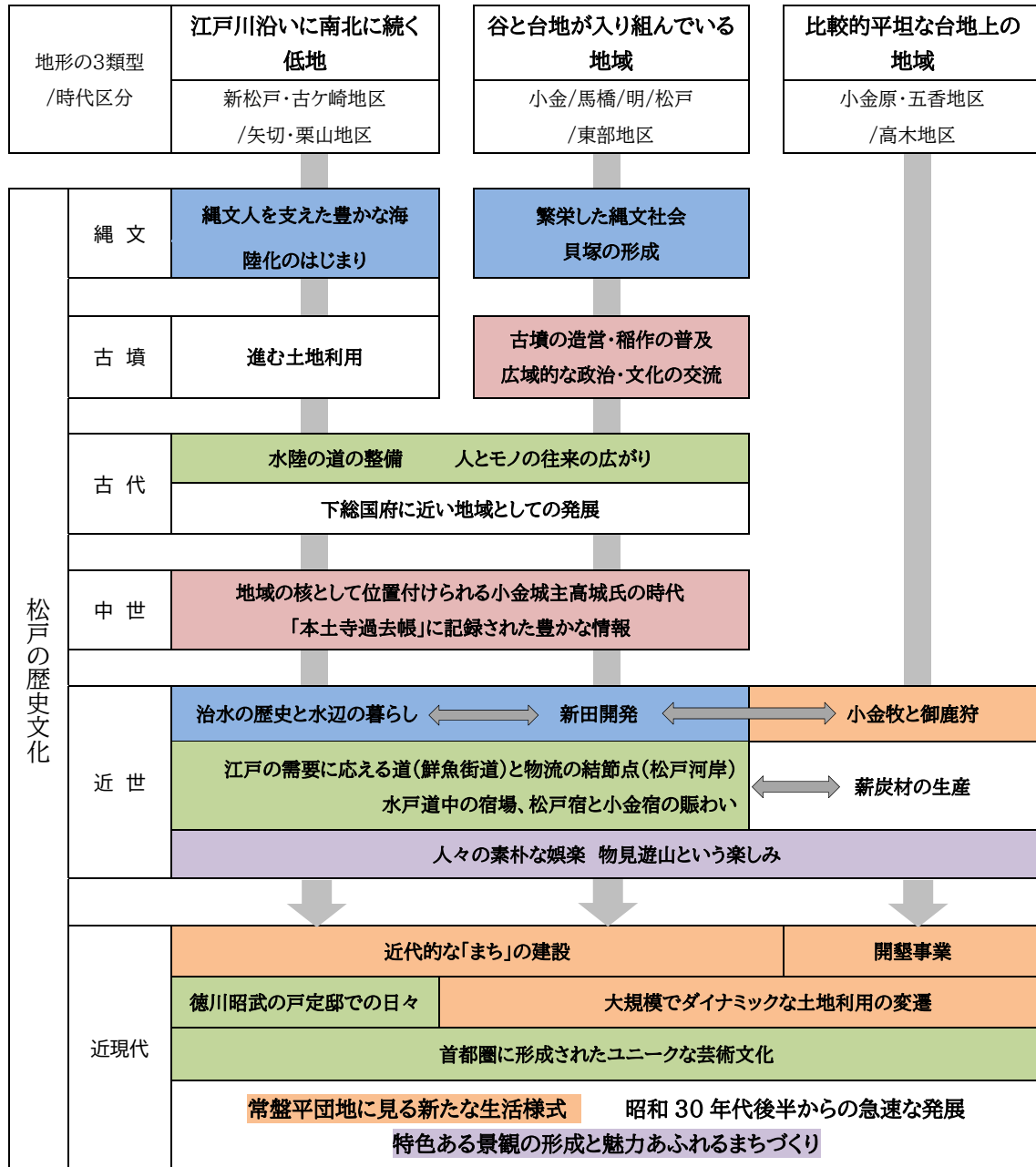
記念物は、松戸の樋門群・小山樋門橋(図 59 『名勝に関する総合調査』2013 文化庁文化財部記念物課)、矢切の渡しの景観と野菊の墓文学碑(『近代遺跡調査報告書—交通・運輸・通信業—』2019 文化庁文化財第二課)、松戸貝層の3件です。



図59 小山樋門

第3節 松戸市の歴史文化の特徴

松戸市は首都東京に隣接する利便性の良さもあり、昭和30年代以降、急激に人口が増加して市街化も進みました。しかしそれ以前の近世においても、この地域は江戸近郊に位置し、政治・経済・文化など様々な面で、中心地江戸の影響を強く受け続けてきました。また中世にあつては、争乱の続く時代にあつて、在地勢力の核となっていた時期もあります。松戸市の歴史文化は、そうした固有の地理的・歴史的な環境や、変化する社会的状況のなかで次第に醸成されてきたのです。



※5色の色は P49 表5との関連性を示しています

図 60 歴史文化に関わる特徴を構成する要素の整理

図 60 は、第2章～第4章で概観した固有の要素と3つの地形類型、及び第4章の冒頭で提示した市内9地区を関連付けて関係を整理したものです。これらを踏まえ、松戸市の歴史文化を時代と地域を横断的に概観し、その特徴を以下のようにまとめました。

表 5 「松戸市の歴史文化の特徴」の整理

(1)豊かな海の記憶と水辺の暮らし

江戸川沿いの低地や谷を生業の場として営まれた暮らし。海の恵みを享受し、**繁栄した縄文社会**。貝塚が多く残り、縄文時代の遺跡の多さから「縄文銀座」とも称される松戸市。恵みとともに災いをもたらした「川」との共存。**大規模な治水事業と新たなまちづくりの歴史**。

(2)交流の広がりから高城氏の時代へ

小金や河原塚、栗山古墳群の調査成果から明らかになった**広域的な政治・文化の交流**のはじまり。**小金城主高城氏**が、地域の核として存在した時代。本土寺をはじめ、高城氏に関連する寺社が多く存在し、高城氏の繁栄を今に伝える松戸市の北部地域。

(3)宿場・河岸から街へ一人とモノの行き交う場で育まれた歴史文化―

水戸道中と松戸宿・小金宿、鮮魚街道と松戸河岸といった「人とモノの行き交う場」で育まれた歴史文化。**大きな変革が進んだ時代に徳川昭武**が穏やかな後半生を過ごした**戸定邸**。近代以降には、東京近郊という恵まれたロケーションゆえに松戸に來た学校と作家たちにより、**ユニークな芸術文化が形成された**。

(4)小金牧から常盤平団地へ

市域東部に広がる台地を舞台とする営み。壮大な**御鹿狩**、**小金牧の開墾**、首都近郊にあって発展した農業、ゴルフ場や飛行場の建設、戦後の土地区画整理事業など、**ダイナミックで多彩な変貌**を遂げた地域の歴史。そして**常盤平団地**に象徴される**新しいライフスタイル**。今日の「街」の基盤が形成される。

(5)祈りと娯楽の系譜

穏やかな暮らしやこどもの成長を願う**素朴な祈り**と、祭礼や有名な社寺への**参詣**という**遊山**の歴史。地域の人々が身近に感じ、親しんできた**松戸の自然と癒し**。今に引き継がれる「娯楽」の系譜。

(1)豊かな海の記憶と水辺の暮らし

松戸市の西部に広がる江戸川沿いの低地や、下総台地の縁辺部に見られる入り組んだ谷を舞台に、稲作や漁撈などが盛んに行われていた時代があります。

繁栄した縄文社会

およそ一万年続いた縄文時代は、温暖化による海水面の上昇(約 6,000 年前頃)と寒冷化による海岸線の後退により、海水面の高さが2mから3mも上下する、劇的に環境が変化した時代です。この時代の人々は、そうした変動を経験しながら、目の前に広がる海と周囲の林野からもたらされる自然の恵みを利用し、海沿いの地域を中心に特有の世界を作り上げました。とりわけ海への依存が強かった縄文人の営みは、やがてこの地域に多くの貝塚を残すこととなります。

縄文時代の人々は多量に貝を採取し利用していました。その殻はムラの中や周囲にまとめて投棄され貝塚を形成します。貝塚には土器や石器などの遺物のほかに、魚や獣の骨なども混じっているため、その内容を詳細に調べることで縄文人の食生活や食糧事情、さらには周囲の自然環境まで復元することができます。

松戸市では縄文時代の遺跡154か所のうち、多くの遺跡で貝塚が確認されています。縄文人が主に利用した貝類はハマグリ、マガキ、アサリ、アカニシ、イボキサゴ等です。魚類ではマアジ、スズキ、マダイ、ヒラメ、カレイ、マイワシ、カタクチイワシ、ウナギなどの骨が出土しており、これら生物の生息域の分析から、遺跡周辺は淡水が流れ込む遠浅の海であったことが分かります。獣類ではイノシシやシカをはじめイタチ、キツネ、タヌキ、ノウサギ、鳥類ではカモ、キジ、サギ等の骨や歯が検出されています。縄文のムラの周囲には、豊かな海と森が広がっていたことが分かります。

松戸市内では、江戸川沿いの低地や国分谷、それらから派生する小さな谷を臨む台地の上に多くの集落が営まれました。縄文海進がピークに達した縄文時代前期の幸田貝塚は、この時期としてはまれな大規模集落跡であり、関山式土器をはじめとする遺物は一括して重要文化財に指定されています。そのほか縄文時代中期(5,000 年前から 4,000 年前)の大規模環状集落である子清水遺跡、海岸線が後退し始めた時期にあたる縄文後期(4,000 年前から 3,000 年前)の貝の花遺跡など、全国的にも著名な遺跡が数多くあります。これらの遺跡は、宅地化に先行して行われた発掘調査によって詳細な記録が残され、縄文土器をはじめとする出土品も市立博物館に展示されています。また幸田貝塚や東平賀遺跡などは、一部を公園にすることで遺跡そのものを保存しています。

「川」との共存

縄文時代に人々に海の幸をもたらした低地や谷は、寒冷化が進んで海岸線が遠退くと、やがて湧水の流れる低湿地へ変貌していきます。3世紀後半にはじまる古墳時代には、そうした低地で稲作を中心とする農耕がはじまり、谷を臨む台地の上には多くのムラが営まれるようになります。しかしこうした低湿地の開発のためには、大規模な灌漑が必要であり、しばらくは部分的な土地利用であったと思われます。

江戸川沿いの低地に関しては、稲作を営むまでにはさらに長い時間を要したようです。陸地化が進行していた時期でも、塩害や水害など、農地としての利用に適さない状況が続いていたのかもしれない。記録の上で人々の足跡が確認できるのは14世紀末か15世紀頃からで、横須賀や馬橋などの地名が『本土寺過去帳』の記述中に見られるようになります。17世紀半ばには大規模な江戸川の整備事業が進み、ようやく人々の暮らしも成り立つようになりますが、水害の不安が消えることはありませんでした。

現在の新松戸や古ヶ崎には、昭和の中頃まで水辺の環境に適応した暮らしが残っていました。河川に沿う微高地上に屋敷地が選ばれ、「水塚」と称される嵩上げされた一段高い場所に蔵が建てられていました。家々には田舟が常備され、坂川や用水路を利用して収穫した稲や肥料の運搬や、人々の移動手段として用いていました。身近にある用水路や水田では、フナ、ウナギ、ドジョウ、ヌカエビ、モクズガニなど貴重なタンパク源を得るための漁場になり、一部は北千住(東京都足立区)の魚市場へも出荷されていたようです。またここで収穫されたコメの品質は高い評価を受けており、ことにもち米は白玉粉や流山のみりんの原料として重宝され、地域の産業を下支えしました。

一方下流の矢切では、18世紀初頭の大水害をきっかけに、村が高台へ移転したという伝承があり、これにより農地と住まいが別々になったと言われています。実際の上流部の地域とは家々の立地や、その後の発展の仕方に違いが生じています。明治時代になると砂州に開かれた「島畑」でネギや夏大根などが栽培され、直接東京の千住市場などへ持ち込まれるようになります。消費地に近く品質も良いことから次第に評価が高まり、さらに1911(明治44)年の葛飾橋架橋がきっかけとなって、東京の野菜供給地のひとつとして急速に発展することになりました。こうした農業生産の興隆が、やがて松戸を代表するブランド農産物の一つである矢切ねぎに結実します。

大規模な治水事業と新たなまちづくり

厳しい自然環境に対して、異なる対応をした二つの地域は、昭和に入って行われた大規模な治

水事業や土地区画整理事業、JR 常磐線の新松戸駅や北総鉄道矢切駅の開設、東京外かく環状道路の開通など交通網の発達により、今日ではそれぞれに人口が増加しました。その一方で、矢切地区に広がる畑地や緑豊かな斜面林、江戸川に浮かぶ矢切の渡し舟など、松戸市民にとって心安らく懐かしい景観も残されています。

(2)交流の広がりから高城氏の時代へ

列島規模で人やモノが移動・交流する時代を迎えると、松戸市域も、やがてそうした世の中の動きに組み込まれていきます。さらに時代が下り、小金城主高城氏が登場する戦国時代には、小金を中心とした地域が支配領域の核として位置付けられることになります。

広域的な政治・文化の交流のはじまり

農耕社会が発展して富の集積が進んだ3世紀頃には、富裕な有力者(首長)があらわれ、各地に古墳が築かれるようになります。そうした首長たちの連合が進むと、やがて中央の王権を頂点とする古代国家が成立します。

松戸市内に所在する古墳は決して多くはありませんが、考古学的な調査が実施されている古墳の立地を見ると、いずれも江戸川沿いの低地や国分谷を臨む台地の縁辺部に築造されています。

小金古墳群の小金1号墳や、栗山古墳群・立出し遺跡・天神山遺跡から出土した埴輪や石材の産地には、遠く離れた地域のもが含まれています。また古墳出土の遺物ではありませんが、5世紀半ばから後半頃の集落跡である行人台遺跡からは、「渡来系遺物」と称される朝鮮半島からもたらされた可能性のある鉄製品と土器が出土しており、すでにこの地域が広い流通網の中に位置していたことを物語っています。さらに栗山古墳群は、法皇塚古墳(前方後円墳:市川市)をはじめとする国府台古墳群の支群と考えられており、この地域一帯がより広い政治的なまとまりに組み込まれていたことが推測されます。

ヤマト政権が集権国家を誕生させ、701(大宝元)年に制定された大宝律令によって、現在の松戸市域は下総国葛飾郡となります。交通体制の整備も進められており、武蔵・下総・常陸の国府を結ぶ東海道の本道が、下総国府(市川市国府台付近)から松戸市内を通り、手賀沼の西岸へ達していたと推定されています。この時代の市内の遺跡も、国府が置かれた市川市に寄った南部に集中する傾向が見られます。これまでに43軒以上の竪穴住居跡と5軒の掘立柱建物跡を検出した小野遺跡(胡録台)は、推定されている旧東海道のルートに近く、官人の位階を表す「帯金具」を出土しており、下総国府との関係が考えられています。さらに坂花遺跡(紙敷)では、国府との関連を

窺わせる「^{くにのくりや}國^{ぼくしよ}厨」の文字が墨書された土器が出土しており、下総国府との関係性が推測されます。

小^{たかぎ}金城主高城氏

高城氏が勢力を伸した16世紀頃は、小田原の北条氏、古河を拠点とする足利氏^{こがくぼう}（古河公方）、扇谷^{おうぎがやつ}と山内^{やまのうち}の両上杉氏、安房の里見氏と足利義明^{おゆみ}（小弓公方）など様々な勢力がせめぎ合い、関東全域が争乱の場となった時代でした。1538^{てんぶん}（天文7）年の相模台の戦いや1564^{えいろく}（永禄7）年の国府台の戦いでは、松戸市域も戦いの舞台となっています。

高城氏の領域支配の中心となった小金は、この時代以前から多くの人々が集住しており、人や文物が往き来していた場であったと考えられています。小金城跡や根木内城跡の発掘調査では、中国から輸入された陶磁器、瀬戸・美濃地方や常滑で生産された陶磁器、周辺地域で生産されたと考えられている素焼きの土器類などが出土しており、高城氏の領域には、多様な流通網が重複していたことが分かります。

『本土寺過去帳』には、1546^{てんぶん}（天文15）年のこととして「高城下野守当地頭^{たかぎもつけのかみじとう}」の記載があり、この時期には高城氏が小金領主として認知されていたことがうかがえます。これは前述の相模台の戦いから8年後のことであり、高城氏が地盤を固めた時期が、争乱の続く最中であったことが分かります。また高城氏の一族と思われる人名の脇には地名が付記されています。これらの土地と小金の間には、当時、何らかの交通の手段があったと推測されます。例えば「横須賀」は、小金城から中世の遺跡群が所在する^{ひれがさき}鱧ヶ崎（流山市）の台地へ続く微高地を中心とした地名ですが、『本土寺過去帳』には15世紀から登場します。同じく「高城周防入道悲母^{すおうにゆうどうひぼ}」や「高城和泉守内方^{いずみのかみうちかた}」に付記される「我孫子」は、現在の利根川水系と「香取の海」と称される広大な内海の玄関口に位置し、河川や湖沼を利用した経済圏へのアクセスポイントであったことが知られています。

このように小金城主高城氏を中心とした世界は、長い戦乱の時代を経験しながら、一方では陸地や河川、あるいは海の道を介して多くの地域と繋がっていたことが分かります。支配領域の中核であった小金周辺には、本土寺や慶林寺、東漸寺、大勝院、広徳寺など高城氏にゆかりのある寺院が集中しており、城跡を史跡整備した大谷口歴史公園（小金城跡）や根木内歴史公園（根木内城跡）、さらには^{こうや}幸谷城跡や東平賀遺跡など、中世の遺跡も数多く分布しています。

(3)宿場・河岸から街へ —人とモノの行き交う場で育まれた歴史文化—

江戸時代、松戸市域には水戸道中と^{なま}鮮魚街道という2つの主要な道が通じていました。また江

戸・東京という政治・経済・文化の中心地に近い地の利は、近代以降も幅広く多くの人々を引き付け、松戸の歴史文化に豊かな彩りを添えています。

水戸道中と二つの宿場、鮮魚街道(生街道)と松戸河岸

松戸市内には、江戸時代のはじめに整備された水戸道中が南北に通じており、松戸宿と小金宿の二つの宿場がありました。江戸の日本橋から水戸への総行程は30里14町(約 119.3 km)、一般の旅行者で2泊3日、参勤交代する大名家の場合には3泊4日の行程だったといえます。松戸宿の中心は本陣や問屋場の置かれた宮前町で、街道沿いには商店や旅籠が軒を並べ、1851(嘉永4)年には戸数468軒、人口2,224人を数えるほどでした。

江戸川の舟運で栄えた松戸河岸は、金町松戸関所と下横町を結ぶ往還河岸、輸送荷物を扱った納屋河岸(良庵河岸)、船宿が設けられ碇泊地として利用された平潟河岸から成っていました。これらの河岸は、1731(享保16)年に行われた江戸川の改修により適度な水深が確保され、さらに良い条件を備えることとなります。これと時を同じくして銚子で水揚げされた鮮魚や、小金牧内で生産された薪や炭の輸送量が増大したこともあり、物流の結節点としてますます活気づくようになります。重要な役割を果たしたのが鮮魚街道で、銚子から舟で利根川をさかのぼらせた荷を布佐(我孫子市)で陸上輸送に切り替え、富塚(白井市)、金ヶ作(松戸市)を経て松戸河岸へ至るルートが主流とされていました。夕方に銚子を出発した荷は、翌々日の朝には日本橋の魚市場へ持ち込まれたといえます。

松戸宿から水戸道中を小金宿へ

松戸宿から水戸道中を北へ進むと、やがて馬橋の家並みを抜け、萬満寺の門前で「く」の字に折れ曲がり、ドウロクジン坂(富士見坂)を上って道標の立つ印西道との分岐点に至ります。江戸時代の後期、馬橋には小林一茶の後援者であった大川立砂(油屋平右衛門)が住んでおり、地域の俳諧の中心として活躍したことが知られています。また一茶はたびたび東葛地方を訪れ、地方の俳壇に大いに影響を与えたとされています。立砂の息子斗圍の時代には、周辺の農村にも俳句を詠む人が増え、寺社への献句額奉納や、句碑の建立が行われています。

馬橋から小金宿に至り宿内の道を北へ向かうと、虚無僧の寺普化宗一月寺や、俗に「水戸御殿」と称された水戸徳川家専用の旅館が並んでいました。また中世以来の歴史を有する宿場内には、高城氏の制札を有する東漸寺もあります。幕末の騒乱期には、小金宿へ激高した水戸藩士が大挙して押し寄せ、水戸徳川家専用の旅館は血なまぐさい騒動や事件の場にもなりました。

宿場内の道筋は八坂神社の手前で直角に折れ、根木内から現在の柏市へと向かいます。一方、八坂神社の角からは本土寺の参道が枝分かれし、さらにその先の関宿方面へと道が続いていました。

大きな変革が進んだ近代の松戸

江戸時代に水戸道中の宿場であった松戸と小金は、近代に入りそれぞれが町となりました。1896(明治29)年には鉄道が開通し、1911(同44)年には葛飾橋が建設されて東京へのアクセスが向上、近郊型の農業経営がますます盛んになります。江戸川を使った舟による輸送が衰退する一方、鉄道という新たな交通手段により、松戸市域は東葛地方の中核的な存在として成長を遂げることとなります。

徳川^{あきたけ}昭武^{とじょうてい}の戸定邸での暮らし

幕末に将軍の代理としてパリ万博に派遣された徳川昭武は、水戸徳川家の出身で、松戸に大変ゆかりのある人物です。明治維新など大きな政治的変革のあった時代に前半生を送った昭武は、1884(明治17)年に戸定邸へ生活の場を移し、若くして隠居生活に入ります。

昭武が戸定の地を選んだ理由は明確ではありませんが、公的な機能を持つ小梅邸(現在の東京都墨田区向島、当時の東京市本所区向島小梅町にあった本邸)とは異なる、寛いだ私的な生活の場であったことは明らかです。ここでの日々は、狩猟や川釣り、写真撮影、陶芸、自転車、旅行など多彩な趣味を、兄の徳川慶喜^{よしのぶ}や多くの友人たちと共に楽しむ穏やかで豊かな暮らしでした。

昭武が後半生を過ごした戸定邸は、明治時代の徳川家の住まいがほぼ完全に残る稀有な建物です。昭武自ら設計や樹木選定などに関わった庭園は、洋風技法によって張られた芝生面と、その周囲にコウヤマキとアオギリの木立が連なる作例は、現存最古とされています。また国指定名勝の庭園と重要文化財の邸宅に加え、昭武が撮影した写真や製作した陶器類、別邸での生活を記した文書類、パリ万博関係の記念品などは、一括して市の指定文化財となっています。

ユニークな芸術文化の形成

近代以降、東京近郊というロケーションゆえの利便性と将来性から、いくつかの学校が松戸に設置され、直接、間接に芸術と関わってきました。また、松戸に来た作家たちは、これらの学校と関わり、また松戸の風土^かに惹かれながら、ユニークな芸術文化をかたちづくってきました。

千葉県立園芸専門学校創立から3年後の1912(明治45)年、千葉県庁舎落成記念に開催さ

れた千葉県共進会に同校が出品した「室内花壇」を、洋画家の堀江正章が描いています。「室内草花園」と名付けられたこの作品は、彼の代表作として東京藝術大学大学美術館に収蔵されています。

1914(大正3)年から 1942(昭和17)年までは、東京美術学校(現東京藝術大学)西洋画科の第一期生で白馬会に参加した洋画家の田中寅三が園芸学校で図画を教えました。彼は指導の傍ら構内の庭園や植物、学校近辺の風景を描いています。

かつて構内にあった牡丹園は東京近郊で第一とされる牡丹の名所で、画家たちが写生に訪れました。また歌人の与謝野寛・晶子夫妻が1924(大正13)年にこの牡丹園を訪れ、晶子が60首もの短歌を詠んだことは広く知られています。

子どもの頃に松戸に転入した洋画家の板倉 鼎も、東京美術学校在学中に園芸学校のフランス式庭園や温室を描いています。彼は美術学校卒業後、妻の須美子とともにパリに留学しました。須美子もパリで油絵を始め、ふたりの才能は異国の地で開花しますが、鼎は 1929(昭和4)年に急病のため28歳の若さで客死し、須美子も帰国後、鎌倉の実家に戻ってから 1934(昭和9)年に25歳で病没しました。

1919(大正 8)年には、陸軍工兵学校が岩瀬に創設されました。同校に展示されていた彫刻家の日名子実三によるレリーフ『坑道掘進作業』(1943)は、現在では自衛隊勝田駐屯地の防衛館に展示されています。

1945(昭和20)年の終戦による陸軍の解体に伴って閉校した同校の校舎に、東京大空襲で校舎を焼失した旧東京高等工芸学校(現千葉大学工学部)が移転してきました。この学校は 1921(大正10)年東京・芝浦に創設され、先駆的なデザイン教育によって剣持勇や大橋正など多くの優れた人材を輩出し、日本のデザインの発展に大きな役割を果たしました。移転後、大学昇格運動、改称改組などを経て(p37参照)、千葉市に移転するまでの約20年間、デザインも学べるユニークな工学部として、高等工芸時代から続くデザイン教育を松戸で行いました。

一方、戦後も多くの作家が松戸に来て終の棲家を構え、作家活動を行いました。洋画家の原安すけ(1946～)、長田国夫(1956～)、やまかわてる お、山川輝夫(1975～)、版画家の奥山儀八郎(1954～)、陶芸家の宮之原謙(1948～)、彫刻家の郡司和男(1961～)、写真家の及川修次(1969～)らです。

1964(昭和39)年に松戸に来た日本画家の丸木位里・洋画家の俊夫妻は、当時発掘調査が行われていた貝の花貝塚に関心を寄せ、その保存運動に尽力しました(p46参照)。また八ヶ崎の自宅近くに原爆の図美術館の開設を画策しましたが、土地を取得できなかったために断念し、1966(昭和41)年に転出しました。

明治20年代以来、東京藝術大学(旧東京美術学校)のある上野と松戸は常磐線で結ばれていますが、1991(平成3)年、取手市に同大の取手キャンパスが開設されてからは、上野と取手の中間に位置する松戸市は同大の関係者にとって一層利便性の良い街となっています。市内にはほかに多くの作家が住み、現在も多様な創作活動が行われています。

(4)小金牧から常盤平団地へ

小金牧の一部である小金原・五香地区は、小金牧の開墾事業以降、ゴルフ場や飛行場の建設など、時代の変転に伴う大規模かつ多様な変化を重ねることになります。そして昭和30年代に始まる急激な人口増加を背景に、常盤平団地に象徴される住宅地へと変貌を遂げ、現在の「緑豊かな街」が形成されることとなります。

小金牧と御鹿狩

江戸時代、松戸市の東部は幕府が経営する馬の牧場小金牧に含まれており、ここで捕獲された野馬は武士の騎乗用に、また農耕や運送に利用されました。牧の範囲は新田開墾により次第に狭くなりますが、金ヶ作役所や野馬奉行綿貫氏の役宅が設けられるなど、当時の松戸市域は小金牧経営の中心地であり続けました。

牧には野馬の逃亡防止と保護のために野馬除土手が設けられていましたが、しばしば野馬が里へ入り込むことがありました。そのため周囲の村々は作物への被害に加え、野馬除土手の修繕、野馬捕りの際の人足提供など負担は大きかったようです。後には逃亡を防ぐ緩衝地帯として植林や草採地の確保が認められ、野馬にとっては飼料の供給地と猛暑・厳寒期の避難場所、農民にとっては肥料と薪や炭を採取する場所となりました。小金牧や佐倉牧で生産した櫛の炭は、やがて佐倉炭という商品名で江戸市中に知られるようになります。

小金牧では徳川将軍により御鹿狩が4度行われています。牧内の害獣駆除と幕臣達の軍事訓練を目的として、周辺の村々から大勢の百姓勢子を動員して催されました。将軍の観覧所となる「御立場」は、現在の五香公園付近に築造され、ここを中心に壮大なスケールの御鹿狩が行われました。市指定有形文化財の「寛政七年小金原御鹿狩絵図」には、11代将軍家斉が行った御鹿狩の様子が描かれており、その壮大さを知ることができます。

小金牧の開墾とダイナミックで多彩な変貌の歴史

明治時代になると新政府は、困窮する江戸の町人や下級武士を救済するため、小金牧の開墾

に着手します。当初は開墾会社に事業を請負わせますが、入植者の多くが農作業に慣れていなかったことや、災害が重なったこともあって会社は解散、多くの入植者が脱落してしまいます。その後は、周辺の村落から開墾に入る人が増えるのですが、土地がやせており、小作農の比率も高く、開墾地での暮らしは苦しかったようです。これらの畑地では大麦、小麦、^{おかぼ}陸稻などが栽培されていました。県道が整備され、1923(大正12)年に北総鉄道(北総開発鉄道ではなく現在の東武鉄道)が開通すると、この地域は東京近郊の野菜類の供給地として発展することになります。昭和初期の六実駅の取り扱い荷物は、野菜類やサツマイモ、麦などの雑穀、木材が多く、特にサツマイモは開墾地の名産品でした。また五香六実地区での梨栽培もこの頃から始まったといわれています。

松戸市域での梨栽培は江戸時代の後期にさかのぼります。幕末頃には江戸の市場でも有名になっており、明治以降は作付面積が急増します。1898(明治31)年に画期的な新品種「^{にじっせいきなし}二十世紀梨」が誕生しました。

大正の末年頃から新たな土地利用が進められ、1926(大正15)年には現在の高柳と六高台の約50haの土地に、武蔵野カンツリー倶楽部六実ゴルフ場がオープンします。

1940(昭和15)年には串崎新田や五香六実の約130haの畑地と山林が切り開かれ、^{ていしんしょう}通信省航空局中央航空機乗員養成所が建設されました。これらの施設は、太平洋戦争末期に、首都の防空を担う陸軍航空隊の基地として使用されることになり、御鹿狩の御立場跡も造成工事によって削平されてしまいます。

松戸市東部の地域は、戦後の昭和30年代末頃から、松戸市における工業発展の一翼を担う松飛台工業団地として、あるいは住宅団地の先駆けといえる北丘団地の造成や、松戸市が全国トップクラスの施行率を誇る土地区画整理事業の推進により急速に市街化されていきます。また稔台から日暮に及ぶ陸軍工兵学校の広大な八柱演習場も、戦後に開拓され、稔台工業団地や住宅地に姿を変えています。

新しいライフスタイルと常盤平団地

1960(昭和35)年に入居が始まった常盤平団地は、江戸時代に誕生した金ヶ作村の広大な土地を造成して建設されました。この団地は「現代日本人の住環境のモデルケース」といえるほど、重要な文化現象としての意味を持っていました。後に「日本の道100選」に選ばれる常盤平のさくら通りや「新日本街路樹100景」のけやき通りも、団地造成に伴い植樹されたものです。先行して開業した新京成電鉄の常盤平駅と五香駅に近い利便性や、新しい時代の生活様式を取り入れた

良質の住まいを提供したことで多くの入居者を迎えます。このようにかつて林野の広がっていた台地上の地域は、昭和30年代の末頃から宅地化が進められて松戸市の急激な人口増加の受け皿となりました。周辺地域の古い民家の典型である旧齋藤家住宅と、当時の新しい生活を体現している常盤平団地は、ともに時代の動向を反映しながらも好対照をなす「住空間」であり、松戸市発展の象徴ともいえる存在です。また常盤平団地は、2021(令和3)年、公益財団法人都市緑化機構の推進する「SEGES」(緑の取り組みを評価する認定制度)の「そだてる緑」部門の認定を受けました。生活空間の身近にある緑地や街路樹の優良な保全、創出のための取組が評価されたものです。

(5) 祈りと娯楽の系譜

人々は日々の営みや一生の節目に、世の中の平安、自身や家族の健康などを願って神仏へ祈りを捧げてきました。例えば、近年まで年に一度、根本地区の富士講である清水講では富士山への登拝を行っていました。その登拝の衣装である行衣は人生最後の衣装である死装束にも使われ、故人の富士山への信仰が大切にされてきました。そうした祈りのほか、「楽しみ」も人生を豊かにするためには不可欠のものです。一例として千葉県の指定文化財である万作踊りの稽古は、農作業と家事を終えた農村の女性が忙しい日常生活のなかで夜半に楽しみとして行っていたものでした。地域に住む人々が祈り、かつ楽しみとしてきた対象に着目し、その移り変わりを辿りながら、これまでと違った切り口で松戸らしさを見直します。

祈り—三匹獅子舞と万作踊り—

和名ケ谷の日枝神社、上本郷の明治神社と風早神社、大橋の胡録神社に伝わる三匹獅子舞(市指定文化財)は、それぞれ9月～10月の祭礼日に五穀豊穰を祝って奉納されています。これらの獅子舞は、オスの獅子役2人、メス役1人からなる「一人立ち」の三匹獅子舞で、これに猿1人、笛数人などで構成されています。いずれも伝来は不明ですが、和名ケ谷と上本郷は10ないし11の演目から構成されており、両者の関係性をうかがわせる伝承が残されています。大橋の場合は獅子舞に唄が加わり、馬や社殿をほめる内容の曲などもあります。また衣装に工夫を加え、猿が観客を煽るような振る舞いをするなど、「見せること」を意識した内容になっています。

千葉県の指定文化財である万作踊りは、地域の人々の楽しみとして伝承されてきました。松戸の万作踊りには1人から数人で踊る「清すみ」、「木更津」、「新川」などや、芝居もどきの演目「越後評判」がありました。万作踊りは、土地によっては豊年万作や飴屋踊りとも呼ばれている芸能で、

もとは飴売りをして歩いた人達の踊りが村々で受け入れられ広まったものといわれています。万作踊りを伝えたのは、もともと芸事の好きな農民たちであり、地域で催される祝い事などの場で演じられ、観客もまた多くは地域の人々でした。

参詣という遊山

江戸時代には、信仰とレジャーが一体化した行為が盛んに行われたようです。市内の寺社に建立されている石造物について詳しく調べると、成田山新勝寺や山形の月山・湯殿山、香川の^{がっさん ゆどのさん}金刀比羅神社やお伊勢参り、あるいは各地の^{ふだしょ}札所めぐりなどを^{きねん}祈念して造立されたものが数多く見出されます。遠隔地にある寺社への参拝と^{ぞうりゆう}石碑造立は、昭和の初期まで盛んに行われていました。また富士山への参拝も盛んに行われていました。小高い丘の上に本殿が建つ^{せんげん}小山の浅間神社や竹ヶ花の雷電神社では、登山道を模して参道が整備されており、富士登拝を疑似体験することができるようになっています。

市内の寺院や神社の境内には、既婚の女性たちが、子授けや我が子の健やかな成長を願って建てられた石造物も数多く見ることができます。十九夜塔や二十三夜塔、念仏塔などと称されるもので、地域の女性たちが集落のお堂などに集まり、お籠りをして神仏に祈りを捧げたことを^{きねん}祈念して^{こんりゆう}建立されたものです。こうした女性たちの素朴な祈りの場は、時代が移り替わりやがて乳幼児の死亡率が低減すると、次第に女性たちの社交の場、娯楽の場へと性格が変化していきました。

娯楽の系譜

1919(大正8)年に陸軍工兵学校が設けられる以前、相模台には松戸競馬場が開設され、春秋の二度、競馬会が開催されていました。営業していた期間は短いものの、運営の母体となった公益法人松戸競馬^{くまぶ}倶楽部は、後に中山競馬倶楽部と改称、現在の JRA 中山競馬場へ発展的に受け継がれています。また現在では全く痕跡も残っていませんが、かつて小金牧の一面を占めていた高柳から六高台の約50ha の土地には、武蔵野カンツリー倶楽部により本格的なゴルフコースが設けられていました。これも戦前の僅かな期間の開業ではありますが、皇族をはじめとする名士がメンバーに名を連ねており、そのことがゴルフ場へ通じる道路整備を早めたと言われてい

松戸の自然と癒し

行楽や遊山の楽しみは現代にも引き継がれています。本土寺(平賀)のアジサイや紅葉、矢切の

渡しとその周辺の景観、常盤平のさくら通りで開催されるさくらまつりなど、コロナ禍以前には市内外からも多くの人々が訪れ、賑わいを見せていました。谷津と里山の自然を活かした21世紀の森と広場、鶺鴒や鴨が遊ぶ坂川沿いの風景、東漸寺(小金)のシダレザクラや紅葉、戸定が丘歴史公園、特徴的な石材店の建物が並ぶ参道と緑濃い八柱霊園なども、市民が身近に楽しめる景観や場所として挙げるすることができます。また入居開始から半世紀以上が経過している常盤平団地は、緑地に植栽されている樹木やけやき通りなどの街路樹が、建物を凌ぐほどの高さまで大きく育ち、全体が特色ある景観を呈しています。こうした景観の多くは、自然と人々の営みの関りを通じて形成されてきたものであり、大切に次の世代へ継承すべき松戸の魅力ある財産であると考えています。

第5章 計画の基本理念と基本方針

第1節 基本理念

文化財を取り巻く環境や条件は大きく変化してきています。市民の意識やライフスタイルも多様化しており、伝統的な地域社会へのかかわりや理解の程度も人により様々です。こうした現状を考慮すれば、市民への働きかけ方や情報発信についても新たな手法を積極的に取り入れ、幅広く対応することが必要になると考えられます。

また本計画では、「学びの松戸モデル」で示された「基本理念」、「学びを通じて市民に期待する姿」、「3つの視点」(p4図3)を踏まえ、市民の主体的な学びを「支える」仕組み作りを加味した取組を推進し、松戸の特色や魅力をあらためて実感できるよう市民に働きかけていきます。

以上の点を考慮し、本計画が到達を目指す基本理念を、次のように設定しました。

松戸市文化財保存活用地域計画の基本理念

郷土の歴史文化や文化財についての学びを通じて松戸市の価値や魅力を見出し、大切に次の世代へ継承すると共に多くの人々へ伝える。そのことにより市民の郷土への愛着や誇りを育み、相互のつながりを深め、行政と市民が一体となって「文化と教養のまちづくり」を実現する。

第2節 基本方針

文化財の保存と活用を推進するためには、松戸の歴史文化について深く学び(調査)、大切な文化財が損なわれることのないよう守り伝え(保存)、多くの人々に周知して親しまれるようにすること(活用)が、バランスよく円滑に行われる必要があります。

本計画では、「学びの松戸モデル」に示された考え方に倣い、調査・保存・活用の3つに加え、「つながり」や「支え(支援)」も重要な要素であると捉え、歴史文化の特徴を活かした取組を推進し、最終的に基本理念を実現するため、本計画では、以下の基本方針に従って具体的な施策を行うものとしします。

1. 松戸の歴史文化をより深く、より広く調べる(調査)

従来から行っている調査研究をより深めていくとともに、さらに新たな調査にも幅広く取り組み、価値ある文化財の掘り起こしと把握に努めます。必要な人材の確保、環境の整備と充実に努め、保存と活用の基礎となる調査や研究成果の資料化を促進します。

2. 大切な文化財を守り、次の世代へ継承する(保存)

文化財の価値を維持するための管理や修理等を計画的に進め、防犯・防災体制の整備も実施します。無形文化財については、後継者の確保や育成など、保存と継承に必要な取組を積極的に推進します。

3. 縄文からの松戸の歴史文化を伝える(活用)

松戸の歴史文化を、若者や子ども達など次代を担う世代へ伝えるためのアプローチを強化します。文化財の価値や魅力を多くの人に伝えるため、新たな技術も積極的に取り入れながら、分かりやすい情報発信に努めます。地域振興のための資源として文化財の見直しを進め、はじめて松戸市を訪れた人達にも松戸の魅力が伝わるよう、多角的な取組を展開してまちづくりに活かします。

4. 松戸の歴史文化を守るため、地域とのつながりを深める(支援)

学校や地域との連携を深め、行政と市民が一体となって文化財の調査・保存・活用を進められる関係を構築すると共に、次代を担う人材の育成を図ります。文化財の保存と活用に係る市内の連携を強化し、文化財の所有者・管理者を支援する仕組みづくりに努めます。また文化振興財団や観光協会、民間団体との連携と協働を進め、普及事業のレベルアップを目指します。

第6章 調査・保存・活用・支援の現状と課題

第1節 「松戸の歴史文化をより深く、より広く調べる」－現状と課題

(1) これまでに行ってきた文化財調査の概要

市内に所在する文化財については、市史編纂事業をはじめ、市立博物館、戸定歴史館、美術館準備室による調査研究、埋蔵文化財発掘調査事業などの進展により多くの知見が積み重ねられ、その成果も随時公開してきました。

『松戸市史』編纂事業

松戸市の市史編纂は、市制施行十周年を記念する事業として 1953(昭和28)年から始まりました。市史の刊行に先行して「市誌編さん委員会」を中心に史料の収集と研究を進め、基礎的かつ貴重な史料の保存を意図して、『松戸市史料』第一集～第四集を刊行しました。通史は『松戸市史 上巻－原始・古代・中世－』(1961)、『松戸市史 下巻(一) 明治編』(1964)、『松戸市史 下巻(二) 大正昭和編』(1968)、『松戸市史 中巻 近世編』(1978)です。1971(昭和46)年から 1994(平成6)年にかけて『松戸市史史料編』(6冊)を、1979(昭和54)年から 1987(同62)年にかけて『松戸市古文書目録』(4冊)を刊行しました。

また 2015(平成27)年には、54年ぶりに『松戸市史 上巻(改訂版)』を刊行しており、それに伴って関係資料の再整理を行い、『松戸市史考古資料集』(4冊)を刊行しました。これら通史の編纂と基礎的な歴史資料の集成が、文化財の保存・活用を図るための土台となっています。

松戸市立博物館による文化財調査

1993(平成5)年に開館した松戸市立博物館は、地域に関わる考古・歴史・民俗資料を幅広く収集し、適切な環境での保存に努め、同時に調査・研究活動を重視してきました。図録を刊行する企画展示はもちろんのこと、館蔵資料展にもまた長期の調査や研究の成果を反映させています。審査制を採る年刊の『紀要』では、論文から資料紹介まで、随時結果を公表してきました。報告書や資料目録としては以下を刊行しています。松戸市指定文化財である三匹獅子舞を対象とした『千葉県松戸市の三匹獅子舞(ビデオ付)』(1994)、博物館の古環境展示のために行った調査の成果である『縄文時代以降の松戸の海と森の復元』(1994)、市内の建造物を対象とした調査の『松戸市民家調査報告書』(1996)と『松戸市旧宿場町建築物調査報告書』(1999)、1960年代に行われた民俗調査の報告『農村松戸の民俗』(2014)、『松戸市役所広報課 旧蔵写真目録』(2018)の6冊、映像記録は『送り大師－東葛印旛大師講の人々』(1993)を、また『松戸小金東

漸寺所蔵資料目録』（1994）と『松戸市松戸（旧納屋河岸）青木源内家所蔵資料目録追加』（1997）をまとめ、基礎資料の補完を図りました。

また 1990（平成2）年度からは継続的に、「松戸市古文書調査団」による市内旧家所蔵の古文書の調査を行い、目録の作成やデータベース化等を行っており、2019（令和元）年度には第27次の調査を実施しました。

戸定^{とじょう}歴史館による調査

戸定歴史館では、徳川^{あきたけ}昭武関係資料の収集と保存に努め、展示や教育普及活動に活かすべく調査・研究活動を行ってきました。開館に先立つ 1989（平成元）年とその翌年には、『松戸徳川家資料目録』第1集と第2集を刊行しています。

また 1991（平成3）年の開館以来、徳川昭武と実兄の徳川^{よしのぶ}慶喜について行ってきた調査研究の成果を、2012（平成24）年の『プリンス・トクガワ』に集約し、刊行しています。最近では 2020（令和2）年に『プリンス・トクガワ』改訂版をそれぞれまとめています。

美術館準備室による調査

美術館準備室では、美術館の開設を目指す中で、その基盤をつくるため、1990（平成2）年度から松戸市に関連した美術に関する調査を続けています。調査は下記の2本の柱を立て、対象年代を明治期から現代までとして、没後時間が経過し散逸が懸念される作家から順に実施してきました。

1. 松戸に住んだ作家
2. 大正期にデザイナー養成のために創設され、1945（昭和20）年から約20年間松戸市岩瀬の旧陸軍工兵学校校舎に入っていた千葉大学工学部（旧東京高等工芸学校）の教授陣と卒業生

1994（平成6）年度以降、市立博物館や戸定歴史館で開催してきた各展覧会カタログおよび『松戸市教育委員会所蔵奥山儀八郎作品目録』（2014）、『板倉^{いたくらかなえ}鼎^す・須^み美子^{こしよかんしゅう}書簡集』（2020）は調査の成果を反映したものです。

なお現在活動中の松戸市在住・在勤作家については、2011（平成23）年度から「松戸の美術家・アーティストに関するアンケート調査」を続けています。

埋蔵文化財発掘調査

1955(昭和30)年、市史編纂事業の一環として、河原塚古墳群を対象とする発掘調査が実施されました。これが松戸市教育委員会による発掘調査の最も古い事例です。その後、昭和50年代に入って『松戸市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告』(1976)を刊行、さらに専門職員の確保や体制整備を進めることで、増加する開発への対応を図ってきました。平成20年代初頭には、「民間調査組織」の活用も行われるようになり、現在に至ります。

発掘調査の成果は、出土遺物や記録類の整理作業を経てまとめられ、「発掘調査報告書」として刊行します。専門誌上で報告された事例も含めると、松戸市域内の遺跡を対象とする発掘調査報告は、令和3年度末の時点で総計213件、うち教育委員会による調査報告数は103件に及んでいます。

埋蔵文化財の取り扱いは、文化財保護法の規定に基づき、千葉県教育委員会から示されている基準や通知に従って行っています。文化財保存活用課の分室には、『埋蔵文化財分布地図』を常備し、土地所有者や開発業者へ積極的に情報提供を図っています。また建築確認の申請や条例に基づく開発の事前審査の際には、埋蔵文化財の有無や必要な手続き等について説明し、迅速に対応するための体制を整えています。

千葉県による調査

千葉県教育委員会が、1991(平成3)年度からの三か年事業で行った「絵馬・奉納額・建築彫刻」についての調査では、松戸神社の「三十六歌仙図」や佐竹永湖の「神話物語図」などが対象とされています(『千葉県文化財実態調査報告書』(1996))。また近代の建造物について行われた調査では、土木関係の分野で樋門橋(小山)、柳原水閘(下矢切)、栗山浄水場配水塔(栗山)の3件が取り上げられました(『千葉県の産業・交通遺跡』(1998))。さらに2008(平成16)年刊行の『千葉県近代和風建築総合調査報告書』では、戸定邸(旧徳川昭武松戸別邸)、松龍寺、松戸神社など旧宿場町内に所在する多くの建築物が調査の対象とされています。

埋蔵文化財については、『千葉県所中近世遺跡調査目録』(1971)をはじめ、『貝塚遺跡』(1983)や『生産遺跡』(1986)、『古墳』(1990)、『中近世城館跡』(1995)により詳細分布調査がまとめられ、さらに1997(平成9)年には『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)東葛郡・印旛郡地区(改訂版)』が刊行されています。

その他の文化財調査

松戸市文化ホール内にあった郷土資料室が、1979(昭和54)年から二年にわたり^{いたび}板碑の調査を行い、『板碑』(1981)を刊行しています。さらに文化ホールでは市域の石造文化財の所在調査を1987(昭和62)年まで発展的に継続し、その成果を所在地別の『松戸市石造文化財調査概報』(Ⅰ寺院編)・(Ⅱ神社編)・(Ⅲ^{ろぼう}路傍編)に、1989(平成元)年には全体を網羅した『松戸市内石造文化財所在地図』をまとめています。その後、民間の「松戸史跡マップ研究会」によって悉皆的な調査も行われています(『松戸市石造物遺産 ふるさと史跡を探訪』万葉舎 2017)。

表6 把握調査の進捗状況一覧

地区	時代	建造物	美術工芸品					無形文化財	民俗文化財							埋蔵文化財	記念物			文化的景観	伝統的建造物群	文化財の保存技術		
			絵画	彫刻	工芸品	書跡・典籍・古文書等	歴史資料		考古資料	工芸技術	芸能	年中行事	人生儀礼	村落・家	信仰		民話・伝承	生産・生業	遺跡				名勝地	動物・植物・地質・鉱物
小金	原始	未	未	未	未	未	未	▲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	未	未	未	未	未	未
	古代	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未
	中世	未	▲	▲	▲	▲	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	▲	未	未	未	未	未
	近世	○	△	未	未	未	△	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	○	未	未	●	未	未	未
	近代	○	△	未	未	未	未	未	未	未	未	未	△	△	△	未	△	未	未	未	未	未	未	未
馬橋	原始	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未
	古代	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未
	中世	未	未	▲	未	▲	未	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未
	近世	●	▲	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	○	未	未	未	未	未	未
	近代	○	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	△	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未
明	原始	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未
	古代	未	△	未	未	未	未	▲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未
	中世	未	未	▲	▲	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	▲	未	未	未	未	未
	近世	○	未	未	未	未	未	未	未	未	●	未	未	未	未	未	未	○	未	未	未	未	未	未
	近代	●	未	未	未	未	未	未	未	△	未	未	未	未	△	未	未	未	未	未	未	未	未	未

地区	時代	建造物	美術工芸品						無形文化財	民俗文化財								埋蔵文化財	記念物			文化的景観	伝統的建造物群	文化財の保存技術
			絵画	彫刻	工芸品	書跡・典籍・古文書等	歴史資料	考古資料		工芸技術	芸能	年中行事	人生儀礼	村落・家	信仰	民話・伝承	生産・生業		遺跡	名勝地	動物・植物・地質鉱物			
新松戸・古ヶ崎	原始	未	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	未	未	未	未	未	未	未	未
	古代	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	未	未	未	未	未	未	未	未
	中世	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	未	未	未	未	未	未	未	未
	近世	●	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未
	近代	○	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	△	△	△	未	未	未	未	未	未	未	未	未
高木	原始	未	未	未	未	未	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	古代	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	中世	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	近世	●	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	○	未	未	未	未	未	未	未
	近代	○	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	△	未	△	未	△	未	未	未	未	未	未	未
東部	原始	未	未	未	未	未	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	○	未	未	未	未
	古代	未	未	未	未	未	▲	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	▲	未	未	未	未	未	未
	中世	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	近世	●	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	○	●	未	未	未	未	未	未
	近代	○	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	△	△	△	未	△	未	未	未	未	未	未	未
小金原・五香	原始	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	古代	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	中世	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	近世	○	▲	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	○	未	未	未	未	未	未	未
	近代	○	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	△	△	未	未	未	未	未	未	未	未	未
松戸	原始	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	古代	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	中世	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	近世	●	△	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	○	未	○	未	未	未	未	未
	近代	●	△	未	未	未	▲	未	未	△	未	未	未	未	△	未	未	▲	▲	未	未	未	未	未
矢切・栗山	原始	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	古代	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	中世	未	未	未	未	未	未	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	未	未	未	未	未	未	未
	近世	●	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	○	未	未	未	未	未	未	未
	近代	●	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未	未

*調査の進捗状況(○:実施 △:部分的な実施 指定文化財を含む場合は黒塗りで表示 未:未実施 -:適用なし)
 *指定文化財のうち、「浅間神社の極相林」は近代、「松戸の万作踊り」は明地区の近世、「東漸寺のシダレザクラ」は近世とし、『農村松戸の民俗』の成果は時代区分の近代に集計した。
 *本表の作成には、表4と同じ調査報告書等を資料として用いた。

(2)課題

①新たな調査への取り組みが必要

(把握調査) 寺社が所蔵する美術工芸品については、市史編纂事業に伴い小金地区の本土寺や東漸寺、馬橋地区の萬満寺など一部で悉皆的な調査も実施していますが、市内全域の寺社を対象とした把握調査は未実施のままです。記念物については、自然科学の専門職員がいないこともあって、これまで十分な把握調査が行えていません。21世紀の森と広場内にあるパークセンターなどの関係課、市民団体などとの連携を強化し、基礎的な情報把握を進める取組も必要です。

文化財の保存技術、文化的景観などについての調査など、これまであまり手が付けられてこなかった分野の調査や、地域間の格差を埋める取り組みも必要になります。

また公立・私立の小中学校や高等学校には、地域の人々が使っていた民具や、かつて生徒が参加した発掘調査の出土品や記録類が残されているケースがあります。過去に、県立松戸高等学校所蔵資料の調査と再整理を行い、『松戸市史考古資料集』にまとめた事例も有りますが、こうした学校所蔵の文化財所在調査は、民俗資料等も対象に含め、幅広く実施する必要があります。(旧村単位の学際的な調査) 近世の村落単位や字単位での学際的な調査を行い、より詳細な地域性を浮き彫りにする試みも重要であると考えています。価値ある文化財を新たに掘り起こし、把握するための調査を、今後も継続的に実施する必要があります。

②各部署がこれまでに行ってきた調査の着実な継続が必要

戸定歴史館では戸定邸や徳川昭武に関する調査研究を進めてきました。今後は、それらの成果を、資料集や研究報告書として刊行することが課題となっています。また市立博物館の「松戸市古文書調査団」や埋蔵文化財発掘調査については、継続的な実施を可能とする環境の維持と、従事する人材の確保も引き続き必要となります。美術館準備室が行ってきた調査についても、「松戸に住んだ作家」と「千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)」に関し、さらに幅広く調査を進める必要があります。

③教育委員会が所蔵する資料のさらなる調査研究が必要

戸定歴史館の寄贈・寄託資料については、十分な整理と調査研究が行えていないものがあります。市立博物館の所蔵資料についても、再調査や再評価が必要な資料があります。

第2節 「大切な文化財を守り、次の世代へ継承する」ー現状と課題

(1)現状

指定等文化財

松戸市における文化財指定第1号は、1950(昭和25)年に国指定重要文化財となった萬満寺の「木造金剛力士立像」です。以来、指定等文化財の件数は、令和4年度末の時点で60件に達しています(指定文化財58件・登録文化財2件)。文化財の保護を積極的に推進するため、近年では年1件程度の指定を目安として選考を進めています。

市が所蔵する「千葉県幸田貝塚出土品」や、市有地に所在する「松戸中央公園正門門柱(旧陸軍工兵学校正門門柱)」などは、指定に際して必要な修復や復元工事を実施しており、「小金牧五香六実野馬除土手」についても、樹木の^{せんてい}剪定や除草など維持管理の費用を予算化して継続的に行っています。

防災に関しては、文化財防火デーに伴う防災訓練や防火設備の点検を実施しています。このほか年1回程度ですが、防犯・防災と維持管理上の問題について、文化財所有者・管理者を対象としたアンケート調査を行っており、コミュニケーションの強化に努めています。

^{とじょう}戸定が丘歴史公園は、戸定邸(重要文化財:2006(平成18)年指定)と庭園(国・名勝:2015(平成27)年指定)を中心に、戸定歴史館を併設して整備を進め、開園しました。「日本の歴史公園 100 選」(2007)にも選出され、市の内外から多くの人々が来訪する憩いの場となっています。なお 2019(平成31)年度に「名勝旧徳川^{あきたは}昭武庭園(戸定邸庭園)保存活用計画」(庭園編)を作成、現在は戸定邸についても保存活用計画の策定作業を進めているところです。

また無形の民俗文化財「松戸の万作踊り」(県指定)については、文化庁の令和3年度の文化財総合活用推進事業(記録作成事業)により新たな記録映像を作成することができました。

「指定・登録」以外の文化財

「指定・登録」の有無に関わらず、個人や寺社が所有・管理する文化財は、所蔵環境が一様ではありません。計画的な「文化財パトロール」は実施できていませんが、郷土史の研究会や文化財保護協力員に依頼し、不定期ながら現状把握を行っています。根木内歴史公園などの史跡については、公園管理を担当する部署やボランティア活動団体とも情報の交換を行っており、緑地の保全と史跡の維持に繋げています。

また「指定」に向けた準備としては、把握調査を進めるかたわら、指定候補のリストアップと台帳作成も進めています。

埋蔵文化財の保存

市内の公園や緑地で、遺跡の一部を保存しています。幸田第1公園は、1971(昭和46)年から始まった土地区画整理事業に伴う発掘調査の成果をもとに一部を公園化したもので、表土を厚く残した園内東側の地下には良好な状態で貝塚が保存されています。

大谷口歴史公園と大谷口小金城跡^{だるまぐち}達磨口跡では、高城氏が本拠とした小金城跡の遺構を保存しています。大谷口歴史公園については、1995(平成7)年とその翌年に史跡整備に伴う確認調査を実施し、周辺地域では類例の少ない^{うねぼり}畝堀や^{しょうじぼり}障子堀を検出しています。堀底にカマボコを並べたような形状の畝堀と、同じく仕切りを持つ障子堀は、検出時の状況が見学できるよう露出展示しています。

根木内歴史公園も高城氏に関連する根木内城跡を整備したものです。空堀や土橋、土塁が明瞭に観察できるこの公園では、園内を活動の場とするボランティア活動団体が公園管理担当課と連携・協働して、遺構の維持と緑地保全にあたっています。

東平賀公園は、整備に先行して遺構確認のための調査を実施し、環状にめぐる貝塚の所在を把握しています。

文化財の収蔵施設と保管状況

(松戸市立博物館) 市制施行50周年を記念し、1993(平成5)年4月に開館しました。総合・主題・企画の各展示室、第1～第4の収蔵庫^{くんじょう}、燻蒸室、撮影スタジオなどの設備を有する、市立では県内最大規模の施設であり、1995(平成7)年には登録博物館(歴史)の認可を受け



図61 松戸市立博物館

ました。重要文化財「千葉県幸田貝塚出土品」をはじめとする考古資料、小金城主高城氏関連の古文書、小金牧で行われた^{おしがり}御鹿狩関係の絵画、^{ふけしゅういちげつじ}普化宗一月寺関係資料、常盤平団地に関する生活資料、日本各地の郷土玩具やシルクロード・ガンダーラ関係資料など、多くの文化財を適切な環境のもと収蔵・展示しています。現在は、開館後30年近くが経過したため、「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」を定めました。(『全国博物館総覧』財日本博物館協会編集)

(戸定歴史館)

1991(平成3)年11月に戸定が丘歴史公園内に開館。1994(平成6)年に登録博物館(歴史)として認可を受けました。徳川昭武関係資料、パリ万博関連資料などを収蔵しています。地上2階

地下1階のコンパクトな作りとなっています。(『全国博物館総覧』(財)日本博物館協会編集)



図62 戸定歴史館



図63 戸定邸及び庭園

(美術品等の収蔵)

近現代の松戸ゆかりの作家の作品や関連資料については、長期的保存を図るべき重要なものを、多くは作家の遺族や関係者等からの寄贈により収集してきました。令和5年6月現在、美術作品1,730点と関連資料2,275点を収蔵しています。そのうち千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)関係者のものについては、草創期まで遡って収集を進めてきた結果、日本デザイン史を反映する稀有なコレクションを形成しています。

美術品専用の収蔵施設を有していないため、これらは市立博物館と戸定歴史館の収蔵庫、美術館と同等の温湿度調整や防災・防犯対応をしている都内の民間収蔵庫において、適切な環境下で保管しています。

(埋蔵文化財の収蔵)

発掘調査に伴う出土品や記録類は、市立博物館の収蔵庫とは別に、小学校の余裕教室に分散収蔵しています。令和4年度末の時点で、計5教室に約3,000箱の出土遺物と記録類、発掘調査報告書などを収蔵しています。

(2)課題

④把握している文化財や所蔵資料のデータベース化の推進

把握調査を行った文化財や各施設が所蔵する文化財について、情報を整理して台帳化を進めることが必要です。こうした情報整理により、把握調査を行った文化財については計画的な状態確認が、収蔵する文化財や美術品については適正な保存と修復計画の作成が容易になります。さらにはICTを用いたデジタルアーカイブを作成することで、資料活用の可能性を広げることができます(令和4年度からデジタルアーカイブを一部実用化)。

また、上記とは別に、指定や登録に備えた候補のリストアップと台帳の充実が課題です。

⑤埋蔵文化財照会データの新しい検索方法の確立が必要

膨大な埋蔵文化財の照会データについては、窓口での正確で迅速な対応を可能とするため、検索システムを導入することが必要です。

⑥継続的な現状確認の強化と計画的な修復が必要

保存の前提となる現状確認が十分に行えていないという問題があります。市史編纂事業に伴い調査した旧家所蔵の資料については、その後の状況確認が十分にはできていません。定期的な現況確認の仕組みを構築し、実施していく必要があります。

また文化財担当部署の職員と文化財保護協力員による「文化財パトロール」の強化や、地域との連携を深めることなど、文化財に関する情報収集の道筋を増やすことが課題です。

⑦分散収蔵する美術作品等の定期的な点検と修復が必要

教育委員会が所蔵する美術作品や資料については、市立博物館・戸定歴史館・都内の民間収蔵庫での分散収蔵が続いていることから、定期的な点検が容易に行えないことが大きな問題です。

⑧歴史公園等の維持管理に関する課題

「小金牧五香六実野馬除土手」の樹木剪定や清掃等については、経常的に予算を確保して実施してきましたが、枯死した樹木の除去や、樹木の生長に合わせた効率的な管理が行えるよう、中長期的な管理計画に基づく維持管理を進めていく必要があります。

大谷口歴史公園は、露出展示している畝堀^{うねぼり}や障子堀^{しょうじぼり}の土砂による埋没、周辺道路への雨水と落ち葉等の流出に対する防止策が課題になっています。根木内歴史公園については、ボランティア活動団体の活動により良好な維持管理が実現できていますが、やはり風雨による土塁の土砂流出が懸念されているところです。

⑨現状確認で得た情報の活用が必要

分散した収蔵状態にある美術作品や資料、市史編さん時に調査した旧家の所蔵資料、指定文化財や市有地にある文化財については、定期的な現状確認を実施し、その結果により必要に応じて修復計画の立案を進める必要があります。

また松戸市にとって歴史上または学術上価値の高い貝塚、古墳など史跡として整備する候補地の現状を確認し、リスト化することも取り組むべき課題です。

⑩計画的な戸定邸・庭園の維持管理と「戸定邸保存活用計画」の策定

すでに成立している庭園に関しては、「旧徳川昭武庭園保存活用計画」に基づく植栽の育成と、将来的には茅葺門の屋根の葺き替えなど維持管理上の問題があります。戸定邸については、「戸定邸保存活用計画」の策定と、事前の耐震診断・耐震化工事の実施が大きな課題となっています。また目下のところ、雨漏りの修繕や配水管の更新なども対処すべき問題です。

⑪資料の収蔵と整理作業に必要なスペースの確保と環境整備

整理作業室や収蔵スペースの不足は、各部署に共通した深刻な問題です。とりわけ発掘調査の出土品や記録類は、これまで余裕教室を利用した収蔵を行ってきましたが、数年後には新たな収蔵スペースの確保が必至となる状況です。また専用施設を有していない美術館準備室についても、複数の施設での分散収蔵の状態が続いています。

新たな収蔵スペースの確保と資料保管に適した環境整備は、将来を見据えて計画的に実現する必要があります。

⑫専門職員の確保と育成

本市においては、数年前から始まった学芸員などの専門職員の退職時期が、当該計画の期間半ばまで持続することが見込まれます。文化財保護を円滑に推進するため、考古・歴史・民俗・美術などの各分野に適宜、必要な専門職員を確保して体制を維持する必要があります。

⑬後継者確保と育成のサポートが必要

無形の民俗文化財の継承については、後継者の確保が慢性的な課題になっています。発表の機会を増やすことや広報に関し、また市が所有する古い映像記録や音声等を資料として提供することなどのサポートを続ける必要があります。

第3節 「縄文からの松戸の歴史文化を伝える」－現状と課題

(1)現状

展覧会の開催

市立博物館では毎年5～6件の資料展や企画展を開催しており、これに関連した講演会や展示解説、ワークショップなどもあわせて行っています。一方で開館から30年近くが経過しており、常設展示が固定化し、内容的にも中学生以下には理解が難しいこと等が問題となってきています。

そのため「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」においては、障害者や外国人など多様な人々の利用を考慮した施設の修繕、可変的な展示空間の創出、ICT の活用による情報発信、子育て世代や若年層の利用促進、こども歴史体験ゾーンの創設などをはじめ、取り組むべき課題やテーマの網羅的整理に努めています。

戸定歴史館では、企画展、通常展などの館蔵資料展を開催しているほか、戸定邸の建物内部と庭園を一般公開し、戸定邸の各部屋には解説を用意し、多言語での対応を進めています。また、来館前の学習や、来館できない人のために、VR で楽しめるコンテンツやデジタルアーカイブ、SNS による情報発信を行っています。

美術館準備室は、1994(平成6)年度から市立博物館や戸定歴史館等の展示室を会場として、松戸ゆかりの美術に関する調査にもとづく企画展及び所蔵品展を、年に1回から、近年では2年に1回開催しています。また 2011(平成23)年度から実施している「松戸の美術家・アーティスト



に関するアンケート調査」にもとづいて、2015(平成27)年度から松戸市文化会館(森のホール21)のエントランスホールに展示壁面を設けて「松戸の作家の個展」を年に4回開催し、現役の市内在住・在勤美術家の活動を市民に紹介しています(個展ごとに発行しているリーフレットは資料編に掲載)。

図64 左:『松戸のたからもの 松戸市の美術コレクション』小冊子
右:『松戸の作家の個展』リーフレット

デジタル美術館・デジタルミュージアムの開設

美術館準備室では、展示公開の機会の少ない状況を補完するため、2009(平成 21)年度より市のホームページの中に「デジタル美術館」を開設しています。主なコンテンツはコレクションの紹介(所蔵品の画像と基本情報、作者の略歴)で、著作権の許諾を得たものや消滅したものを、毎年少しずつ増やしています(令和 5 年 6 月現在234点)。その他、過去に開催した展覧会等のアーカイブ、今後開催予定の展覧会やイベントのお知らせ、既刊の展覧会図録の販売案内、子ども向けコンテンツ「おうちで美術！」等を掲載しています。過去に開催した展覧会「松戸のたからもの 松

戸市の美術コレクション」(2020)においては、コロナ禍への対応策として、「おうちで展覧会」と題して展示作品の解説動画や展覧会場で掲出したパネルのデータを一部公開しています。また「松戸の美術家・アーティストに関するアンケート調査」をここで常時実施しており、さらにこのアンケート調査に協力を得た市内在住・在勤の美術家・アーティストの展覧会等イベントの情報を、要望により掲載しています。

デジタルミュージアムは、2022(令和4)年度からはじまった新たな取り組みです。大人はもちろん、一部は小学生にも対応した、松戸市所蔵資料の鑑賞や体験機会の創出を目的としています。コンテンツとしては、イメージや画像による新たな検索機能を有する「デジタルコレクション」、3D データ撮影・高精細画像を使用した解説・バーチャル機能を有する「スペシャルコンテンツ」、「デジタルマップ(デジタル版文化財マップ)」とQRコードによるスタンプラリー機能を搭載した「モデルコース」などがあり、特に「こどもミュージアム」では、イラストや平易な文章で若年層の理解を促進しています。また、「松戸市の歴史」、「蔵書検索」などがあります。

学校との連携－小学校での出前講座・博物館アワード・社会科見学

文化財整理室が所在する小学校2校で歴史(縄文時代)講座を行っています。講座で用いる教材には、可能な限り実際に市内の遺跡から出土した遺物を使い、縄文時代の道具作りやその使い方を通じ、縄文人の暮らしを少しでもリアルに体感してもらえるよう取り組んでいます。

市立博物館では小中学校を対象とした講座を行っています。講師には博物館の学芸員と学習支援専門員があたっており、通常は一つの学年を対象として実施しています。また2016(平成28)年度からは「博物館アワード」で、市内の小中学生を対象に「歴史に関する自由研究またはイラスト」を募集し、作品コンクールを開催しています。例年自由研究部門で20校以上、イラスト部門で30数校以上の参加があり、作品展を通じて一般に公開しています。

「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」では、学校との連携強化をさらに促進し、カリキュラム作りやその成果を活かした出前講座等の実施を今後の取り組みとしています。

美術館準備室では、2019(令和元)年度から市内の小学校を対象に、東京高等工芸学校卒業のグラフィックデザイナー大橋正の作品展示を試験的に開始しています。ここではポスターやカレンダーなど、複数所蔵している印刷物の作品を展示し、子どもたちが地元ゆかりの美術に触れる機会を作っています。

戸定歴史館では、校外学習時に、戸定邸・庭園を作った徳川昭武の紙芝居を読み聞かせ、より興味を促し理解が深まるよう工夫しています。また、出前講座ではVRを使い、戸定邸の特徴を

リアルな映像と共にわかりやすく説明しています。

講演会や講座の開催

松戸市立博物館では、毎年、館長講演会や学芸員講演会のほか、外部講師を招いた「歴史を語る」講演会を実施しています。また講座としては、毎年開講している「古文書を読む」のほか、市民や学校の求めに応じて「松戸の歴史をさぐる」などのパートナー講座や出前講座を行っており、市外への講師派遣も含め、豊富なメニューを提供しています。

埋蔵文化財担当者がパートナー講座の講師を務める場合、遺跡が保存されている公園など屋外で実施する場合があります。テーマとしては市内の埋蔵文化財や指定文化財についてのリクエストが多く、郷土史の研究会からは毎年「最近の発掘調査の成果」をテーマに依頼を受けています。また根木内歴史公園の保全活動を行っているボランティア活動団体とは、パートナー講座を通じて関係を深めており、「根木内歴史公園」の保全にも繋げています。

美術館準備室では、展覧会の関連事業として講演会やワークショップを開催し、美術の豊かな世界に来館者が親しむための多様な事業を行っています。また「松戸の美術家・アーティストに関するアンケート調査」にもとづき、2020(令和2)年度から「松戸の作家の紹介講座」を年1回実施し、現在活動している市内在住の美術家・アーティストの多様な活動を紹介しています。パートナー講座でも、所蔵作品やその作家などをテーマとして取り上げています。

「史跡めぐり」の実施

参加した市民に、郷土の歴史や文化を身近に感じてもらうため、30年以上にわたり継続的に行ってきています。普段は非公開の文化財も、市が行う企画だからこそ見学が可能になるという要素を盛り込んでいます。現在は年に数回開催していますが、夏季には青少年会館との連携講座として、小学校3年から中学生の子どもとその保護者を対象とした「親子で学ぶ史跡めぐり」を実施しています。この企画では、地域に伝承されている昔話や伝説を紙芝居に見せるなどの工夫も凝らしています。

市立博物館では千葉県教育研究会松戸支会社会科教育部会と連携し、年に1回、市内外の遺跡や史跡の見学会を実施しています。参加者は教職員で、概ね20～30名です。

「文化財マップ」の作成と配布

1989(平成元)年度に作成して以来、市民への無償配布を続けています。文化財の所在地を

示すマップに加え、松戸市の年表、指定文化財についての解説、その他の見どころなどを掲載し、史跡めぐりや講座などの資料として、あるいは松戸の歴史や文化財に関する市民からの問い合わせに応じて配布してきました。さらに 2021(令和3)年度には、市のホームページからアクセスできる「デジタルマップ」を、市立博物館と共同で作成しています。

文化財標識柱・説明板の設置

昭和50年代初頭から設置を開始、2022(令和4)年度末までに標識柱96本、説明板41カ所を設置しています。設置をはじめた初期は、埋蔵文化財包蔵地の周知を目的として標識柱を主としていましたが、近年では指定文化財の解説に重点を置き、より多くの情報量を盛り込める説明板の増設を進めてきました。将来的には、さらにQRコードなどを用いて盛り込める情報量を拡大し、「歴史の道」と連携した活用も検討しています。

クイズラリーなどイベント等の実施

コロナ禍により実施を見合わせた「史跡めぐり」に代わる事業として、2020(令和2)年度から「松戸市文化財クイズラリー」を実施しています。出題地の選定は、移動の利便性を考慮しつつ、できるだけ松戸市内全域に及ぶよう留意して行いました。またこれまで実施してきた普及事業の参加者が、相対的に中高年層にかたよる傾向が有ることから、小中学生や親子の参加を期待して冬休みや夏休みに実施期間を設定しました。結果は、想定した以上に幅広い年代層の参加が得られました。

市立博物館が策定した「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」では、エリア戦略を実現するものとして、21世紀の森と広場と森のホール21との連携により1日中楽しめる空間の創出と市内外からの集客をはかる取り組みを行うこととしています。2020(令和2)年度には企画展『松戸と徳川将軍の御鹿狩^{おししがり}』の会期にあわせて「江戸」をテーマとするイベントを開催し、2021(令和3)年度には「古墳」をテーマとする「まつど文化のMORI 謎解きラリー」を実施しました。

戸定歴史館は、戸定邸を会場としたコンサートの開催や松戸宿坂川^{けんとう}献灯祭りなど、地域のイベントにも毎年協力しています。

千葉県北西部地区文化財行政担当者連絡協議会を通じた活動

千葉県北西部地区の11市(我孫子・市川・浦安・柏・鎌ヶ谷・流山・習志野・野田・船橋・松戸・八千代)により構成されている協議会です。文化財行政に関わる情報や意見の交換、認識の共有を

図る場として機能してきました。さらに協議会の第2分科会では、1999(平成11)年度から隔年で開催している文化財発表会や企画展のほか、耐震工事や古民家の修復工事、登録文化財の活用など、実際の事例を見学する講習会なども開催しており、長年にわたり市の枠を越えた意義ある活動を続けています。

(2)課題

⑭展示空間の刷新と施設の拡充及び確保が必要

「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」では、市立博物館・21世紀の森と広場・森のホール21が集中する千駄堀地区を、市民のための広域的な交流拠点とすることを目指しています。また博物館自体については、インクルーシブデザインの導入や長寿命化を図るとともに、「こどもミュージアム」を整備するなど、新たな展示空間を創設することも重要な課題となっています。

戸定歴史館では展示スペースの拡充やバリアフリー化が、早急に検討すべき重要な課題になっています。このほか、戸定邸内の再現展示も検討すべきであると考えています。

美術館準備室では、近現代の松戸に形成された優れた芸術文化の調査と作品、関連資料の収集を進めてきましたが、活用が不十分であり、市民に普及浸透していない現状があります。その改善のために、コレクションの常設展示や企画展等の開催ができる施設を整備し、松戸の美術の拠点とすることが長年の課題です。また「松戸の作家の個展」では、展示環境のために展示作品が劣化する危険があること、現在の展示壁面では絵画等の平面作品以外の作家を紹介できないこと等の問題点の解決が求められます。

現在(令和5年度)策定段階である「(仮称)文化複合施設整備構想」では、上記の課題を解消する機能を「美術ギャラリー」として付加することを検討課題としています。

⑮学校との連携促進

出前講座などを含む博学連携事業は市立博物館、戸定歴史館で既に実施していますが、学校への働きかけを更に強化していく必要があります。出前講座は、メニューを増やすこと、実施する学校を増やすこと、学習指導要領に則して改善すること、美術作品の出張展示や地域の作家の出前講座を行うとともに、学校のニーズを汲み取りつつ、学校と共同した企画をしていくことが今後の課題です。

⑩若い世代へのアプローチを強化

学校との連携と同様、若年層への働きかけを進めていくことも課題です。子ども達や親子などをターゲットにした取り組みを強化し、情報発信の方法にも工夫を凝らす必要があると考えています。また地域との連携についても、展示や講演会などの普及活動を通じ、関係団体や地元との情報交換の頻度を高め、関係性を強化し、若い年代が本市の歴史文化に興味を持ってもらえるような取組を進めることが重要です。

⑪普及事業における新しい情報管理・発信方法の活用促進

本計画の作成に先行して実施した市民アンケートの結果を見ても、アナログな方法による情報発信も一定の意義を有しているようです。そのため、新たな情報発信技術の導入を推進しながら、従来手法での普及事業も継続する必要があると考えています。

講座・講演会については、相対的に中高年層の参加が主となる傾向があります。テーマの選択や、開催情報の周知の仕方や実施方法等についての見直しも必要です。

史跡めぐりについては、コロナ禍が終息しない現状にあって、安全に再開できる時期と方法の見極めが大きな課題です。その代替企画としてスタートしたクイズラリーは、正確な参加者数や、体験した感想、リクエストなどを把握する方法の確立が必要です。

従来の文化財マップは、紙面に対して掲載する情報が飽和状態に達しているため、冊子タイプの「松戸歴史ガイド」を早急に作成する必要があると考えています(松戸市のホームページにてデジタル版文化財マップを公開しています)。

文化財標識柱や説明板については、それぞれに記載できる情報量に限りがあるものの、設置数の多さを活かした二次的な利用方法を見出すことが課題です。

市で管理している国登録有形文化財の旧齋藤邸は、主に社会教育や生涯学習の場として利用されていますが、今後は文化財としての活用方法を検討し、見学者や利用者を増やしていくことも必要です。

なおこれら従来から継続している施策については、関連するものを組み合わせて実施することに加え、新たな情報発信の技術も導入して計画的に推進することが、施策の効率化・省力化とともに、その効果を相乗的に高めると考えています。

またデジタルミュージアムに関しては、活用の幅が広く、豊かな可能性を有する取り組みではありますが、今後は、他の普及事業との連動や調整が課題になります。

⑱周辺市、研究機関・研究者、文化財関係団体・施設等との連携強化

文化財に関する情報の整理や管理方法の確立、資料のデータベース化などは、各部署が連携を図りつつ共同で取り組む必要があります。また研究機関・研究者等や周辺市の文化財担当者との連携は、専門職員の限界を補うばかりでなく、さらには資質向上を図るためにも強化していく必要があるものと考えます。

千葉県北西部地区文化財行政担当者連絡協議会第2分科会の活動では、発表会や企画展の開催準備に多くの労力を要するため、開催市や担当職員の負担を如何に軽減するかが課題です。

⑲地域振興・観光への活用促進

文化財を観光資源として捉え直した上で、普及の在り方を見直す必要があります。例えば見学施設や歴史公園等への交通案内、駐車・駐輪場やトイレについての情報提供など、利用者の利便性を考慮した環境が整備されているかを点検することが必要です。企画やイベント等の開催に際しては、さまざまな世代やハンデを持つ人々はもちろん、日本在住外国人の参加も考慮に入れ、あるいはコロナ禍終息後のインバウンド効果などについても留意しつつ、これまでの取組を見直す必要があります。またボランティアガイド等の確保と育成も、一部に留まっているのが現状です。

「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」では、文化財を通じて松戸の歴史を知る・探る「観光ルート」や「歴史の道」などの情報発信を行うことを掲げ、今後の取組としています。

また松戸市が蓄積してきた美術品等のコレクションについても、常時公開できるようにすることが、観光資源としての活用、ひいては地域振興につながるものと考えられます。

第4節 「松戸の歴史文化を守るため、地域とのつながりを深める」－現状と課題

(1)現状

指定による文化財保護

松戸市は、「松戸市文化財の保護に関する条例」の規定により、市内に存する文化財のうち重要なものを松戸市指定文化財に指定しています。さらに同条例では、指定文化財の管理又は修理等に関し、原則としては所有者等の負担としながら、経費が多額であるため負担に耐えない場合や特別の事由がある場合には、市の予算の範囲内において補助金を交付することができるとしています。実績としては、萬満寺の木造金剛力士立像(重要文化財)や千葉県幸田貝塚出土品(重要文化財)の修復、旧徳川昭武別邸(戸定邸)庭園(国:名勝)の復元工事、松戸中央公園正門門柱(旧陸軍工兵学校正門門柱:市有形文化財)の敷石部分の補修工事などがあります。またこの

ほか、寄附金を財源とする「松戸市郷土遺産基金」を活用した例としては、旧齋藤家住宅主屋(国登録文化財)の茅葺屋根の一部葺き替え工事、民間の「東日本鉄道文化財団助成金・協賛金」を活用した例として松戸神社神楽殿天井絵及び杉戸絵(市有形文化財)の修復があります。

文化財所有者・管理者との情報交換とサポート

適正な環境下での文化財の管理、及び盗難・被災のリスク回避は、個人のレベルでは容易ではありません。松戸市教育委員会では多くの寄贈・寄託資料を受け入れ、大切な文化財の保存と所有者の負担軽減を図っています。また寄贈・寄託された文化財の調査研究を進め、その成果を市民にむけ還元することに努めています。

従来は、文化財の現状把握や所有者等との情報交換について、文化財担当者の個々の努力や繋がりにも頼る傾向が見られました。そのため 2020(令和2)年度から、指定文化財の所有者・管理者を対象としたアンケートを実施しています。将来的には、アンケート結果に対応したサポートを実施するとともに、防犯・防災などに関する情報提供や未指定の文化財所有者等への対象拡大も検討しています。

管理報償費や後援事業による支援

松戸市教育委員会では、小規模な修理や日常的な維持管理に充てる費用として、指定文化財の所有者・管理者30件、未指定の文化財所有者や団体6件に対し、毎年、管理報償費を交付しています。

また「松戸の万作踊り」の保存会については、社会教育認定団体に認定しており、市の施設を利用する場合の施設使用料を減額しているほか、年1回の発表会開催を市と保存会の共催事業としています。

埋蔵文化財発掘調査に関する助成制度

松戸市が行う埋蔵文化財発掘調査のうち、民間の開発事業に伴う発掘調査については、確認調査と個人住宅建設等を原因とする本調査、出土品の整理作業から報告書の作成について、国庫及び県費の補助をうけて実施しています(埋蔵文化財緊急調査助成事業:市内遺跡発掘調査事業)。この補助事業による発掘調査の実績は、2021(令和3)年度は17件、2022(同4)年度は12件でした。このほか県費補助事業である「不特定遺跡発掘調査事業」では、2022(令和4)年度には1地点で交付を受け発掘調査を行っています。

(2)課題

⑳文化財所有者等や地域とのつながりを強化

指定文化財所有者等を対象としたアンケートの結果では、防犯防災に関する不安や、経年劣化等による修繕費用の負担に言及されている事例が見られます。「指定・登録」以外の文化財所有者も、同様に、それ以上に不安や深刻な問題を抱えているものと思われます。

また地域における人の繋がりが希薄になり、さらには関係者の高齢化も進んでいます。文化財の継承者や保持者ばかりでなく、周囲で支える人々も不足しがちであり、維持管理に支障をきたす状況は、普遍的な問題であると考えられます。そのため、行政や文化財所有者とともに文化財の保護に取り組むパートナーの確保や育成を進めていきたいと考えています。

第2節の課題⑥「継続的な現状確認の強化と計画的な修復」でも触れたように、文化財に関する情報収集や現状確認の機会を増やしつつ、文化財所有者等及び地域との連携を深めることが課題です。

㉑財政的な支援と支える仕組みづくりが必要

費用負担は深刻な問題であり、経年劣化による修復のほか、野外にある文化財では周辺樹木の剪定や除草など、経常的とも言える出費も少なくありません。ことに史跡などでは状況はより深刻で、「相続」の発生により維持しきれなくなるケースも見受けられます。支援の前提として、文化財パトロールの強化による現状把握や、地域との連携を促進して情報を共有することが必要になると考えています。また庁内関係部署との連携を強化し、文化財を保持し継承するための人材や労力、適切な環境を維持し必要な修復を行うための費用確保、防犯や防災を含めた支援の仕組みづくりも重要な課題です。

第7章 松戸市の取組と年次計画

第1節 取組の体系

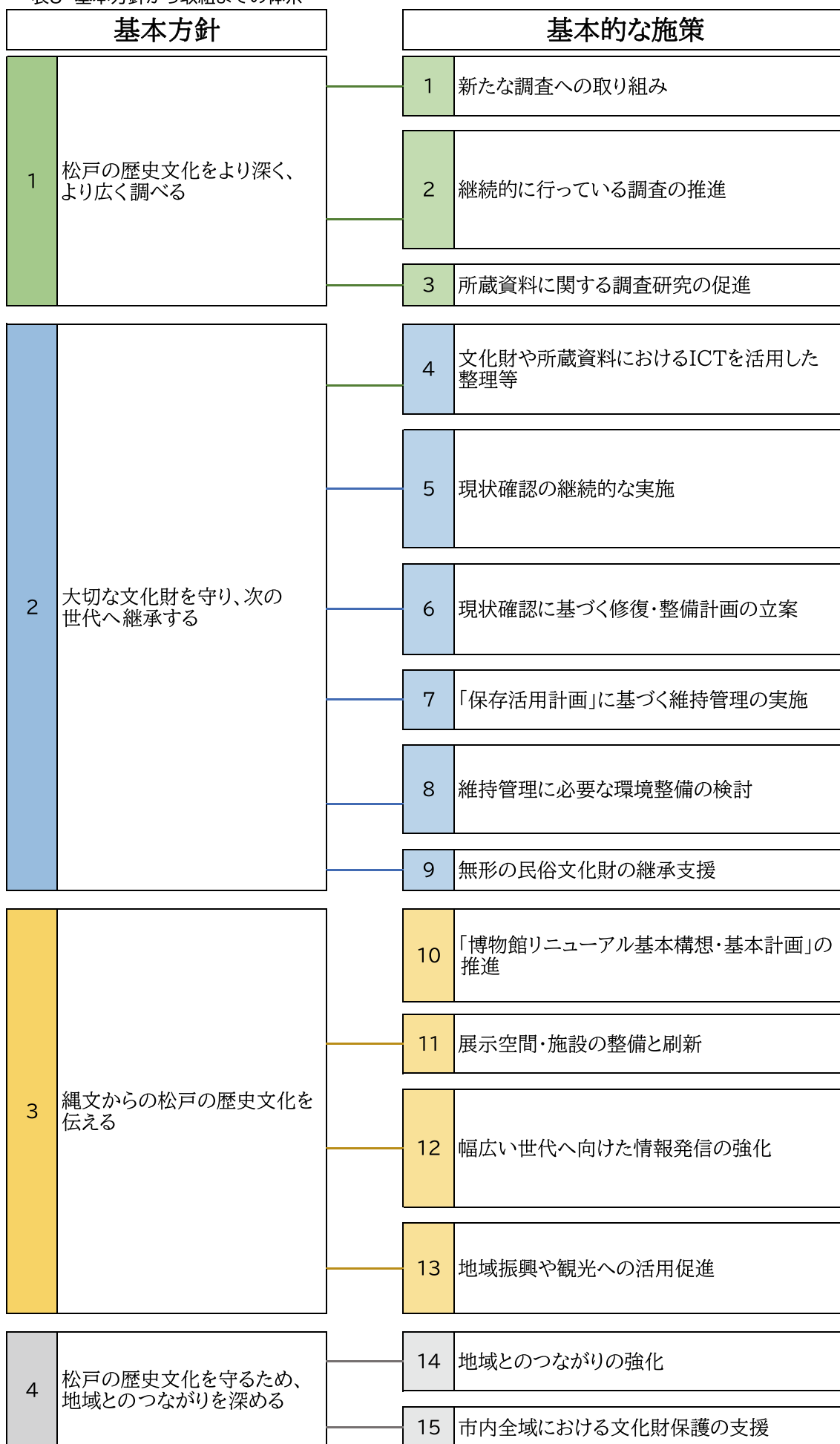
第5章では、本計画の基本理念と基本方針を設定し、続く第6章でこれまで本市が行ってきた取り組みを総括し、基本理念を実現する上での課題を抽出しました。

本章では、まず基本方針とそれら課題の関係を整理します(表7)。次いで基本方針と課題解決のために行う基本的な施策、実施する具体的な取組との対応関係を体系図に示します(表8)。続く第2節以降では4つの基本方針ごとに基調となる個別の施策と取組について、具体的な年次計画を表に示しつつ順次提示していくこととします。

表7 基本方針と課題の対応

基本方針		課題
1	松戸の歴史文化をより深く、より広く調べる	①新たな調査への取り組みが必要
		②各部署がこれまでに行ってきた調査の着実な継続が必要
		③教育委員会が所蔵する資料のさらなる調査研究が必要
2	大切な文化財を守り、次の世代へ継承する	④把握している文化財や所蔵資料のデータベース化の推進
		⑤埋蔵文化財照会データの新しい検索方法の確立が必要
		⑥継続的な現状確認の強化と計画的な修復が必要
		⑦分散所蔵する美術作品等の定期的な点検と修復が必要
		⑧歴史公園等の維持管理に関する課題
		⑨現状確認で得た情報の活用が必要
		⑩計画的な戸定邸・庭園の維持管理と「戸定邸保存活用計画」の策定
		⑪資料の収蔵と整理作業に必要なスペースの確保と環境整備
		⑫専門職員の確保と育成
		⑬後継者確保と育成のサポートが必要
3	縄文からの松戸の歴史文化を伝える	⑭展示空間の刷新と施設の拡充及び確保が必要
		⑮学校との連携促進
		⑯若い世代へのアプローチを強化
		⑰普及事業における新しい情報管理・発信方法の活用促進
		⑱周辺市、研究機関・研究者、文化財関係団体・施設等との連携強化
4	松戸の歴史文化を守るため、地域とのつながりを深める	⑲地域振興・観光への活用促進
		⑳文化財所有者等や地域とのつながりを強化
		㉑財政的な支援と支える仕組みづくりが必要

表8 基本方針から取組までの体系



取組

1	新たな文化財の把握調査
2	旧村単位の学際的な調査
3	戸定邸及び徳川昭武に関する調査
4	旧家所蔵資料に関する調査
5	美術作品・資料に関する調査
6	埋蔵文化財に関する調査
7	市所蔵資料の調査研究
8	文化財情報の整理・データベース化・公開
9	指定文化財候補の台帳作成
10	埋蔵文化財の照会データ検索システム導入
11	個人等が所蔵する文化財の現状確認
12	文化財パトロールと情報収集の強化
13	所蔵美術作品と資料の定期的な点検
14	歴史公園等の現状確認と維持管理
15	所蔵美術作品と資料の修復計画立案
16	史跡整備を行う候補地の検討
17	必要な修復計画の立案
18	旧徳川昭武庭園の維持管理
19	「戸定邸保存活用計画」の策定と推進
20	文化財収蔵施設の整備検討
21	施設修繕計画(松戸市立博物館)の実施
22	専門職員の確保と育成
23	無形の民俗文化財の後継者確保・育成へのサポート
24	広域的な交流拠点の形成(松戸市立博物館)
25	市立博物館の公開承認施設化
26	「こどもミュージアム」など新たな展示空間の創設
27	戸定邸・戸定歴史館展示施設再整備の検討
28	文化複合施設の検討
29	学校との連携強化
30	ICTを活用した情報発信の充実
31	効果的な情報発信のための普及事業の見直しと改善
32	周辺市や関係機関等との連携
33	「歴史の道」の整備
34	ボランティアガイドなどの人材育成
35	観光・商工関係部署や団体との連携
36	文化財所有者等との意見交換や情報共有の円滑化
37	文化財の保護に取り組む市民の育成
38	財政的な支援をはじめとする支える仕組みづくりの検討

重点的な施策

本計画における重点的な施策としては、「博物館リニューアル基本構想・基本計画」の推進があります。松戸市立博物館は、文化財の調査研究と市の歴史的価値を伝える拠点となっていますが、展示内容の見直しとさらなる充実を図り、文化交流拠点として進化を目指します。(取組No. 24～26)

同様に「戸定邸保存活用計画」の策定も重要な取組です。既に運用を始めている庭園編に加え、2023(令和5)年度には建物編の策定に着手します。戸定邸は国の重要文化財に、庭園は国の名勝に指定されており、二つの保存活用計画を策定することにより、邸宅と庭園の一体的な保存・活用を目指し、地域の文化的資産として次世代に継承していきます。(取組 No.18・19)

次節以降に掲載する「取組と年次計画」の表中に「主体」とあるのは、取組の実施にあたり中心的な役割を担います。行政は主として文化財保存活用課(博物館・戸定歴史館・美術館準備室)が相当します。市民(地域)は、市内居住者や市内で働く人々、文化財の所有者・管理者、自治会、ボランティア活動団体や郷土史研究会などの民間団体を含みます。専門家は大学等の研究機関や自治体に所属する研究者、事業者(団体)は、歴史文化を活かした商品や企画、生産などの取組みを行う民間の事業者としています。

第2節 「松戸の歴史文化をより深く、より広く調べる」－取組と年次計画

これまであまり手を付けてこなかった仏像や絵画などの美術工芸品、学校所蔵の文化財、寺社の役割にも留意した旧村・字単位の学際的な調査など、新たな価値を掘り起こす調査に着手する必要があります。特に文化財の新たな把握調査を行うためには、所有者や地域の協力が不可欠になります。また継続して行ってきた調査についても、成果をまとめることはもちろんのこと、調査研究や整理作業を継続する上で必要な人材の確保、環境の整備と充実に努めます。

1. 新たな調査への取り組み

表 9 基本方針(1)－基本的な施策 1 に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
1	新たな文化財の把握調査 これまで十分な調査ができていない分野について調査する。 (学校が所蔵する資料の把握調	文化財保存活用課 博物館 戸定歴史館					—

	査、寺社を対象とした仏像・絵画・工芸品など)	美術館準備室 市民 専門家					
2	旧村単位の学際的な調査 地域の人々にとって、より身近に感じられる「大字ごとの歴史」を複数の学問分野共同で調査する。	博物館 市民 専門家					計画期間中に一地区で実施

※薄い色は準備期間。濃い色は実施期間。

2. 継続的に行っている調査の推進

表10 基本方針(1)－基本的な施策2に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
3	戸定邸及び徳川昭武に関する調査 寄託資料の調査に注力し、徳川昭武及び松戸徳川家に関する情報を補完する。また、現状、情報が少ない昭和期の戸定邸について関係者から聞き取りを行い、データ化する。	戸定歴史館					—
4	旧家所蔵資料に関する調査 市内の旧家などが所蔵する近世・近代の古文書等の資料を、「古文書調査団」による組織的で集中的な委託調査を行う。	博物館 専門家					—
5	美術作品・資料に関する調査 近現代の松戸ゆかりの作家の作品や関連資料について、調査研究と収集を継続する。	美術館準備室 市民 専門家					—
6	埋蔵文化財に関する調査 文化財保護法に基づき、民間開発及び公共事業に伴い市内の埋蔵文化財を記録・保存するため、発掘調査等を実施する。	文化財保存活用課 市民 事業者					—

3. 所蔵資料に関する調査研究の促進

表11 基本方針(1)－基本的な施策3に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
7	市所蔵資料の調査研究 市立博物館、戸定歴史館、美術館準備室の所蔵資料のほか、埋蔵文化財出土資料についても再調査及び再評価を行う。	文化財保存活用課 博物館 戸定歴史館 美術館準備室					—

第3節 「大切な文化財を守り、次の世代へ継承する」－取組と年次計画

各所属において、所蔵する文化財や資料を適切に保存することは不可欠です。また、文化財の価値を維持するための管理や修理等を計画的に進め、防犯・防災体制も整備します。出土資料の適切な保管場所の確保や把握している文化財のデータベース化は、基礎的かつ重要な取り組みです。市所有以外の文化財等については、文化財の保護に取り組む市民による文化財パトロールなどにより現状確認を強化し、さらに地域との連携を深める取り組みを推進します。根木内や大谷口の歴史公園等については、現状確認に基づく維持管理と環境整備の改善、必要に応じたタイミングでの修復計画の立案などを可能とする取り組みが必要です。

戸定邸及び庭園については、既に成立している庭園編に続き、建物についても「保存活用計画」を策定して一体的な維持管理の実現を目指しています。

文化財を所蔵する施設の充実、整理作業を行うスペース確保、専門的な知識と経験を有する人材の確保と育成は、文化財を守り継承するために重要です。

また無形の民俗文化財継承者については、稽古や発表の機会の確保、テキストともなる映像や音声記録の作成や提供など、後継者の確保と育成に繋がるサポートが必要になります。

4. 文化財や所蔵資料における ICT を活用した整理等

表12 基本方針(2)－基本的な施策4に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
8	文化財情報の整理・データベース化・公開 ICT を活用した文化財資料の情報整理を進めるとともに、デ	文化財保存活用課 博物館 戸定歴史館 美術館準備室					—

	デジタルアーカイブ機能を備えたデジタルミュージアムなどを推進する。文化財を3Dデータ化して公開・活用する。						
9	指定文化財候補の台帳作成 これまでに集積した文化財情報を整理し、台帳を作成する。定期的に状況を確認し、指定候補の計画的な選定に役立てる。	文化財保存活用課 博物館					—
10	埋蔵文化財の照会データ検索システム導入 埋蔵文化財の手続等の要否を確認できるシステムの構築により、照会の簡便化、迅速化を図る。	文化財保存活用課					3年目に導入

5. 現状確認の継続的な実施

表13 基本方針(2)－基本的な施策5に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
11	個人等が所蔵する文化財の現状確認 市史編さん時に調査した旧家所蔵資料の現状調査を行う。	博物館 専門家					年1件 実施
12	文化財パトロールと情報収集の強化 指定文化財や市有地にある文化財について、「文化財パトロール」を強化し、文化財所有者等との情報や意見の交換を容易にする。	文化財保存活用課 市民					—
13	所蔵美術作品と資料の定期的な点検 市立博物館・戸定歴史館・民間収蔵庫に収蔵している美術資料の計画的な点検を実施する。	美術館準備室 専門家					—
14	歴史公園等の現状確認と維持管理 市有地の「五香六実野馬除土手」、大谷口歴史公園・根木内歴史公園等の管理方法を検討し適切な維持管理を推進する。	文化財保存活用課 公園緑地課 市民					五香六実 野馬除土 手は整備

6.現状確認に基づく修復・整備計画の立案

表14 基本方針(2)－基本的な施策6に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
15	所蔵美術作品と資料の修復計画立案 市立博物館・戸定歴史館・民間収蔵庫に収蔵している作品と資料の点検を実施、保存状態に応じた修復計画を作成し、今後の展示に備える。	美術館準備室 専門家 事業者					—
16	史跡整備を行う候補地の検討 市にとって歴史上または学術上価値の高い貝塚、古墳など史跡として整備する候補地の現状を確認し、リストを作成する。	文化財保存活用課					—
17	必要な修復計画の立案 現状確認により修復が必要になった文化財について、適宜、修復計画を立案して実施する。 (古文書・仏像・フィルムなど)	文化財保存活用課 博物館 戸定歴史館 専門家					—

7.「保存活用計画」に基づく維持管理の実施

表15 基本方針(2)－基本的な施策7に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
18	旧徳川昭武庭園の維持管理 「旧徳川昭武庭園保存活用計画」に基づき、戸定邸庭園の管理を行う。(植栽の育成・管理)	戸定歴史館 公園緑地課 専門家 事業者					—
19	「戸定邸保存活用計画」の策定と推進 「戸定邸保存活用計画」(建物編)を策定し、戸定邸は防災対策の実施、雨水浸透、排水機能不全、地盤沈下、床板変形等を改善するための大規模修理、徳川昭武居住期の状態への復原を目指すための調査を実施する。	戸定歴史館 専門家					計画策定

8.維持管理に必要な環境整備の検討

表16 基本方針(2)－基本的な施策8に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
20	文化財収蔵施設の整備検討 市で所蔵している文化財収蔵施設に関する課題を整理し、今後の施設の確保や整備を検討する。	文化財保存活用課 博物館 戸定歴史館 美術館準備室					—
21	施設修繕計画(松戸市立博物館)の実施 安全に利用できる施設提供を行うため、施設の長寿命化を見据えた調査を行い、老朽化対策を計画的に行う。当初の予定として「総合展示室天井改修工事」と「企画展示室展示ケース及びドア改修工事」を一括して行うことや「空調設備改修工事」を実施する。	文化財保存活用課 博物館 建築保全課					—
22	専門職員の確保と育成 文化財の適切な保存・活用に必要な、博物館・戸定歴史館・埋蔵文化財・美術等各分野の学芸員の後継者の確保と育成を推進する。	文化財保存活用課 博物館 戸定歴史館 美術館準備室					—

9. 無形の民俗文化財の継承支援

表17 基本方針(2)－基本的な施策9に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
23	無形の民俗文化財の後継者確保・育成へのサポート 「松戸の万作踊り」や「松戸の三匹獅子舞」など無形の民俗文化財の継承者に対し、発表の場の確保、映像・音声の記録による参考資料の提供などにより継承のサポートを行う。	文化財保存活用課 市民					—

第4節 「縄文からの松戸の歴史文化を伝える」－取組と年次計画

博物館は、「松戸市立博物館リニューアル基本構想・基本計画」の実施により、千駄堀地区を広域的な文化交流・情報発信拠点とすることを目指し、あわせて展示構成の内容刷新や ICT を活用した解説系の強化等を推進します。また戸定歴史館が展示空間等の拡充を検討するほか、教育委員会では「美術ギャラリー」開設を検討します。

情報発信への取り組みについては、学校や地域における若者や子ども達など、次代を担う世代へのアプローチを強化します。文化財の価値や魅力を多くの人に伝えるため、新たな技術も積極的に取り入れながら、分かりやすい情報発信に努めます。また文化振興財団や観光協会、文化財・歴史関係団体との連携と協働を進め、普及事業のレベルアップを目指します。

地域振興の資源という側面からも文化財の価値を見直し、はじめて松戸市を訪れた人達にも松戸の魅力が伝わるよう、多角的な活用を模索します。

10. 「博物館リニューアル基本構想・基本計画」の推進

表18 基本方針(3)－基本的な施策10に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
24	広域的な交流拠点の形成(松戸市立博物館) 千駄堀エリアの文化環境や自然環境を生かし、21世紀の森と広場・文化会館(森のホール21)と連携して、文化交流拠点化を目指す。	博物館 21世紀の森と広場管理事務所 (公財)文化振興財団					—
25	市立博物館の公開承認施設化 国宝・重要文化財を簡易な手続きで借用・展示でき、また博物館に対する信頼の一層の向上をはかるため、公開承認施設を目指す。	博物館					—
26	「こどもミュージアム」など新たな展示空間の創設 博物館のリニューアルにあたり、生徒・児童に特化した展示空間を新設する。	博物館					—

11. 展示空間・施設の整備と刷新

表19 基本方針(3)－基本的な施策11に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
27	戸定邸・戸定歴史館展示施設再整備の検討 戸定邸及び戸定歴史館展示充実を図るため、施設の再整備を検討する。具体的には、戸定邸は古写真に基づき、徳川昭武が生活していた当時の部屋の様子を再現する。戸定歴史館は展示室や収蔵庫の拡張、バリアフリー化等の検討を行う。	戸定歴史館 建築保全課 専門家					—
28	文化複合施設の検討 図書館を中核とする文化複合施設の機能として、市が収蔵する美術所蔵品等の常設展示等を行う場を設ける検討を行う。	文化財保存活用課 美術館準備室 社会教育課					—

12. 幅広い世代へ向けた情報発信の強化

表 20 基本方針(3)－基本的な施策12に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
29	学校との連携強化 小学校から大学・専門学校までの連携を推進するため、アウトリーチを行うとともに、共同での企画の開発などを行う。	文化財保存活用課 博物館 戸定歴史館 美術館準備室 学校等教育施設					—
30	ICTを活用した情報発信の充実 子育て世代や若年層、地域の諸団体等対象を絞る場合と、広く市内外に向ける場合など、情報発信のありかたを精査して対応する。	文化財保存活用課 博物館 戸定歴史館 美術館準備室					—

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
31	効果的な情報発信のための普及事業の見直しと改善 文化財や美術資料に関する普及事業について、幅広い世代に向け情報発信できるよう見直す。(文化財標識柱及び説明板の設置、旧齋藤邸など)	文化財保存活用課 美術館準備室					松戸市に関連した美術 展示:年1回 埋蔵文化財 に関する事業:年1回
32	周辺市や関係機関等との連携 市域の歴史や文化についてより広く深い視点から発信するため、周辺市や関係機関の担当者や情報交換などを行う。	文化財保存活用課 市民					—

13. 地域振興や観光への活用促進

表21 基本方針(3)－基本的な施策13 に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
33	「歴史の道」の整備 文化財を通じて松戸の歴史を知る・探る松戸市版「歴史の道」を整備する。	文化財保存活用課 博物館 戸定歴史館					—
34	ボランティアガイドなどの人材育成 戸定邸および戸定が丘歴史公園を案内するボランティアガイド等に対し、学芸員を講師とした研修を実施する。	戸定歴史館 市民					—
35	観光・商工関係部署や団体との連携 文化財を地域振興や観光資源として活用することを視野に入れ、関係部署・団体と連携し、講座やイベントなどの実施を通じて市民の文化財への興味・関心を高めることを目指す。	文化財保存活用課 博物館 戸定歴史館 にぎわい創造課 市民 事業者					—

第5節 「松戸の歴史文化を守るため、地域とのつながりを深める」－取組と年次計画

文化財所有者や地域とのつながりを強化する取組を行います。学校や地域との連携を深め、行政と市民が一体となって文化財の調査・保存・活用を進められる関係を構築します。市内の連携も強化し、所有者・管理者を支援する仕組みづくりに努めます。

14. 地域とのつながりの強化

表22 基本方針(4)－基本的な施策14 に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
36	文化財所有者等との意見交換や情報共有の円滑化 所有者・管理者へのアンケート調査などにより、意見交換を容易にし、個々の文化財についての情報把握に努める。	文化財保存活用課 市民					アンケート 年1回実施
37	文化財の保護に取り組む市民の育成 松戸市の歴史文化への理解を深め、行政と一緒に文化財の保護に取り組む市民を育成する。	文化財保存活用課 市民					—

15. 市内全域における文化財保護の支援

表23 基本方針(4)－基本的な施策15 に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
38	財政的な支援をはじめとする支える仕組みづくりの検討 修繕等に関する制度づくりや、財政的支援の確立にむけた検討を進める。	文化財保存活用課					—

以上、本章から第9章に示す取り組みの実施にあたっては、市費はもとより、文化庁及びその他関係省庁の国庫補助金や地方創生推進交付金、県費補助金等を活用した財源の確保に努めます。

第8章 ストーリーを活かした総合的な取組

第1節 歴史文化の特徴を語るストーリーと関連文化財群

本章では、第4章第3節でまとめた松戸の歴史文化の特徴をもとに、5つのストーリーを提示します。これらのストーリーにより、それぞれ取り上げた地域の特色や魅力をよりわかりやすく、かつ多くの市民に伝え、さらには第7章で示した取組を効率的に実施するための手掛かりにしたいと考えています。

あわせてストーリーごとに関連する文化財を群として提示します。別個に存在するかに見える文化財を、ストーリーによって結び付けることで、地域の歴史的・文化的まとまりを鮮明に浮かび上がらせるとともに、新たな地域の魅力や価値の発見に至ることを目指しています。そして市民はもとより、松戸を訪れる人達に対しても松戸の新たな魅力を発信し、地域振興にも繋がるよう努めていきたいと考えています。

第2節 5つのストーリー

ストーリー1:豊かな海の記憶と水辺の暮らし

豊かな縄文の海

原始	縄文時代 貝塚の形成 幸田貝塚 東平賀遺跡	現代に生きる私たちが、あたりまえと考えている環境は、大昔から変わらずに存続していたわけではありません。今から約 6,000 年前の縄文時代前期には、地球の温暖化がピークに達し、内陸の奥深くまで海が入り込んでいました。松戸市域でも、江戸川沿いの低地や国分谷は海の底に沈み、人々は陸地として残った下総台地を生活の場にしていました。そして目の前に広がる海と海辺で魚や貝を、住まいの周囲の山野で木の実や植物を採集し、またシカやイノシシなどの獣を捕らえました。やがて気候が寒冷化に転じるに伴って海岸線も後退していきますが、およそ一万年も続いた縄文時代を通じ、海は身近な存在であり続けました。こうした自然条件に恵まれ、豊富な食料を確保できたと推定されます。
	弥生時代 稲作の開始	
古代	古墳時代	松戸市には、縄文人たちの生活の痕跡(遺跡)が 154 か所も見つかっており、その密度の濃さから「縄文銀座」と称されることさえあります。これらの遺跡を発掘調査すると、縄文人の住まいである竪穴住居跡や、貯蔵用に掘られたとされる穴(土坑)などのほか、廃棄した大量の貝殻の堆積(貝塚)が検出されます。貝塚を詳細に観察すると、多種多様な貝はもちろんのこと、魚の骨や鱗、獣骨や炭化した植物、縄文土器や石器、獣の骨や牙を加工した装飾品まで見つかることがあります。これらを科学的な方法を用いて分析すると、縄文人が漁を行った海の様子や、集落の周囲に広がっていた自然環境なども詳しく分かってきます。
中世		
近世	低地の 新田開発	縄文時代の遺跡は、遙かな昔、この地域で生活した人々の世界を現代に蘇らせるタイムカプセルといえます。このように貝塚を含む縄文時代の遺跡が多く存在することが、松戸市の地域的な大きな特徴なのです。
近現代	江戸川沿いの低地の暮らし	水辺の暮らし 縄文時代が終わると海岸線はさらに後退し、江戸川沿いや国分谷の低地はしだいに低湿地となります。国分谷の水田化は古墳時代には進んでいたようですが、以降の時代も含め史料が少なく詳しいことは分かっていません。江戸

川沿いの低地が本格的に水田化されるのは、江戸時代以降のことです。坂川の整備は続けられたものの、水はけの悪さは解消されず、水害が頻発していました。江戸川沿いでは、厳しい自然環境に対応した暮らしが、昭和の中頃まで続きます。

現在の新松戸や古ヶ崎など北側の低地では、治水のために開削された坂川などの小河川沿いに屋敷が設けられ、各家には田舟^{たぶね}が常備されていました。これは収穫物や肥料、人の移動に小河川や用水路で利用する道具でした。この地域の人々にとって常に「水」は身近な存在であり、時に大きな痛手を被^{こうむ}りながらも、巧みに生活に組み込む工夫を凝らしていました。かつてこの地域では良質な糯米^{うるちまい}が生産され、地域の特産であった白玉粉や流山の味醂^{みりん}の原料とされました。

同じ江戸川沿いの低地でも、矢切地区は異なった歴史を辿ります。伝承では、江戸時代に起きた大きな水害のため、全村が台地上に移転したとされています。それまでは上流の新松戸・古ヶ崎地区と同様、低地に集落が営まれていたようですが、移転を機に耕作地と生活の場が遠く離れるという不便が生まれました。水害による生命の危険は減っても、耕作地が被害を被ることに変わりはありません。こうした厳しい選択をした後も、地域の人々のたゆまぬ努力は、やがて矢切ねぎというブランドを生み出すこととなります。

現在、新松戸・古ヶ崎地区は緑豊かな住宅地に生まれ変わり、矢切地区も北総鉄道の矢切駅開設や東京外かく環状道路の開通など、近年になり急速な変貌を遂げています。その一方、下総台地の縁辺に続く斜面緑地や、浅間神社^{せんげん}の境内に保たれている極相林^{きょくそうりん}、矢切ねぎを生産する低地の耕作地と穏やかな坂川の流れなど、松戸を代表する緑豊かで親しみやすい景観も随所に残されています。こうした景色の背景には、厳しい自然と向き合い苦闘し続けてきた人々の歴史が刻まれていることを忘れてはならないでしょう。



図65 新松戸地区航空写真(1962(昭和 37)年頃撮影)

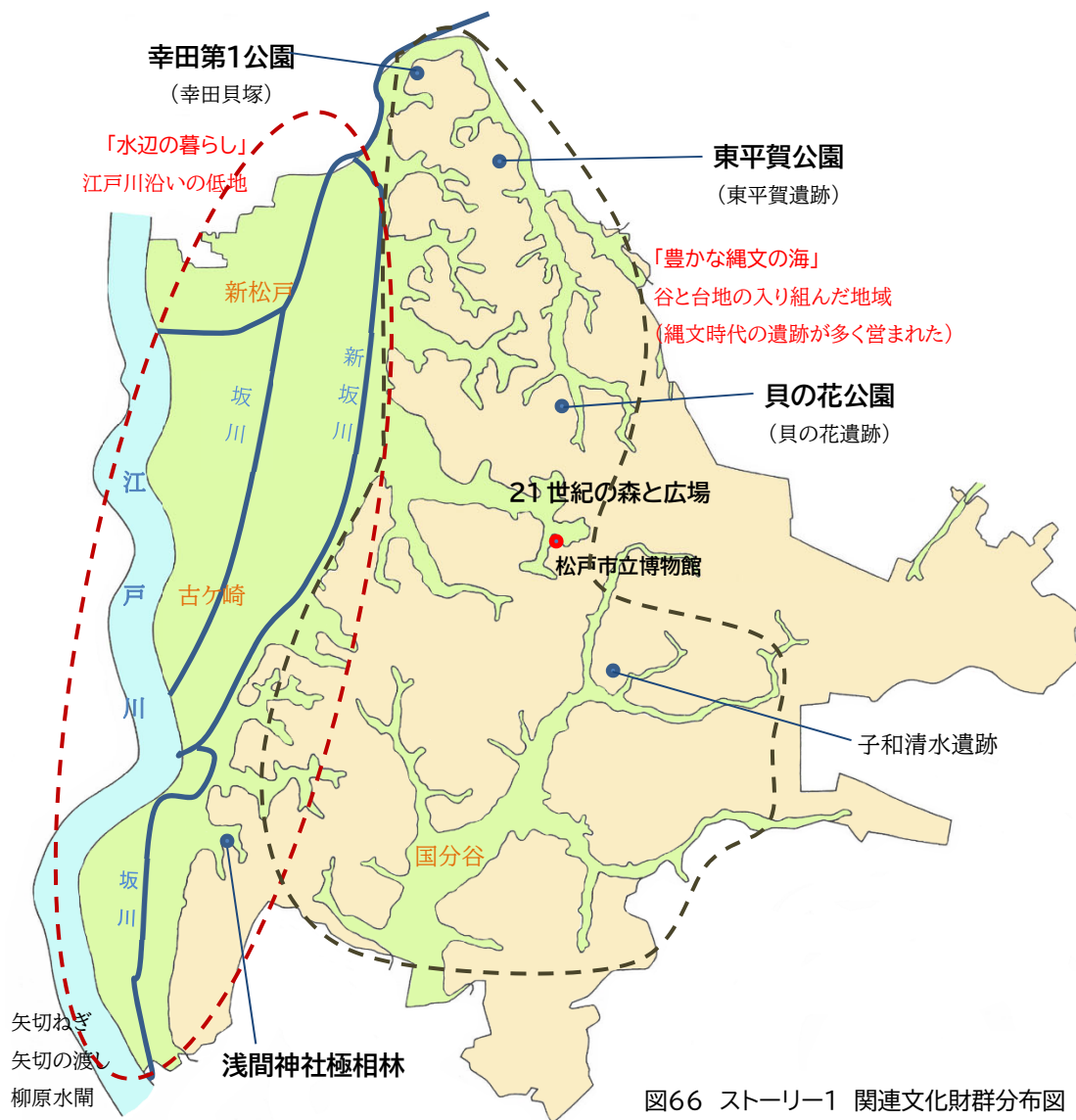


図66 ストーリー1 関連文化財群分布図

関連文化財群

構成する文化財

- (市指定・有形)柳原水閘、(未指定)赤塚樋門・小山樋門・葛飾橋
- (国重文・有形)千葉県幸田貝塚出土品、(未指定)縄文時代の出土品
- (県指定・有形)『本土寺過去帳』、(未指定)個人が所蔵する諸家文書など
- (未指定・民俗文化財)水塚・田舟などの生活道具
- (市指定・記念物)幸田貝塚<幸田第一公園>、(未指定)子と清水遺跡・貝の花遺跡・東平賀遺跡<東平賀公園>
- (県指定・記念物)浅間神社の極相林
- (未指定)坂川・新坂川・矢切の渡し・矢切ねぎ・斜面林・21世紀の森と広場

ストーリー2:交流の広がりから高城氏の時代へ

原始	弥生時代 稲作の開始	<p>下総国の中の松戸</p> <p>松戸市内に所在する古墳のうち、小金古墳群や河原塚古墳群、栗山古墳群などは、低地を見下ろす台地の縁辺部に築かれています。低地側からは仰ぎ見るような場所にあり、あたかも造営者の権威を誇示しているようです。注1 それら古墳群から出土した遺物を詳細に分析すると、東葛地域の枠を越えて、より広域に人やモノが流通していたことが分かってきます。また同じころに営まれた^{きょうにんだいせい}行人台遺跡(久保平賀)からは、朝鮮半島から渡来した可能性のある鉄製品や土器も出土しています。</p>
	古墳時代 下総国の成立 帯金具 國厨墨書土器	
古代		<p>さらに時代が降り中央集権国家が成立すると、現在の松戸市域は「下総国葛飾郡」の一部となり、市域の南側に隣接する市川市国府台に下総国府が置かれます。小野遺跡(胡録台)では官人の位階を表す^{いかい}帯金具が、^{おびかなぐ}紙敷の^{さかはないせき}坂花遺跡では「^{くにのくりや}國厨」の文字が^{ぼくしょ}墨書された土器が出土しています(いずれも市有形文化財)。この時代は、小さな地域を治める政治力と経済力を持った有力者が出現し、集権国家が彼らを政治体制の下に組み込んでいく過程にあたっています。</p>
中世	小金領主高城氏の時代 小田原合戦	<p>小金城主高城氏の時代</p> <p>小金古墳群が造営された台地の北西、江戸川沿いの低地に突き出たような独立性の高い台地の縁辺部に小金城が築造されました。戦国時代に小金領と称された地域を治めた高城氏の本拠地です。</p>
近世		<p>眺望の利く立地は、同時に周囲とのアクセスも良く、北西は低地内の微高地伝いに流山の^{ひれがさき}鱸ヶ崎台地、西は江戸川を渡って江戸方面、南は台地や低地上を通して馬橋や松戸方面、東ないし北東は我孫子方面へ通じていたと考えられます。これらのうち江戸川沿いの低地を含む西方は、舟運を利用して東京湾岸の経済圏に繋がっていたことが推測され、さらには小田原北条氏の勢力とも境を接しています。また東ないし北東の先では、当時、広大な内海であった手賀沼沿岸の経済圏にも連絡しており、広域に及ぶ人とモノの往来があったと考えられています。実際に小金城をはじめ、周辺の中</p>
近現代		

世遺跡の発掘調査では、瀬戸・美濃地方や常滑産の陶磁器類、青・白磁や染付の輸入陶磁器類も出土しており、小金領が列島規模の交易圏に組み込まれていたことを裏付けています。

小金城の北東には鎌倉時代以来の古刹本土寺があり、その他にも高城氏にゆかりのある慶林寺、広徳寺、東漸寺などがあります。また『本土寺過去帳』の記述から、お膝元の小金には、この当時すでに町場が形成されていたことが分かります。さらに小金から少し離れた幸谷でも、発掘調査の結果、多くの人々が生活を営んでいた様子が明らかとなりました。

高城氏が小金の領主であった時代は、関東でも争乱が続き、その治世も決して盤石なものではありませんでした。期間的にも16世紀の数十年ではありますが、小金城を中心とする地域が、領域の政治、経済、信仰や文化の中心として、あるいは人やモノの行き交う結節点としての役割を果たした時代でした。



図67 河原塚古墳群
1号墳の被葬者(レプリカ)
(松戸市立博物館総合展示室)



図68 小金城跡航空写真(1962(昭和37)年頃撮影)

注1:現在、これら古墳の多くは宅地化により失われていますが、一部、墳丘の残るものがあります。なかでも河原塚古墳群の4号墳は、河原塚中学校の敷地内に保存されており、活きた教材として活用されています。



図69 ストーリー2 関連文化財群分布図

関連文化財群

構成する文化財

- (市指定・有形)小野遺跡の出土品<帯金具>・坂花遺跡の出土品<国厨銘土器>、(未指定)形象埴輪と円筒埴輪・中世遺跡の出土品
- (県指定・有形)『本土寺過去帳』、(未指定)個人が所蔵する諸家文書など
- (未指定)小金古墳群・河原塚古墳群・栗山古墳群・立出し遺跡・天神山遺跡・小野遺跡・坂花遺跡など古墳時代の遺跡、幸谷城跡・熊ノ脇遺跡・東平賀遺跡など中世の遺跡
- (未指定)小金城跡<大谷口歴史公園>・根木内城跡<根木内歴史公園>
- (市指定・記念物)本土寺、(未指定)萬満寺・慶林寺・東漸寺・大勝院・広徳寺

関連する人物など

相模台の戦い・国府台の戦い・河川や陸路を通じた交通

ストーリー3:宿場・河岸から街へ -人とモノの行き交う場で育まれた歴史文化-

原始		<h3>水戸道中と松戸宿、鮮魚街道(生街道)と松戸の河岸</h3> <p>ここで着目する二つの道、水戸道中と鮮魚街道は、江戸川沿いの低地に位置する松戸の地で接続しており、さらに舟を利用して人やモノを運ぶ水の道ともアクセスしていました。</p> <p>1583(天正18)年の小田原合戦の結果、小金城は主を失い、高城氏の家臣たちも多くは帰農します。さらに1603(慶長8)年には徳川家康が幕府を開き、時代は戦国から江戸へと移ります。</p> <p>新しい時代に松戸と小金は水戸道中の宿場として生まれ変わり、発展します。水戸道中は多くの旅人が行き来をしましたが、小林一茶もその一人です。一茶は後援者である馬橋の大川立砂(油屋平右衛門)の許をたびたび訪れており、親交を深めたとされています。この馬橋も、二つの宿場の間に位置する水戸道中の間の宿として、また鎌倉時代に創建された古刹萬満寺の門前町として栄えています。</p>
古代		
中世		
近世	<p>江戸幕府成立 水戸道中 鮮魚街道</p> <p>小林一茶と油屋平右衛門の交流</p>	
近代	<p>戸定邸へ徳川昭武転入</p> <p>園芸学校創設 陸軍工兵学校創設</p> <p>与謝野夫妻の園芸学校来訪と短歌発表</p> <p>旧東京高等工芸学校(千葉大学工学部)移転</p> <p>(戦後)多くの作家が転入</p> <p>東京藝術大学取手キャンパス開設</p>	<p>江戸川に面して河岸を伴う松戸宿は、銚子で水揚げされた海産物を江戸へ回送するルート、鮮魚街道の結節点としても機能していました。街道沿いの子和清水(常盤平)には、かご詰めされた海産物の鮮度を保つために水をかけた「水切り場」であったという伝承も残っています。18世紀の中頃からは、佐倉牧と小金牧で生産された炭の輸送路ともなり、江戸で消費される生鮮食料品に加えて燃料を供給する重要な役割を担うことになりました。こうして松戸の宿と河岸は一層賑わいを増すこととなります。</p> <h3>近代をむかえた松戸</h3> <p>明治時代に入ると水戸道中は国道として整備され、依然として盛んな江戸川水運と相俟って、松戸は交通の要衝として一層発展しました。1878(明治11)年には宮前町に東葛飾郡役所が置かれ(のちに松戸字坂下1315番地へ移転)、これと前後して郵便局、警察署、裁判所が相次いで開設されます。1896(明治29)年には日本鉄道株式会社土浦線(現在のJR常磐線)松戸駅が開設され、その5年後には葛飾橋が架けられ、さらに町</p>

中に電灯が灯るようになりました。こうして松戸の街は、東葛地方の政治・経済の中心地として成長し、人々の暮らしにも大きな変化が見られるようになりました。

戸定邸と徳川昭武

水戸徳川家当主であった徳川昭武は、東京の向島小梅の本邸とは別に、眺望の素晴らしい戸定の地を選び、「私的な住まい」として邸を設けたと考えられます。1884(明治17)年には母親の秋庭や家族とともにこの地へ転居し、多彩な趣味を楽しみながら長い隠居生活を送ります。昭武が住んだ戸定邸は、閑静な環境をそのままに歴史公園として整備され、市民はもとより松戸を訪れた多くの人々に憩いの場を提供しています。



図70 写真撮影中の徳川昭武
1906(明治39)年 (松戸市戸定歴史館所蔵)

描かれた松戸

徳川昭武が後半生に趣味とした写真に収めた松戸の風景を、多くの画家たちも描いています。常磐線の松戸駅が開設されると、松戸は、首都東京から気軽に訪れ、自然に親しむことができる地となりました。1899(明治32)年には、後に彫刻家として偉大な仕事を残す荻原守衛が、当時学んでいた画塾・不同舎の主宰者であった小山正太郎とともに松戸で下車し、「写生遠足」をしたことを日記に記しています。(『礪山日記 つくまのなべ』1980 同朋舎出版)

1928(昭和3)年には、洋画家で美術評論家としても多くの著作のある石井柏亭が、鉄道沿線の各地の写生地を紹介する中で、「常磐線」の項の最初に、松戸を次のように記しています。「松戸 園芸学校の牡丹は東京附近で第一。松戸町から岐れて流山街道に近く水郷的の好画材がある。」(『美術日記 昭和4年版』1928 中央美術社)

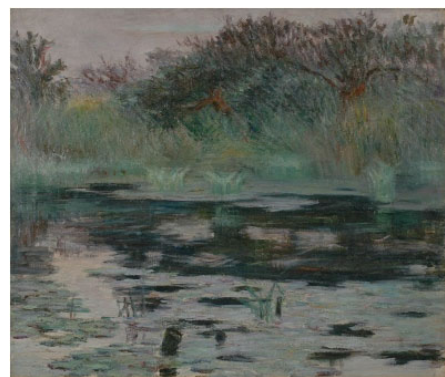


図71 板倉鼎 <<沼>> 1924(大正13)年
(松戸市教育委員会所蔵)

美術社)「園芸学校」(後の千葉大学園芸学部)は、当時関西の長谷寺と並び称された牡丹の名所で、石井自身が同校の牡丹園を描いた作品も現存します(府中市美術館所蔵)。また、「松戸町から岐れて流山街道に近く水郷的の好画材」とは、古ヶ崎を指すものと思われ、その風景を、松戸に居を

定めた田中寅三^{たなかとらぞう}や板倉 鼎^{いたくらかなえ}も描いています。

また江戸川や坂川、緑濃い田園風景、矢切の田圃^{たんぼ}やねぎ畑などを多くの芸術家が捉えています。彼らの作品は、松戸の歴史を物語る上で貴重な資料であるとともに、近代日本美術史を反映しています。

東京高等工芸学校と千葉大学工学部

1945(昭和20)年、岩瀬にあった陸軍工兵学校校舎に東京工業専門学校が移転します。この学校は、1921(大正10)年、東京の芝浦に官立学校として創立された東京高等工芸学校(以下、高等工芸)を前身とし、日本の輸出と産業振興に寄与するデザイナーの育成を目標としていました。初代校長は洋画家の松岡 壽^{まつおかひとし}で、設立当初は工芸図案科、同付属工芸彫刻部、金属工芸科金属製品分科、同精密機械分科、木材工芸科、印刷工芸科の6科でしたが、1916(大正15)年に東京美術学校(現東京藝術大学)の写真科が移管され、印刷工芸科に写真部として設置されました。木材工芸科を指導した木檜 恕一^{こぐれじよいち}や森谷延雄^{もりやのぶお}など、多くの教授陣は欧米留学経験者で、学生たちは彼らを通じて欧米の最先端の技術やデザインを吸収しました。

高等工芸の卒業生の中には、インテリアなどのデザインを手がけた剣持 勇^{けんもちいさむ}や豊口克平^{とよぐちかつへい}、渡辺力^{わたなべりき}、グラフィックデザイナーの大橋 正^{おおはしただし}等、日本の戦後を代表する優れたデザイナーが誕生しています。特に剣持、豊口、渡辺がデザインした製品は現在も生産が続いているものが多く、彼らのデザインが時代に左右されない優れたものであることの証^{あかし}になっています。剣持が1960(昭和35)年にデザインした《藤丸椅子^{とう}》は、ニューヨーク近代美術館のパーマネントコレクション(永久保管作品)に選出されており、海外からも高く評価されています。

また、高等工芸ではデザインの授業だけではなく、純粹美術を学ぶこともできました。これはデザインの素養として絵画や彫刻などの修練も必要だと考えられていたためです。こうしたカリキュラムが影響をしたのか、洋画家赤穴 宏^{あかなひろし}や土屋幸夫^{つちやゆきお}などの芸術家も誕生しました。特に赤穴は、東京工業専門学校が松戸に移転して間もない1946(昭和21)年から同校で教鞭^{きょうべん}をとり、後進の育成にも参加しました。その他、洋画家の和田香苗^{わだかなえ}、山口正城^{やまぐちまさき}、彫刻家の寺畑助之丞^{てらはたすけのじょう}、デザイナーの鈴木豊次郎^{すずきとよじろう}や大橋正^{おほしただし}らも、自身の創作活動の傍らで、同校が松戸にあった時代に指導に携わりました。



図72 ストーリー3 関連文化財群分布図

関連文化財群

構成する文化財

(市指定・有形) 一月寺遺石、(未指定) 句碑<東漸寺・本土寺・八坂神社・妙典寺・蘇羽鷹神社>、葛飾橋・戸定邸・戸定歴史館・千葉大学園芸学部<庭園・温室>

(市指定・有形) 徳川昭武関係資料

(未指定) 斗圍肖像・献句額、(未指定) 個人が所蔵する諸家文書など

(未指定) 金町松戸関所跡・水戸道中と宿場<松戸宿・小金宿>・納屋河岸跡・鮮魚街道・子和清水<水切り場>・萬満寺・大川立砂旧宅跡・普化宗一月寺跡・水戸御殿跡・東京高等工芸学校・陸軍工兵学校・松戸競馬場跡

関連する人物など

発達した鉄道網・小林一茶と大川立砂(油屋平右衛門)・江戸川水運・徳川昭武と母秋庭・徳川慶喜・荻原守衛・小山正太郎・石井柏亭・田中寅三・板倉鼎・松岡壽・木曾恕一・森谷延雄・剣持勇・豊口克平・渡辺力・大橋正・赤穴宏・土屋幸夫・和田香苗・山口正城・寺畑助之丞・鈴木豊次郎

ストーリー4:小金牧から常盤平団地へ

原始		<p>小金牧と御鹿狩^{おしがり}</p> <p>松戸市の東部は、台地へ入り込んだ谷の最奥部にあっており、そのため市内でも比較的起伏の少ない平坦な土地が広がっています。この地域は遺跡も確認されておらず、中世以前の土地利用についてはよく分かっていません。</p> <p>江戸時代には、徳川幕府が経営する小金牧の一部に含まれており、広大な原野が広がっていました。現在の松戸市内には、金ヶ作役所^{のま}と野馬奉行綿貫氏の役宅が設けられており、牧経営の実質的な中心地であったと言えます。また牧では野馬が捕獲され、騎乗用や農耕・運送用に利用されていたほか、牧内に植林した^{くぬぎ}櫨を炭や薪として加工し、大消費地である江戸へ供給していました。</p>
古代		<p>この広大な土地では、江戸時代を通じて4回、徳川将軍の御鹿狩が行われています。本来御鹿狩は、軍事訓練と害獣駆除を目的としていますが、参加する旗本や^ま勢子の装束の華やかさ、スケールが壮大であることなどから、江戸市中をはじめ多くの人々の関心を集め、かわら版や浮世絵などの絵図、ガイドブック的な読み物も出版されています。</p>
中世		
近世	<p>小金牧の経営はじまる 野馬奉行役宅 金ヶ作役所 4度の御鹿狩</p>	<p>大規模な開発の歴史</p> <p>明治時代になって着手された小金牧の^{かいこ}開墾は、入植者たちの長年にわたる辛苦の積み重ねを経て、ようやく大正の末頃には東京近郊における野菜類供給地としての地歩を確立し、実を結ぶことになります。そうした地域の歴史は、小金牧開墾の入植順を意味する五香(5番目)、六実(6番目)という地名や、入植者たちの心の拠りどころとなった善光寺^{たかお}や高竈神社^{こうじつかいしょ}、香実会所跡に建立された開墾碑などにより辿ることができます。</p>
近現代	<p>小金牧開墾 東京近郊の農業が盛んに 六実ゴルフ場 松戸飛行場 大規模な開発 常盤平団地</p>	<p>その後は、武蔵野カンツリー^{くらぶ}倶楽部六実ゴルフ場、逓信省^{ていしんしょう}航空局中央航空機乗員養成所の建設など変化に富んだ土地の改変が進みます。戦後の昭和30年代後半からは、旧陸軍工兵学校の広大な八柱作業場(演習場)の跡地も含め、さらに急速かつ大規模な開発が進行します。稔台と松飛台の工業団地、五香北丘の住宅団地や土地区画整理事業の推進による宅地造成などに</p>

より、現在、私たちが目の当たりにする町並みが整えられていきました。

新しいライフスタイルと常盤平団地

そうした大規模な宅地開発の中で特筆されるべきは、1960(昭和35)年に入居が始まった常盤平団地の造成です。昭和30年代は、テレビ・電気洗濯機・電気冷蔵庫が家庭電化製品の「三種の神器」と呼ばれ、豊かな暮らしを象徴していました。これら電化製品の普及は、人々の暮らしに「生活革命」とも称される大きな変化をもたらしました。家事の合理化や家庭中心の生活、大量消費のはじまりなど、世の中の大きな変革を象徴するものでもありました。常盤平団地で提供された住まいには、こうした最新の生活様式が導入されていました。これは現代の我々がごく普通に享受しているライフスタイルの原型と言えるものです。入居開始から半世紀以上が経過し、建物の老朽化や入居者の高齢化などの問題が生じていますが、新京成電鉄の常盤平駅と五香駅に近い利便性や、「日本の道 100 選」の常盤平さくら通りや、「新日本街路樹 100 景」のけやき通りをはじめとする緑豊かな住環境は、戦後の松戸市発展を象徴する文化財と言えるものでしょう。



図73 常盤平団地航空写真
(1962(昭和 37)年頃撮影)

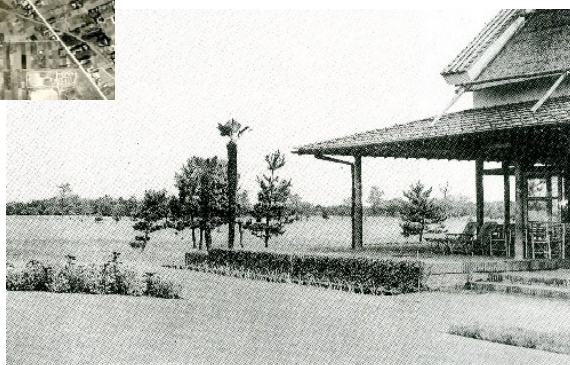


図74 武蔵野カンツリー倶楽部六実ゴルフ場
(『松戸市制 50 周年記念誌はばたき』)



図75 ストーリー4 関連文化財群分布図

関連文化財群

構成する文化財

(国登録・有形)旧齋藤邸<竹紙房>、(未指定)高靄神社・二十世紀梨・開墾碑
 (市指定・有形)幸谷観音野馬捕りの献額・寛政7年小金原御鹿狩絵図
 (市指定・記念物)野馬除土手、(未指定)小金牧・野馬奉行役宅跡・金ヶ作役所跡・御立場<五香公園>・五香六実の開墾事業・松飛台工業団地・稔台工業団地・北丘団地・新京成電鉄・常盤平団地<新しい生活様式<三種の神器>>・東武鉄道・武蔵野カンツリー倶楽部六実ゴルフ場跡・通信省航空局中央航空機乗員養成所と飛行場跡・土地区画整理事業・陸軍工兵学校と八柱演習場跡・八柱霊園・さくら通りとけやき通り

関連する人物など

御鹿狩・野馬奉行綿貫氏・松戸覚之助・水上勉・杉村楚人冠<『続・湖畔吟』>

ストーリー5: 祈りと娯楽の系譜

原始		<p>さんびきししまい まんさくおど 三匹獅子舞と万作踊り</p> <p>人々は日々の営みや人生の節目に、様々なかたちで神仏へ祈りを捧げてきました。豊かで安定した暮らしを願う祈りの機会は、また同時に楽しみの中となることも多かったようです。上本郷、和名ヶ谷、大橋の三地区に伝承される三匹獅子舞にも、観客を意識した衣装や演者の振る舞いが見られます。上本郷の本福寺で演じられることが多かったとされる万作踊りは、もともと祝いの席で行われた芸能で、踊り手や演じる人々も地域の農民たちであり、素朴な娯楽として楽しまれてきた民俗芸能です。</p>
古代		<p>「参詣」という楽しみ</p> <p>各地の名所旧跡や有名な神社仏閣への参詣は、古くより多くの人々が楽しみとしてきたものですが、パワースポットや聖地巡礼などを含め、現代においても旅行の目的にしている人は多いのではないのでしょうか。</p>
中世		<p>江戸時代以降、いわば信仰と旅行が一体化した物見遊山が盛んになります。神社や寺院の境内に建つ石造物には、伊勢神宮や金刀比羅神社への参拝を祈念して造立されたものが数多く見られ、小山の浅間神社や竹ヶ花の雷電神社には、富士山の登山道を模した疑似的な参道が残されています。江戸時代以降、庶民でも比較的手軽に行えるようになった旅行を、この地域の人々も参拝と行楽を兼ねて楽しんでいたことが分かります。</p>
近世	<p>庶民の旅が盛んになる</p> <p>三匹獅子舞 万作踊り</p>	<p>近代の娯楽</p> <p>松戸中央公園のある相模台に、かつて競馬場があったことはあまり知られていないかもしれません。明治時代に行われた日清・日露の二つの戦争の経験から、軍用馬の体格向上と供給体制の整備が課題となり、その解決策として競馬会の開催が奨励されました。松戸競馬場はそうした機運に乗って開設されたものです。出来上がった競馬場は、地形の制約からきれいな周回コースが作れず不評だったそうですが、運営母体は後に船橋へ移転、現在の日本中央競馬会(JRA)中山競馬場へ引き継がれていきます。</p>
近現代	<p>松戸競馬場 松戸初の常設 映画館開館 六実ゴルフ場</p>	

1924(大正13)年には松戸町で常設の映画館「常盤館」が営業を開始しています。日本初の常設映画館が浅草に誕生してから21年後のことで、そのころは映画をまだ「活動写真」と呼んでいた無声映画の時代でした。

1926(大正 15)年には、小金牧の一部であった現在の高柳と六高台の地に、武蔵野カンツリー倶楽部六実ゴルフ場がオープンしました。1937(昭和12)年に社団法人日本旅行協会が発行した『房総・水郷・常磐地方』という旅行ガイドには、「總武鐵道(現在の東武鉄道)六實驛から半キロメートル。武蔵野カントリー倶楽部所屬のゴルフ場で、緩傾斜の理想的地形を有している。十八ホール、全長六五五三ヤード土曜日及日曜には松戸から乗合自動車が出る。グリーンフェー(ビジターズ) 日曜、祝祭日 一日三圓 其他の日 一日二圓」と紹介されています。ジャーナリストで文筆家の杉村楚人冠もメンバーの一人で、『続・湖畔吟』などの随筆には当時のゴルフ場周辺の情景が描写されています。

明治以降、人々は早い時期から時代の先端に行く新しい娯楽を積極的に受け入れ、大いに楽しんでいたようです。

松戸の特色ある景観

春は東漸寺(小金)のシダレザクラや市内各所で開催される桜まつり、初夏には本土寺のアジサイと菖蒲、また市内各所の寺社で見ることのできる秋の紅葉などは、これまでも、市内外から多くの行楽客を集めてきました。

もとは耕作のため川を往き来する農民の移動手段であった「矢切の渡し」は、低地で栽培される矢切ねぎの畑や、その背景に続く斜面林とともに、松戸を代表する景観と言えます。

また谷津田の広がる里山の景観を活かして整備された「21世紀の森と広場」には、様々な水辺の生物を観察することができる環境が維持され、親子連れなど多くの市民に親しまれています。

さらに松戸市の発展を象徴する常盤平団地においても、敷地内や街路樹など豊かな緑と人々の暮らし、あるいは町並みとの調和を見て取ることができます。

このように、東京近郊にありながら豊かな自然と特色ある景観が維持されていることこそ、松戸の大きな魅力と言えるでしょう。



図76 矢切の渡し
(『松戸市制 50 周年記念誌はばたき』)



図77 ストーリー5 関連文化財群分布図

関連文化財群

構成する文化財

(国重文・有形)木造金剛力士立像、(市指定・有形)阿弥陀如来坐像<萬満寺>、(未指定)円光大師<東漸寺>・白毫光顕祖師<本土寺>、金山神社・浅間神社・雷電神社
 (市指定・民俗)三匹獅子舞<明治神社/風早神社/日枝神社/胡籙神社>・松戸の万作踊り、(未指定)浅間信仰<浅間神社/雷電神社の三つの小さな富士山>
 (未指定)出開帳・松戸競馬場跡・21世紀の森と広場・けやき通りと常盤平団地の緑地・八柱霊園と参道・浅間神社など寺社の森
 (市指定・記念物)本土寺<アジサイ・紅葉>・東漸寺<シダレザクラ>
 (未指定)武蔵野カンツリー倶楽部六実ゴルフ場跡・坂川沿いの風景と松戸宿・矢切の渡し・斜面林

関連する人物など

坂川献燈まつり・桜まつり・杉村楚人冠(『続・湖畔吟』)

第3節 ストーリーを活かした総合的な取組

松戸の歴史文化の特徴を明らかにし、松戸の地域性と魅力を分かりやすく伝えるため、5つのストーリーをまとめました。本節ではこれらストーリーについて、基本方針ごとに具体的に実施する取組と年次計画を整理します。

ストーリー1:豊かな海の記憶と水辺の暮らし

〔調査に関する課題〕 小中学校で行われている郷土学習の教材とされる、その地域で営まれた生業に関わる民俗資料についての把握は、まだ調査が必要な状況です。市内に所在する貝塚については、これまで多くの発掘調査を実施し、その成果を発掘調査報告書にまとめ刊行してきました。その一方で、十分な自然科学分析が行えていない資料も残されています。

〔調査に関する施策〕 地域で営まれた人々の暮らしに関わる文化財を掘り起こすため、新たな調査への取り組みを推進します。江戸川沿いの低地に所在する小中学校を対象とし、把握調査を計画的に進めていきます。貝塚の調査に関しては、出土した自然遺物の分析や調査研究を行います。

表 24 ストーリー1の取組1

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
1	新たな文化財の把握調査 江戸川沿いの低地に所在する小中学校を対象に、教材として所蔵されている民俗資料の把握調査を進める。	文化財保存活用課 博物館 専門家					—
7	市所蔵資料の調査研究 東平賀遺跡をはじめ、貝塚から出土した自然遺物に関する自然科学分析や調査研究を推進する。	文化財保存活用課					—

〔活用に関する課題〕 従来の普及事業では、江戸川沿いの低地をテーマとして取り上げる機会は少なかったと言えます。隣接する流山市や市川市や、縄文時代の貝塚が多い船橋市などと連携した取り組みも推進する必要があります。優れた景観や、ブランド化している製品等と松戸の歴史文化とを結び付けた新たな事業を促し、地域振興や観光へ繋げる取り組みも課題です。

〔活用に関する施策〕 多様な手法を採用して伝え方のバージョンアップを図り、効果的な情報発信の強化を推進します。将来的には江戸川沿いの低地を有する隣接の流山市や市川市、縄文時

代の貝塚が多い船橋市などと連携した取り組みも検討します。優れた景観や、ブランド化している
 産品等と歴史文化を結び付けた学びに繋がる事業を促し、地域振興や観光への活用も促進しま
 す。

表 25 ストーリー1に関する取組3

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
31	効果的な情報発信のための 普及事業の見直しと改善 江戸川や坂川などの水辺の暮 らしや、幸田貝塚など縄文時代 の遺跡に関する情報を読み込ま せた QR コードを標識柱や説明 板へ貼付する。史跡めぐりや講 座に新たな情報発信技術を導 入する。	文化財保存活用課					—
32	周辺市や関係機関等との連 携 千葉県北西部地区文化財行政 担当者連絡協議会の発表会等 を通じ、近年の調査成果等を用 いた普及活動を行う。	文化財保存活用課 市民					発表会： 2年毎に開催
33	「歴史の道」の整備 ストーリーで取り上げる事物・事 象が広範囲に点在するため、史 跡めぐりなど他の普及事業とリ ンクした活用を図る。	文化財保存活用課 博物館					—
35	観光・商工関係部署や団体 との連携 歴史の道に関する検討や事業 で協力する。	文化財保存活用課 博物館 にぎわい創造課 市民					—

ストーリー2:交流の広がりから高城氏の時代へ

〔調査に関する課題〕 高城氏^{たかぎ}が拠点とした小金を中心とした地域には、古くからの歴史を有する
 寺社が多数存在しますが、これら寺社の所蔵する仏像や絵画、工芸品についての悉皆的な調査
 が必要です。また近年、古墳時代や中世の発掘調査による情報が増加してきているため、市が所
 蔵する出土品や記録について総括的な調査研究を進める必要が増してきています。

〔調査に関する施策〕 新たな把握調査を実施して、小金城主高城氏の時代に関わる資料の掘り起こしを推進します。発掘調査により得られた資料についても、活用の基礎となる調査研究を推進します。

表 27 ストーリー2に関する取組1

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
1	新たな文化財の把握調査 萬満寺や慶林寺など小金地区に所在する寺院所蔵の文化財について、悉皆的な調査を推進する。	文化財保存活用課 博物館 専門家					—
7	市所蔵資料の調査研究 小金古墳群や栗山古墳群、小金城や根木内城の出土資料について、調査研究を推進する。	文化財保存活用課 博物館					—

〔保存に関する課題〕 旧家などが所蔵する文化財のほか、歴史公園についても現状確認が定期的に行えていないのが現状です。遺跡の一部を保存している歴史公園では、露出展示の雨水による埋没や浸食、落ち葉や雑草の処理などについて、関係課と連携して対策を講じる必要があります。

〔保存に関する施策〕 個人等が所蔵する文化財や歴史公園の現状確認を実施します。また歴史公園については、庁内担当部署やボランティア活動団体との連携を深め、緑と城跡の遺構保全をバランスよく推進することや、良好な状態で保存できるよう検討します。

表 28 ストーリー2に関する取組2

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
11	個人等が所蔵する文化財の現状確認 市史編さん時に調査した旧家所蔵資料の現状を計画的に確認する。	博物館 専門家					年1件 実施
14	歴史公園等の現状確認と維持管理 大谷口歴史公園や根木内歴史公園では、良好な状態で保存が行えるよう管理方法の検討を行う。	文化財保存活用課 公園緑地課 市民					—

〔活用に関する課題〕 小金城や本土寺の所在する地域で実施する普及事業は、これまでも多くの市民に好評を得てきましたが、比較的若い世代の参加率が低い傾向にあります。松戸市内に所在する古墳群は、距離的に離れているため一体的な活用が難しく、また多くが私有地内に所在し、随意的見学等に向かないことも課題です。

〔活用に関する施策〕 効率よく周遊できる「歴史の道」の整備を進め、また従来から行っている普及事業と新たな情報発信の手法を組み合わせ、幅広い世代へ向けたアピールを強化します。観光・商工関係部署や団体との連携により、地域振興や観光への活用を検討します。

表 29 ストーリー2に関する取組3

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
31	効果的な情報発信のための普及事業の見直しと改善 距離的に離れている古墳群については、従来から行っている史跡めぐりや歴史の道の整備と、新たな情報発信の手法を組み合わせ、効果的な活用を進める。	文化財保存活用課					—
33	「歴史の道」の整備 小金地区を中心に巡るコースを検討する。	文化財保存活用課 博物館					—
35	観光・商工関係部署や団体との連携 歴史の道に関する検討や事業で協力する。	文化財保存活用課 博物館 にぎわい創造課 市民 事業者					—

〔支援に関する課題〕 ストーリー2の舞台となる地域は、多くの文化財を所蔵する寺社が集中する地域ですが、文化財の維持管理や修理に関する支援は指定文化財である場合に限定されているのが現状です。

〔支援に関する施策〕 把握調査や現状確認に基づき、効果的な支援が可能となる仕組みづくりを検討します。

表 30 ストーリー2に関する取組4

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
38	財政的な支援をはじめとする支える仕組みづくりの検討 小金地区の寺社に対して財政的な支援のほか、防災・防火と防犯、文化財の修復等に関する情報提供や、管理上の問題点について情報交換を円滑に行う仕組みをつくる。	文化財保存活用課					—

ストーリー3:宿場・河岸から街へ -人とモノの行き交う場で育まれた歴史文化-

〔調査に関する課題〕 水戸道中や鮮魚街道^{なま}についての新たな視点からの再整理や調査が必要です。松戸市に関連する美術作品・資料についての基礎的な調査や、戸定邸^{とじょうてい}や徳川昭武^{あきたけ}に関する研究を継続し、その成果についても整理を進め、まとめる必要があります。

〔調査に関する施策〕 旧松戸宿と水戸道中、河岸^かと鮮魚街道、戸定邸と徳川昭武、松戸に関連する美術作品等について、新たな調査への取り組みと継続的に行っている調査研究を促進します。

表 31 ストーリー3に関する取組1

No.	取組名／取組の概要	取組の主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
1	新たな文化財の把握調査 水戸道中や鮮魚街道の新たな視点からの把握調査を実施する。	博物館 専門家					—
3	戸定邸及び徳川昭武に関する調査 収蔵資料・寄託資料の調査研究を継続して進める。	戸定歴史館					—
5	美術作品・資料に関する調査 東京高等工芸学校及び千葉大学工学部に関連する日本近代デザイン史、建築史等に関する調査を行う。	美術館準備室					—

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
7	市所蔵資料の調査研究 板倉鼎、松岡壽資料の再調査 等を行う。	美術館準備室					—

〔保存に関する課題〕 旧家が所蔵する^{かし}河岸関係の資料や旧宿場町の建築物や民家等については、定期的な現状確認を行う必要があります。松戸市に関連する美術作品や資料は、分散収蔵の状態にあるため、全体の点検に時間と労力を要している状況です。また^{とじょうてい}戸定邸を適切に維持管理するためには、保存活用計画の策定が大きな課題です。

〔保存に関する施策〕 個人等が所蔵する文化財や旧宿場町の建築物等については、適宜、現状確認を進めていきます。分散収蔵の状態にある美術作品等は、適切な修復を適切なタイミングで実施するため、計画的な点検による状態の把握を進めます。戸定邸の建物と庭園は保存活用計画に基づく維持管理を実施します。

表 32 ストーリー3に関する取組2

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
8	文化財情報の整理・データベース化・公開 デジタルミュージアムを拡充する。市所蔵美術作品ポジフィルムをデジタルデータ化する。	美術館準備室					—
11	個人等が所蔵する文化財の現状確認 市史編さん時に調査した旧家所蔵資料の現状を計画的に確認する。	博物館 専門家					—
15	所蔵美術作品と資料の修復計画立案 東京高等工芸学校関係者作品及び資料の修復計画を立案する。	美術館準備室					—
18	旧徳川昭武庭園の維持管理 庭園の保存活用計画に基づき、戸定邸庭園の管理を行う。 (植栽の育成・管理)	戸定歴史館 公園緑地課 専門家 事業者					—

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
19	「戸定邸保存活用計画」の策定と推進 戸定邸保存活用計画を策定し、戸定邸は防災対策の実施や大規模修理、徳川昭武居住期の状態への復原を目指すための調査を実施する。	戸定歴史館 専門家					計画策定

〔活用に関する課題〕 旧宿場町の佇まいを活かす取り組みを検討する必要があります。松戸市に関連する美術に関しては、活用利用できる専用の拠点が無いことが課題です。戸定邸と庭園としやうていの持つ魅力を一体的に発信する取組が必要です。また戸定歴史館は、展示室や収蔵・作業スペースが手狭になり、様々な問題が生じています。

〔活用に関する施策〕 戸定邸と戸定歴史館、文化複合施設などの展示空間・施設の整備と刷新を図り、幅広い世代へ向けた情報発信の強化に努めます。また旧宿場町に残る民家等を活かす工夫なども含め、地域振興や観光への活用も検討します。

表 33 ストーリー3に関する取組3

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
27	戸定邸・戸定歴史館展示施設再整備の検討 展示室展示ケース照明のLED化等、展示施設の充実に向けた検討を進める。	戸定歴史館 建築保全課 専門家					—
28	文化複合施設の検討 市所蔵美術品の常設展示やその他優れた美術品の公開、現代に活躍する作家の紹介等を行う機能の検討を行う。	文化財保存活用課 美術館準備室 社会教育課					—
29	学校との連携強化 小中学校における出張展示や出前講座等の実施や、千葉大学工学部との連携を検討する。	文化財保存活用課 美術館準備室 学校等教育施設					—
30	ICT を活用した情報発信の充実 デジタル美術館の拡充及び子ども向けコンテンツの拡充を検討する。	文化財保存活用課 美術館準備室					—

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
31	効果的な情報発信のための普及事業の見直しと改善 実物の市所蔵美術作品・資料に触れる機会を増やす。	文化財保存活用課 美術館準備室					松戸市に関連した美術展示:年1回
33	「歴史の道」の整備 旧松戸宿・河岸を核とするエリアと二つの道、相模台を中心とした学びのエリアなど、地域の特色を活かした周遊コースの整備を進める。	文化財保存活用課 博物館 戸定歴史館					—
34	ボランティアガイドなどの人材育成 戸定邸および戸定が丘歴史公園を案内するボランティアガイド等に対し、学芸員を講師とした研修を実施する。	戸定歴史館 市民					—
35	観光・商工関係部署や団体との連携 戸定が丘歴史公園、松戸神社周辺の坂川沿いにおいて、地域振興や観光に繋がるイベントなどで協力する。	戸定歴史館 にぎわい創造課 市民 事業者					—

〔支援に関する課題〕 旧松戸宿を核とするエリアは、多くの寺社や街道沿いの民家が残されている地域ですが、文化財の維持管理や修理に関する支援は指定文化財である場合に限定されているのが現状です。

〔支援に関する施策〕 把握調査や定期的な現状確認に基づき、効果的な支援が可能となる仕組みづくりを検討します。

表 34 ストーリー3に関する取組5

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
38	財政的な支援をはじめとする支える仕組みづくりの検討 旧宿場町関係の文化財について財政的な支援のほか、防災・防火と防犯、文化財の修復等に関する情報提供や、管理上の問題点について情報交換が円滑に行う仕組みを検討する。	文化財保存活用課					—

ストーリー4:小金牧から常盤平団地へ

〔調査に関する課題〕 ストーリーの舞台となっている地域は、中世以前に遡る文化財が少ないことが課題となっていました。

〔調査に関する方針〕 地域の旧村や、近現代の歴史について、これまでに集積してきた情報を整理し、地域の魅力発見につながる新たな調査への取り組みを推進します。また松戸市所蔵資料についても再評価を進めます。

表 35 ストーリー4に関する取組1

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
1	新たな文化財の把握調査 旧村単位の調査の前段階として、地域の文化財把握調査を行う。	文化財保存活用課 博物館 市民 専門家					—
2	旧村単位の学際的な調査 近世以来の旧村について、これまでに集積してきた情報を整理し、さらに「大字ごとの歴史」を複数の学問分野共同で調査研究を行う。	博物館 市民 専門家					—
7	市所蔵資料の調査研究 小金牧や御鹿狩について、さらなる調査の推進と、蓄積された資料の再評価を行う。	博物館					—

〔保存に関する課題〕 市指定の「こがねまきごこうむつみのまよけどて小金牧五香六実野馬除土手」の維持管理に関しては、枯死した樹木や折れ枝の処分、台風通過後の清掃、ゴミの不法投棄の防止などが課題です。

〔保存に関する施策〕 「文化財パトロール」を強化し、継続的かつ計画的な現状確認を行います。中長期的な計画に基づく維持管理を推進します。

表 36 ストーリー4に関する取組2

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
12	文化財パトロールと情報収集の強化 文化財保護協力員との情報交換や連携により、野馬除土手などの現状確認を強化する。	文化財保存活用課 市民					—

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
14	歴史公園等の現状確認と維持管理 五香六実野馬除土手の枯死した樹木を早期に発見し、剪定や除去が行える現状確認と、中長期的な計画に基づいた維持管理を推進する。	文化財保存活用課 市民					五香六実野馬除土手は整備

〔活用に関する課題〕 近代以降、急速かつ大規模な土地の改変が進んだこの地域には、現存する文化財が少なく、そのことが活用を進める上での制約として認識されてきました。

〔活用に関する方針〕 古い写真や映像資料を用い、幅広い世代へ向けた情報発信を強化します。観光や商工関係など幅広い分野との連携に加え、かつてのこがねまき小金牧内に含まれる周辺市との連携も視野に入れ、地域振興や観光への活用を検討します。

表 37 ストーリー4に関する取組3

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
33	「歴史の道」の整備 常盤平のさくら通りやけやき通り、常盤平団地を周遊するコースを検討する。	文化財保存活用課 博物館					—
35	観光・商工関係部署や団体との連携 歴史の道の検討や事業で協力する。	文化財保存活用課 博物館 にぎわい創造課 市民 事業者					—

〔支援に関する課題〕 広範囲に及ぶ野馬除土手のまよけどてに対し、現状確認に携わる人員が限られています。定期的な現状確認の実施が必要です。

〔支援に関する施策〕 行政とともに文化財の保護に取り組む市民の育成を進めます。定期的な現状確認に基づき、効果的な支援が可能となる仕組みづくりを検討します。

表 38 ストーリー4に関する取組4

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
36	文化財所有者等との意見交換や情報共有の円滑化 野馬除土手の土地所有者との意見交換や、アンケートによる問題の共有を図り、支える仕組みづくりに役立てる。	文化財保存活用課 市民					アンケート 年1回実施
37	文化財の保護に取り組む市民の育成 常盤平や五香地区など地域独自のテーマの講座を開催し、身近な歴史文化に興味を持ち保護活動に協力する市民の発掘に努める。	文化財保存活用課 市民					—
38	財政的な支援をはじめとする支える仕組みづくりの検討 野馬除土手などの文化財について、防犯など、管理上の問題点について情報交換を円滑に行う仕組みをつくる。	文化財保存活用課					—

ストーリー5:祈りと娯楽の系譜

〔保存に関する課題〕 無形の民俗文化財のうち特に万作踊り^{まんさくおど}については、後継者の確保と育成が切実な課題となっています。

〔保存に関する施策〕 無形の民俗文化財継承に係る支援を推進します。

表 39 ストーリー5に関する取組2

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
23	無形の民俗文化財の後継者確保・育成へのサポート 「松戸の万作踊り」や「松戸の三匹獅子舞」などの継承者に対し、発表の場の確保など、継承のサポートを行う。	文化財保存活用課 市民					—

〔支援に関する課題〕 民俗文化財の保存団体によっては、会員の高齢化に伴い団体の運営に関わる事務が円滑に行えていない場合が稀に見受けられます。

〔支援に関する施策〕 財政的な支援と支える仕組みづくりの検討を進めます。

表 40 ストーリー5に関する取組

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
36	文化財所有者等との意見交換や情報共有の円滑化 民俗文化財の保存団体との意見交換や、アンケートによる問題の共有化を図り、支える仕組みづくりに役立てる。	文化財保存活用課 市民					アンケート 年1回実施
38	財政的な支援をはじめとする支える仕組みづくりの検討 民俗文化財について、道具の修理や購入業者の選定や、会の運営に関する助言を行う。	文化財保存活用課					—

第9章 文化財の防災・防火と防犯

第1節 現状と課題

(1)防災・防火の現状と課題

文化財や資料を適切に保存することは不可欠ですが、例年の指定文化財所有者・管理者に対するアンケートでは、防災・防火について不安を感じているという意見が比較的多く見られます。

他方、地域における人の繋がりが希薄になり、関係者の高齢化も進んでいる状況があります。

大切な文化財を確実に次世代へ継承するためには、地震や火災等に対する備えや、被災による影響を最小限に止める対策を確立することはもちろん、文化財所有者・管理者の個別の状況を正確に把握しておくこと、防災・防火に関する有意な情報を提供すること、適宜、連絡・連携のできる良好な関係を築いておくこと等が必要と考えられます。

従って、文化財防火デーに合わせて行っている防災訓練や、防災設備の点検に加え、今後は連絡網の整備、発災時の状況調査や対応の仕方、被災した文化財への応急措置など、文化財所有者・管理者と行政、地域住民が連携して取り組む体制を整備しておくことが必要とされるでしょう。

さらに消火器や探知機、警報機、柵や囲いの設置などにつき、財政的な支援や仕組み作りに向けた検討を進める必要もあります。

(2)防犯の現状と課題

先ほどのアンケートでは、防犯についても多くの人が関心を持ち、しかも不安を感じていることが分かります。防災・防火の場合と同様、文化財所有者・管理者の個別の状況を正確に把握すること、防犯に関する有意な情報を提供すること、適宜、連絡・連携のできる良好な関係を築いておくこと等が必要と考えられます。

また美術工芸品の盗難や、落書きなどによる文化財の汚損については、予防策を講じることはもちろんのこと、事案発生後の適切な処置に関する情報を整理し、文化財所有者・管理者と共有しておく必要があります。警報機、柵や囲いの設置などにつき、財政的な支援や仕組み作りに向けた検討を進める必要があります。

第2節 防災・防火と防犯に関する方針

(1)防災・防火に関する方針

令和3年度作成の「松戸市地域防災計画」では、文化財の所有者・管理者に対し、担当部署への発災時の連絡と被害の拡大防止に努めることを求めています。また文化財担当部署には、被害

状況を調査して国・県へ報告すること、文化財所有者と地域住民等と協力し、必要に応じた応急的修理等の救済措置を講じることを定めています。

以上を踏まえ、日頃から防災・防火に対する意識を高め、被害を未然に防ぐための取り組みを推進します。文化財の所有者・管理者や近隣住民とともに、ハザードマップに示されている災害情報の確認や、防災・防火に関する設備等についての情報共有、非常時の際の連絡網整備、倒木などの危険を回避する応急的な対処法などについて見直しと確認を進め、文化財所有者・管理者と行政、地域住民が連携して防災・防火に取り組む体制を整備します。

(2)防犯に関する方針

文化財を保護する柵や防犯設備の有無など、日常的な管理状態の点検を行います。文化財所有者・管理者に対し防犯に関する設備等の情報を提供し、非常時の際の連絡先と対処方法を確認します。また防災・防火の場合と同様、文化財所有者・管理者と行政、地域住民が連携して防犯に取り組む体制を整備します。

さらに防犯に関する必要な財政的支援や、制度の確立に向けた検討もあわせて進めてまいります。

第3節 防災・防火と防犯に関する取組

(1)防災・防火に関する行政と文化財所有者・管理者の役割と取組

防災・防火対策

文化財保存活用課は、ハザードマップ等を活用しつつ、文化財やその収蔵施設が所在する地域で起こり得る災害を想定し、文化財所有者・管理者の防災意識向上にむけた取り組み、防災計画の作成、防災施設整備への支援等を行います。

戸定歴史館は、重要文化財の建造物(旧徳川家松戸戸定邸)について、「国宝・重要文化財(建造物)等の防火対策ガイドライン」(文化庁次長通知)に準拠した防火対策と、活用計画策定にむけた耐震対策を実施します。また旧徳川昭武庭園(戸定邸庭園)については、風水害の軽減を図るため、植栽や排水施設、建物周辺の環境などにつき、既に成立している庭園の保存活用計画に則った管理及び整備を推進します。

市立博物館が所蔵する重要文化財(千葉県幸田貝塚出土品)については、「国宝・重要文化財(美術工芸品)を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」(文化庁次長通知)に準拠した防火対策を継続して行っています。

所有者・管理者は、消防局からの指導に基づく危険個所の確認と点検を定期的に行います。さらに防火責任者を定めた上での防災計画の作成、防災及び消火設備の設置と管理、体制整備と消防訓練等を行います。また風水害の軽減を図るため、植栽の管理や排水施設、建物周辺の環境整備を進め、必要に応じて耐震対策も講じます。

表 41 防災・防犯に関する取組 ※薄い色は準備期間。濃い色は実施期間。

No.	取組名／取組の概要	取組主体	年次計画(令和○年度)				KPI (重要業績 評価指標)
			5.6	7.8	9.10	11.12	
1	防災・防火と防犯についての啓発 維持管理上の問題点についてアンケート調査を実施し、防災・防火と防犯に関する備えについての情報を提供。	文化財保存活用課 市民					年1回 実施
2	連絡体制の整備と防災・防犯に関する役割確認、マニュアル作成 防災・防犯対策や非常時の役割と連絡体制などを盛り込んだマニュアルを作成し、文化財所有者・管理者や近隣住民へ配布。	文化財保存活用課 市民					—
3	文化財の保護に取り組む市民の育成 (p96・表 22・取組 37 参照)	文化財保存活用課 市民					4名増員
4	防災訓練と設備の点検 文化財防火デーに合わせ、地域住民が参加するかたちでの防災訓練の実施。防災設備の点検。(本土寺・萬満寺など)	文化財保存活用課 市民					年1回 3箇所以上で 実施
5	指定文化財候補の台帳作成 (p90・表 12・取組9参照)	文化財保存活用課 博物館					—
6	「戸定邸保存活用計画」の策定と推進 (p91・表 15・取組19参照)	戸定歴史館 専門家					計画策定
7	戸定邸と庭園の防災・防火対策推進 旧徳川家松戸戸定邸について、「国宝・重要文化財(建造物)等の防火対策ガイドライン」(文化庁次長通知)に準拠した防火対策、旧徳川昭武庭園(戸定邸庭園)は、	戸定歴史館					—

	風水害の軽減を図るため、庭園の保存活用計画に則った管理及び整備を推進。						
8	防災・防火と防犯の設備に関する支援 文化財所有者・管理者に対し、消火器や火災警報器、探知機や警報機の設置など、予防的設備についての財政的支援と制度の検討。	文化財保存活用課 市民					—
9	被災した文化財の救済 被災した文化財の救済・修繕等に関する制度や財政的支援の検討。	文化財保存活用課 市民					—

災害発生時

文化財所有者や地域の人々の安全を優先させつつ、文化財の被害状況について調査・把握した内容を県に報告します。被害が甚大であり調査が困難な場合には、その旨を報告した上で、県に対し被害状況調査を要請します。文化財や収蔵施設が被災して保存に影響を及ぼす恐れがある場合も、県に対し報告した上で救援要請をします。

収蔵する文化財が被災し、国立文化財機構文化財防災センター等へ救援を要請する場合は、県を経由して行います。

発掘調査の現場において発災した場合は、現場責任者が所属する組織に状況を伝達し(民間調査組織による発掘調査現場の場合は市へ報告した上で)、県へ報告します。その後は県が集約した被害状況を基に、県と市が連携して被害の拡大防止に努めます。

所有者・管理者は、安全を確保した上で、被害状況を確認して市へ報告します。

災害時の応急措置と災害復旧

文化財所有者や地域住民と協力し、あくまで被害拡大を防ぐため、あるいは安全を確保する範囲内で、応急的修理等の救済措置を行います。被災した文化財が国・県指定の文化財である場合は、その指定区分に応じ、国や県と連携し災害復旧の支援にあたります。補助事業による復旧を要望する場合は、情報を精査した上、国・県とすみやかに協議に入り、文化財所有者等による補助金申請などの手続きに技術的支援を行います。市指定文化財や、博物館等に収蔵している寄託された文化財については、文化財所有者等による災害復旧への支援に努めます。発掘調査の現場において発災した場合、調査担当者は安全を確保した上で、被害の拡大防止と

復旧にあたります。被害が現場の外へ拡大している場合は、民間の調査組織、市・県と情報を共有し、連携して被害の拡大防止と復旧にあたります。

所有者・管理者は、安全を確保した上で、応急的措置や被害の拡大防止に努めます。

また指定有形文化財のうち建造物については、市の協力を得て、二次的災害からその文化財を保護し、歴史的、文化的価値が失われないよう対処します。

美術工芸品をはじめとする指定有形文化財や、その他の有形文化財を収蔵・展示する施設が被災した場合は、県、市、地域住民などの協力を得て、可能な限りすみやかに当該施設から搬出し、保護を図ります。

記念物については、市の協力を得て、二次的倒壊や崩落を極力防止するため、応急措置を講ずることとします。

所有者・管理者が行う災害復旧は、国指定文化財は国と県、県指定文化財は県と市の指導・助言の下、必要に応じてそれらの支援を受けながら行います。

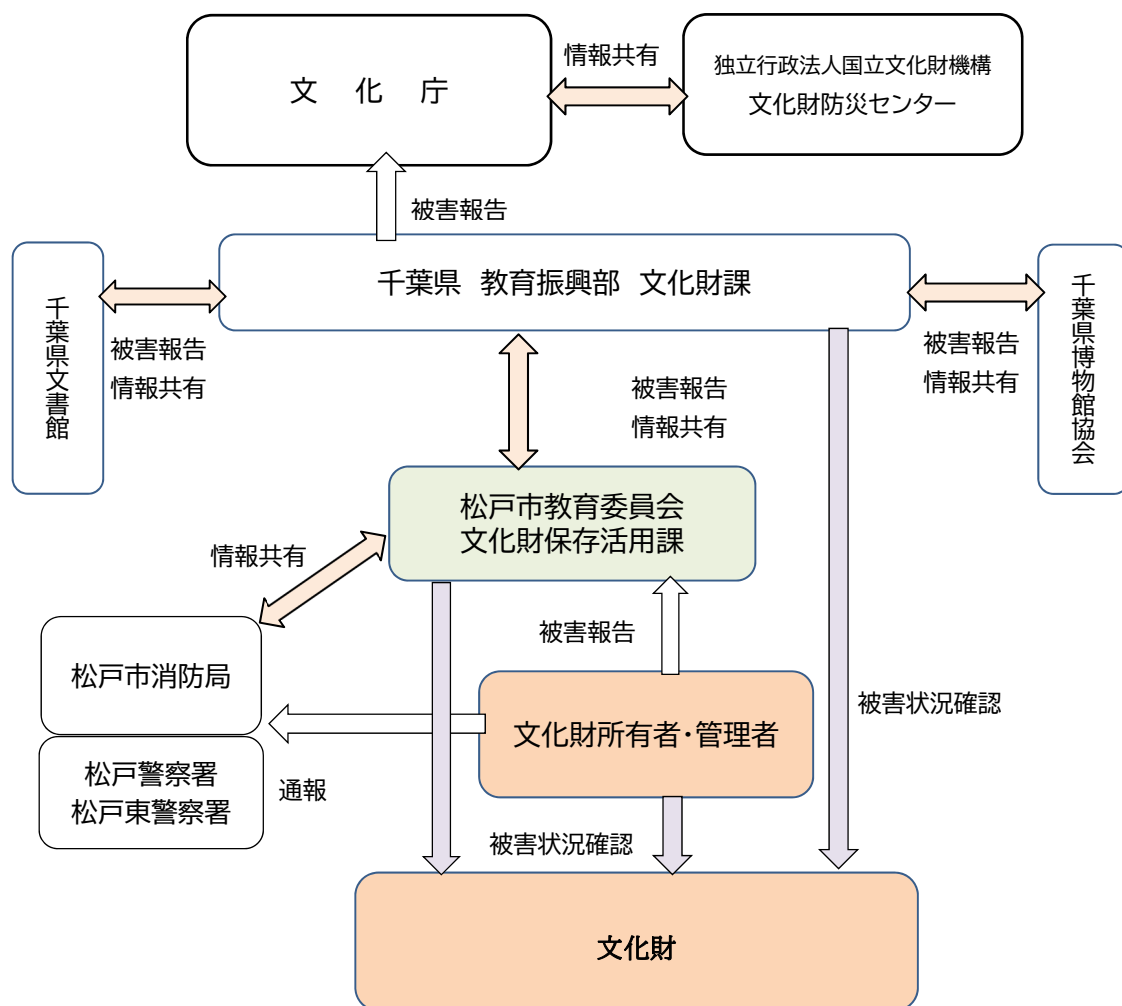


図78 緊急時等の連絡体制

(2)防犯に関する行政と文化財所有者・管理者の役割

防犯対策

文化財保存活用課は、文化財保護協力員や関係団体の協力を得ながら、文化財とその周辺の見回りを定期的実施します。施錠や防犯カメラの設置、及びその点検と表示を行うことも必要です。公開している文化財については、所有者・管理者、県や市、必要に応じて近隣市民や警察とも連携した警備体制の充実を図ります。また被害に遭った場合に備え、文化財やその周辺の状況を画像などで記録しておくことも有効です。

所有者・管理者は、警察や市とすみやかに連絡が取れるよう準備します。

毀損・盗難の発生時

文化財所有者・管理者からの連絡を受けた場合、すみやかに県へ通知します。また文化財所有者・管理者から聞き取りを行い、毀損・盗難現場の状況を確認し、県や警察と連携して対応にあたります。

所有者・管理者は、異常を発見した場合、すみやかに最寄りの警察へ通報して対応にあたり、あわせて市へも連絡します。

第10章 計画の評価と推進体制

第1節 計画作成の体制

本計画の作成にあたっては、学識経験者、文化財所有者、関係機関役員、行政からは関係部署の所属長により構成される「松戸市文化財保存活用地域計画策定懇話会」(表43)と、関係各課の担当者から成るワーキングチーム(表44)を組織し、計画作成のための検討を行うとともに、松戸市文化財審議会(表42)から意見を聴取しています。

2020(令和2)年度から計画素案づくりに着手し、2021(同3)年10月に市民アンケート、2023(同5)年1月にはパブリックコメントを実施し、そこで得られた意見や情報を取り入れつつ検討を重ねました。これと並行して千葉県教育委員会の助言と、文化庁からの指導・助言を受け、同年3月には素案をまとめました。

表42 松戸市文化財審議会(令和5年3月現在)

	氏名	所属(専門分野)
会 長	藤井 英二郎	千葉大学名誉教授(環境植栽学)
委 員	渋谷 文雄	渋谷文雄一級建築士事務所(建築史)
	佐藤 孝之	東京大学名誉教授(近世史)
	湯浅 治久	専修大学教授(中世史)
	松浦 有一郎	東京国立博物館名誉館員(考古学)
	菊池 健策	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 無形文化遺産部 客員研究員 (民俗学)
	武笠 朗	実践女子大学教授(仏教美術史)

表43 松戸市文化財保存活用地域計画策定懇話会

	氏名	所属(専門分野)
座 長	片田雅文(令和2年度)	松戸市教育委員会 生涯学習部長
	渡部優樹(令和3年度)	
	藤谷 隆(令和4年度)	
座長代理	瀬谷真一(令和2年度)	松戸市教育委員会 生涯学習部 社会教育課長(令和2・3年度)
	白井真美(令和3年度)	
	関根嗣人(令和4年度)	松戸市教育委員会 生涯学習部 文化財保存活用課長(令和4年度)

	氏名	所属(専門分野)
構成員	小島孝夫	成城大学 文芸学部教授(民俗学) (松戸市立博物館協議会委員)
	池邊このみ	千葉大学大学院 園芸学研究科教授(都市緑地学) (戸定邸保存活用審議会委員・松戸市景観審議会委員)
	田邊 学	(株)カラープランニングセンター 代表取締役 (松戸市景観審議会委員)
	梅田篤隆	本土寺 主事補(文化財所有者)
	青野逸堂	萬満寺 住職(文化財所有者)
	須田昌彦(令和2・3年度) 平林大介(令和4年度)	(一社)松戸市観光協会 常務理事
	富永尚次	松戸商工会議所 理事
	石井得治郎	(公財)松戸市文化振興財団 理事兼事務局長
	田中文昭(令和2・3年度) 金井一喜(令和4年度)	千葉県教育庁 教育振興部 文化財課長
構成員 (関係部署 所属長)	菊池治秀(令和2年度) 川野康仁(令和3年度) 三根秀洋(令和4年度)	松戸市教育委員会 生涯学習部 教育企画課長(令和2・3年度) 松戸市教育委員会 生涯学習部 教育総務課長(令和4年度)
	藤谷 隆(令和2・3年度) 白井真美(令和4年度)	松戸市教育委員会 生涯学習部 生涯学習推進課長(令和2・3年度) 松戸市教育委員会 生涯学習部 社会教育課長(令和4年度)
	堤 和子(令和2年度) 小山智之(令和3年度)	松戸市教育委員会 生涯学習部 博物館次長
	後藤泰之(令和2年度) 藤田和子(令和3年度)	松戸市教育委員会 生涯学習部 戸定歴史館長
	吉野桂子(令和2年度) 菊地聖子(令和3・4年度)	松戸市教育委員会 学校教育部 指導課長(令和2・3年度) 松戸市教育委員会 学校教育部 学習指導課長(令和4年度)
	中村健二(令和2・3年度) 矢野貴久(令和4年度)	松戸市 経済振興部 文化観光国際課長(令和2・3年度) 松戸市 経済振興部 にぎわい創造課長(令和4年度)
	谷口 武(令和2年度) 湯浅 勝(令和3・4年度)	松戸市 街づくり部 都市計画課長
	大竹英貴(令和2・3年度) 橋本貢一(令和4年度)	松戸市 総合政策部 政策推進課長

表 44 ワーキングチーム(庁内関係課担当者)

氏名	所属	職制
座長:関山純也	生涯学習部 社会教育課	主幹 学芸員
多田真聡(令和2年度) 下井勇太(令和3年度)	生涯学習部 教育企画課	主事 主事
齋藤麻美(令和2年度) 佐野友華里(令和3年度)	生涯学習部 生涯学習推進課	主任主事 主事
小林孝秀(令和2年度) 富澤達三(令和3年度)	生涯学習部 博物館	主査 学芸員 主査 学芸員

氏名	所属	職制
小川滋子	生涯学習部 戸定歴史館	主任主事 学芸員
甲高哲也(令和2年度) 川口博史(令和3年度)	学校教育部 指導課	指導主事 指導主事
赤井裕司(令和2年度) 柳川 誠(令和3年度)	経済振興部 文化観光国際課	主査 主査
張ヶ谷昌代(令和2年度) 横田雅一(令和3年度)	街づくり部 都市計画課	課長補佐 課長補佐
平田 直(令和2年度) 高橋優紀(令和3年度)	総合政策部 政策推進課	主査 主任主事

表 45 地域計画作成の経過

作成の経過

2020(令和2)年度

4月	「松戸市文化財保存活用地域計画策定懇話会に関する要綱」施行	
6月	令和2年度第1回文化財審議会	文化財保存活用地域計画の概要の説明
7月	第1回ワーキングチーム会議	文化財保存活用地域計画の概要の説明
	第1回懇話会	策定スケジュールについて
10月	第2回ワーキングチーム会議	「松戸市文化財保存活用地域計画」のひな形となる構成案の提示
		市民アンケートの実施について
	令和2年度第2回文化財審議会	「松戸市文化財保存活用地域計画」のひな形となる構成案の提示
11月	第2回懇話会	「松戸市文化財保存活用地域計画」のひな形となる構成案の提示
		文化財の定義、現状と課題について
		市民アンケートの実施及び質問内容について
令和3年 1月	第3回ワーキングチーム会議	市民アンケートの質問内容について意見交換
		3月にも書面による意見聴取を実施
2月	令和2年度第3回文化財審議会	作業の進捗報告と意見聴取

2021(令和3)年度

7月	第4回ワーキングチーム会議 (書面開催)	文化財の定義、現状と課題について
		歴史文化の特徴について
8月	第3回懇話会	歴史文化の特徴について
		市民アンケートの実施について
9月	第5回ワーキングチーム会議	「松戸の自慢、大切なもの、好きなおとこ」をテーマとしてワークショップ実施

10月	令和3年度第1回文化財審議会	作業の進捗報告と意見聴取
	第6回ワーキングチーム会議	「松戸の自慢、大切なもの、好きなところ」をテーマとしてワークショップ実施
11月	第4回懇話会	課題－方針－措置の整理
		歴史文化の特徴を分かりやすく伝えるための「ストーリー(案)」の提示
		今後のスケジュールについて
	文化庁との協議(京都)	「松戸市文化財保存活用地域計画」(素案)についての指導
令和4年 1月	第5回懇話会	課題－方針－措置の検討
		第7章までの素案提示
2月	文化庁との協議(松戸市)	現地視察と指導
	令和3年度第2回文化財審議会	作業の進捗報告と意見聴取
3月	文化庁との協議(京都)	「松戸市文化財保存活用地域計画」(素案)についての指導

2022(令和4)年度

6月	文化庁との協議(リモート)	「松戸市文化財保存活用地域計画」(素案)についての指導
7月	関係団体の意見聴取	地域計画(素案)について説明
11月	第6回懇話会	地域計画(案)の説明・承認
	文化財審議会委員による検討会	地域計画(案)の説明・検討
	地域計画(案)完成	
12月	定例教育委員会会議	地域計画(案)とパブリックコメントについて説明
	松戸市議会12月定例会	地域計画(案)とパブリックコメントについて説明
令和5年 1・2月	パブリックコメントの実施	市ホームページにて地域計画(案)公開
3月	令和4年度第2回文化財審議会	地域計画(案)について説明・承認
	松戸市議会3月定例会	地域計画(案)とパブリックコメントについて報告
	臨時教育委員会会議	地域計画(案)のパブリックコメントについて報告・承認
	文化庁へ地域計画(案)提出	

2023(令和5)年度

7月	文化庁へ認定申請、長官による認定	
----	------------------	--

第2節 進捗管理及び評価

文化財の保存・活用を着実に推進するためには、本計画に基づく進捗管理と自己評価を適切に実施していくことが重要です。松戸市では、「松戸市文化財審議会」(表42)において本計画の

進捗管理を行い、計画を推進する上での問題等を把握して適切な対策を検討するものとします。また計画期間が8年となるため、方針ごとに目標値と「重要業績評価指標(KPI)」を設定して適切な進捗管理を行い、5年目(令和9年度)には計画した事業の進捗と中間評価を実施します。計画内容の見直しについては、財政状況や社会状況の変化などを勘案しつつ、必要に応じて随時実施するものとします。

その際、「計画期間の変更」、「市の区域内に存する文化財の保存に影響を及ぼすおそれのある変更」、「そのほか文化財保存活用地域計画の実施に支障が生じる恐れのある変更」については、変更の手続きを行います。また上記に該当しない軽微な変更の場合は、その内容について千葉県教育委員会を経由して文化庁へ報告するものとします。

第3節 推進体制と関係機関及び団体

松戸市の文化財保護行政は、教育委員会生涯学習部文化財保存活用課が所管しています。本計画に掲げた取組について、関係する部署、文化財の所有者・管理者、市民、関連する民間団体、研究機関(専門家)、事業者などと連携体制を整備し、協同して推進します。なお、2023(令和5)年4月時点における文化財保存活用課と関係部署の業務内容、関連する民間団体などについては、次表に示したとおりです。

(1) 主管課の体制

表 46 文化財保存活用課の体制

教育委員会 生涯学習部 文化財保存活用課	
文化財の指定及び保存に関すること。文化財の調査・活用に関すること。文化財審議会に関すること。埋蔵文化財の発掘及び整理に関すること。博物館の予算・経理・物品の管理に関すること。博物館の施設及び設備の維持管理に関することなど。 職員 13 名 うち専門職員6名(考古学4・日本近代美術史1・日本近代デザイン史1)	
美術館準備室	
美術館等の開設に関すること。美術資料の調査及び研究、整理、修理、記録、収集、保存、管理、展示に関すること。美術品等選定評価委員会に関すること。取得基金に関すること。 上記職員のうち3名(専門職員2名)配置	
	文化財保存活用課 博物館
	歴史・考古・民俗・自然史に係る資料の収集・保管・展示に関すること。 職員 10 名 うち専門職員7名(考古学2・中世史1・近世史1・近代史1・民俗学2)
	文化財保存活用課 戸定歴史館
	松戸徳川家、戸定邸等、戸定が丘に係る歴史資料の収集・保存・公開に関すること。 職員4名 うち専門職員1名(西洋美術史1)

(2)教育委員会及び市長部局の関係施設・関係課等

表 47 庁内関係課

教育委員会	
生涯学習部 教育総務課	教育行政の主要施策に係る関係機関との連絡調整に関する事。
生涯学習部 社会教育課	社会教育行政の総合調整に関する事。
生涯学習部 図書館	図書・資料の収集・保存・貸出に関する事。本館・地域館ほか分館 18 館。
学校教育部 学習指導課	教育課程及び教育内容に関する事。
農業委員会	
農業委員会事務局	農地転用に関する事。埋蔵文化財の取り扱いに関する調整。
市長部局	
総合政策部 政策推進課	総合計画に関する事。政策推進のための総合調整に関する事。
総合政策部 公共施設再編課	公共施設の再編に関する事。
総合政策部 広報広聴課	市政情報の提供に関わる事業の企画調整に関する事。広報活動に関する事。
経済振興部 商工振興課	商工業振興施策の推進と総合調整に関する事。
経済振興部 にぎわい創造課	観光資源の整備、多様な文化・芸術の活用に関する事。
経済振興部 国際推進課	国政親善・国際交流に関する事。多文化共生の推進に関する事。
街づくり部 都市計画課	都市計画・景観形成に関する事。
街づくり部 住宅政策課	住宅開発事業等に関する事前協議。
街づくり部 建築審査課	建築基準法に基づく建築に関する申請、及び建築設備の審査等に関する事。埋蔵文化財の取り扱いに関する事業者への情報提供。
街づくり部 建築保全課	市有建築物の保全、建築及び設備設計・工事(監理・監督)に関する事。
街づくり部 公園緑地課	公園緑地の維持管理・調査・計画・新設・改良に関する事。
都市再生部 松戸駅周辺整備振興課	松戸駅周辺まちづくり基本構想の総合調整。松戸駅周辺の地域活性化及び市街地整備。
総務部 危機管理課	防災知識の普及に関する事。自主防災組織の育成に関する事。
消防局 予防課	火災予防の施策に関する事。防火・防災の市民指導に関する事。
消防局 警防課	災害対策に関する事。

(3)松戸市文化財審議会(表 42)

「松戸市文化財の保護に関する条例」に従い、文化財の保存・活用に関し教育委員会の諮問に答え、または意見を具申し、必要な調査研究を行うために設置されており、学識経験を有する10人以内の委員により構成されます。主な取り組みは、文化財の指定と本計画に関する助言と指導です。

(4)千葉県北西部地区文化財行政担当者連絡協議会

文化財行政に関わるさまざまな問題について、千葉県北西部地区の各市町が情報や意見を交換し、認識の共有化を図る場として設置されました。現在は11市(我孫子、市川、浦安、柏、鎌ヶ谷、流山、習志野、野田、船橋、松戸、八千代)により構成されています。協議会の第2分科会では、1999(平成11)年度から隔年で開催している文化財発表会や企画展、講習会なども開催しており、市の枠を越えた活動を続けています。

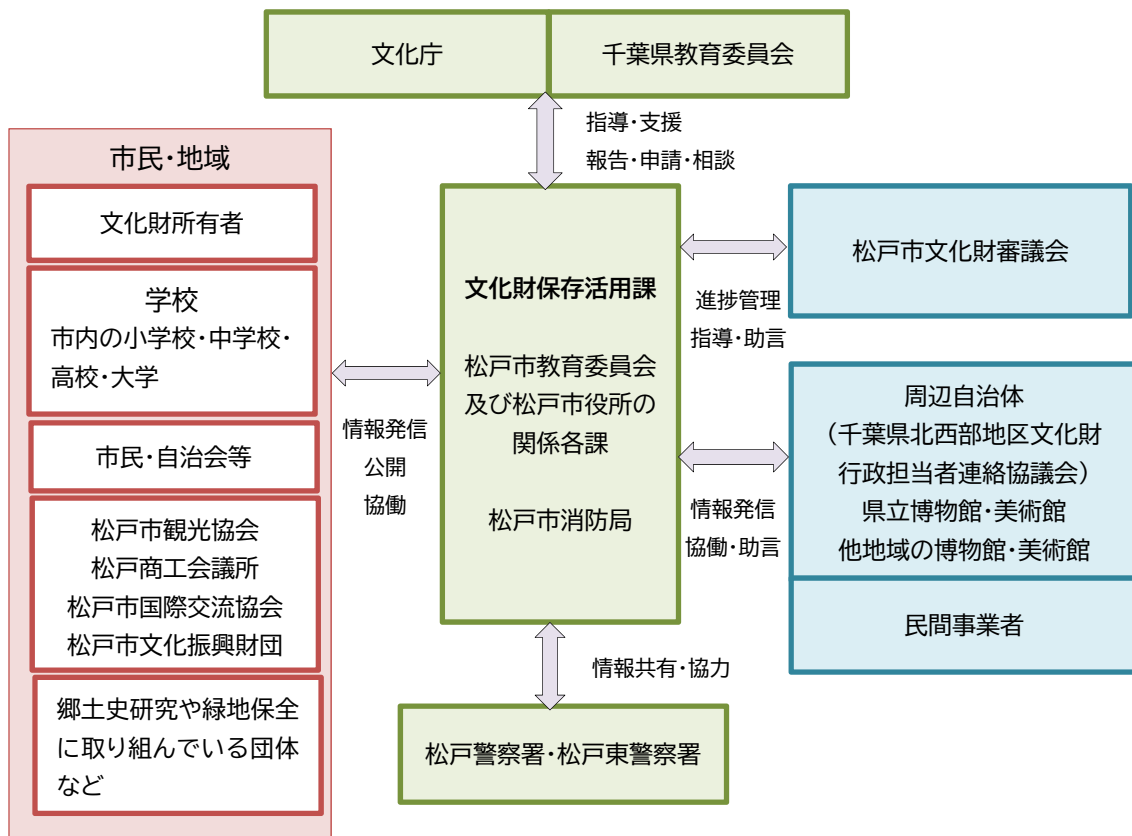


図79 推進体制(関係図)

(5)千葉県の関係機関・施設等

千葉県教育庁教育振興部文化財課は、千葉県内の文化財行政に係る広範な事務を所管しており、本計画作成に際しても緊密な情報共有を図り、指導と支援を受けています。

表 48 千葉県の関係機関等

千葉県教育庁 教育振興部 文化財課	文化財保護に関する事務を所管している。
千葉県博物館協会	会員である県内の博物館・美術館相互の連絡を図り、博物館活動の振興と教育・学術・文化の発展に寄与することを目的とする。
千葉県文書館	県の公文書、房総の歴史を記録する古文書などの資料を系統的に収集保存している。

(6)協力・関係団体等

本計画を推進していくためには、行政と「市民」、ここに掲げた「協力・関係団体」が一体となって協働することが必要です。

表 49 民間の協力・関係団体等

公益財団法人 松戸市文化振興財団	市民の文化活動の振興と助成に関する取り組み。
公益財団法人 松戸市国際交流協会	歴史・文化その他の特性を生かした国際交流活動を行う。
一般社団法人 松戸市観光協会	観光事業の振興を図り、産業文化の発展向上に資する活動を行う。
松戸商工会議所	松戸市の商工業全体の振興、総合的な改善と発展を目指す。
文化財保護協力員	担当地域の文化財の保護、保存並びに災害の防止に協力する。
松戸市立博物館友の会	博物館と協力し、地域文化の向上と市民の学習を支援する。
松戸シティガイド	観光協会所属の観光ボランティアガイド。戸定邸を中心に活動する。
まつど匠ガイド	英語・中国語で松戸の文化財を紹介する観光協会所属のボランティアガイド。
松戸史談会	郷土史の研究会。保護協力員とともに文化財の巡回に協力。
根っ子の会	根木内歴史公園を主な活動の場とし、緑と史跡の保全に貢献する。

第4節 推進体制の現状と課題

文化財の保存・活用を推進するためには、専門的な知識や経験を有する職員の確保と、適所への配置が必須です。現在の松戸市においては、専門職員の高齢化に伴う世代交代が進行中であり、人材不足が大きな問題になっている部署もありますが、部署ごとに複数の専門職員を計画的に配置し、バックアップと引継ぎが容易に行える体制を構築する必要があります。さらに専門職員をサポートする会計年度任用職員の確保と育成も重要な課題です。

また文化財の保存・活用を、行政と共同して行ってきた団体メンバーの高齢化と人員確保も問題になってきています。市民や関係団体、学校、専門家、庁内関係部署との連携も、個別的であり、十分な連携が図られていないことも課題です。

第5節 体制整備の方針

文化財の保存・活用を担う「人づくり」を重要な課題の一つとして取り組みます。

各部署の専門職員は、研修会への参加等による個々の資質向上に努め、さらに外部の専門家や周辺市の専門職員との連携・共同なども進めます。また人材を適所に配置し、世代交代が円滑になされるよう配慮します。

文化財保護協力員については、文化財の巡回を行うなど活動の幅を広げます。

専門職員のサポートとなる会計年度任用職員についても、必要な人数確保に努めるほか、業務を通じて技能向上を図るなど育成に努めます。

市立博物館では博物館友の会との連携を強化します。

戸定邸などの案内を行っている松戸シティガイドが、学芸員による研修を行い、個々の資質向上を図ることは、文化財の保存・活用を担う「人づくり」の観点からも重要な取り組みとなります。

最後に、本計画の実施に際しては、市民や関係団体、学校、専門家、庁内関係部署との連携を図り、国や県の指導及び助言に基づき、「文化財保護法」の関連法令や認定によって受けられる特例等を有効に活用し、円滑かつ着実に推進してまいります。

資料編

目次

1. 指定文化財・登録文化財一覧	142
2. 文化財調査報告及び資料目録等一覧	144
(1) 市史及び市史編纂事業	144
(2) 展示図録・研究紀要等	144
(3) 国・県による調査	147
(4) その他の文化財調査	148
(5) 埋蔵文化財発掘調査	148
3. 把握している文化財（指定等を除く）の地区別一覧	153
(1) 有形文化財・建造物（建築）	153
(2) 有形文化財・建造物（石造物）	155
(3) 有形文化財・美術工芸品	194
(4) 民俗文化財	198
(5) 埋蔵文化財	200
(6) 記念物	208
4. 市民アンケート調査の概要	209

1. 指定文化財・登録文化財一覧

No.	指定区分			名称	所在地	指定年月日
1	国指定	有形文化財	彫刻	木造金剛力士立像	馬橋 萬満寺	S25.8.29
2	国指定	有形文化財	古文書	大学三郎御書(日蓮筆)	平賀 本土寺	S43.4.25
3	国指定	有形文化財	古文書	諸人御返事(日蓮筆)	平賀 本土寺	S43.4.25
4	国指定	有形文化財	工芸品	梵鐘(建治四年在銘)	平賀 本土寺	S52.6.11
5	国指定	有形文化財	考古資料	千葉県幸田貝塚出土品	千駄堀 松戸市立博物館	H6.6.28
6	国指定	有形文化財	建造物	旧徳川家松戸戸定邸	松戸 戸定が丘歴史公園	H18.7.5
7	国指定	記念物	名勝	旧徳川昭武庭園 (戸定邸庭園)	松戸 戸定が丘歴史公園	H27.3.10
1	県指定	記念物	天然記念物	浅間神社の極相林	小山 浅間神社	S41.12.2
2	県指定	民俗文化財	無形	松戸の万作踊り	千駄堀・上本郷・日暮	S45.4.17
3	県指定	有形文化財	古文書	富城殿御返事	平賀 本土寺	S52.3.8
4	県指定	有形文化財	古文書	本土寺過去帳(天正本) 附本土寺過去帳(明暦本)	平賀 本土寺	S62.2.27
5	県指定	有形文化財	工芸品	銅透彫華籠	平賀 本土寺	S63.3.30
1	市指定	記念物	天然記念物	東漸寺のシダレザクラ	小金 東漸寺	H24.2.9
2	市指定	記念物	史跡	二十世紀梨誕生の地	二十世紀が丘梨元町 二十世紀公園	S40.3.9
3	市指定	記念物	史跡	本土寺	平賀 本土寺	S41.5.17
4	市指定	記念物	史跡	秋山夫人の墓所	平賀 本土寺	S41.5.17
5	市指定	記念物	史跡	高城氏の墓所	中金杉 広徳寺	S41.5.17
6	市指定	記念物	史跡	桂林尼の墓所	殿平賀 慶林寺	S41.5.17
7	市指定	記念物	史跡	経世塚	岩瀬 聖徳大学	S44.4.1
8	市指定	記念物	史跡	河原塚1号古墳	紙敷 私有地	S44.4.1
9	市指定	記念物	史跡	河原塚4号古墳	河原塚 河原塚中学校	S55.7.21
10	市指定	記念物	史跡	幸田貝塚	幸田 幸田第一公園	H7.4.13
11	市指定	記念物	史跡	小金牧五香六実 野馬除土手	五香 六高台 市有地	R3.3.11
12	市指定	民俗文化財	無形	松戸の獅子舞	和名ヶ谷日枝神社 大橋胡籙神社 上本郷風早神社・明治神社	S44.4.1
13	市指定	有形文化財	彫刻	木造不動明王立像	馬橋 萬満寺	S41.5.17
14	市指定	有形文化財	彫刻	鑄造魚籃観音立像	馬橋 萬満寺	S41.5.17
15	市指定	有形文化財	古文書	高城・原氏等判物	平賀 本土寺	S41.5.17
16	市指定	有形文化財	歴史資料	幸谷観音野馬捕りの献額	幸谷 福昌寺	S41.5.17
17	市指定	有形文化財	彫刻	阿弥陀如来立像	二ツ木 光明寺	S44.4.1

No.	指定区分			名称	所在地	指定年月日
18	市指定	有形文化財	建造物	一月寺遺石	馬橋 萬満寺	S44.4.1
19	市指定	有形文化財	建造物	庚申板碑	千駄堀 松戸市立博物館	S44.4.1
20	市指定	有形文化財	工芸品	鉦鼓	上本郷 本福寺	S44.4.1
21	市指定	有形文化財	彫刻	阿弥陀三尊仏	上本郷 本福寺	S44.4.1
22	市指定	有形文化財	工芸品	太鼓	殿平賀 慶林寺	S44.4.1
23	市指定	有形文化財	彫刻	阿弥陀如来坐像	馬橋 萬満寺	S55.7.21
24	市指定	有形文化財	歴史資料	徳川昭武関係資料	松戸 戸定歴史館	S55.7.21 H17.11.10
25	市指定	有形文化財	絵画	寛政七年小金原御鹿狩絵図	千駄堀 松戸市立博物館	S55.7.21
26	市指定	有形文化財	歴史資料	金龍山一月寺旧蔵 木造普化禪師立像他	千駄堀 松戸市立博物館	S55.7.21
27	市指定	有形文化財	古文書	豊臣秀吉の制札	馬橋 萬満寺	S59.6.7
28	市指定	有形文化財	建造物	慶安三年銘庚申塔	古ヶ崎 圓勝寺	S63.12.15
29	市指定	有形文化財	建造物	嘉永五年銘庚申塔	東松戸 廣龍寺	S63.12.15
30	市指定	有形文化財	建造物	寛文八年銘庚申塔	下矢切 下矢切庚申塚	S63.12.15
31	市指定	有形文化財	建造物	寛文元年銘道祖神	馬橋 王子神社	S63.12.15
32	市指定	有形文化財	建造物	柳原水閘	下矢切 柳原排水機場	H7.4.13
33	市指定	有形文化財	建造物	安蒜家長屋門	千駄堀 私有地	H14.7.15
34	市指定	有形文化財	建造物	土屋家長屋門	千駄堀 私有地	H14.7.15
35	市指定	有形文化財	歴史資料	二十世紀梨の原木	千駄堀 松戸市立博物館	H14.7.15
36	市指定	有形文化財	建造物	松戸中央公園正門門柱(旧 陸軍工兵学校正門門柱)	岩瀬 松戸中央公園	H21.6.18
37	市指定	有形文化財	建造物	旧陸軍工兵学校歩哨舎	岩瀬 松戸中央公園	H21.6.18
38	市指定	有形文化財	古文書	高城氏制札	小金 東漸寺	H24.2.9
39	市指定	有形文化財	絵画	二十五菩薩来迎図	小金 東漸寺	H24.2.9
40	市指定	有形文化財	考古資料	坂花遺跡出土「國厨」銘 骨蔵器(蔵骨器)	千駄堀 松戸市立博物館	H27.9.25
41	市指定	有形文化財	考古資料	小野遺跡出土帯金具(銚帯 金具)	千駄堀 松戸市立博物館	H27.9.25
42	市指定	有形文化財	絵画	松戸神社神楽殿天井絵及び 杉戸絵	松戸 松戸神社	H28.7.28
43	市指定	有形文化財	建造物	松龍寺山門	松戸 松龍寺	H29.4.13
44	市指定	有形文化財	古文書	西原文書	千駄堀 松戸市立博物館	H30.8.10
45	市指定	有形文化財	古文書	豊前氏古文書	千駄堀 松戸市立博物館	H30.8.10
46	市指定	有形文化財	建造物	寛永二年銘庚申塔	幸谷 福昌寺	R2.4.9
1	国登録	有形文化財	建造物	旧齋藤家住宅主屋	紙敷 市有地	H29.6.28
2	国登録	有形文化財	建造物	千葉県水道局栗山配水塔	栗山 県有地	H29.10.27

2. 文化財調査報告及び資料目録等一覧

(1) 市史及び市史編纂事業

－市史－

- 『松戸市史 上巻』－原始・古代・中世－ 1961 松戸市役所
『松戸市史 下巻(一) 明治編』 1964 松戸市誌編さん委員会編 松戸市役所
『松戸市史 下巻(二) 大正昭和編』 1968 松戸市誌編さん委員会編 松戸市役所
『松戸市史 中巻 近世編』 1978 松戸市誌編さん委員会編 松戸市役所
『松戸市史 上巻(改訂版) 原始・古代・中世』 2015 松戸市教育委員会編 松戸市

－資料・資料編・目録－

- 『松戸市史料 第一集』 1958 松戸市誌編纂委員会編 松戸市役所
『松戸市史料 第二集』 1958 松戸市誌編纂委員会編 松戸市役所
『松戸市史料 第三集』 1958 松戸市誌編纂委員会編 松戸市役所
『松戸市史料 第四集 松戸町誌・小金町誌(大正六年)』 1964 松戸市誌編纂委員会編 松戸市役所
『松戸市史 史料編(一) 大熊家文書』 1971 松戸市誌編纂委員会編 松戸市役所
『松戸市史 史料編(二) 近世諸家文書』 1973 松戸市誌編纂委員会編 松戸市役所
『松戸市史 史料編(三) 萬満寺史料』 1983 松戸市史編さん委員会編 松戸市立図書館
『松戸市史 史料編(四) 本土寺史料』 1985 松戸市史編さん委員会編 松戸市立図書館
『松戸市史 史料編(五) 秋谷家文書(上)』 1990 松戸市史編さん委員会編 松戸市立図書館
『松戸市史 史料編(五) 秋谷家文書(下) 付「八柱誌」』 1993 松戸市史編さん委員会編 松戸市立図書館
『松戸市史 史料編(六) 東漸寺史料』 1994 松戸市史編さん委員会編 松戸市立図書館
『松戸市古文書目録(一) 諸家文書』 1979 松戸市総務部市誌編さん室編 松戸市
『松戸市古文書目録(二) 諸家文書』 1980 松戸市総務部市誌編さん室編 松戸市
『松戸市古文書目録(三) 本土寺文書他』 1984 松戸市史編さん委員会編 松戸市立図書館
『松戸市古文書目録(四) 秋谷家文書』 1987 松戸市史編さん委員会編 松戸市立図書館

(2) 展示図録・研究紀要等

－松戸市文化ホール(歴史・民俗関係)－

- 『板碑』 1981 文化ホール紀要四
『松戸市内石造文化財所在調査概報Ⅰ 寺院編』 1985 文化ホール紀要八
『松戸市内石造文化財所在調査概報Ⅱ 神社編』 1986 文化ホール紀要九
『松戸市内石造文化財所在調査概報Ⅲ 路傍編』 1987 文化ホール紀要十
『松戸市内石造文化財所在地図』 1989 文化ホール紀要 12

－松戸市立博物館(歴史・民俗関係)－

展示図録

- 『常設展示図録』 1994
『改訂版 常設展示図録』 2004
『特別展縄文土器の世界』 1993
『松戸写真館－カメラがとらえた松戸の人々－』 1993
『救いの民俗－地獄極楽冥土の旅路－』 1994
『馬と牧 かつて松戸は牧場[まきば]だった』 1994
『稲と魚 水田をめぐる漁・猟・採集』 1995
『特別展古墳時代の飾り馬－馬利用のはじまりを探る－』 1995
『ネアンデルタール人の復活』 1995

『小金城主高城氏』1996(補訂版 2001)
『シルクロードとガンダーラ』1997
『水戸道中 宿場と旅人』1998
『特別展 福神の世界』1998
『貝塚を考える』1999
『戦後松戸の生活革新—新しい暮らし方へのあこがれ—』2000
『中世の東葛飾—いのり・くらし・まつりごと—』2001
『はにわの十字路—古代東国の交流と地域性—』2002
『特別展 川の道 江戸川』2003
『昔のくらし探検<松戸版>』2004
『ベルシャ文明の曙』2005
『戦国の城をさぐる』2006
『大名の旅—本陣と街道』2007
『縄文時代の東・西』2008
『人生儀礼の世界』2009
『湯浅喜代治コレクション—夢を追った70年—』2009
『東日本の古墳と渡来文化』2012
『松戸の発掘 60年小史』2013
『高度経済成長とプラスチック』2014
『石斧と人』2016
『本土寺と戦国の社会』2017
『市政施行 75周年 開館 25周年記念特別展 ガンダーラ 仏教文化の姿と形』2018
『松戸と徳川將軍の御鹿狩』2020
『企画展古墳時代のマジカルワールド』2021

調査報告書・資料集・目録

『送り大師—東葛印旛大師講の人々』1993 松戸市立博物館映像記録 VTR
『千葉県松戸市の三匹獅子舞(ビデオ付)』1994 松戸市立博物館調査報告1
『縄文時代以降の松戸の海と森の復元』1994 松戸市立博物館調査報告2
『松戸市小金東漸寺所蔵資料目録』松戸市立博物館歴史資料集1 1994
『松戸小金東漸寺所蔵資料目録』1994
『松戸市民家調査報告書』1996 松戸市立博物館調査報告3
『松戸市松戸(旧納屋河岸)青木源内家所蔵資料目録追加』1997
『松戸市旧宿場町建築物調査報告書』1999 松戸市立博物館調査報告4
『大谷口遺跡の土師器と須恵器』『松戸市史考古資料集1』2006
『千駄堀寒風遺跡出土遺物を中心とする考古資料』『松戸市史考古資料集2』2008
『関場遺跡第2地点出土石器資料報告・寒風台遺跡出土石器再整理報告』『松戸市史考古資料集3』2009
『上本郷遺跡出土の縄文時代後期から晩期を中心とする考古資料』『松戸市史考古資料集4』2010
『農村松戸の民俗』2014 松戸市立博物館調査報告5
『松戸市役所広報課 旧蔵写真目録』2018 松戸市立博物館調査報告6
『奥井コレクションのイスラーム陶器』2022

研究紀要

『松戸市立博物館紀要』1994~2023 第1号~第29号

年報

『松戸市立博物館年報』1993~2022 第1号~第30号

その他

『江戸川の社会史』2005 同成社刊

－戸定歴史館－

展示図録

- 『文明開化のあけぼのを見た男たち』1993
『幕末幻の油絵師 島 霞谷』1996
『古写真に探る 幕末徳川の城』1999
『徳川慶喜家 最後の家令』2010
『徳川昭武の屋敷 慶喜の住まい』2011
『没後100年 徳川慶喜』2011 松戸市戸定歴史館・静岡市美術館
『プリンス・トクガワ』2012
『プリンス・トクガワ 近代徳川家の女性たち』2020
『プリンス・トクガワ』改訂版 2021

史料集・目録

- 『松戸徳川家資料目録 第1集』1989 松戸市教育委員会
『松戸徳川家資料目録 第2集』1990 松戸市教育委員会
『徳川昭武幕末滞欧日記』史料集1

研究紀要

『戸定論叢』1号～5号 1990～1996 松戸市教育委員会

調査報告書

『戸定邸(旧徳川昭武松戸別邸)保存修理工事報告書』1993 松戸市教育委員会

－松戸市教育委員会(美術館準備室)－

展示図録等

- 『田中寅三ー松戸に根をおろした白馬会の画家ー』1994
『デザインの揺籃時代展 東京高等工芸学校の歩み[1]』1995
『松戸市所蔵美術品展』1996
『松戸市所蔵美術品展』1997
『視覚の昭和 1930-1940年代 東京高等工芸学校の歩み[2]』1998
『創造と伝統の木版画家 奥山儀八郎展』1999
『デザインにつぼんの水脈展 東京高等工芸学校の歩み[3]』2000
『松岡壽とその時代展』2002
『暮らしを彩ったグラフィックデザイナーの60年 大橋 正展』2002
『ジャパニーズ・モダン 剣持勇とその世界』2004 財団法人松戸市文化振興財団
『構造社 昭和初期彫刻の鬼才たち展』2005 キュレイターズ
『昭和初期彫刻の鬼才たち 寺畑助之丞と構造社展』2006 財団法人松戸市文化振興財団
『ジャパニーズ・モダン 剣持勇とその世界』2005
『ジャパニーズ・モダン 剣持勇とその世界』2005 株式会社国書刊行会
『結成80周年 モダンデザインの先駆 型而工房展 所蔵品による企画展示』2008 財団法人松戸市文化振興財団
『松戸のたからもの 松戸市所蔵美術作品集』2008
『千葉大学園芸学部創立100周年記念特別展 庭園の記憶 与謝野晶子の「松戸の丘」と園芸学校の絵画』2009
『躍動する魂のきらめき 日本の表現主義』2009 松戸市教育委員会ほか
『松戸の美術100年史』2011
『松戸の美術100年史ー新作の記憶ー』2011

『よみがえる画家 板倉鼎・須美子展』 2015
『松戸神社神楽殿の絵画と修復展 明治 21 年の佐竹永湖とその周辺』 2017
『松戸市制施行 75 周年記念展 松戸ゆかりの美術展 その潜在力 利根川に魅せられて
－松戸の写真家、及川修次の仕事－』2018
『松戸市制施行 75 周年記念展 松戸ゆかりの美術展 その潜在力 相模台の記憶 松戸にあった千葉大学工学部のデザイン
と美術－前身の東京高等工芸学校時代から－』 2018

『松戸のたからもの 松戸市の美術コレクション』 2020
『松戸のたからもの 松戸市の美術コレクション』 2022

松戸の作家の個展リーフレット

「石井晴子作品展」 2015
「マサル、Wよろず展」 2015
「松延隆一モノクロームの世界一展」 2015
「バンドウジロウタイポグラフィ作品展」 2016
「大隈武夫一共に生きる一展」 2016
「色彩のメロディー 田中雅子展」 2016
「泉晴行作品展～娘たちと～」 2016
「河合隆三作品展一墨の輝き一」 2017
「加藤博康作品展〈生への賛歌〉」 2017
「石井武夫作品展」 2017
「清水満津男作品展」 2017
「山川美代作品展〈燃える花〉」 2018
「小島隆三作品展〈決して忘れてはならぬ事〉」 2018
「沖本美保作品展”心あたたまるもの”」 2018
「坂元洋介作品展」 2018
「原大介作品展」 2019
「遠藤つるえ作品展”ひまわりの詩”」 2019
「オザキ・ユタカ作品展」 2019
「黒澤朝子作品展」 2019
「久芳真純展〈左右の再配置〉」 2020
「岩崎秀太作品展」 2020
「稲積修写真展〈忙中富士〉」 2020
「多根幸子作品展」 2020
「原太一作品展～うさぎのギアス氏と相棒の犬の旅～」 2021
「須貝仁展～抽象の世界と具象の世界～」 2021
「土屋豊作品展～心の風景画・TENSION～」 2021
「渋谷良子作品展～こころの趣くまに～」 2021
「宮山広明 銅版画展」 2022

目録・図書

『松戸市教育委員会所蔵奥山儀八郎作品目録』 2014
『板倉鼎・須美子書簡集』 2020

(3)国・県による調査

『名勝に関する総合調査－全国的な調査(所在調査)の結果－報告書』 2013 文化庁文化財部記念物課
『近代遺跡調査報告書－交通・運輸・通信業－』 2019 文化庁文化財第二課
『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』 1996 千葉県教育委員会

『千葉県の産業・交通遺跡』1998 千葉県教育委員会
『千葉県近代和風建築総合調査報告書』2004 千葉県教育委員会
『千葉県中近世遺跡調査目録』1970 千葉県中近世遺跡調査団編 千葉県教育委員会
『千葉県中近世遺跡調査目録』1971 千葉県中近世遺跡調査団編 千葉県教育委員会
『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』1983 千葉県教育委員会
『千葉県生産遺跡詳細分布調査報告書』1986 千葉県教育委員会
『千葉県の諸職－千葉県諸職関係民俗文化財調査報告－』1985 千葉県教育委員会
『千葉県所在古墳詳細分布調査報告書』1990 千葉県教育委員会
『千葉県所在中近世城館跡詳細分布調査報告書』1995 千葉県教育委員会
『千葉県埋蔵文化財分布地図(1)東葛郡・印旛郡地区(改訂版)』1997 千葉県教育委員会
『千葉県指定 伝統的工芸品一覧』2002 千葉県商工労働部観光コンベンション課

(4)その他の文化財調査

『松戸市 石造物遺産 ふるさと史跡を探訪』2017 万葉舎・「松戸史跡マップ研究会」

(5)埋蔵文化財発掘調査

『松戸市文化財調査報告』第1集 1963 松戸市教育委員会
『松戸市貝の花貝塚調査概報』1965 松戸市教育委員会
『千葉県松戸市千駄堀遺跡』1965 千葉県遺跡報告書 千葉県教育委員会
『寒風遺跡調査報告書』1966? 千葉県立松戸高等学校社会クラブ
『松戸市平賀貝塚調査概報』1968 松戸市教育委員会
『松戸市子和清水遺跡調査概報』1968 松戸市教育委員会
『松戸市和名ヶ谷諏訪原遺跡調査概報』1968 松戸市教育委員会
『松戸市和名ヶ谷諏訪原遺跡第2次調査概報』1969 松戸市教育委員会
『松戸市和名ヶ谷諏訪原遺跡第3次調査概報』1969 松戸市教育委員会
『松戸市稔台富山遺跡』1970 松戸市文化財調査小報3 松戸市教育委員会
『大谷口 松戸市大谷口小金城跡発掘調査報告』1970 松戸市文化財調査報告第2集 松戸市教育委員会
『大橋 松戸市大橋大塚越・内山遺跡の発掘調査報告』1971 松戸市文化財調査報告第3集 松戸市教育委員会
『幸田貝塚 第1次(昭和45年度)調査概報』1971 松戸市文化財調査小報4 松戸市教育委員会
『幸田貝塚 第2次(昭和46年度)調査概報』1972 松戸市文化財調査小報5 松戸市教育委員会
『貝の花貝塚』1973 松戸市文化財調査報告第4集 松戸市教育委員会
『幸田貝塚 第3次(昭和47年度)調査概報』1973 松戸市文化財調査小報6 松戸市教育委員会
『幸田貝塚の調査(4) 昭和49年度発掘調査概報』1974 松戸市文化財調査小報7 松戸市教育委員会
『諏訪原遺跡』1974 松戸市文化財調査報告第5集 松戸市教育委員会
『幸田貝塚第5次(昭和50年度)調査概報』1975 松戸市文化財調査小報8 松戸市教育委員会
『一本松遺跡発掘調査報告書』1976 松戸市文化財調査小報9 松戸市教育委員会
『松戸の遺跡－松戸市埋蔵文化財包蔵地所在調査報告書』1976 松戸市文化財調査報告第6集 松戸市教育委員会
『子和清水貝塚－遺構図版編－』1976 松戸市文化財調査報告第7集 松戸市教育委員会
『殿平賀遺跡』1977 松戸市文化財調査小報10 松戸市教育委員会
『幸田貝塚第6次(昭和51年度)調査概報』1977 松戸市文化財調査小報11 松戸市教育委員会
『河原塚Ⅱ遺跡』1977 河原塚貝塚第2地点発掘調査会・日本鉄道建設公団東京支社
『幸田貝塚第7次(昭和52年度)調査概報』1978 松戸市文化財調査小報12 松戸市教育委員会
『子和清水貝塚－遺物図版編1－』1978 松戸市文化財調査報告第8集 松戸市教育委員会
『新橋台Ⅱ遺跡』1979 松戸市教育委員会
『幸田貝塚第8次(昭和53年度)調査概報』1979 松戸市文化財調査小報13 松戸市教育委員会

- 『中芝遺跡』1981 松戸市文化財調査小報 14 松戸市教育委員会
- 『若芝遺跡』1982 松戸市文化財調査小報 15 松戸市教育委員会
- 『千葉県松戸市根木内北ノ台遺跡』1982 松戸市根木内北ノ台遺跡調査会
- 『松戸市五香六実所在馬土手』1983 (財)千葉県文化財センター・千葉県東葛土木事務所
- 『坂之台遺跡・東平賀遺跡第3次調査』1983 松戸市文化財調査小報 16 松戸市教育委員会
- 『寒風台』1983 寒風台遺跡発掘調査団
- 『中峠遺跡・根木内遺跡－昭和 58 年度北部遺跡群調査報告書－』1984 松戸市文化財調査報告第 9 集
松戸市教育委員会
- 『千葉県松戸市 一の谷西貝塚発掘調査報告書』1984 松戸市一の谷遺跡調査会
- 『千葉県松戸市 出来山遺跡』1985 松戸市出来山遺跡調査会
- 『島崎遺跡・幸田貝塚(第 10 次調査)－昭和 59 年度北部地区遺跡群調査報告書－』1985
松戸市文化財調査報告第 10 集 松戸市教育委員会
- 『子和清水貝塚－遺物図版編2－』1985 松戸市文化財調査報告第 11 集 松戸市教育委員会
- 『幸田貝塚(第 11 次調査)・東平賀貝塚(第4次調査)昭和 60 年度市内遺跡群調査報告書』1986
松戸市文化財調査報告第 12 集 松戸市教育委員会
- 『千葉県松戸市 殿平賀向山遺跡』1987 松戸市遺跡調査会
- 『松戸市紙敷地区遺跡群確認調査報告書』1987 松戸市文化財調査小報 17 松戸市教育委員会
- 『松戸市関台地区遺跡群確認調査報告書』1987 松戸市文化財調査小報 18 松戸市教育委員会
- 『松戸市彦八山遺跡 ー北総開発鉄道埋蔵文化財調査報告書 I ー』1987 (財)千葉県文化財センター
- 『昭和 61 年度松戸市内遺跡群発掘調査概報』1987 松戸市文化財調査報告第 13 集 松戸市教育委員会
- 『松戸市紙敷地区遺跡群確認調査報告書(2)』1987 松戸市文化財調査小報 20 松戸市教育委員会
- 『松戸市秋山地区遺跡群確認調査報告書』1988 松戸市文化財調査小報 19 松戸市教育委員会
- 『昭和 62 年度松戸市内遺跡発掘調査概報』1988 松戸市文化財調査報告第 14 集 松戸市教育委員会
- 『昭和 63 年度松戸市内遺跡発掘調査概報』1989 松戸市文化財調査報告第 15 集 松戸市教育委員会
- 『松戸市・沼南町 高柳新田所在野馬土手』1989 千葉県文化財センター調査報告第 165 集 (財)千葉県文化財センター
- 『松戸市野見塚遺跡・前原Ⅱ遺跡・根之神台遺跡・中内遺跡・中峠遺跡・新橋台Ⅰ遺跡・串崎新田東里所在野馬除土手 ー北
総開発鉄道埋蔵文化財調査報告書Ⅲー』1990 千葉県文化財センター調査報告 第 174 集 (財)千葉県文化財センター
- 『平成元年度松戸市内遺跡発掘調査概報』1990 松戸市文化財調査報告第 16 集 松戸市教育委員会
- 『平成2年度松戸市内遺跡発掘調査概報』1991 松戸市文化財調査報告第 17 集 松戸市教育委員会
- 『平成3年度松戸市内遺跡発掘調査概報』1992 松戸市文化財調査報告第 18 集 松戸市教育委員会
- 『千葉県松戸市 東平賀貝塚(第8次)』1993 松戸市遺跡調査会
- 『平成4年度松戸市内遺跡発掘調査概報』1993 松戸市文化財調査報告第 19 集 松戸市教育委員会
- 『陣ヶ前遺跡 第3次発掘調査報告書』1994 松戸市遺跡調査会
- 『平成5年度市内遺跡発掘調査概報』1994 松戸市文化財調査報告第 20 集 松戸市教育委員会
- 『松戸市岩瀬塚田遺跡 国立教育会館社会教育研修所建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』1994
千葉県文化財センター調査報告 第 260 集 (財)千葉県文化財センター
- 『千葉県松戸市 溜ノ上遺跡 (旧石器・縄文時代編)』1995 松戸市溜ノ上遺跡調査会
- 『平成6年度市内遺跡発掘調査報告書』1995 松戸市文化財調査報告第 21 集 松戸市教育委員会
- 『千葉県松戸市 東平賀貝塚(10 次)』1995 松戸市文化財調査報告第 22 集 松戸市教育委員会
- 『下水・向山・熊ノ脇 発掘調査報告書』1995 松戸市文化財調査報告第 23 集 松戸市教育委員会

『千葉県松戸市 木戸前Ⅱ遺跡』1996 松戸市遺跡調査会

『小野 小野遺跡第4・8地点調査報告』1996 松戸市文化財調査報告第24集 松戸市教育委員会

『千葉県松戸市小金城跡(第4地点)－小金城跡内所在古墳時代・中世遺構の調査－』1997 松戸市遺跡調査会

『平成7年度松戸市内遺跡発掘調査報告』1997 松戸市文化財調査報告第25集 松戸市教育委員会

『立出し遺跡発掘調査報告書』1997 松戸市文化財調査報告第26集 松戸市教育委員会

『根木内遺跡 第4地点発掘調査報告書』1997 松戸市文化財調査報告第27集 松戸市教育委員会

『松戸市埋蔵文化財分布地図』1997 松戸市教育委員会

『千葉県松戸市 池ノ台遺跡』1998 松戸市教育委員会・松戸市遺跡調査会

『平成8年度松戸市内遺跡発掘調査報告』1998 松戸市文化財調査報告第28集 松戸市教育委員会

『小野遺跡第12地点発掘調査報告書』1998 松戸市文化財調査報告第29集 松戸市教育委員会

『八ヶ崎遺跡第5地点発掘調査報告書』1998 松戸市遺跡調査会

『小野 一 小野遺跡第3地点発掘調査報告書一』1998 松戸市遺跡調査会

『小野遺跡 一 小野遺跡第1地点調査報告一』1999 松戸市遺跡調査会

『平成9年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』1999 松戸市文化財調査報告第30集 松戸市教育委員会

『稔台遺跡 第2地点発掘調査報告書』1999 松戸市遺跡調査会

『境外Ⅱ遺跡発掘調査報告書』2000 松戸市遺跡調査会

『平成10年度市内遺跡発掘調査報告書』2000 松戸市文化財調査報告第31集 松戸市教育委員会

『陣ヶ前遺跡 第2次発掘調査報告書』2000 松戸市遺跡調査会

『平成11年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2001 松戸市文化財調査報告第32集 松戸市教育委員会

『木戸前遺跡』2001 松戸市遺跡調査会

『平成12年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2002 松戸市文化財調査報告第33集 松戸市教育委員会

『小金城跡(第6地点)』2002 松戸市遺跡調査会

『小野遺跡 第11地点発掘調査報告書』2002 松戸市遺跡調査会

『小野 小野遺跡第14地点発掘調査報告書』2002 松戸市遺跡調査会

『関台遺跡 関台地区土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2002 松戸市遺跡調査会

『馬屋敷 一 馬屋敷遺跡の調査研究一』2002 松戸市遺跡調査会

『秋山神宿遺跡』2003 松戸市遺跡調査会

『千葉県松戸市 紙敷遺跡』2003 松戸市文化財調査報告第34集 松戸市教育委員会

『平成13年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2003 松戸市文化財調査報告第35集 松戸市教育委員会

『千駄堀寒風遺跡 第1地点発掘調査報告書』2003 松戸市遺跡調査会

『東出山遺跡』2003 松戸市遺跡調査会

『平成14年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2004 松戸市文化財調査報告第36集 松戸市教育委員会

『根木内城跡 第2地点発掘調査報告書』2004 松戸市遺跡調査会

『下水遺跡第1地点発掘調査報告書』2004 松戸市遺跡調査会

『原の山遺跡 殿平賀土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』2004 松戸市遺跡調査会

『小野遺跡 第22地点発掘調査報告書』2004 松戸市遺跡調査会

『小野遺跡 第16地点発掘調査報告書』2004 松戸市遺跡調査会

『平成15年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2005 松戸市文化財調査報告第37集 松戸市教育委員会

『下水遺跡(第3地点)』2005 松戸市遺跡調査会

『内山・新堀込発掘調査報告書』2005 松戸市遺跡調査会

『行人台遺跡発掘調査報告書』2005 松戸市遺跡調査会

『平成16年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2006 松戸市文化財調査報告第38集 松戸市教育委員会

『千葉県松戸市関場遺跡第1地点』2006 松戸市文化財調査報告第39集 松戸市教育委員会

『八ヶ崎遺跡第1・2地点発掘調査報告書』2006 松戸市遺跡調査会

『彦八山遺跡第4地点発掘調査報告書』2006 松戸市遺跡調査会

『千葉県松戸市 根木内城跡 第3地点発掘調査報告書』2007 松戸市遺跡調査会

『平成17年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2007 松戸市文化財調査報告第40集 松戸市教育委員会

『通源寺遺跡・根木内城跡・野馬除土手 発掘調査報告書』2007 松戸市文化財調査報告第41集 松戸市教育委員会

『平成18年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2008 松戸市文化財調査報告第42集 松戸市教育委員会

『和名ヶ谷溜台遺跡 第1地点発掘調査報告書』2008 松戸市文化財調査報告第43集 松戸市教育委員会

『稔台遺跡第7地点発掘調査報告書』2008 松戸市遺跡調査会

『八ヶ崎遺跡第7地点発掘調査報告書』2008 松戸市遺跡調査会

『千駄堀寒風遺跡 第2地点発掘調査報告書』2008 松戸市遺跡調査会

『千葉県松戸市大橋向山遺跡第3地点発掘調査報告書』2009 松戸市遺跡調査会

『平成19年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2009 松戸市文化財調査報告第44集 松戸市教育委員会

『千葉県松戸市松渡城跡・殿平賀向堀遺跡・中芝遺跡・大橋向山遺跡・紙敷遺跡・登戸遺跡発掘調査報告書』
2009 松戸市文化財調査報告第45集 松戸市教育委員会

『根木内遺跡第8地点発掘調査報告書』2009 松戸市遺跡調査会

『小野遺跡第29地点発掘調査報告書』2009 松戸市遺跡調査会

『東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書1 上矢切南台遺跡・下矢切東台遺跡』2009
千葉県教育振興財団調査報告第672集 (財)千葉県教育振興財団 文化財センター

『平成20年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2010 松戸市文化財調査報告第46集 松戸市教育委員会

『河原塚遺跡第3地点発掘調査報告書1』2010 松戸市文化財調査報告第47集 松戸市教育委員会

『上矢切南台遺跡第1地点発掘調査報告書』2010 松戸市文化財調査報告第48集 松戸市教育委員会

『紙敷遺跡第1地点』2010 加藤建設(株)

『陣ヶ前遺跡第7地点発掘調査報告書』2010 (株)地域文化財研究所

『清水遺跡第1地点発掘調査報告書』2010 (株)地域文化財研究所

『松戸市相模台城跡 千葉県家裁松戸支部庁舎敷地埋蔵文化財発掘調査業務報告書』2010
千葉県教育振興財団調査報告第645集 (財)千葉県教育振興財団 文化財センター

『平成21年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2011 松戸市文化財調査報告第49集 松戸市教育委員会

『河原塚遺跡第3地点発掘調査報告書2』2011 松戸市文化財調査報告第50集 松戸市教育委員会

『下水遺跡第6・7地点発掘調査報告書』2011 松戸市教育委員会・松戸市遺跡調査会

『千葉県松戸市 小塚前遺跡第1地点発掘調査報告書』2012 社会医療法人木下会千葉県総合病院・(有)原史文化研究所

『東平賀遺跡 第19地点発掘調査報告書』2012 月見里治・(有)原史文化研究所

『千葉県松戸市 根木内城跡 第6地点発掘調査報告書』2012 大成エンジニアリング(株)

『平成22年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2012 松戸市文化財調査報告第51集 松戸市教育委員会

『千葉県松戸市 小金城跡 第3地点 発掘調査報告書』2012 松戸市文化財調査報告第52集 松戸市教育委員会

『千葉県松戸市 通源寺遺跡 第5地点発掘調査報告書』2012 セコム医療システム株式会社・(有)原史文化研究所

『千駄堀寒風遺跡 千葉県立松戸高等学校校格技場新築工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』2013
千葉県文化財センター調査報告第461集 千葉県教育委員会・(財)千葉県文化財センター

- 『平成 23 年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2013 松戸市文化財調査報告第 53 集 松戸市教育委員会
- 『千葉県松戸市 相模台遺跡・八柱霊園内遺跡・下ノ宮遺跡 発掘調査報告書 工事立会い・試掘記録』2013
松戸市文化財調査報告第 54 集 松戸市教育委員会
- 『牧之内遺跡第 1-6 地点発掘調査報告書』2013 松戸市秋山土地区画整理組合・(株)地域文化財研究所
- 『牧之内遺跡第 1-8 地点発掘調査報告書』2014 松戸市秋山土地区画整理組合・(株)地域文化財研究所
- 『平成 24 年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2014 松戸市文化財調査報告第 55 集 松戸市教育委員会
- 『平次郎屋鋪遺跡・木戸場遺跡・相模台遺跡 発掘調査報告書 附:試掘記録』2014
松戸市文化財調査報告第 56 集 松戸市教育委員会
- 『下水遺跡第 8 地点発掘調査報告書』2014 松戸市遺跡調査会
- 『千葉県松戸市 東平賀遺跡 第 22 地点発掘調査報告書』2014 大村清壽・(有)原史文化研究所
- 『千葉県松戸市 中芝遺跡 第 10 地点発掘調査報告書』2014 渡邊慶弘・(有)原史文化研究所
- 『根木内城跡第 5 地点・天神山遺跡第 3 地点 発掘調査報告書』2015 松戸市文化財調査報告第 57 集 松戸市教育委員会
- 『平成 25 年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2015 松戸市文化財調査報告第 58 集 松戸市教育委員会
- 『牧之内遺跡第 1-7 地点発掘調査報告書』2015 松戸市秋山土地区画整理組合・(株)地域文化財研究所
- 『幸谷城跡第 2 地点・熊ノ脇遺跡第 3 地点 発掘調査報告書』2015 松戸市文化財調査報告第 59 集 松戸市教育委員会
- 『八ヶ崎遺跡第 19 地点発掘調査報告書』2015 川村しげ子・川村美幸・(有)勾玉工房 Mogi
- 『平成 26 年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2016 松戸市文化財調査報告第 60 集 松戸市教育委員会
- 『上本郷遺跡 第 8・15・16 地点 発掘調査出土資料報告書(1)』2016 松戸市文化財調査報告第 61 集
松戸市教育委員会
- 『上本郷遺跡 第 8・15・16 地点 発掘調査出土資料報告書(2)』2016 松戸市文化財調査報告第 62 集
松戸市教育委員会
- 『秋山向山遺跡 第 7 地点 発掘調査報告書』2016 社会福祉法人 新和福祉会・(株)地域文化財研究所
- 『小野遺跡 第 34 地点発掘調査報告書』2016 WAVE 住宅販売株式会社 (株)地域文化財研究所
- 『下水遺跡第 13 地点発掘調査報告書』2016 (株)ノガミ
- 『小野遺跡 第 36 地点発掘調査報告書』2017 (株)エドケンハウス・(株)地域文化財研究所
- 『平成 27 年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2017 松戸市文化財調査報告第 63 集 松戸市教育委員会
- 『千葉県松戸市 八ヶ崎遺跡第 21 地点発掘調査報告書』2017 松戸市文化財調査報告第 64 集 松戸市教育委員会
- 『殿平賀向堀遺跡第 1-2 地点発掘調査報告書』2017 (株)ノガミ
- 『千葉県教育振興財団調査報告 768:東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書 12』公益財団法人 千葉県教育振興財団
市川市雷下遺跡(5)・(6)・上矢切南台遺跡(9)』2017
千葉県教育振興財団調査報告 768 集 (公財)千葉県教育振興財団文化財センター
- 『松戸市紙敷地区遺跡群発掘調査報告書ー坂之台遺跡第 2・4 地点、中内遺跡第 1 地点ー』2018
松戸市紙敷土地区画整理組合・松戸市遺跡調査会
- 『平成 28 年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2018 松戸市文化財調査報告第 65 集 松戸市教育委員会
- 『千葉県松戸市 小金城跡 第 2 地点 発掘調査報告書 附編:工事立会いの記録』2018
松戸市文化財調査報告第 66 集 松戸市教育委員会
- 『小野遺跡 第 38 地点 発掘調査報告書』2018 (株)ノガミ
- 『熊ノ脇遺跡 第 5 地点』2018 長谷川順子・(有)勾玉工房 Mogi
- 『平成 29 年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2019 松戸市文化財調査報告第 67 集 松戸市教育委員会
- 『幸田貝塚 第 19 次発掘調査報告書』2019 松戸市文化財調査報告第 68 集 松戸市教育委員会

『小金城跡 第16地点の調査』2019 太田りい・(株)コクドリサーチ千葉支社
『千葉県松戸市 大谷口遺跡第3地点・小金城跡第17地点 発掘調査報告書』2019
(株)シントウキョウエージェント・(株)東京航業研究所
『平成30年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2020 松戸市文化財調査報告第69集 松戸市教育委員会
『小野遺跡 第18・20地点発掘調査報告書・下水遺跡 第13地点【報告書補遺】』2020
松戸市文化財調査報告第70集 松戸市教育委員会
『小野遺跡 第41地点発掘調査報告書』2020 大成有楽不動産株式会社・(株)地域文化財研究所
『令和元年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2021 松戸市文化財調査報告第71集 松戸市教育委員会
『池ノ台遺跡第5地点 八ヶ崎貝の花遺跡第10地点発掘調査報告書』2022
松戸市文化財調査報告第72集 松戸市教育委員会
『令和2年度松戸市内遺跡発掘調査報告書』2022 松戸市文化財調査報告第73集 松戸市教育委員会
『大六天遺跡 第2・3地点発掘調査報告書』2022 松戸市文化財調査報告第74集 松戸市教育委員会

3. 把握している文化財(指定等を除く)の地区別一覧

(1)有形文化財・建造物(建築)

小金地区

No.	区分	名称	所在地	所有者等	建築時代	備考
1	建造物:民家	中山家住宅	幸田2丁目	個人	江戸時代	-
2	建造物:民家	梅沢家住宅	小金	個人	明治時代	-
3	建造物:民家	鈴木家住宅	小金	個人	江戸時代	旧玉屋
4	建造物:民家	渡辺家住宅	小金	個人	昭和時代	-
5	建造物:民家	林家住宅	二ツ木	個人	明治時代	-
6	建造物:民家	林家住宅/蔵	二ツ木	個人	大正時代	-
7	建造物:民家	渡辺家/蔵	二ツ木	個人	明治時代	-
8	建造物:寺社	東漸寺本堂	小金	東漸寺	江戸時代	-
9	建造物:寺社	東漸寺鐘楼	小金	東漸寺	江戸時代 1811	-
10	建造物:寺社	東漸寺中雀門	小金	東漸寺	江戸~明治	-
11	建造物:寺社	東漸寺観音堂	小金	東漸寺	江戸時代 1804	-
12	建造物:寺社	八坂神社日本殿	根木内	個人	-	-

馬橋地区

No.	区分	名称	所在地	所有者等	建築時代	備考
1	建造物:民家	杉浦家住宅	馬橋	個人	明治時代	-
2	建造物:民家	斎藤家住宅	新作	個人	明治時代	-
3	建造物:寺社	萬満寺仁王門	馬橋	萬満寺	-	-

新松戸・古ヶ崎地区

No.	区分	名称	所在地	所有者等	建築時代	備考
1	建造物:民家	秋山家住宅	新松戸7丁目	個人	明治~大正	-
2	建造物:民家	横山家住宅	旭町2丁目	個人	明治時代	-
3	建造物:民家	恩田家住宅	旭町3丁目	個人	明治時代	-
4	建造物:民家	嶋根家住宅	栄町6丁目	個人	昭和時代	-
5	建造物:民家	待山家住宅	古ヶ崎2丁目	個人	大正時代	-
6	建造物:民家	宮山家住宅	古ヶ崎	個人	大正時代	-

No.	区分	名称	所在地	所有者等	建築時代	備考
7	建造物:民家	高橋家住宅	樋野口	個人	大正時代	-

高木地区

No.	区分	名称	所在地	所有者等	建築時代	備考
1	建造物:民家	花嶋家住宅	中和倉	個人	明治時代	-
2	建造物:民家	安蒜家住宅	千駄堀	個人	江戸時代	市指定「安蒜家長屋門」
3	建造物:民家	高橋家住宅	千駄堀	個人	明治時代	-
4	建造物:民家	高橋家住宅	千駄堀	個人	江戸時代	-
5	建造物:民家	土屋家住宅	千駄堀	個人	明治時代	市指定「土屋家長屋門」

東部地区

No.	区分	名称	所在地	所有者等	建築時代	備考
1	建造物:民家	山崎家住宅	和名ヶ谷	個人	明治時代	-
2	建造物:民家	秋谷家住宅	和名ヶ谷	個人	明治時代	-
3	建造物:民家	河上家住宅	和名ヶ谷	個人	江戸時代	-
4	建造物:民家	山崎家住宅	和名ヶ谷	個人	昭和時代	-
5	建造物:民家	根本家住宅	大橋	個人	明治時代	-
6	建造物:民家	花沢家住宅	大橋	個人	昭和時代	-
7	建造物:民家	高橋家住宅	大橋	個人	明治時代	-
8	建造物:民家	花沢家住宅	大橋	個人	昭和時代	-
9	建造物:民家	染谷家住宅	大橋	個人	昭和時代	-
10	建造物:民家	太田原家住宅	河原塚	個人	明治時代	-
11	建造物:民家	飯沼家住宅	河原塚	個人	昭和時代	-
12	建造物:民家	斎藤家住宅	紙敷	個人	明治時代	登録文化財「旧齋藤邸」
13	建造物:民家	湯浅家住宅	紙敷	個人	明治時代	-
14	建造物:民家	金子家住宅	紙敷	個人	明治時代	-
15	建造物:民家	湯浅家住宅	紙敷	個人	明治時代	-
16	建造物:民家	湯浅家住宅	紙敷	個人	昭和時代	-
17	建造物:民家	渡辺家住宅	秋山	個人	昭和時代	-
18	建造物:民家	渡辺家住宅	秋山	個人	江戸時代	-
19	建造物:民家	高橋家住宅	高塚新田	個人	大正時代	-
20	建造物:民家	渡会家住宅	高塚新田	個人	昭和時代	-
21	建造物:民家	岡田家住宅	高塚新田	個人	明治時代	-
22	建造物:民家	石橋家住宅	高塚新田	個人	明治時代	-
23	建造物:民家	山室家住宅	高塚新田	個人	明治時代	-

小金原・五香地区

No.	区分	名称	所在地	所有者等	建築時代	備考
1	建造物:民家	駿高家住宅	六実	個人	昭和時代	-
2	建造物:民家	小高家住宅	金ヶ作	個人	明治時代	-
3	建造物:民家	石川家住宅	金ヶ作	個人	江戸時代	-
4	建造物:民家	長谷川家住宅	金ヶ作	個人	江戸時代	-

松戸地区

No.	区分	名称	所在地	所有者等	建築時代	備考
1	建造物:民家	かつびしや	松戸	個人	大正時代	店舗兼住宅
2	建造物:民家	原田家住宅	松戸	個人	昭和時代	原田米穀 店舗兼住宅

No.	区分	名称	所在地	所有者等	建築時代	備考
3	建造物:寺社	平瀧神社本殿・拜殿	松戸	平瀧神社	江戸時代	-
4	建造物:寺社	西連寺本堂	松戸	西連寺	江戸時代	-
5	建造物:寺社	善照寺不動堂	松戸	善照寺	江戸時代 1811	-
6	建造物:寺社	円慶寺本堂	松戸	円慶寺	江戸時代	-
7	建造物:寺社	松戸神社本殿	松戸	松戸神社	江戸時代	-
8	建造物:寺社	松戸神社拜殿	松戸	松戸神社	江戸時代 1867	-
9	建造物:寺社	松戸神社手水舎	松戸	松戸神社	江戸時代	-

矢切・栗山地区

No.	区分	名称	所在地	所有者等	建築時代	備考
1	建造物:民家	斎藤家住宅	上矢切	個人	明治時代	-
2	建造物:民家	川村家住宅	上矢切	個人	明治時代	-
3	建造物:民家	染谷家住宅	栗山	個人	明治時代	-

(2)有形文化財・建造物(石造物)

小金地区

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
1	石造物	庚申塔	幸田	華嚴寺	享保7年(1722)	駒型 89*46*19
2	石造物	庚申塔	幸田	華嚴寺	延享3年(1746)	駒型 75*30*22
3	石造物	如意輪観音	幸田	華嚴寺	天明6年(1786)	光背型 81*33.5
4	石造物	六地藏	幸田	華嚴寺	-	丸彫 72
5	石造物	巡礼塔	幸田	華嚴寺	文政元年(1818)	山状角柱 89.5*23*21
6	石造物	巡礼塔	幸田	華嚴寺	天保2年(1831)	山角柱 66*27*19
7	石造物	天神	幸田	華嚴寺	明和7年(1770)	石祠 72
8	石造物	不明	幸田	華嚴寺	文化4年(1807)	櫛型 65*26*15.5
9	石造物	十九夜塔	幸田	長養寺	延宝5年(1677)	光背型 129*55*49
10	石造物	誦誦塔	幸田	長養寺	文化2年(1805)	駒型 63*29*16
11	石造物	聖徳太子供養塔	幸田	長養寺	大正元年(1912)	自然石 131
12	石造物	地藏菩薩	幸田	長養寺	宝永5年(1708)	丸彫 103
13	石造物	白樂天王宮塔	幸田	長養寺	天保6年(1835)	駒型 67*26.5*17
14	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	寛文3年(1663)	板碑型 126*49*26
15	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	享保20年(1735)	駒型 93*33.5*17.5
16	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	宝暦8年(1758)	駒型 89.5*31*19.5
17	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	文化3年(1806)	山状角柱 85*33.5*22.5
18	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	文化12年(1815)	山状角柱 85*33.5*22.5
19	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	文政元年(1818)	山状角柱 79*33.3*24.5
20	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	天保8年(1837)	駒型 48.5*22.7*10.6
21	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	天保8年(1837)	駒型 48.5*22.7*11
22	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	天保8年(1837)	駒型 48.3*22.7*11.2
23	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	天保8年(1837)	駒型 49*22.7*9.5
24	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	天保8年(1837)	自然石 63.5
25	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	万延元年(1860)	山状角柱 64.5*25*19
26	石造物	庚申塔	幸田	香取駒形神社	□□8年	駒型 34*22.1*10.8
27	石造物	二十三夜塔	幸田	香取駒形神社	文政7年(1824)	山状角柱 83.5*31.22

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
28	石造物	大日如来	幸田	香取駒形神社	文化2年(1805)	石祠 56.5
29	石造物	参拝塔	幸田	香取駒形神社	弘化3年(1846)	炎光背 118.5*34.5*21.5
30	石造物	大山供養碑	幸田	香取駒形神社	大正6年(1916)	自然石 96
31	石造物	道祖神	幸田	香取駒形神社	延享3年(1746)	石祠 50
32	石造物	山の神	幸田	香取駒形神社	寛政5年(1793)	石祠 62
33	石造物	山の神	幸田	香取駒形神社	嘉永3年(1850)	駒型 59*23.5*15
34	石造物	雷神	幸田	香取駒形神社	文化2年(1805)	石祠 53.5
35	石造物	疱瘡神	幸田	香取駒形神社	天保10年(1839)	石祠 70
36	石造物	稲荷明神	幸田	香取駒形神社	大正6年(1917)	自然石 75
37	石造物	大杉明神	幸田	香取駒形神社	大正6年(1917)	自然石 72
38	石造物	千代姫明神	幸田	香取駒形神社	天保11年(1840)	石祠 70.5
39	石造物	三嶋大権現	幸田	香取駒形神社	宝暦12年(1762)	石祠 55
40	石造物	神使(右)狛犬	幸田	香取駒形神社	昭和9年(1934)	丸彫 65
41	石造物	神使(左)狛犬	幸田	香取駒形神社	昭和9年(1934)	丸彫 65
42	石造物	石鳥居	幸田	香取駒形神社	大正10年(1921)	神明鳥居
43	石造物	石燈籠	幸田	香取駒形神社	天保6年(1835)	四角 209
44	石造物	石燈籠	幸田	香取駒形神社	大正元年(1912)	四角 197.5
45	石造物	手洗石	幸田	香取駒形神社	明和5年(1768)	47.5*77*45
46	石造物	弘法大師供養塔	幸田	路傍	昭和3年(1928)	駒型 40 西ノ下
47	石造物	庚申塔	中金杉	医王寺	元禄5年(1692)	板碑型 129*51*31
53	石造物	庚申塔	中金杉	医王寺	宝永2年(1705)	光背型 135*54*32
54	石造物	念仏塔	中金杉	医王寺	元禄15年(1702)	光背型 109*47*28
55	石造物	名号等	中金杉	医王寺	明暦2年(1656)	板碑型 119*51*23
56	石造物	巡礼塔	中金杉	医王寺	文政元年(1818)	山状角柱 95*21*14
57	石造物	地藏菩薩	中金杉	広徳寺	安永8年(1779)	丸彫
58	石造物	不動明王	中金杉	広徳寺	安永7年(1778)	炎光背型 130*38*19
59	石造物	巡拝塔	中金杉	広徳寺	天保4年(1833)	角柱型 78*23*16
60	石造物	庚申塔	中金杉	香取神社	延享5年(1748)	駒型 69*29*19
61	石造物	庚申塔	中金杉	香取神社	天明5年(1785)	駒型 78*31*22
62	石造物	庚申塔	中金杉	香取神社	寛政7年(1795)	角柱型 75*28*22
63	石造物	庚申塔	中金杉	香取神社	文化9年(1812)	山状角柱 83*33*22
64	石造物	聖徳太子供養塔	中金杉	香取神社	明治	角柱型 67*27*27
65	石造物	馬頭観音	中金杉	香取神社	文化6年(1809)	角柱型 76*17*17
66	石造物	参拝塔	中金杉	香取神社	天保14年(1843)	炎光背型 112*36*20
67	石造物	山の神	中金杉	香取神社	天保4年(1833)	山状角柱 63*26*19
68	石造物	雷神	中金杉	香取神社	大正12年(1923)	石祠 78
69	石造物	大杉明神	中金杉	香取神社	明治41年(1908)	自然石 165
70	石造物	石燈籠	中金杉	香取神社	享和2年(1802)	四角 150
71	石造物	題目塔	平賀	本土寺	文化5年(1808)	櫛型
72	石造物	日蓮上人供養塔	平賀	本土寺	天明元年(1781)	塔婆型
73	石造物	日蓮上人供養塔	平賀	本土寺	明治6年(1773)	山状角柱
74	石造物	日蓮上人供養塔	平賀	本土寺	昭和7年(1932)	皿形角柱
75	石造物	日蓮上人供養塔	平賀	本土寺	昭和7年(1932)	皿形角柱 144*43*40.5
76	石造物	道標	平賀	本土寺	昭和33年(1958)	自然石 137.5*78.5*11

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
77	石造物	読誦塔	平賀	本土寺	文化4年(1807)	山状角柱 107.5*33.5*21
78	石造物	日像上人供養塔	平賀	本土寺	明治25年(1892)	塔婆柱 325*34*19
79	石造物	読誦塔	平賀	本土寺	寛政3年(1791)	石灯篭柱 96
80	石造物	手洗石	平賀	本土寺	文政3年(1820)	59*135*58
81	石造物	霊場標石	平賀	本土寺	-	櫛型 94.5
82	石造物	題目塔	平賀	佛持院	万治2年(1659)	山状角柱 116*36.5*27.5
83	石造物	甲子塔	平賀	天神社	明治3年(1870)	駒型 61*24*15
84	石造物	二十三夜塔	平賀	天神社	嘉永3年(1850)	駒型 56*24*16
85	石造物	馬頭観音	平賀	天神社	文政12年(1829)	駒型 60*26*15.5
86	石造物	山の神	平賀	天神社	嘉永5年(1852)	駒型 50*24*13.5
87	石造物	山王権現	平賀	天神社	-	自然石 80
88	石造物	不明	平賀	本土寺参道	-	48*30*18
89	石造物	庚申塔	横須賀	正福寺	寛文4年(1664)	板碑型 116*44*22
90	石造物	庚申塔	横須賀	正福寺	元禄13年(1700)	駒型 105*43*29
91	石造物	庚申塔	横須賀	正福寺	-	駒型 67*22*18
92	石造物	庚申塔	横須賀	正福寺	元禄16年(1703)	光背型 99*45*30
93	石造物	庚申塔	横須賀	正福寺	天明2年(1782)	駒型 88*25
94	石造物	庚申塔	横須賀	正福寺	文政元年(1818)	山状角柱 82*37*28
95	石造物	地藏菩薩	横須賀	正福寺	元禄16年(1703)	光背型 120*47*37
96	石造物	地藏菩薩	横須賀	正福寺	宝暦4年(1754)	板碑型 95*41*15
97	石造物	馬頭観音	横須賀	正福寺	嘉永3年(1850)	角柱型 57*33*22
98	石造物	馬頭観音	横須賀	正福寺	明治28年(1895)	駒型 39*19*12
99	石造物	馬頭観音	横須賀	正福寺	明治37年(1904)	駒型 30*14*9
100	石造物	馬頭観音	横須賀	正福寺	明治17年(1804)	駒型 39*23*15
101	石造物	巡拜塔	横須賀	正福寺	万延元年(1860)	櫛型 128*32*28
102	石造物	巡礼塔	横須賀	正福寺	文政4年(1821)	皿形角柱 90*24*15
103	石造物	巡礼塔	横須賀	正福寺	文久元年(1861)	駒形 42*21*10
104	石造物	参拜塔	横須賀	女躰神社	文久元年(1861)	角柱型 126*38*25
105	石造物	白山講供養塔	横須賀	女躰神社	明治12年(1879)	駒型 26*18.5*11
106	石造物	水神	横須賀	女躰神社	天明5年(1785)	石祠 82
107	石造物	稻荷明神	横須賀	女躰神社	元治元年(1864)	駒型 45*25*18
108	石造物	石鳥居	横須賀	女躰神社	平成19年(2007)	明神鳥居
109	石造物	石鳥居	横須賀	女躰神社	昭和56年(1981)	明神鳥居
110	石造物	手洗石	横須賀	女躰神社	文化15年(1818)	40*94.5*39.5
111	石造物	十九夜塔	大谷口	大勝院	延宝6年(1678)	光背型 151*59*37
112	石造物	巡礼塔	大谷口	大勝院	文政2年(1819)	山状角柱 94*24*20
113	石造物	巡礼塔	大谷口	大勝院	文政6年(1823)	山状角柱 101
114	石造物	参拜塔	大谷口	大勝院	弘化3年(1846)	駒型 63*26.5*19
116	石造物	不明塔	大谷口	大勝院	正徳2年(1712)	櫛型 62*31*29
117	石造物	日蓮上人供養塔	大谷口	常真寺	明治3年(1870)	皿形角柱 77*31.5*26.5
118	石造物	万霊塔	大谷口	常真寺	宝暦3年(1753)	櫛型 93.5*27.5*17.5
119	石造物	庚申塔	大谷口	神明神社	宝永4年(1707)	板碑型 107*43*20
120	石造物	庚申塔	大谷口	神明神社	宝暦6年(1756)	駒型 96*42*28
121	石造物	庚申塔	大谷口	神明神社	安政7年(1860)	丸彫 173

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
122	石造物	庚申塔	大谷口	神明神社	天明 4 年(1784)	駒型 76*39*19
123	石造物	庚申塔	大谷口	神明神社	嘉永 4 年(1851)	自然石 95
124	石造物	山の神	大谷口	神明神社	文政 10 年(1827)	駒型 56*24*15
125	石造物	榛名講供養塔	大谷口	神明神社	寛政元年(1789)	石祠 67
126	石造物	第六天	大谷口	神明神社	宝暦 13 年(1763)	石祠 81
127	石造物	庚申塔	大谷口	路傍	元禄 2 年(1689)	板碑型 84*42*20
128	石造物	馬頭観音	大谷口	路傍	宝暦 8 年(1758)	光背型 60.5*29*19
129	石造物	馬頭観音	大谷口	路傍	明和 6 年(1769)	光背型 50*24*21
130	石造物	馬頭観音	大谷口	路傍	明治 38 年(1905)	駒型 44*17*15.5
131	石造物	馬頭観音	大谷口	路傍	明治 43 年(1910)	駒型 33*21*11
132	石造物	弁財天	殿平賀	慶林寺	弘化 4 年(1847)	自然石 69
133	石造物	庚申塔	殿平賀	鹿島神社	寛政 12 年(1800)	山状角柱 70*30*21
134	石造物	二十三夜塔	殿平賀	鹿島神社	弘化 4 年(1847)	駒型 56*24*14
135	石造物	参拜塔	殿平賀	鹿島神社	嘉永 7 年(1854)	光背型 24*25*18
136	石造物	大山講供養塔	殿平賀	鹿島神社	大正 6 年(1917)	自然石 76
137	石造物	駒形明神	殿平賀	鹿島神社	安永 8 年(1779)	石祠 57.5
138	石造物	二十三夜塔	東平賀	東雷神社	嘉永 3 年(1850)	駒型 56.5*22*13
139	石造物	大山講供養塔	東平賀	東雷神社	明治 9 年(1876)	自然石 85
140	石造物	大杉明神	東平賀	東雷神社	嘉永 2 年(1849)	駒型 51*26*16
141	石造物	鹿島明神	東平賀	東雷神社	明治 30 年(1897)	駒型 57*23*15
142	石造物	庚申塔	東平賀	路傍	元文4年(1739)	駒型 85*43*25
143	石造物	山の神	東平賀	路傍	文政 12 年(1829)	駒型 33*23*12
144	石造物	庚申塔	東平賀	東雷神社下	寛文 9 年(1669)	板碑型 82*51*23
145	石造物	庚申塔	東平賀	東雷神社下	享保 14 年(1729)	駒型 120*41*22
146	石造物	庚申塔	東平賀	東雷神社下	宝暦 12 年(1762)	駒型 88*34.5*18
147	石造物	庚申塔	東平賀	東雷神社下	文化 8 年(1811)	駒型 72*34*18
148	石造物	庚申塔	東平賀	東雷神社下	文化 13 年(1842)	山状角柱 66.5*28*24
149	石造物	題目塔	東平賀	共同墓地	寛延 2 年(1749)	櫛型 81*31.5*17
150	石造物	馬頭観音	東平賀	共同墓地	明治 37 年(1904)	駒型 32*16*10
151	石造物	不明	東平賀	共同墓地	-	櫛型 62*24.5*18
152	石造物	十九夜塔	小金	東漸寺	安永 4 年(1775)	光背型 81*36*16
153	石造物	念仏塔	小金	東漸寺	天和 3 年 1683)	光背型 122.5*34*40
154	石造物	徳本念仏塔	小金	東漸寺	文政元年(1818)	皿形角柱 80*27*23
155	石造物	名号塔	小金	東漸寺	寛文 13 年(1673)	板碑型 146*57*44
156	石造物	弘法大師供養塔	小金	東漸寺	慶応 3 年(1867)	丸彫 30
157	石造物	弘法大師供養塔	小金	東漸寺	昭和 9 年(1934)	自然石 101*60.5*8
158	石造物	万霊塔	小金	東漸寺	大正 4 年(1915)	皿形角柱 129*37*28
159	石造物	地藏菩薩	小金	東漸寺	寛文 3 年(1663)	光背型 165*60*50
160	石造物	阿弥陀如来	小金	東漸寺	貞享元年(1684)	光背型 79*47*25
161	石造物	六地藏	小金	東漸寺	延宝 2 年(1674)	光背型
162	石造物	不動明王	小金	東漸寺	-	角柱型 68*26
163	石造物	巡礼塔	小金	東漸寺	明治 31 年(1898)	山状角柱 154*37*22
164	石造物	手洗石	小金	東漸寺	文化 4 年(1807)	67*166.5*68
165	石造物	学処菩薩	小金	東漸寺	元禄 15 年(1702)	五輪塔型 135

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
166	石造物	庚申塔	小金	八坂神社	宝暦2年(1752)	駒型 105*42*18
167	石造物	庚申塔	小金	八坂神社	宝暦9年(1759)	駒型 105.5*44*26
168	石造物	庚申塔	小金	八坂神社	享和3年(1803)	山状角柱 82*33.5*23
169	石造物	庚申塔	小金	八坂神社	文政□年	山状角柱 100*36*24
170	石造物	聖徳太子供養塔	小金	八坂神社	天保2年(1831)	山状角柱 67*27*19
171	石造物	山の神	小金	八坂神社	嘉永6年(1853)	自然石 59
172	石造物	疱瘡神	小金	八坂神社	天保11年(1840)	石祠 48
173	石造物	手洗石	小金	八坂神社	元禄9年(1696)	51*95*51
174	石造物	道標	小金	路傍	文化5年(1808)	山状角柱 139*44*32
175	石造物	道標	小金	八坂神社	明和5年(1768)	山状角柱 73*27*21
176	石造物	道標	小金	八坂神社	-	山状角柱 94*30*21
177	石造物	弘法大師供養塔	小金	路傍	-	丸彫 46
178	石造物	巡礼塔	小金	路傍	-	自然石 110
179	石造物	巡地藏菩薩	小金	路傍	-	丸彫 63
180	石造物	道祖神	久保平賀	路傍	元禄4年(1691)	石祠 70
181	石造物	山の神	久保平賀	路傍	天保7年(1836)	駒型 61.5*26*16
182	石造物	馬頭観音	小金きよしヶ丘	妙典寺	寛政5年(1793)	駒型 69*37*12
183	石造物	題目塔	根木内	了源寺	享保7年(1722)	板碑型 86*50*23
184	石造物	題目塔	根木内	了源寺	嘉永5年(1852)	皿形角柱 131*36*28
185	石造物	二十三夜塔	根木内	稻荷神社	天保□年	駒型 58*24*14
186	石造物	聖徳太子供養塔	根木内	稻荷神社	明治6年(1873)	駒型 61*21*16
187	石造物	聖徳太子供養塔	根木内	稻荷神社	大正9年(1920)	自然石 165*57*12
188	石造物	馬頭観音	根木内	稻荷神社	明治26年(1893)	駒型 61*24*18
189	石造物	馬頭観音	根木内	稻荷神社	-	駒型 65*27
190	石造物	山の神	根木内	稻荷神社	天保4年(1833)	駒型 63*27*20
191	石造物	手児奈明神	根木内	稻荷神社	明治11年(1878)	自然石 55
192	石造物	念仏塔	二ツ木	光明寺	寛文9年(1669)	光背型 96*40
193	石造物	廻国塔	二ツ木	光明寺	宝永5年(1708)	板碑型 -
194	石造物	万霊塔	二ツ木	光明寺	貞享元年(1684)	光背型 98*37*24
195	石造物	地藏菩薩	二ツ木	光明寺	安永2年(1773)	光背型 62*27*18
196	石造物	不動明王	二ツ木	光明寺	-	丸彫 40
197	石造物	巡礼塔	二ツ木	光明寺	文政12年(1829)	山状角柱 81*23*14.5
198	石造物	巡礼塔	二ツ木	常行院	文化11年(1814)	山状角柱 77*30*29
199	石造物	巡礼塔	二ツ木	常行院	明治30年(1897)	山状角柱 64*21*12
200	石造物	庚申塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	元禄11年(1698)	板碑型 113*54*30
201	石造物	庚申塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	享保3年(1718)	駒型 122*51*27
202	石造物	庚申塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	安永3年(1774)	山状角柱 68*28.5*26
203	石造物	庚申塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	安永7年(1778)	駒型 70*37*22
204	石造物	庚申塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	文政2年(1819)	駒型 90*38*24
205	石造物	庚申塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	文政13年(1830)	駒型 86*33*28
206	石造物	庚申塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	天保13年(1842)	駒型 111*38*24
207	石造物	庚申塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	安政2年(1855)	駒型 77*32*28
208	石造物	庚申塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	明治2年(1869)	駒型 69*33*28.5
209	石造物	甲子塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	安永4年(1775)	石祠 72

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
210	石造物	二十三夜塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	天保12年(1841)	駒型 68*26*19
211	石造物	聖徳太子供養塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	寛政10年(1798)	石祠 59
212	石造物	聖徳太子供養塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	文化15年(1818)	石祠 74
213	石造物	子安観音	二ツ木	蘇羽鷹神社	天保5年(1834)	櫛型 54*25*14
214	石造物	不動明王	二ツ木	蘇羽鷹神社	-	炎光背型 68*28*18
215	石造物	巡拝塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	天保11年(1840)	皿形角柱 116*41*41
216	石造物	参拝塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	安政□年	角柱型 70*29*25.5
217	石造物	参拝塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	文久3年(1863)	角柱型 83*23*19
218	石造物	富士講碑	二ツ木	蘇羽鷹神社	大正7年(1918)	自然石 117
219	石造物	富士講碑	二ツ木	蘇羽鷹神社	昭和2年(1927)	櫛型 42*18.5*14.5
220	石造物	大山講供養塔	二ツ木	蘇羽鷹神社	明治12年(1879)	自然石 75
221	石造物	天神	二ツ木	蘇羽鷹神社	寛保3年(1743)	石祠 76
222	石造物	抱瘡神	二ツ木	蘇羽鷹神社	天保9年(1838)	石祠 60
223	石造物	大杉明神	二ツ木	蘇羽鷹神社	明治5年(1872)	自然石 88
224	石造物	第六天	二ツ木	蘇羽鷹神社	寛保4年(1744)	石祠 68
225	石造物	神使(狐)	二ツ木	蘇羽鷹神社	天保10年(1839)	丸彫 44.5
226	石造物	石鳥居	二ツ木	蘇羽鷹神社	天保9年(1838)	明神鳥居 345.5
227	石造物	石灯笼(一对)	二ツ木	蘇羽鷹神社	昭和58年(1983)	四角 308
228	石造物	手洗石	二ツ木	蘇羽鷹神社	天保13年(1842)	44.5*121*44
229	石造物	庚申塔	二ツ木	路傍	延享元年(1744)	駒型 98*45*25
230	石造物	庚申塔	小金上総町	日枝神社	貞享2年(1685)	板碑型 117*47.5*26
231	石造物	庚申塔	小金上総町	日枝神社	寛延2年(1749)	光背型 109*47*27
232	石造物	二十三夜塔	小金上総町	日枝神社	-	自然石 59*34*9.5
233	石造物	聖徳太子供養塔	久保平賀	稻荷神社	明治9年(1876)	自然石 83
234	石造物	天神	久保平賀	稻荷神社	寛政11年(1799)	石祠 69
235	石造物	不明	久保平賀	稻荷神社	明治24年(1891)	石祠 65
236	石造物	庚申塔	大金平	路傍	明和9年(1767)	駒形 91*38*26
237	石造物	地藏菩薩	大金平	路傍	昭和57年(1982)	丸彫
238	石造物	道標	大金平	路傍	明治42年(1909)	角柱型 54*22*13.5
239	石造物	弁財天	大金平	平石弁天	-	丸彫 65
240	石造物	神使(蛇)	大金平	平石弁天	大正15年(1926)	丸彫 13*15*13.5
241	石造物	神使(蛇)	大金平	平石弁天	昭和5年(1930)	丸彫 18*16*13
242	石造物	石灯笼	大金平	平石弁天	-	四角 150
243	石造物	手洗石	大金平	平石弁天	嘉永元年(1848)	36.5*81*37.5

馬橋地区

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
1	石造物	庚申塔	幸谷	福昌寺	延宝4年(1676)	光背型 120*48*20
2	石造物	庚申塔	幸谷	福昌寺	享保7年(1722)	光背型 136*54*29
3	石造物	念仏塔	幸谷	福昌寺	元禄12年(1699)	光背型 129*55*20
4	石造物	聖徳太子供養塔	幸谷	福昌寺	文化2年(1805)	石祠 83
5	石造物	万霊塔	幸谷	福昌寺	貞享2年(1685)	光背型 116*49*20
6	石造物	聖観音	幸谷	福昌寺	宝永3年(1706)	光背型 97*47*20
7	石造物	廻国塔	幸谷	福昌寺	-	山状角柱 72*33*24.5
8	石造物	巡礼塔	幸谷	福昌寺	文化7年(1810)	山状角柱 167*38*29

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
9	石造物	庚申塔	幸谷	赤城神社	安永8年(1779)	櫛型 74*31*18
10	石造物	庚申塔	幸谷	赤城神社	文政元年(1818)	山状角柱 80*31*21
11	石造物	庚申塔	幸谷	赤城神社	嘉永4年(1851)	山状角柱 79*30*20.5
12	石造物	庚申塔	幸谷	赤城神社	明治3年(1870)	自然石 150
13	石造物	庚申塔	幸谷	赤城神社	明治18年(1885)	駒型 73*33.5*21
14	石造物	庚申塔	幸谷	赤城神社	明治27年(1894)	駒型 72*33*21
15	石造物	庚申塔	幸谷	赤城神社	-	駒型 105*41*27
16	石造物	不明	幸谷	赤城神社	宝曆14年(1764)	石祠 41
17	石造物	庚申塔	幸谷	赤城神社	明治18年(1885)	駒型 73*33.5*21
18	石造物	庚申塔	幸谷	赤城神社	明治27年(1894)	駒型 72*33*21
19	石造物	庚申塔	幸谷	赤城神社	-	駒型 105*41*27
20	石造物	不明	幸谷	赤城神社	宝曆14年(1764)	石祠 41
21	石造物	天神	幸谷	路傍	昭和12年(1937)	石祠 96
22	石造物	庚申塔	幸谷	路傍	安永8年(1779)	山状角柱 76*31*24
23	石造物	甲子塔	幸谷	路傍	天保5年(1834)	山状角柱 66*28*20
24	石造物	庚申塔	馬橋	萬満寺	寛文7年(1667)	光背型 123*67*43
25	石造物	聖観音	馬橋	萬満寺	貞享元年(1684)	光背型 149.5*75*54
26	石造物	馬頭観音	馬橋	萬満寺	安永8年(1779)	駒型 75*31*17.5
27	石造物	馬頭観音	馬橋	萬満寺	弘化2年(1845)	駒型 34*21*12
28	石造物	十一面観音	馬橋	萬満寺	延宝8年(1680)	光背型 119.5*49.5*30
29	石造物	地藏菩薩	馬橋	萬満寺	大正6年(1917)	光背型 47*22.5*20
30	石造物	六地藏	馬橋	萬満寺	宝永8年(1711)	丸彫
31	石造物	手洗石	馬橋	萬満寺	明和7年(1770)	55*125*59
32	石造物	力石(7)	馬橋	萬満寺	-	-
33	石造物	不明	馬橋	萬満寺	天保2年(1831)	駒型 67*27*19.5
34	石造物	十九夜塔	馬橋	中根寺	天保9年(1838)	光背型 92*40*24.5
35	石造物	名号塔	馬橋	中根寺	天保9年(1838)	皿形円柱 122*27
36	石造物	巡礼塔	馬橋	中根寺	文化5年(1808)	皿形円柱 122*27
37	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	寛保元年(1741)	駒型 95.5*34.5*22
38	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	寛延元年(1748)	駒型 99*46*27
39	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	宝曆2年(1752)	駒型 99*46*27
40	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	明和元年(1764)	駒型 94*34.5*26
41	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	安永7年(1778)	駒型 126*61*36
42	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	天明3年(1783)	駒型 87.2*15.6*30.5
43	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	寛政6年(1794)	駒型 105.5*46.5*30
44	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	文化14年(1817)	山状角柱 14.7*39.9*23.9
45	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	文政13年(1830)	自然石 65.5
46	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	天保3年(1832)	駒型 63.5*28.5*21
47	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	嘉永4年(1851)	自然石 142
53	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	嘉永4年(1851)	山状角柱 149.5*43.2*42.5
54	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	安政2年(1855)	自然石 55
55	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	安政7年(1860)	自然石 163
56	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	明治9年(1876)	自然石 116
57	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	明治9年(1876)	自然石 104

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
58	石造物	庚申塔	馬橋	王子神社	明治9年(1876)	自然石 101
59	石造物	二十三夜塔	馬橋	王子神社	—	石祠 74
60	石造物	出羽三山供養塔	馬橋	王子神社	明和5年(1768)	駒型 71*29*19
61	石造物	富士講碑	馬橋	王子神社	明治35年(1902)	自然石 124
62	石造物	富士講碑	馬橋	王子神社	—	自然石 65
63	石造物	金毘羅講供養塔	馬橋	王子神社	天保3年(1832)	石祠 97
64	石造物	疱瘡神	馬橋	王子神社	安永4年(1775)	石祠 88
65	石造物	神使(狛犬)	馬橋	王子神社	明治23年(1890)	丸彫 75
66	石造物	神使(狛犬)	馬橋	王子神社	大正11年(1922)	丸彫 58
67	石造物	石鳥居	馬橋	王子神社	明和7年(1770)	明神鳥居
68	石造物	石鳥居	馬橋	王子神社	平成23年(2011)	明神鳥居
69	石造物	石灯笼(一对)	馬橋	王子神社	昭和56年(1981)	四角 261
70	石造物	石灯笼(一对)	馬橋	王子神社	—	自然石
71	石造物	手洗石	馬橋	王子神社	大正11年(1922)	65*118*52.5
72	石造物	地藏菩薩	馬橋	路傍	宝曆2年(1752)	光背型 71*30*14
73	石造物	石鳥居	馬橋	路傍	昭和49年(1974)	神明鳥居 279
74	石造物	手洗石	馬橋	路傍	—	34*52.5*31.5
75	石造物	十九夜塔	新作	広照寺	—	光背型 76*38.5*25
76	石造物	弘法大師供養塔	新作	広照寺	昭和59年(1984)	長足五輪塔 165*17.5*17
77	石造物	六地藏	新作	広照寺	寛保元年(1741)	光背型
78	石造物	参拝塔	新作	広照寺	文久3年(1863)	丸彫 65.5
79	石造物	子大将	新作	広照寺	—	石祠 54
80	石造物	庚申塔	新作	安房須神社	宝永5年(1708)	光背型 101*49*25
81	石造物	庚申塔	新作	安房須神社	宝曆8年(1758)	駒型 81.5*43*18
82	石造物	庚申塔	新作	安房須神社	安永5年(1776)	駒型 106.5*38*23
83	石造物	庚申塔	新作	安房須神社	文政9年(1826)	駒型 75*30.5*21
84	石造物	庚申塔	新作	安房須神社	—	自然石 141.5*30
85	石造物	道祖神	新作	安房須神社	元文6年(1741)	石祠 62.8
86	石造物	疱瘡神	新作	安房須神社	文化11年(1814)	石祠 66
87	石造物	稻荷明神	新作	安房須神社	享和2年(1802)	石祠 64
88	石造物	大杉明神	新作	安房須神社	—	駒型 75*29*19
89	石造物	榎原宮	新作	安房須神社	明治36年(1903)	自然石 133
90	石造物	神使(狛犬)	新作	安房須神社	明治16年(1883)	丸彫 61
91	石造物	石鳥居	新作	安房須神社	平成2年(1990)	明神鳥居 327
92	石造物	石灯笼(一对)	新作	安房須神社	文化5年(1808)	四角 190
93	石造物	手洗石	新作	安房須神社	—	40.4*103*45
94	石造物	力石(4)	新作	安房須神社	—	自然石
95	石造物	不明	新作	安房須神社	宝曆14年(1764)	石祠 59
96	石造物	不明	新作	安房須神社	寛政12年(1800)	石祠 49
97	石造物	不明	新作	安房須神社	天保15年(1844)	石祠 50.3
98	石造物	庚申塔	三日月	三日月神社	元禄8年(1695)	板碑型 108*39*24
99	石造物	弘法大師供養塔	三日月	三日月神社	—	丸彫 40
100	石造物	巡礼塔	三日月	三日月神社	昭和9年(1934)	自然石 104
101	石造物	富士講碑	三日月	三日月神社	昭和9年(1934)	自然石 91

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
102	石造物	大山講供養塔	三日月	三日月神社	大正 12 年(1923)	自然石 105
103	石造物	稻荷明神	三日月	三日月神社	天保 9 年(1838)	石祠 74
104	石造物	三日月明神	三日月	三日月神社	寛延 4 年(1751)	石祠 73
105	石造物	神明鳥居	三日月	三日月神社	大正 13 年(1924)	神明鳥居
106	石造物	石灯籠	三日月	三日月神社	昭和 10 年(1935)	四角 173
107	石造物	手洗石	三日月	三日月神社	昭和 10 年(1935)	59*124*51.5
108	石造物	天神	三日月	三日月神社	寛保 2 年(1742)	石祠 67
109	石造物	庚申塔	三日月	路傍	明和 6 年(1769)	駒型 58*28*18
110	石造物	庚申塔	三日月	路傍	文政 13 年(1830)	駒型 75*33*20
111	石造物	庚申塔	三日月	路傍	天保 14 年(1843)	駒型 67*29*18
112	石造物	甲子塔	三日月	路傍	弘化 4 年(1847)	丸彫 38*22*24
113	石造物	庚申塔	中根	妙見神社	元禄 15 年(1702)	光背型 141*60.5*31
114	石造物	庚申塔	中根	妙見神社	明和 4 年(1767)	駒型 88*33.5*19.5
116	石造物	庚申塔	中根	妙見神社	—	自然石 128
117	石造物	二十三夜塔	中根	妙見神社	寛保元年(1741)	石祠 63.5
118	石造物	二十三夜塔	中根	妙見神社	—	山状角柱 51*21*12
119	石造物	如意輪観音	中根	妙見神社	天保 6 年(1835)	櫛型 64*24*19.5
120	石造物	巡礼塔	中根	妙見神社	—	駒型
121	石造物	富士講碑	中根	妙見神社	明治 20 年(1887)	自然石 105
122	石造物	富士講碑	中根	妙見神社	大正 8 年(1919)	自然石 98
123	石造物	富士講碑	中根	妙見神社	大正 8 年(1919)	自然石 112
124	石造物	神使(狛犬)	中根	妙見神社	明治 29 年(1896)	丸彫 52.5
125	石造物	石鳥居	中根	妙見神社	大正 8 年(1919)	神明鳥居
126	石造物	石灯籠(一对)	中根	妙見神社	昭和 41 年(1966)	四角 231
127	石造物	手洗石	中根	妙見神社	元治元年(1864)	47*91.5*52.5

明地区

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
1	石造物	庚申塔	上本郷	本覚寺	延宝 8 年(1680)	駒型 104*48*23
2	石造物	巡拜塔	上本郷	本覚寺	寛延 4 年(1751)	駒型 110*44.5*27
3	石造物	庚申塔	上本郷	本福寺	寛文 5 年(1665)	板碑型 105*42*30
4	石造物	十九夜塔	上本郷	本福寺	貞享 3 年(1686)	光背型 127*52*30
5	石造物	十九夜塔	上本郷	本福寺	元禄 7 年(1694)	光背型 102*48*27
6	石造物	阿弥陀如来	上本郷	本福寺	寛文 10 年(1670)	光背型 84*35*23
7	石造物	馬頭観音	上本郷	本福寺	弘化 2 年(1845)	角柱型 81*37.5*24
8	石造物	馬頭観音	上本郷	本福寺	—	角柱型 35*16.5*6.5
9	石造物	地藏菩薩	上本郷	本福寺	寛文 6 年(1666)	光背型 113*43*30
10	石造物	地藏菩薩	上本郷	本福寺	元禄 9 年(1696)	光背型 128*53.5*30
11	石造物	六地藏	上本郷	本福寺	宝暦 9 年(1759)	光背型 66.5*30*17.5
12	石造物	宇賀神	上本郷	本福寺	—	自然石 84
13	石造物	手洗石	上本郷	本福寺	大正 13 年(1924)	50*88.5*47.5
14	石造物	庚申塔	上本郷	明治神社	宝永 5 年(1708)	駒型 106*44*26
15	石造物	庚申塔	上本郷	明治神社	元文 5 年(1740)	駒型 92*38*21
16	石造物	庚申塔	上本郷	明治神社	寛延 3 年(1750)	笠付角柱 81
17	石造物	庚申塔	上本郷	明治神社	宝暦 4 年(1754)	駒型 90*37*15

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
18	石造物	庚申塔	上本郷	明治神社	天明7年(1787)	山状角柱 70*36*36
19	石造物	庚申塔	上本郷	明治神社	寛政元年(1789)	山状角柱 81*35.5*35.5
20	石造物	庚申塔	上本郷	明治神社	天保2年(1831)	山状角柱 72*32*23.5
21	石造物	庚申塔	上本郷	明治神社	安政6年(1859)	自然石 152
22	石造物	二十三夜塔	上本郷	明治神社	嘉永6年(1853)	駒型 63.4*29*18.5
23	石造物	光明真言塔	上本郷	明治神社	寛政11年(1799)	櫛型 62*28*19.5
24	石造物	出羽三山供養塔	上本郷	明治神社	安永4年(1775)	山状角柱 95.5*38*24
25	石造物	富士講碑	上本郷	明治神社	-	石祠 53
26	石造物	伊勢講碑	上本郷	明治神社	宝暦2年(1752)	石祠 80
27	石造物	山の神	上本郷	明治神社	嘉永2年(1849)	石祠 63
28	石造物	雷神	上本郷	明治神社	文化元年(1804)	石祠 72
29	石造物	稻荷明神	上本郷	明治神社	延享2年(1748)	石祠 72
30	石造物	神使(狛犬)	上本郷	明治神社	平成8年(1996)	丸彫 62*53*29
31	石造物	石鳥居	上本郷	明治神社	平成18年(2006)	明神鳥居 438
32	石造物	石灯笼(一对)	上本郷	明治神社	昭和53年(1978)	六角 246
33	石造物	石灯笼(一对)	上本郷	明治神社	昭和37年(1962)	四角 235
34	石造物	手洗石	上本郷	明治神社	文化3年(1806)	41*91*42
35	石造物	不明	上本郷	明治神社	享和元年(1801)	石祠 70
36	石造物	庚申塔	上本郷	風早神社	天保2年(1831)	山状角柱 100*39*29
37	石造物	庚申塔	上本郷	風早神社	嘉永3年(1850)	山状角柱 99.5*39.5*27.5
38	石造物	二十三夜塔	上本郷	風早神社	大正14年(1925)	自然石 90
39	石造物	二十三夜塔	上本郷	風早神社	-	山状角柱 43*19*9.5
40	石造物	弁財天	上本郷	風早神社	明治34年(1901)	石祠 49.5
41	石造物	天神	上本郷	風早神社	明治34年(1901)	石祠 49
42	石造物	疱瘡神	上本郷	風早神社	明治34年(1901)	石祠 47
43	石造物	稻荷明神	上本郷	風早神社	明治34年(1901)	石祠 49
44	石造物	八幡明神	上本郷	風早神社	明治34年(1901)	石祠 48
45	石造物	大杉明神	上本郷	風早神社	明治34年(1901)	石祠 48.5
46	石造物	故録宮	上本郷	風早神社	大正15年(1926)	石祠 75.5
47	石造物	榎原宮	上本郷	風早神社	大正6年(1917)	自然石 121.5
48	石造物	金毘羅講供養塔	上本郷	風早神社	明治34年(1901)	石祠 50
49	石造物	神使(狛犬)	上本郷	風早神社	文化7年(1810)	丸彫 32
50	石造物	神使(狛犬)	上本郷	風早神社	昭和16年(1941)	丸彫 59.147
51	石造物	石鳥居	上本郷	風早神社	平成10年(1998)	明神鳥居 360
52	石造物	石鳥居	上本郷	風早神社	昭和10年(1935)	明神鳥居
53	石造物	石鳥居	上本郷	風早神社	昭和10年(1935)	明神鳥居 290
54	石造物	石灯笼(一对)	上本郷	風早神社	安政4年(1857)	四角 212
55	石造物	石灯笼(一对)	上本郷	風早神社	昭和27年(1952)	四角 254
56	石造物	石灯笼(一对)	上本郷	風早神社	昭和53年(1978)	六角 248
57	石造物	石灯笼(一对)	上本郷	風早神社	昭和53年(1978)	六角 251
58	石造物	手洗石	上本郷	風早神社	文化3年(1806)	42.5*90.5*45
59	石造物	道祖神	上本郷	路傍	-	自然石 84*26*26
60	石造物	馬頭観音	上本郷	路傍	文化6年(1809)	光背型 58*26*18
61	石造物	馬頭観音	上本郷	路傍	明治39年(1906)	自然石 88.5*48.5*5

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
62	石造物	庚申塔	上本郷	大聖院	貞享3年(1686)	駒型 127*48*41
63	石造物	庚申塔	上本郷	大聖院	享和元年(1801)	駒型 96*42*25
64	石造物	念仏塔	上本郷	大聖院	寛文8年(1668)	光背型 149*65*38
65	石造物	無縁塔	上本郷	大聖院	昭和50年(1975)	角柱型 68.5*30.16.5
66	石造物	巡拝塔	上本郷	大聖院	元文5年(1740)	板碑型 90*33.5*20
67	石造物	巡拝塔	上本郷	大聖院	-	櫛型 93*36*21.5
68	石造物	巡拝塔	上本郷	大聖院	-	櫛型 71.5*29.5*15
69	石造物	石鳥居	上本郷	路傍	昭和41年(1966)	明神鳥居 243
70	石造物	稲荷明神	上本郷	路傍	-	角柱型 134*18.5*17
71	石造物	庚申塔	南花島	栄松寺	宝永6年(170)	駒型 103*41*35
72	石造物	庚申塔	南花島	栄松寺	正徳元年(1711)	駒型 106*48*33
73	石造物	庚申塔	南花島	栄松寺	寛政6年(1794)	駒型 101*39*17
74	石造物	庚申塔	南花島	栄松寺	文政元年(1818)	山状角柱 80*31.5*22
75	石造物	庚申塔	南花島	栄松寺	天保4年(1833)	駒型 70.5*29*20
76	石造物	庚申塔	南花島	栄松寺	弘化4年(1847)	駒型 70.5*29*20
77	石造物	庚申塔	南花島	栄松寺	嘉永7年(1854)	駒型 73.5*30.5*20
78	石造物	庚申塔	南花島	栄松寺	文久3年(1863)	駒型 74*31*21
79	石造物	万霊塔	南花島	栄松寺	嘉永4年(1851)	山状角柱 78*31.5*25
80	石造物	万霊塔	南花島	栄松寺	大正14年(1925)	自然石 74
81	石造物	無縁塔	南花島	栄松寺	昭和38年(1963)	角柱型 123*31*16
82	石造物	聖観音	南花島	栄松寺	寛文10年(1670)	光背型 101*42*20
83	石造物	地藏菩薩	南花島	栄松寺	寛文8年(1668)	光背型 115*47*37
84	石造物	地藏菩薩	南花島	栄松寺	元文2年(1737)	丸彫 60
85	石造物	六地藏	南花島	栄松寺	元文3年(1738)	光背型
86	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 65*25*15
87	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 67.5*25*18.5
88	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 67.5*27.5*19
89	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 67*25*16.5
90	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 65*25.5*19
91	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 65*25.5*20
92	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 63*25.5*18.5
93	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 68*25*18.5
94	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 66*26*18.5
95	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 66.5*25.5*19
96	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 66*25.5*18.5
97	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 70*25*17
98	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 62.5*25*17.5
99	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 68*26.5*20
100	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 60.5*25.5*19
101	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 66.5*25.5*21
102	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 68*25*20.5
103	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 68.5*25*19.5
104	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 68*25*20
105	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 66*24*19.5

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
106	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 66.5*25.5*20.5
107	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 67*25*18.5
108	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 66*26*18.5
109	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 65*25*20
110	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 67*26*20.5
111	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 40.5*26.5*19
112	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久元年(1861)	角柱型 42*25*20
113	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久2年(1862)	角柱型 68.5*24.5*17.5
114	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久2年(1862)	角柱型 66*24*18
115	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久2年(1862)	角柱型 69*27*16.5
116	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久2年(1862)	角柱型 66.5*24.5*17
117	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久2年(1862)	角柱型 63.5*28.5*20.5
118	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	文久2年(1862)	角柱型 66*26.5*19.5
119	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	角柱型 104*25*18.5
120	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	自然石 104*84*13
121	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 71*24*10
122	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 66.5*25*11
123	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 54*23*10
124	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 55*23*10
125	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 59.5*22*10.5
126	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 62.5*24*10.5
127	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 43.5*24*9.5
128	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 42.5*22*10
129	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 53.5*22*10.5
130	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 42.5*25*9
131	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 52*22*11
132	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 40.5*22*10
133	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 57*22*10.5
134	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 62*22.5*11.5
135	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 54*23*11
136	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 55*22*10.5
137	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 61.5*22*11
138	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 61*21.5*11
139	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 52*23*11
140	石造物	巡礼塔	南花島	栄松寺	-	駒型 59*22*10
141	石造物	弘法大師供養塔	南花島	栄松寺	大正13年(1924)	自然石 67.5*55*17
142	石造物	出羽三山供養塔	南花島	栄松寺	文化4年(1807)	山状角柱 108.5*30.5*21.5
143	石造物	弁才天	南花島	栄松寺	-	石祠 58.5
144	石造物	道標	南花島	栄松寺	文久2年(1862)	角柱型 95.5*22*20
145	石造物	石橋供養塔	南花島	栄松寺	文政7年(1824)	櫛型 79*23*13
146	石造物	不明	南花島	栄松寺	天保10年(1839)	駒型 67.5*28*17.5
147	石造物	十九夜塔	南花島	燈明寺	貞享5年(1688)	光背型 61*30*19
148	石造物	十九夜塔	南花島	燈明寺	元禄10年(1697)	光背型 69*31*26
149	石造物	光明真言塔	南花島	燈明寺	天明2年(1782)	櫛型 53.5*23.5*15

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
150	石造物	読誦塔	南花島	燈明寺	天明 4 年(1784)	山状角柱 59.5*24*15.5
151	石造物	六地藏	南花島	燈明寺	嘉永元年(1848)	光背型 65*29.5*18.5
152	石造物	庚申塔	南花島	春日神社	明治 42 年(1909)	自然石 113
153	石造物	不動明王	南花島	春日神社	天保 3 年(1832)	角柱型 62*31*18
154	石造物	疱瘡神	南花島	春日神社	—	石祠 34
155	石造物	神使(狛犬)	南花島	春日神社	昭和 46 年(1971)	丸彫 62
156	石造物	神使(狛犬)	南花島	春日神社	昭和 59 年(1984)	丸彫 51
157	石造物	石鳥居	南花島	春日神社	天明 8 年(1788)	明神鳥居
158	石造物	石鳥居	南花島	春日神社	昭和 41 年(1966)	神明鳥居
159	石造物	石鳥居	南花島	春日神社	昭和 46 年(1971)	明神鳥居
160	石造物	石灯笼(一对)	南花島	春日神社	明治 42 年(1909)	四角 268.5
161	石造物	手洗石	南花島	春日神社	安永 4 年(1775)	42*115*43.5
162	石造物	六地藏	松戸新田	證誠院	昭和 48 年(1973)	丸彫 78
163	石造物	石灯笼(一对)	松戸新田	證誠院	昭和 16 年(1941)	四角 290.5
164	石造物	石灯笼(一对)	松戸新田	證誠院	昭和 16 年(1941)	四角
165	石造物	十九夜塔	松戸新田	常照庵	元禄 7 年(1694)	光背型 109*48*28
166	石造物	馬頭観音	松戸新田	常照庵	寛政 11 年(1799)	駒型 70.5*28.5*20
167	石造物	馬頭観音	松戸新田	常照庵	嘉永 5 年(1852)	駒型 51*23.5*12
168	石造物	馬頭観音	松戸新田	常照庵	明治元年(1868)	駒型 41*21*15
169	石造物	馬頭観音	松戸新田	常照庵	—	駒型 68*27*16
170	石造物	六地藏	松戸新田	常照庵	元文 5 年(1740)	光背型 93*34*20
171	石造物	巡礼塔	松戸新田	常照庵	文政 12 年(1829)	山状角柱 69.5*27*15
172	石造物	手洗石	松戸新田	常照庵	天保 9 年(1838)	34*86*46.5
173	石造物	庚申塔	松戸新田	神明神社	—	自然石 127.5
174	石造物	山の神	松戸新田	神明神社	弘化 2 年(1845)	石祠 74.5
175	石造物	神使(狛犬)	松戸新田	神明神社	大正 8 年(1919)	丸彫 58*136
176	石造物	石鳥居	松戸新田	神明神社	大正 8 年(1919)	神明鳥居
177	石造物	石灯笼(一对)	松戸新田	神明神社	嘉永 7 年(1854)	四角 177
178	石造物	手洗石	松戸新田	神明神社	文政 8 年(1825)	42*87*43
179	石造物	庚申塔	松戸新田	路傍	元禄 9 年(1696)	櫛型 101*38*23.5
180	石造物	庚申塔	松戸新田	路傍	寛政 7 年(1795)	駒型 73.5*33*22
181	石造物	庚申塔	松戸新田	路傍	宝永 3 年(1706)	駒型 107*48*30
182	石造物	雷神	松戸新田	路傍	—	石祠 74
183	石造物	天神	松戸新田	路傍	—	石祠 97
184	石造物	石鳥居	松戸新田	路傍	昭和 17 年(1942)	神明鳥居
185	石造物	庚申塔	松戸新田	路傍	天保 10 年(1839)	駒型 89*39*16.5
186	石造物	庚申塔	根本	吉祥寺	元禄 16 年(1703)	駒型 108*51*20
187	石造物	庚申塔	根本	吉祥寺	正徳 5 年(1715)	駒型 103.5*42*30
188	石造物	十九夜講	根本	吉祥寺	天和 2 年(1682)	光背型 120*51*33
189	石造物	二十三夜塔	根本	吉祥寺	正徳元年(1711)	光背型 94*46.5*30
190	石造物	弘法大師供養塔	根本	吉祥寺	天保 5 年(1834)	皿形角柱 194*31.5*23
191	石造物	弘法大師供養塔	根本	吉祥寺	明治 17 年(1884)	皿形角柱 108.5*31.5*22
192	石造物	弘法大師供養塔	根本	吉祥寺	昭和 59 年(1984)	皿形角柱 114*31*22
193	石造物	阿弥陀如来	根本	吉祥寺	—	光背型 112*42*30

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
194	石造物	馬頭観音	根本	吉祥寺	大正 14 年(1925)	自然石 199
195	石造物	地藏菩薩	根本	吉祥寺	—	丸彫 81.5
196	石造物	六地藏	根本	吉祥寺	—	丸彫
197	石造物	菩薩	根本	吉祥寺	明和 8 年(1771)	丸彫 103*43*30
198	石造物	手洗石	根本	吉祥寺	文政元年(1818)	45*94*47
199	石造物	手洗石	根本	吉祥寺	—	18.5*38*25.5
200	石造物	道標	根本	吉祥寺	—	角柱型 61*21.5*14.5
201	石造物	不明	根本	吉祥寺	慶安元年(1648)	板碑型 166*57*35
202	石造物	庚申塔	根本	金山神社	寛政 7 年(1795)	山状角柱 82.5*35.5*24
203	石造物	庚申塔	根本	金山神社	天保 2 年(1831)	山状角柱 73*31*25
204	石造物	不動明王	根本	金山神社	—	角柱型 49*26*18
205	石造物	富士講碑	根本	金山神社	明治 41 年(1908)	自然石 126
206	石造物	富士講碑	根本	金山神社	—	自然石 87
207	石造物	三峰講供養塔	根本	金山神社	昭和 35 年(1960)	自然石 131
208	石造物	妙見塔	根本	金山神社	昭和 31 年(1956)	石祠 78*39
209	石造物	神使(狛犬)	根本	金山神社	明治 24 年(1891)	丸彫 55
210	石造物	石鳥居	根本	金山神社	昭和 35 年(1960)	神明鳥居
211	石造物	石鳥居	根本	金山神社	—	明神鳥居
212	石造物	石灯笼(一对)	根本	金山神社	弘化 4 年(1847)	四角 291.5
213	石造物	石灯笼(一对)	根本	金山神社	明治 35 年(1902)	四角 266
214	石造物	手洗石	根本	金山神社	享保 6 年(172)	40*84*50
215	石造物	水神	根本	水神宮	安永 8 年(1779)	石祠 102
216	石造物	石鳥居	根本	水神宮	平成 9 年(1997)	明神鳥居 240
217	石造物	神使(狐)	根本	稻荷神社	昭和 38 年(1963)	丸彫 37
218	石造物	石灯笼(一对)	根本	稻荷神社	昭和 38 年(1963)	四角 142
219	石造物	道標	根本	路傍	—	山状角柱 73*23*13
220	石造物	菅原神社	根本	根本天神	明治 31 年(1898)	自然石 122
221	石造物	神使(狛犬)	根本	根本天神	昭和 5 年(1930)	丸彫 66
222	石造物	石鳥居	根本	根本天神	昭和 39 年(1964)	明神鳥居
223	石造物	石灯笼(一对)	根本	根本天神	昭和 8 年(1933)	四角 265
224	石造物	手洗石	根本	根本天神	弘化 4 年(1847)	42*94.5*43
225	石造物	庚申塔	根本	岩山稻荷	享保 6 年(1721)	山状角柱 93.5*37*24
226	石造物	稻荷明神	根本	岩山稻荷	寛政 4 年(1792)	石祠 44
227	石造物	稻荷明神	根本	岩山稻荷	大正 13 年(1924)	駒型 30*20*10
228	石造物	神使(狐)	根本	岩山稻荷	昭和 9 年(1934)	丸彫 53
229	石造物	神使(狐)	根本	岩山稻荷	昭和 40 年(1965)	丸彫 60
230	石造物	神使(狐)	根本	岩山稻荷	—	丸彫 53
231	石造物	石鳥居	根本	岩山稻荷	大正 15 年(1926)	神明鳥居
232	石造物	石灯笼(一对)	根本	岩山稻荷	—	四角 193
233	石造物	手洗石	根本	岩山稻荷	—	31*66*32
234	石造物	馬頭観音	根本	池田弁天	明和 5 年(1768)	駒型 37*26*14
235	石造物	弁財天	根本	池田弁天	—	駒型 49*22.8*14
236	石造物	弁財天	根本	池田弁天	—	自然石 17
237	石造物	龍神	根本	池田弁天	昭和 34 年(1959)	駒型 14*10*3.5

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
238	石造物	神使(蛇)	根本	池田弁天	昭和4年(1929)	丸彫 13.5
239	石造物	神使(蛇)	根本	池田弁天	-	丸彫 27
240	石造物	手洗石	根本	池田弁天	天保4年(1833)	20*57.5*32
241	石造物	庚申塔	岩瀬	花蔵院	元禄11年(1698)	板碑型 57*24.5*18
242	石造物	念仏塔	岩瀬	花蔵院	宝永4年(1707)	光背型 103*42*27
243	石造物	弘法大師供養塔	岩瀬	花蔵院	明治17年(1884)	自然石 172
244	石造物	弘法大師供養塔	岩瀬	花蔵院	明治40年(1907)	丸彫 79
245	石造物	六地藏	岩瀬	花蔵院	-	丸彫 112
246	石造物	巡礼塔	岩瀬	花蔵院	文化5年(1808)	山状角柱 64*21.5*17
247	石造物	巡礼塔	岩瀬	花蔵院	明治43年(1910)	丸彫 64
248	石造物	石灯笼	岩瀬	花蔵院	大正7年(1918)	四角 128.5
249	石造物	田荒井石	岩瀬	花蔵院	天保10年(1839)	43*80*42
250	石造物	富士講碑	岩瀬	胡録神社	大正12年(1923)	自然石 132
251	石造物	疱瘡神	岩瀬	胡録神社	文化4年(1807)	石祠 37.5
252	石造物	稻荷明神	岩瀬	胡録神社	寛政12年(1800)	石祠 51.5*24
253	石造物	稻荷明神	岩瀬	胡録神社	享和4年(1804)	石祠 45.7
254	石造物	熊野権現	岩瀬	胡録神社	安永6年(1777)	石祠 86
255	石造物	神使(狛犬)	岩瀬	胡録神社	明治32年(1899)	丸彫 64
256	石造物	石灯笼(一对)	岩瀬	胡録神社	昭和48年(1973)	四角 250
257	石造物	石灯笼(一对)	岩瀬	胡録神社	-	四角 192
258	石造物	手洗石	岩瀬	胡録神社	文久3年(1863)	72*92.5*43
259	石造物	地藏菩薩	岩瀬	路傍	元文3年(1738)	光背型 103*42*28
260	石造物	廻国塔	岩瀬	路傍	寛政3年(1791)	櫛型 45*37*21
261	石造物	出羽三山供養塔	岩瀬	路傍	文化3年(1806)	山状角柱 62*30*30
262	石造物	庚申塔	岩瀬	路傍	延宝3年(1675)	光背型 94*50*21
263	石造物	庚申塔	岩瀬	路傍	元禄6年(1693)	駒型 131*54*24
264	石造物	庚申塔	岩瀬	路傍	宝永2年(1705)	笠付角柱 98
265	石造物	庚申塔	岩瀬	路傍	正徳2年(1712)	板碑型 88*39*19
266	石造物	庚申塔	岩瀬	路傍	寛延元年(1748)	駒型 84*33*19
267	石造物	庚申塔	岩瀬	路傍	文政13年(1830)	駒型 91*36*13.5
268	石造物	馬頭観音	岩瀬	路傍	大正14(1925)	山状角柱 61.5*23.5*21
269	石造物	白衣観音	岩瀬	路傍	昭和28年(1953)	丸彫 126
270	石造物	庚申塔	竹ヶ花	雷電神社	享保19年(1734)	駒型 77*37*22
271	石造物	庚申塔	竹ヶ花	雷電神社	天保13年(1842)	駒型 68*30*20
272	石造物	不動明王	竹ヶ花	雷電神社	天保	炎光背型 64
273	石造物	巡礼塔	竹ヶ花	雷電神社	大正7年(1918)	山状角柱 60*22*19
274	石造物	富士講碑	竹ヶ花	雷電神社	天保11年(1840)	角柱型 59*27*18
275	石造物	富士講碑	竹ヶ花	雷電神社	明治44年(1911)	自然石 82
276	石造物	大山講供養塔	竹ヶ花	雷電神社	昭和2年(1927)	櫛型 68*21*17
278	石造物	稻荷明神	竹ヶ花	雷電神社	-	石祠 43.5
279	石造物	稻荷明神	竹ヶ花	雷電神社	-	自然石 38
280	石造物	山王権現	竹ヶ花	雷電神社	-	石祠 41.5
281	石造物	神使(狛犬)	竹ヶ花	雷電神社	昭和9年(1934)	丸彫 80*157
282	石造物	石鳥居	竹ヶ花	雷電神社	大正10年(1921)	神明鳥居

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
283	石造物	石鳥居	竹ヶ花	雷電神社	大正 10 年(1921)	明神鳥居
284	石造物	石灯籠	竹ヶ花	雷電神社	享保 7 年(1722)	四角 173
285	石造物	石灯籠(一对)	竹ヶ花	雷電神社	安政 6 年(1859)	四角 202.5
286	石造物	手洗石	竹ヶ花	雷電神社	正徳 3 年(1713)	37*49*33
287	石造物	手洗石	竹ヶ花	雷電神社	安政 6 年(1859)	39*93*43
288	石造物	庚申塔	小根本	神明神社	元文 4 年(1739)	駒型 90.5*37*22
289	石造物	庚申塔	小根本	神明神社	天明 6 年(1786)	駒型 85*55*20
290	石造物	庚申塔	小根本	神明神社	寛政 8 年(1796)	駒型 98*37*23
291	石造物	道祖神	小根本	神明神社	宝永 5 年(1708)	石祠 74
292	石造物	稻荷明神	小根本	神明神社	寛政 7 年(1795)	石祠 62
293	石造物	神使(狛犬)	小根本	神明神社	明治 42 年(1909)	丸彫 62
294	石造物	石鳥居	小根本	神明神社	大正 10 年(1921)	神明鳥居
295	石造物	手洗石	小根本	神明神社	嘉永 4 年(1851)	42*103*44
296	石造物	庚申塔	小根本	路傍	元禄 10 年(1697)	板碑型 52*27*20
297	石造物	十九夜塔	小根本	路傍	宝永 2 年(1705)	光背型 87*48*26
298	石造物	十九夜塔	小根本	路傍	貞享 2 年(1685)	光背型 72*31*21
299	石造物	万霊塔	小根本	路傍	—	62*25*14
300	石造物	聖観音	小根本	路傍	延宝 4 年(1676)	光背型 70*30.5*13
301	石造物	廻国塔	小根本	路傍	—	山状角柱 82.5*31.5*32
302	石造物	念仏塔	小根本	路傍	寛文 9 年(1669)	光背型 89*39*17
303	石造物	念仏塔	小根本	路傍	貞享 3 年(1686)	光背型 103*38*32
304	石造物	馬頭観音	小根本	路傍	昭和 4 年(1929)	櫛型 32.8*14.5*11.9
305	石造物	六地藏	小根本	路傍	—	光背型 67*26*18
306	石造物	巡礼塔	小根本	路傍	—	丸彫 38.5
307	石造物	手洗石	小根本	路傍	—	角柱型 55*35*33
308	石造物	道標	小根本	路傍	天明 5 年(1785)	丸彫 198*36*26
309	石造物	馬頭観音	北松戸	路傍	—	駒型 39*29*12
310	石造物	地藏菩薩	北松戸	路傍	—	丸彫 52.5
311	石造物	地藏菩薩	北松戸	路傍	—	光背型 70*24*20
312	石造物	不明	北松戸	路傍	—	皿形角柱 39*16.5*14

新松戸・古ヶ崎地区

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
1	石造物	光明真言塔	旭町	金蔵院	宝暦 5 年(1755)	櫛型 78*33*19.7
2	石造物	甲子塔	旭町	金蔵院	明治 33 年(1900)	自然石 85
3	石造物	地藏菩薩	旭町	金蔵院	延宝 6 年(167)	光背型 136*59.5*40
4	石造物	地藏菩薩	旭町	金蔵院	延宝 6 年(167)	光背型 136*59.5*40
5	石造物	六地藏	旭町	金蔵院	大正 7 年(1918)	光背型 94.5*32.5*18.5
6	石造物	六地藏	旭町	金蔵院	—	光背型
7	石造物	巡拜塔	旭町	金蔵院	寛政元年(1789)	山状角柱 95*33.5*21
8	石造物	参拜塔	旭町	金蔵院	明治 28 年(1895)	丸彫 66.5
9	石造物	講天節	旭町	金蔵院	宝暦 6 年(1756)	石祠 70
10	石造物	手洗石	旭町	金蔵院	元治 2 年(1865)	34*71.4*42
11	石造物	庚申塔	旭町	稻荷神社	安永 7 年(1778)	駒型 94.5*37.5*23
12	石造物	庚申塔	旭町	稻荷神社	寛政 3 年(1791)	角柱 107*37.5*25

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
13	石造物	庚申塔	旭町	稻荷神社	天保9年(1838)	駒型 59.5*28.5*19
14	石造物	庚申塔	旭町	稻荷神社	天保9年(1838)	駒型 60*27*19
15	石造物	庚申塔	旭町	稻荷神社	天保9年(1838)	駒型 62*29*16.5
16	石造物	庚申塔	旭町	稻荷神社	明治12年(1879)	自然石 73
17	石造物	庚申塔	旭町	稻荷神社	昭和55年(1980)	櫛型 89*56.5*20
18	石造物	巡拝塔	旭町	稻荷神社	明和7年(1770)	山状角柱 81*30*30
19	石造物	天神	旭町	稻荷神社	宝暦6年(1756)	石祠 75
20	石造物	疱瘡神	旭町	稻荷神社	嘉永2年(1849)	石祠 60.5
21	石造物	大杉明神	旭町	稻荷神社	文化8年(1811)	駒型 80*37*23
22	石造物	神使(狐)	旭町	稻荷神社	-	丸彫 65
23	石造物	石鳥居	旭町	稻荷神社	昭和42年(1967)	明神鳥居
24	石造物	石灯籠(一対)	旭町	稻荷神社	-	四角 286.5
25	石造物	手洗石	旭町	稻荷神社	嘉永4年(185)	36*72*41
26	石造物	庚申塔	旭町	路傍	宝永2年(1705)	駒型 104*45*25
27	石造物	庚申塔	旭町	路傍	享保元年(1716)	光背型 90*51*23
28	石造物	庚申塔	旭町	路傍	享保7年(1722)	駒型 117*54*30
29	石造物	参拝塔	旭町	路傍	文政13年(1830)	皿形角柱 74*27*16
30	石造物	馬頭観音	旭町	路傍	大正4年(1915)	駒型 31.5*19.5*12
31	石造物	水神・稻荷明神	旭町	路傍	安永9年(1780)	石祠 51
32	石造物	疱瘡神	旭町	路傍	嘉永2年(1849)	駒型 38.5*17.5*9
33	石造物	地荒神	旭町	路傍	明治19年(1886)	石祠 39*18.5*10.5
34	石造物	不明	旭町	路傍	-	石祠 46.5
35	石造物	稻荷明神	旭町	路傍	天明4年(1784)	石祠 74
36	石造物	石鳥居	旭町	路傍	昭和46年(1971)	神明鳥居
37	石造物	馬頭観音	旭町	路傍	明治28年(1885)	駒型 44*20.5*12
38	石造物	神使(狐)	旭町	路傍	-	丸彫 43
39	石造物	神使(狐)	旭町	路傍	-	丸彫 26.5
40	石造物	手洗石	旭町	路傍	明治26年(1893)	32*63.5*31
41	石造物	不明	旭町	路傍	明治16年(1883)	石祠 38.5
42	石造物	不明	旭町	路傍	-	石祠 59
43	石造物	庚申塔	栄町	正真寺	元禄15年(1702)	光背型 117*49*31
44	石造物	十九夜塔	栄町	正真寺	元禄11年(1698)	光背型 101*43*27
45	石造物	如意輪観音	栄町	正真寺	安永3年(1774)	光背型 80*34.5*26
46	石造物	六地藏	栄町	正真寺	弘化3年(1846)	光背型
47	石造物	力石(20)	栄町	正真寺	-	-
48	石造物	庚申塔	栄町	香取稻荷社	延宝2年(1674)	光背型 116*50*25
49	石造物	庚申塔	栄町	香取稻荷社	寛延3年(1750)	駒型 104*47.5*30
50	石造物	庚申塔	栄町	香取稻荷社	明和7年(1770)	皿形角柱 98.5*36.5*36.5
51	石造物	庚申塔	栄町	香取稻荷社	安政7年(1860)	駒型 92.9*45.3*44.3
52	石造物	大山講供養塔	栄町	香取稻荷社	天明3年(1783)	笠付角柱 116.5
53	石造物	天神	栄町	香取稻荷社	宝暦6年(1756)	石祠 75
54	石造物	大杉明神	栄町	香取稻荷社	安政7年(1860)	笠付角柱 131
55	石造物	神使(狛犬)	栄町	香取稻荷社	明治28年(1895)	丸彫 71
56	石造物	石灯籠(一対)	栄町	香取稻荷社	嘉永4年(1851)	四角 154.5

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
57	石造物	手洗石	栄町	香取稻荷社	嘉永3年(1850)	35*73*44
58	石造物	庚申塔	栄町	路傍	寛政4年(1792)	駒型 116*40*24
59	石造物	地藏菩薩	栄町	路傍	享和元年(1801)	光背型 96*34*21
60	石造物	巡礼塔	栄町	路傍	-	丸彫 55*28*19
61	石造物	道祖神	栄町	路傍	延享3年(1746)	石祠 63.5
62	石造物	水神	栄町	路傍	天明2年(1782)	石祠 73.5
63	石造物	庚申塔	栄町	路傍	明和7年(1770)	駒型 92*41*26
64	石造物	庚申塔	樋野口	大乘院	明暦2年(1656)	板碑型 107*42*26
65	石造物	庚申塔	樋野口	大乘院	寛文12年(1672)	板碑型 103*37.5*26
66	石造物	庚申塔	樋野口	大乘院	元禄15年(1702)	駒型 99*47*26
67	石造物	庚申塔	樋野口	大乘院	享和2年(1802)	駒型 106*41*26
68	石造物	庚申塔	樋野口	大乘院	文化13年(1816)	駒型 112*41*24
69	石造物	庚申塔	樋野口	大乘院	文政6年(1823)	駒型 114*39*21.5
70	石造物	弘法大師供養塔	樋野口	大乘院	天保5年(1834)	皿形角柱 85.5*24*20
71	石造物	弘法大師供養塔	樋野口	大乘院	昭和59年(1984)	皿形角柱 134*24.5*24.5
72	石造物	馬頭観音	樋野口	大乘院	文政11年(1828)	駒型 45*26.5*13
73	石造物	地藏菩薩	樋野口	大乘院	正徳3年(1713)	光背型 104*64*20
74	石造物	六地藏	樋野口	大乘院	元文2年(1737)	光背型
75	石造物	巡礼塔	樋野口	大乘院	明治43年(1910)	丸彫 79*30.5*29
76	石造物	石灯篭	樋野口	大乘院	明治42年(1909)	四角 112
77	石造物	水神	樋野口	女体神社	-	石祠 55.5
78	石造物	大杉明神	樋野口	女体神社	-	石祠 66
79	石造物	神使(狛犬)	樋野口	女体神社	昭和9年(1934)	丸彫 61
80	石造物	石鳥居	樋野口	女体神社	昭和59年(1984)	明神鳥居
81	石造物	石鳥居	樋野口	女体神社	-	明神鳥居
82	石造物	石灯籠(一对)	樋野口	女体神社	慶応3年(1867)	四角 205
83	石造物	手洗石	樋野口	女体神社	文久2年(1862)	37*75*38.5
84	石造物	不明	樋野口	女体神社	文政3年(1820)	石祠 57
85	石造物	天神	樋野口	路傍	明和5年(1768)	石祠 67.5
86	石造物	第六天	樋野口	路傍	明治42年(1909)	駒型 36*19.5*11
87	石造物	手洗石	樋野口	路傍	昭和11年(1936)	30*71.5*30
88	石造物	庚申塔	古ヶ崎	稻荷神社	正徳2年(1712)	駒型 104*46*23
89	石造物	庚申塔	古ヶ崎	稻荷神社	享保元年(1716)	駒型 113*58*23
90	石造物	聖観音	古ヶ崎	稻荷神社	-	自然石 153
91	石造物	疱瘡神	古ヶ崎	稻荷神社	文化10年(1813)	石祠 50
92	石造物	神使(狛犬)	古ヶ崎	稻荷神社	明治16年(1883)	丸彫 61
93	石造物	石鳥居	古ヶ崎	稻荷神社	明治20年(1887)	明神鳥居
94	石造物	石灯籠(一对)	古ヶ崎	稻荷神社	明治10年(1877)	四角 213
95	石造物	石灯籠(一对)	古ヶ崎	稻荷神社	昭和12年(1937)	四角 217
96	石造物	庚申塔	古ヶ崎	鶯ノ森神社	元禄16年(1703)	光背型 120.5*51.5*30
97	石造物	庚申塔	古ヶ崎	鶯ノ森神社	延享3年(1746)	駒型 98*35*20
98	石造物	庚申塔	古ヶ崎	鶯ノ森神社	天保14年(1843)	山状角柱 84*39*39
99	石造物	庚申塔	古ヶ崎	鶯ノ森神社	文久元年(1861)	駒型 89.5*37.5*32.5
100	石造物	疱瘡神	古ヶ崎	鶯ノ森神社	文化10年(1813)	石祠 33

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
101	石造物	八幡明神	古ヶ崎	鶯ノ森神社	享和3年(1803)	石祠 46.5
102	石造物	神使(狛犬)	古ヶ崎	鶯ノ森神社	大正8年(1919)	丸彫 70
103	石造物	石灯笼	古ヶ崎	鶯ノ森神社	安永6年(1777)	四角 160
104	石造物	石灯笼	古ヶ崎	鶯ノ森神社	嘉永3年(1850)	四角 160
105	石造物	石灯笼(一对)	古ヶ崎	鶯ノ森神社	明治24年(1891)	四角 207
106	石造物	手洗石	古ヶ崎	鶯ノ森神社	嘉永5年(1852)	32*74*38
107	石造物	石鳥居	古ヶ崎	鶯ノ森神社	平成19年(2007)	明神鳥居
108	石造物	庚申塔	古ヶ崎	路傍	文政5年(1822)	山状角柱 80*31.5*30.5
109	石造物	庚申塔	古ヶ崎	路傍	寛文10年(1670)	光背型 155*57*36
110	石造物	念仏塔	古ヶ崎	路傍	寛文8年(1668)	光背型 144*60*30
111	石造物	庚申塔	古ヶ崎	路傍	享保元年(1706)	駒型 111*43*22
112	石造物	庚申塔	古ヶ崎	路傍	安永8年(1779)	駒型 90.5*34.5*20
113	石造物	弘法大師供養塔	古ヶ崎	路傍	-	29
114	石造物	神使(狐)	古ヶ崎	路傍	-	丸彫
115	石造物	石灯笼	古ヶ崎	路傍	弘化2年(1845)	火袋なし 169
116	石造物	石灯笼	古ヶ崎	路傍	昭和24年(1949)	四角 111
117	石造物	参拜塔	古ヶ崎	路傍	明治15年(1882)	角柱型 41*19*10
118	石造物	巡礼塔	古ヶ崎	路傍	明治43年(1910)	丸彫 36
119	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	寛文4年(1664)	板碑型 136*54*29
120	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	天和2年(1682)	板碑型 120*50*30
121	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	貞享2年(1685)	板碑型 104.5*45.8*34
122	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	元禄8年(1695)	板碑型 89*36*30
123	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	宝永2年(1705)	板碑型 69*31.5*18
124	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	享保2年(1717)	光背型 100*47*27
125	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	享保11年(1726)	駒型 97*42.5*26
126	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	享保20年(1735)	駒型 63*30.5*16
127	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	延享元年(1744)	駒型 62*29*20
128	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	天保2年(1831)	山状角柱 64.5*27*18
129	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	弘化4年(1847)	山状角柱 62*25.5*18
130	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	安政7年(1860)	山状角柱 73*43.5*40.5
131	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	大正9年(1920)	自然石 86
132	石造物	庚申塔	七右衛門新田	稻荷神社	昭和55年(1980)	山状角柱 76*24.5*15
133	石造物	読誦塔	七右衛門新田	稻荷神社	文久3年(1863)	山状角柱 64*25.5*17
134	石造物	勢至菩薩	七右衛門新田	稻荷神社	寛文11年(1671)	光背型 104*40*25
135	石造物	不動明王	七右衛門新田	稻荷神社	天明3年(1783)	石祠 49
136	石造物	閻魔	七右衛門新田	稻荷神社	宝暦10年(1760)	角柱型 93*33*22.5
137	石造物	廻国塔	七右衛門新田	稻荷神社	明和6年(1769)	駒型 90*34.5*23.5
138	石造物	巡礼塔	七右衛門新田	稻荷神社	昭和29年(1954)	自然石 92*50*8
139	石造物	参拜塔	七右衛門新田	稻荷神社	嘉永6年(1853)	炎光背型 60*30*23
140	石造物	水神	七右衛門新田	稻荷神社	享保14年(1729)	自然石 46
141	石造物	天神	七右衛門新田	稻荷神社	-	石祠 61
142	石造物	疱瘡神	七右衛門新田	稻荷神社	天保3年(1832)	石祠 42
143	石造物	稻荷明神	七右衛門新田	稻荷神社	明治12年(1879)	駒型 36.5*22.8*13.5
144	石造物	第六天	七右衛門新田	稻荷神社	宝暦13年(1763)	石祠 62.5

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
145	石造物	神使(狐)	七右衛門新田	稻荷神社	-	丸彫 64
146	石造物	石鳥居	七右衛門新田	稻荷神社	天保3年(1832)	明神鳥居 64
147	石造物	手洗石	七右衛門新田	稻荷神社	安政3年(1856)	33*72*40.5
148	石造物	六地藏	七右衛門新田	稻荷神社脇	享保2年(1717)	光背型 93*44*30
149	石造物	不明	七右衛門新田	稻荷神社脇	宝曆9年(1759)	櫛型 76*27*16.5
150	石造物	甲子塔	大谷口新田	稻荷神社	元治元年(1864)	笠付角柱 93
151	石造物	二十三夜塔	大谷口新田	稻荷神社	明治5年(1872)	自然石 63
152	石造物	読誦塔	大谷口新田	稻荷神社	明治28年(1895)	石祠 68
153	石造物	弘法大師供養塔	大谷口新田	稻荷神社	昭和15年(1940)	丸彫 41.5
154	石造物	弘法大師供養塔	大谷口新田	稻荷神社	-	丸彫 39.5
155	石造物	弁財天	大谷口新田	稻荷神社	寛政12年(1800)	石祠 82.5
156	石造物	巡礼塔	大谷口新田	稻荷神社	昭和9年(1934)	自然石 87*53*14
157	石造物	富士講碑	大谷口新田	稻荷神社	昭和25年(1950)	75*41*7
158	石造物	大山講供養塔	大谷口新田	稻荷神社	明治31年(1898)	自然石 95
159	石造物	天神	大谷口新田	稻荷神社	昭和51年(1976)	石祠 70.5
160	石造物	大杉明神	大谷口新田	稻荷神社	安永8年(1779)	駒型 81*39*22
161	石造物	神使(狐)	大谷口新田	稻荷神社	昭和51年(1976)	丸彫 60
162	石造物	石鳥居	大谷口新田	稻荷神社	昭和51年(1976)	稻荷鳥居
163	石造物	石灯笼(一对)	大谷口新田	稻荷神社	昭和51年(1976)	六角 201
164	石造物	手洗石	大谷口新田	稻荷神社	-	45*75*40
165	石造物	力石(4)	大谷口新田	稻荷神社	文化元年(1804)	自然石
166	石造物	庚申塔	新松戸	路傍	元禄10年(1697)	光背型 79*44*30.5
167	石造物	馬頭観音	新松戸	路傍	元治元年(1864)	駒型 42*22.5*14
168	石造物	参拜塔	新松戸	路傍	天保9年(1838)	角柱型 91*35*23
169	石造物	念仏塔	新松戸	路傍	延宝4年(1676)	光背型 112*50*23
170	石造物	光明真言塔	新松戸	路傍	元禄4年(1691)	板碑型 75*38*23
171	石造物	馬頭観音	新松戸	路傍	大正7年(1918)	駒型 62*25*17
172	石造物	庚申塔	新松戸	路傍	元禄4年(1691)	板碑型 75.5*37.5*28
173	石造物	庚申塔	新松戸	路傍	宝永7年(1710)	駒型 70.5*36.5*32
174	石造物	庚申塔	新松戸	路傍	嘉永7年(1854)	山状角柱 74.5*29.28.5
175	石造物	名号・題目塔	新松戸	路傍	寛文5年(1665)	板碑型 135*63*42
176	石造物	名号・題目塔	新松戸	路傍	延宝3年(1675)	板碑型 71*47.5*16.5
177	石造物	六地藏	新松戸	路傍	文化15年(1818)	光背型 58*29*20
178	石造物	庚申塔	新松戸	路傍	元禄17年(1704)	駒型 84.5*44*18
179	石造物	庚申塔	新松戸	路傍	寛政元年(1789)	駒型 115*39*23
180	石造物	庚申塔	主水新田	稻荷神社	元禄16年(1703)	駒型 96*39.5*27
181	石造物	庚申塔	主水新田	稻荷神社	享保元年(1716)	駒型 68*27.5*14.5
182	石造物	庚申塔	主水新田	稻荷神社	享保15年(1730)	駒型 62.5*29*20
183	石造物	庚申塔	主水新田	稻荷神社	宝曆10年(1760)	山状角柱 77*25.5*16
184	石造物	庚申塔	主水新田	稻荷神社	天保9年(1838)	山状角柱 65*26*20
185	石造物	庚申塔	主水新田	稻荷神社	昭和55年(1980)	山状角柱 63*30*18.5
186	石造物	題目塔	主水新田	稻荷神社	寛文3年(1663)	板碑型 98.5*43.5*26
187	石造物	巡礼塔	主水新田	稻荷神社	昭和9年(1934)	自然石 125.5*42*10
188	石造物	参拜塔	主水新田	稻荷神社	安政6年(1859)	炎光背型 138.5*29.5*29.5

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
189	石造物	天神	主水新田	稻荷神社	明和7年(1770)	石祠 77
190	石造物	妙正明神	主水新田	稻荷神社	安政7年(1860)	駒型 50*25.3*18
191	石造物	石鳥居	主水新田	稻荷神社	大正7年(1918)	神明鳥居
192	石造物	手洗石	主水新田	稻荷神社	明治7年(1874)	27*81*37.5
193	石造物	庚申塔	外河原	稻荷神社	享保3年(1718)	光背型 119*40*24
194	石造物	庚申塔	外河原	稻荷神社	昭和55年(198)	自然石 70
195	石造物	水神	外河原	稻荷神社	享保3年(1718)	石祠 78
196	石造物	水神	外河原	稻荷神社	慶応4年(1868)	自然石 51
197	石造物	雷神	外河原	稻荷神社	明治40年(1907)	自然石 64
198	石造物	天神	外河原	稻荷神社	文化15年(1818)	石祠 41
199	石造物	疱瘡神	外河原	稻荷神社	昭和56年(1981)	駒型 39*18.5*15.5
200	石造物	神使(狐)	外河原	稻荷神社	明治40年(1907)	丸彫 53
201	石造物	手洗石	外河原	稻荷神社	明治40年(1907)	33*72*34.5
202	石造物	力石	外河原	稻荷神社	-	自然石
203	石造物	念仏塔	主水新田	路傍	享保5年(1720)	光背型 112*49*27
204	石造物	念仏塔	主水新田	路傍	宝暦2年(1752)	光背型 54*35*19
205	石造物	題目塔	主水新田	路傍	天明5年(1785)	山状角柱 76*30.5*20
206	石造物	馬頭観音	主水新田	路傍	大正9年(1920)	駒型 35*20.5*12
207	石造物	馬頭観音	主水新田	路傍	昭和2年(1927)	角柱型 30*21*14.5
208	石造物	六地藏	主水新田	路傍	明和8年(1771)	光背型 30*21*14.5
209	石造物	弁財天	主水新田	路傍	昭和3年(1928)	駒型 21*13*9
210	石造物	弁財天・水神宮	主水新田	路傍	-	石祠 40.5
211	石造物	水神	主水新田	路傍	-	角柱型 23*14*12
212	石造物	水神	主水新田	路傍	文政10年(1827)	駒型 66*30*19
213	石造物	馬頭観音	西馬橋	稻荷神社	昭和3年(1928)	自然石 37
214	石造物	手洗石	西馬橋	稻荷神社	昭和11年(1936)	27*72.5*27

高木地区

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
1	石造物	十九夜塔	八ヶ崎	金谷寺	延宝4年(1676)	光背型 120*44*28
2	石造物	六地藏	八ヶ崎	金谷寺	寛政8年(1796)	丸彫
3	石造物	十九夜塔	八ヶ崎	長聖寺	貞享3年(1686)	光背型 130*51.5*36
4	石造物	十九夜塔	八ヶ崎	長聖寺	元禄10年(1697)	光背型 138*56*19
5	石造物	念仏塔	八ヶ崎	長聖寺	-	光背型 74.5*33*24
6	石造物	読誦塔	八ヶ崎	長聖寺	昭和12年(1937)	自然石 126.5*58*11
7	石造物	巡礼塔	八ヶ崎	長聖寺	文政6年(1823)	山状角柱 78*27*18
8	石造物	巡礼塔	八ヶ崎	長聖寺	文政7年(1824)	皿形角柱 98*21*20.5
9	石造物	庚申塔	八ヶ崎	子安神社	延宝8年(1680)	駒型 46*23*14.5
10	石造物	庚申塔	八ヶ崎	子安神社	享保14年(1729)	駒型 67.5*29*19
11	石造物	庚申塔	八ヶ崎	子安神社	安永9年(1780)	山状角柱 68*23*16
12	石造物	庚申塔	八ヶ崎	子安神社	天明2年(1782)	駒型 92*39*21
13	石造物	庚申塔	八ヶ崎	子安神社	文化9年(1812)	駒型 77.5*28*21
14	石造物	庚申塔	八ヶ崎	子安神社	文政5年(1822)	山状角柱 107.5*44*42
15	石造物	庚申塔	八ヶ崎	子安神社	明治17年(1884)	自然石 139
16	石造物	名号塔	八ヶ崎	子安神社	元禄14年(1701)	櫛型 105.5*36.37

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
17	石造物	名号塔	八ヶ崎	子安神社	寛政 9 年(1797)	山状角柱 72*31*25
18	石造物	読誦塔	八ヶ崎	子安神社	明治 12 年(1879)	山状角柱 78*28*23
19	石造物	読誦塔	八ヶ崎	子安神社	明治 33 年(1900)	自然石 143
20	石造物	聖徳太子供養塔	八ヶ崎	子安神社	文化 9 年(1812)	駒型 48.5*25*15
21	石造物	参拝塔	八ヶ崎	子安神社	文久 2 年(1862)	櫛型 95*48*28
22	石造物	富士講碑	八ヶ崎	子安神社	昭和 4 年(1929)	自然石 99.5
23	石造物	大山講供養塔	八ヶ崎	子安神社	明治 14 年(1881)	自然石 68
24	石造物	金毘羅講供養塔	八ヶ崎	子安神社	明治 27 年(1894)	自然石 84
25	石造物	道祖神	八ヶ崎	子安神社	寛保 2 年(1742)	石祠 76
26	石造物	山の神	八ヶ崎	子安神社	天保 10 年(1839)	駒型 61*25.5*18.5
27	石造物	天神	八ヶ崎	子安神社	寛延 4 年(1751)	石祠
28	石造物	子権現	八ヶ崎	子安神社	文化 9 年(1812)	石祠 75
29	石造物	神使(狛犬)	八ヶ崎	子安神社	昭和 11 年(1936)	丸彫 95*173
30	石造物	石鳥居	八ヶ崎	子安神社	文政 9 年(1826)	明神鳥居
31	石造物	石灯篭	八ヶ崎	子安神社	安永 9 年(1780)	四角 179
32	石造物	石灯篭(一対)	八ヶ崎	子安神社	安政 5 年(1858)	四角 240
33	石造物	手洗石	八ヶ崎	子安神社	元禄 7 年(1694)	38*104*47
34	石造物	庚申塔	八ヶ崎	路傍	文化 3 年(1806)	山状角柱 168*42*31
35	石造物	馬頭観音	八ヶ崎	路傍	文化 5 年(1808)	角柱型 83*35*19
36	石造物	馬頭観音	八ヶ崎	路傍	天保 9 年(1838)	駒型 40*23*12
37	石造物	馬頭観音	八ヶ崎	路傍	大正 12 年(1923)	駒型 35.5*20.5*12
38	石造物	馬頭観音	八ヶ崎	路傍	-	自然石 67
39	石造物	馬頭観音	八ヶ崎	路傍	-	自然石 70.5*46*11
40	石造物	鳥獣供養塔	八ヶ崎	路傍	昭和 12 年(1937)	自然石 70.5
41	石造物	地藏菩薩	八ヶ崎	路傍	-	丸彫 87
42	石造物	地藏菩薩	八ヶ崎	路傍	-	丸彫 59
43	石造物	地藏菩薩	八ヶ崎	路傍	-	丸彫 59
44	石造物	巡拝塔	千駄堀	円能寺	元禄 6 年(1693)	角柱型 55.5*24*19
45	石造物	巡礼塔	千駄堀	円能寺	文化 5 年(1808)	皿状角柱 139.5*25.5*22
46	石造物	石灯篭(一対)	千駄堀	円能寺	-	四角 153
47	石造物	手洗石	千駄堀	円能寺	嘉永 5 年(1852)	48.5*76*35.5
48	石造物	庚申塔	千駄堀	香取神社	寛文 7 年(1667)	石祠 92
49	石造物	庚申塔	千駄堀	香取神社	明治 15 年(1882)	自然石 159
50	石造物	巡拝塔	千駄堀	香取神社	嘉永 7 年(1854)	駒型 155
51	石造物	富士講碑	千駄堀	香取神社	大正 11 年(1922)	自然石 89
52	石造物	疱瘡神	千駄堀	香取神社	宝暦 13 年(1763)	石祠 85
53	石造物	子安神	千駄堀	香取神社	文政 7 年(1824)	石祠 62.5
54	石造物	稻荷明神	千駄堀	香取神社	享保 17 年(1732)	石祠 106.5
55	石造物	稻荷明神	千駄堀	香取神社	明治 7 年(1874)	石祠 63
56	石造物	駒形明神	千駄堀	香取神社	宝暦 11 年(1761)	石祠 61.2
57	石造物	駒形明神	千駄堀	香取神社	明治 28 年(1895)	自然石 119
58	石造物	大杉明神	千駄堀	香取神社	安永 4 年(1775)	石祠 75
59	石造物	熊野権現	千駄堀	香取神社	享保 17 年(1732)	石祠 98
60	石造物	神明宮	千駄堀	香取神社	享保 17 年(1732)	石祠 125

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
61	石造物	第六天	千駄堀	香取神社	享保 17 年(1732)	石祠 124
62	石造物	神使(狛犬)	千駄堀	香取神社	文久元年(1861)	丸彫 66.5
63	石造物	石鳥居	千駄堀	香取神社	平成 24 年(2012)	明神鳥居
64	石造物	石灯笼(一对)	千駄堀	香取神社	享和 2 年(1802)	四角 261
65	石造物	石灯笼	千駄堀	香取神社	明治 11 年(1878)	四角 256
66	石造物	石灯笼	千駄堀	香取神社	明治 12 年(1879)	火袋なし 222
67	石造物	手洗石	千駄堀	香取神社	天明 7 年(1787)	53.5*127*54.4
68	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	嘉永 5 年(1852)	櫛型 63*30*18
69	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 27 年(1894)	駒型 37*22.5*12
70	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 40 年(1907)	自然石 100
71	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	昭和 10 年(1935)	櫛型 47.5*24*14
72	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	-	自然石 51
73	石造物	庚申塔	千駄堀	路傍	享保 5 年(1720)	光背型 101*47.5*21
74	石造物	庚申塔	千駄堀	路傍	安永 4 年(1775)	駒型 88*35.5*22
75	石造物	庚申塔	千駄堀	路傍	元禄 11 年(1698)	駒型 121*48.5*30
76	石造物	庚申塔	千駄堀	路傍	明和 4 年(1767)	駒型 92.5*40*25
77	石造物	道祖神	千駄堀	路傍	享保 17 年(1732)	石祠 102
78	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	文化 8 年(1811)	駒型 40*22.5*13.5
79	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	慶応元年(1865)	駒型 63*23*14.5
80	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	慶応 2 年(1866)	駒型 40.5*20*12
81	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 32 年(1899)	自然石 43.5
82	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	大正 10 年(1921)	自然石 59.5
83	石造物	弁財天	千駄堀	路傍	-	石祠 52
84	石造物	十九夜塔	千駄堀	路傍	延宝 6 年(1678)	光背型 127.5*52*40
85	石造物	十九夜塔	千駄堀	路傍	元禄 6 年(1693)	光背型 121.5*55*30
86	石造物	十九夜塔	千駄堀	路傍	-	光背型 107*49*38
87	石造物	念仏塔	千駄堀	路傍	-	笠付角柱 119
88	石造物	万霊塔	千駄堀	路傍	-	櫛型 89*38*23
89	石造物	如意輪観音	千駄堀	路傍	天保 9 年(1838)	光背型 68*30*23
90	石造物	六地藏	千駄堀	路傍	正徳 6 年(1716)	丸彫 97
91	石造物	不動明王	千駄堀	路傍	-	角柱型
92	石造物	庚申塔	千駄堀	路傍	-	駒型 76.5*35*22
93	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	-	櫛型 33.58*18*9.8
94	石造物	庚申塔	千駄堀	路傍	天保 12 年(1841)	駒型 95*39.5*28
95	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	文政 10 年(1827)	駒型 35*22*13
96	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	弘化 4 年(1847)	自然石 40*-22*12
97	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 5 年(1872)	駒型 28*17.5*13
98	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 8 年(1875)	駒型 66*19*19
99	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 21 年(1888)	駒型 59*23*8
100	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 24 年(1891)	駒型 42*23*13.5
101	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 30 年(1897)	駒型 81*20*11
102	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 32 年(1899)	駒型 84*19.5*12
103	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 35 年(1902)	駒型 36*19*11
104	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 38 年(1905)	駒型 46*20*11

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
105	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	明治 39 年(1906)	駒型 36*16.35*11
106	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	大正 6 年(1917)	自然石 60*22.5*8
107	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	昭和 6 年(1931)	駒型 23.5*15*10
108	石造物	馬頭観音	千駄堀	路傍	—	19*23*13
109	石造物	牛頭観音	千駄堀	路傍	昭和 13 年(1938)	角柱型 73.5*17*15
110	石造物	稻荷明神	千駄堀	路傍	—	山状角柱 30*12.5*9
111	石造物	庚申塔	千駄堀	路傍	文化 7 年(1810)	山状角柱 82.5*36*26.5
112	石造物	庚申塔	中和倉	熊野神社	宝暦 11 年(1761)	駒型 69*41*19.5
113	石造物	二十三夜塔	中和倉	熊野神社	嘉永 6 年(1853)	角柱型 67.5*27*15
114	石造物	道祖神	中和倉	熊野神社	明和 5 年(1768)	石祠 63
115	石造物	天神	中和倉	熊野神社	昭和 16 年(1941)	駒型 34.3*20*6
116	石造物	稻荷明神	中和倉	熊野神社	明和 5 年(1768)	石祠 63.5
117	石造物	手児奈明神	中和倉	熊野神社	—	石祠 54.5
118	石造物	神使(狛犬)	中和倉	熊野神社	明治 34 年(1901)	丸彫 59
119	石造物	神使(狛犬)	中和倉	熊野神社	—	丸彫 49
120	石造物	石鳥居	中和倉	熊野神社	宝暦 7 年(1757)	明神鳥居 313
121	石造物	手洗石	中和倉	熊野神社	文化 10 年(1813)	48*104*48
122	石造物	道標	中和倉	熊野神社	文政 2 年(1819)	駒型 79*29.8*18.8
123	石造物	道標	中和倉	熊野神社	—	自然石 61.5
124	石造物	庚申塔	中和倉	路傍	元文元年(1736)	駒型 89*43*28
125	石造物	十九夜塔	日暮	徳蔵院	貞享 2 年(1685)	光背型 97.5*46*26
126	石造物	十九夜塔	日暮	徳蔵院	延宝 7 年(1679)	光背型 89.5*46*26
127	石造物	十九夜塔	日暮	徳蔵院	明治 18 年(1885)	駒型 65*26*22
128	石造物	念仏塔	日暮	徳蔵院	享保 3 年(1718)	39.5*30.5*25.5
129	石造物	弘法大師供養塔	日暮	徳蔵院	文化 4 年(1804)	山状角柱 101*25*16
130	石造物	弘法大師供養塔	日暮	徳蔵院	明治 18 年(1885)	皿形角柱 153
131	石造物	弘法大師供養塔	日暮	徳蔵院	明治 44 年(1911)	丸彫 50
132	石造物	六地藏	日暮	徳蔵院	明治 13 年(1880)	光背型 72*29.5*26.5
133	石造物	手洗石	日暮	徳蔵院	元禄 14 年(1701)	47*84*52
134	石造物	灰塚	日暮	徳蔵院	昭和 19 年(1944)	自然石 110*44*11
135	石造物	庚申塔	日暮	白髭神社	天和元年(1681)	笠付角柱 103.5
136	石造物	庚申塔	日暮	白髭神社	寛延 2 年(1749)	駒型 96.5*45*30
137	石造物	庚申塔	日暮	白髭神社	明和 8 年(1771)	駒型 37*37*23
138	石造物	庚申塔	日暮	白髭神社	寛政 7 年(1795)	駒型 96.5*36*23
139	石造物	庚申塔	日暮	白髭神社	享和元年(1801)	山状角柱 74*33.5*22
140	石造物	庚申塔	日暮	白髭神社	天保 11 年(1840)	駒型 98.5*41*31
141	石造物	二十三夜塔	日暮	白髭神社	万延元年(1860)	駒型 66*27*16
142	石造物	二十三夜塔	日暮	白髭神社	—	50.5*28*18
143	石造物	弁財天	日暮	白髭神社	安政 6 年(1859)	石祠 62.5
144	石造物	富士講碑	日暮	白髭神社	安政 4 年(1857)	石祠 61.5
145	石造物	富士講碑	日暮	白髭神社	大正 7 年(1918)	自然石 111
146	石造物	伊勢講碑	日暮	白髭神社	昭和 5 年(1930)	自然石 150
147	石造物	三峰講供養塔	日暮	白髭神社	大正 7 年(1918)	石祠 53
148	石造物	道祖神	日暮	白髭神社	享保 20 年(1735)	石祠 65.5

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
149	石造物	山の神	日暮	白髭神社	文化15年(1818)	石祠 63.5
150	石造物	雷神	日暮	白髭神社	大正7年(1918)	石祠 60.5
151	石造物	天神	日暮	白髭神社	延享2年(174)	石祠 86.5
152	石造物	鼠神	日暮	白髭神社	元文2年(1737)	石祠 99.5
153	石造物	水神	日暮	白髭神社	延享2年(1745)	石祠 88
154	石造物	稻荷明神	日暮	白髭神社	大正7年(1918)	石祠 63
155	石造物	八幡明神	日暮	白髭神社	弘化2年(1845)	石祠 45
156	石造物	駒形明神	日暮	白髭神社	寛延3年(1750)	石祠 104.5
157	石造物	大杉明神	日暮	白髭神社	天保12年(1841)	石祠 65
158	石造物	三日月明神	日暮	白髭神社	文政9年(1826)	石祠 65.5
159	石造物	八坂宮	日暮	白髭神社	大正7年(1918)	石祠 63
160	石造物	大勝金剛	日暮	白髭神社	文化10年(1813)	石祠 72.5
161	石造物	神使(狛犬)	日暮	白髭神社	明治30年(1897)	丸彫 59.5
162	石造物	神使(狛犬)	日暮	白髭神社	—	丸彫
163	石造物	石灯笼	日暮	白髭神社	元禄	四角 148.5
164	石造物	石灯笼(一对)	日暮	白髭神社	明治26年(1893)	四角 249
165	石造物	石灯笼(一对)	日暮	白髭神社	昭和44年(1969)	六角 156
166	石造物	石灯笼(一对)	日暮	白髭神社	昭和53年(1978)	四角 162
167	石造物	手洗石	日暮	白髭神社	文化13年(1816)	52*124*53
168	石造物	道標	日暮	白髭神社	文政7年(1824)	炎光背型 117.5
169	石造物	石鳥居	日暮	白髭神社	平成19年(2007)	明神鳥居
170	石造物	石鳥居	日暮	白髭神社	昭和59年(1984)	明神鳥居
171	石造物	馬頭観音	日暮	路傍	—	山状角柱 83.5*45.5*37.3
172	石造物	馬頭観音	日暮	路傍	—	自然石 72*44*12
173	石造物	馬頭観音	日暮	路傍	寛政4年(1792)	光背型 106*59*34

東部地区

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
1	石造物	庚申塔	河原塚	本勝寺	享保14年(1729)	駒型 101.5*41*25
2	石造物	庚申塔	河原塚	本勝寺	—	駒型 93*42.5*25
3	石造物	題目塔	河原塚	本勝寺	文化11年(1814)	山状角柱 137*35.5*24
4	石造物	力石	河原塚	本勝寺	—	自然石
5	石造物	巡拝塔	河原塚	本勝寺	寛政10年(1798)	山状角柱 74*31*19
6	石造物	道標	河原塚	吟松寺	寛政元年(1789)	山状角柱 119.5*36*22
7	石造物	三峰講供養塔	河原塚	熊野神社	大正4年(1915)	石祠 67.5
8	石造物	天神	河原塚	熊野神社	—	石祠 73
9	石造物	稻荷明神	河原塚	熊野神社	文化5年(1808)	石祠 38.5
10	石造物	稻荷明神	河原塚	熊野神社	昭和3年(1928)	駒型 27.5*17*10
11	石造物	大杉明神	河原塚	熊野神社	文政9年(1826)	石祠 38
12	石造物	大杉明神	河原塚	熊野神社	—	石祠 74.5
13	石造物	妙正明神	河原塚	熊野神社	寛政5年(1793)	石祠 65.5
14	石造物	熊野権現	河原塚	熊野神社	寛政3年(1791)	角柱型 56*17.5*16.5
15	石造物	子権現	河原塚	熊野神社	文政5年(1822)	石祠 72.5
16	石造物	故録宮	河原塚	熊野神社	大正4年(1915)	石祠 75.5
17	石造物	七十来社	河原塚	熊野神社	寛保元年(1741)	石祠 82

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
18	石造物	神使(狛犬)	河原塚	熊野神社	明治42年(1909)	丸彫 62
19	石造物	石鳥居	河原塚	熊野神社	昭和37年(1962)	明神鳥居
20	石造物	石灯笼(一对)	河原塚	熊野神社	明治11年(1878)	四角 242.5
21	石造物	石灯笼(一对)	河原塚	熊野神社	昭和37年(1962)	四角 240
22	石造物	手洗石	河原塚	熊野神社	文化15年(1818)	42.5*98*45.5
23	石造物	石鳥居	河原塚	路傍	昭和40年(1965)	明神鳥居
24	石造物	石灯笼(一对)	河原塚	路傍	-	四角 200
25	石造物	庚申塔	河原塚	路傍	明和2年(1765)	駒型 83.5*37*23.5
26	石造物	馬頭観音	河原塚	路傍	昭和9年(1934)	自然石 79*38*8
27	石造物	庚申塔	和名ヶ谷	本法寺	延宝5年(1677)	光背型 123.5*58*23
28	石造物	題目塔	和名ヶ谷	本法寺	安永3年(1774)	山状角柱 103.5*38*27
29	石造物	日蓮上人供養塔	和名ヶ谷	本法寺	天保2年(1831)	皿形角柱 124*38*38
30	石造物	日蓮上人供養塔	和名ヶ谷	本法寺	明治16年(1883)	皿形角柱 109*34.5*39
31	石造物	日蓮上人供養塔	和名ヶ谷	本法寺	昭和	櫛型 33*15*9
32	石造物	万霊塔	和名ヶ谷	本法寺	天保13年(1842)	櫛型 49*25.5*11
33	石造物	無縁塔	和名ヶ谷	本法寺	大正7年(1918)	自然石 136
34	石造物	地藏菩薩	和名ヶ谷	本法寺	寛文5年(1665)	光背型 110*42*24
35	石造物	手洗石	和名ヶ谷	本法寺	-	38*84*38
36	石造物	霊場標石	和名ヶ谷	本法寺	文化11年(1814)	山状角柱 77*23*20
37	石造物	不動明王	和名ヶ谷	日枝神社	-	炎光背型 54
38	石造物	道祖神	和名ヶ谷	日枝神社	享和4年(1804)	石祠 34
39	石造物	天神	和名ヶ谷	日枝神社	寛政2年(1790)	石祠 51
40	石造物	抱瘡神	和名ヶ谷	日枝神社	-	石祠 66
41	石造物	子安神	和名ヶ谷	日枝神社	明和5年(1768)	石祠 75
42	石造物	故録宮	和名ヶ谷	日枝神社	明和6年(1769)	石祠 66
43	石造物	神使(狛犬)	和名ヶ谷	日枝神社	慶応3年(1867)	丸彫 60
44	石造物	石鳥居	和名ヶ谷	日枝神社	昭和18年(1943)	明神鳥居
45	石造物	石灯笼(一对)	和名ヶ谷	日枝神社	嘉永5年(1852)	火袋なし 217
46	石造物	石灯笼(一对)	和名ヶ谷	日枝神社	-	六角 196
47	石造物	手洗石	和名ヶ谷	日枝神社	天明2年(1782)	42.5*76*44.5
48	石造物	不明	和名ヶ谷	日枝神社	寛政12年(1800)	石祠 70
49	石造物	不明	和名ヶ谷	日枝神社	嘉永6年(1853)	石祠 42.5
50	石造物	庚申塔	和名ヶ谷	路傍	文化11年(1814)	山状角柱 67.5*28.5*28.5
51	石造物	庚申塔	和名ヶ谷	路傍	天明6年(1786)	駒型 91.5*32*21
52	石造物	庚申塔	和名ヶ谷	路傍	宝暦6年(1756)	駒型 99*45.6*25
53	石造物	庚申塔	和名ヶ谷	路傍	文化10年(1813)	駒型 68*36.5*22.5
54	石造物	馬頭観音	和名ヶ谷	路傍	文政5年(1822)	駒型 34*19*13
55	石造物	馬頭観音	和名ヶ谷	路傍	昭和4年(1929)	駒型 26*13.5*9
56	石造物	馬頭観音	和名ヶ谷	路傍	昭和26年(1951)	駒型 26.1*15.2*8
57	石造物	馬頭観音	和名ヶ谷	路傍	昭和4年(1929)	駒型 33*17*9.5
58	石造物	馬頭観音	和名ヶ谷	路傍	昭和10年(1935)	駒型 29.5*16.9*12.8
59	石造物	馬頭観音	和名ヶ谷	路傍	昭和23年(1948)	駒型 46*24.5*15
60	石造物	馬頭観音	和名ヶ谷	路傍	昭和37年(1962)	櫛型 65*28.5*18.7
61	石造物	題目塔	紙敷	真隆寺	延享5年(1748)	櫛型 128*36.5*25.2

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
62	石造物	日蓮聖人供養塔	紙敷	真隆寺	天明元年(1781)	山状角柱 93.5*34.5*28.3
63	石造物	弁才天	紙敷	妙見神社	昭和10年(1935)	駒型 19*10.5*9.5
64	石造物	宇賀神	紙敷	妙見神社	—	駒型 31*11.4*10
65	石造物	手洗石	紙敷	妙見神社	文政2年(1819)	41*90.5*42
66	石造物	不明	紙敷	妙見神社	寛政	石祠 48*21*11.5
67	石造物	石鳥居	紙敷	春日神社	昭和52年(1977)	明神鳥居
68	石造物	石灯笼(一对)	紙敷	春日神社	昭和48年(1973)	四角 297.5
69	石造物	手洗石	紙敷	春日神社	弘化3年(1846)	—
70	石造物	道祖神	紙敷	胡籙神社	—	石祠 35.5
71	石造物	稻荷明神	紙敷	胡籙神社	—	石祠 58
72	石造物	神使(狛犬)	紙敷	胡籙神社	大正4年(1915)	丸彫 55
73	石造物	石鳥居	紙敷	胡籙神社	昭和47年(1972)	神明鳥居
74	石造物	石灯笼(一对)	紙敷	胡籙神社	昭和48年(1973)	四角 297.5
75	石造物	手洗石	紙敷	胡籙神社	文政10年(1827)	50*126*51.5
76	石造物	手洗石	紙敷	胡籙神社	弘化4年(1847)	20*68*30.5
77	石造物	庚申塔	東松戸	広龍寺	延宝8年(1680)	板碑型 119*45*27
78	石造物	庚申塔	東松戸	広龍寺	元禄16年(1703)	駒型 128*51*26.5
79	石造物	庚申塔	東松戸	広龍寺	宝曆13年(1763)	駒型 122.5*42*26
80	石造物	庚申塔	東松戸	広龍寺	文化元年(1804)	駒型 124*35*24
81	石造物	題目塔	東松戸	広龍寺	天明3年(1783)	山状角柱 72*28*25
82	石造物	題目塔	東松戸	広龍寺	天保2年(1831)	山状角柱 78*29*19
83	石造物	題目塔	東松戸	広龍寺	明治26年(1893)	皿形角柱 122*39*37
84	石造物	日蓮上人供養塔	東松戸	広龍寺	安永6年(1777)	櫛型 169*37.5*27
85	石造物	日蓮上人供養塔	東松戸	広龍寺	明治14年(1881)	皿形角柱 116.5*34
86	石造物	聖徳太子供養塔	東松戸	広龍寺	明治21年(1888)	自然石 89.3
87	石造物	手洗石	東松戸	広龍寺	文政元年(1818)	31*54*22.5
88	石造物	題目塔	東松戸	傳法寺	安永8年(1779)	山状角柱 104*36.5*23.5
89	石造物	日蓮上人供養塔	東松戸	傳法寺	安永10年(1781)	山状角柱 88*30*21
90	石造物	日蓮上人供養塔	東松戸	傳法寺	天明元年(1781)	山状角柱 77*36*23.5
91	石造物	妙見塔	東松戸	傳法寺	天明7年(1787)	山状角柱 63*27*20.5
92	石造物	庚申塔	東松戸	傳法寺	延享3年(1746)	駒型 117.5*49*29
93	石造物	庚申塔	東松戸	傳法寺	安永4年(1775)	駒型 108*48*25
94	石造物	庚申塔	東松戸	傳法寺	文化12年(1815)	駒型 79*33*24
95	石造物	読誦塔	東松戸	傳法寺	宝曆4年(1754)	光背型 71.5
96	石造物	馬頭観音	東松戸	傳法寺	明治39年(1906)	皿状角柱 103*34.6*34.6
97	石造物	馬頭観音	東松戸	路傍	文化3年(1806)	駒型 57*24*11
98	石造物	馬頭観音	東松戸	路傍	文政2年(1819)	駒型 65.5*28*16.5
99	石造物	馬頭観音	東松戸	路傍	元治元年(1864)	駒型
100	石造物	馬頭観音	東松戸	路傍	大正元年(1911)	自然石 59*29*8
101	石造物	馬頭観音	東松戸	路傍	昭和10年(1935)	駒型 26*15*10
102	石造物	庚申塔	大橋	浄念坊	寛文6年(1666)	笠付角柱 155
103	石造物	庚申塔	大橋	浄念坊	延宝6年(1678)	板碑型 155*61.5*32
104	石造物	庚申塔	大橋	浄念坊	寛延4年(1751)	駒型 99*44.5*26.5
105	石造物	十九夜塔	大橋	浄念坊	貞享5年(1688)	光背型 80*46*30

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
106	石造物	十九夜塔	大橋	浄念坊	元禄 12 年(1699)	光背型 107*50*27
107	石造物	十九夜塔	大橋	浄念坊	宝永 7 年(1710)	光背型 101*45*29
108	石造物	十九夜塔	大橋	浄念坊	宝曆 7 年(1757)	光背型 88*47
109	石造物	念仏塔	大橋	浄念坊	延宝 3 年(1675)	光背型 121*41*19
110	石造物	念仏塔	大橋	浄念坊	宝永 5 年(1708)	笠付角柱 110
111	石造物	弘法大師供養塔	大橋	浄念坊	-	丸彫 63
112	石造物	巡礼塔	大橋	浄念坊	寛延元年(1748)	櫛型 80.5*36.5*25
113	石造物	巡礼塔	大橋	浄念坊	明治 43 年(1910)	丸彫 65
114	石造物	巡礼塔	大橋	浄念坊	明治 43 年(1910)	丸彫 60
115	石造物	巡礼塔	大橋	浄念坊	-	光背型 63
116	石造物	巡礼塔	大橋	浄念坊	-	丸彫 60
117	石造物	日蓮上人供養塔	大橋	本源寺	寛政 3 年(1791)	山状角柱 93*16*15.5
118	石造物	日蓮上人供養塔	大橋	本源寺	明治 12 年(1879)	櫛型 105*41
119	石造物	勢至菩薩	大橋	胡籙神社	天明 7 年(1787)	石祠 60.5
120	石造物	道祖神	大橋	胡籙神社	寛政 6 年(1794)	石祠 51
121	石造物	天神	大橋	胡籙神社	安永 2 年(1773)	石祠 67.5
122	石造物	疱瘡神	大橋	胡籙神社	寛政 11 年(1799)	石祠 60.5
123	石造物	稻荷明神	大橋	胡籙神社	明治 29 年(1896)	石祠 23.5
124	石造物	稻荷明神	大橋	胡籙神社	-	石祠 37.5
125	石造物	白幡神社	大橋	胡籙神社	安永 7 年(1778)	石祠 63
126	石造物	淡瀨明神	大橋	胡籙神社	安永 9 年(1780)	石祠 64.5
127	石造物	神使(狛犬)	大橋	胡籙神社	明治 39 年(1906)	丸彫 58
128	石造物	石鳥居	大橋	胡籙神社	昭和 9 年(1934)	明神鳥居
129	石造物	石灯笼(一对)	大橋	胡籙神社	享和 3 年(1803)	四角 163
130	石造物	石灯笼(一对)	大橋	胡籙神社	明治 19 年(1886)	四角 230.5
131	石造物	石灯笼(一对)	大橋	胡籙神社	明治 39 年(1906)	四角
132	石造物	手洗石	大橋	胡籙神社	延宝 9 年(1681)	60
133	石造物	手洗石	大橋	胡籙神社	文政 8 年(1825)	42*100*41
134	石造物	力石	大橋	胡籙神社	-	自然石
135	石造物	力石	大橋	胡籙神社	-	自然石
136	石造物	力石	大橋	胡籙神社	-	自然石
137	石造物	馬頭観音	大橋	路傍	文化元年(1804)	駒型 105*34*20
138	石造物	巡礼塔	大橋	路傍	-	丸彫 45
139	石造物	弘法大師供養塔	大橋	路傍	明治 31 年(1898)	角柱型 83.5
140	石造物	馬頭観音	大橋	路傍	大正 6 年(1917)	駒型 46*20*11
141	石造物	題目塔	秋山	慶国寺	明和 5 年(1768)	山状角柱 115*28*19
142	石造物	題目塔	秋山	慶国寺	文政 4 年(1821)	櫛型 147*39*27.5
143	石造物	三峰講供養塔	秋山	春日神社	大正 8 年(1919)	自然石 88
144	石造物	駒形明神	秋山	春日神社	明治 29 年(1896)	石祠 43
145	石造物	神使(狛犬)	秋山	春日神社	明治 26 年(1893)	丸彫 60
146	石造物	石鳥居	秋山	春日神社	慶応 2 年(1866)	明神鳥居 325
147	石造物	石鳥居	秋山	春日神社	明治 44 年(1911)	神明鳥居
148	石造物	石灯笼(一对)	秋山	春日神社	文政 8 年(1825)	四角 142
149	石造物	石灯笼(一对)	秋山	春日神社	慶応元年(1865)	四角 250

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
150	石造物	石灯笼(一对)	秋山	春日神社	明治3年(1870)	四角 289.5
151	石造物	手洗石	秋山	春日神社	文政8年(1825)	45*102*46
152	石造物	手洗石	秋山	春日神社	昭和4年(1929)	23*49*26.5
153	石造物	不明	秋山	春日神社	文政8年(1825)	石祠 58.5
154	石造物	馬頭観音	秋山	路傍	大正4年(1915)	駒型 59*22*15
155	石造物	弁財天	秋山	路傍	-	駒型 28*16.5*7.5
156	石造物	馬頭観音	秋山	路傍	-	駒型 50*24*10.5
157	石造物	馬頭観音	秋山	路傍	文政8年(1825)	駒型 103.5*33*23
158	石造物	馬頭観音	秋山	路傍	明治12年(1879)	駒型 41*24*12
159	石造物	馬頭観音	秋山	路傍	明治12年(1879)	駒型 42*23*12
160	石造物	馬頭観音	秋山	路傍	明治41年(1908)	駒型 34.5*20.5*13
161	石造物	馬頭観音	秋山	路傍	大正9年(1920)	自然石 85*48*4.5
162	石造物	馬頭観音	秋山	路傍	大正11年(1922)	駒型 30*18*11
163	石造物	馬頭観音	秋山	路傍	大正13年(1924)	駒型 31*17.5*13.5
164	石造物	馬頭観音	秋山	路傍	昭和3年(1928)	駒型 26.5*18*10
165	石造物	馬頭観音	秋山	路傍	昭和13年(1938)	駒型 27*15.5*11
166	石造物	宝経院観音	秋山	路傍	明治28年(1895)	駒型 30*22*13
167	石造物	道祖神	秋山	路傍	明和7年(1770)	石祠 52
168	石造物	道祖神	秋山	路傍	-	駒型 30
169	石造物	道祖神	秋山	路傍	-	石祠 22
170	石造物	庚申塔	秋山	路傍	元禄2年(1689)	笠付角柱 168
171	石造物	馬頭観音	串崎新田	八幡神社	文政2年(1819)	駒型 42*22.5*15
172	石造物	馬頭観音	串崎新田	八幡神社	明治24年(1891)	駒型 40.5*20.5*12.5
173	石造物	馬頭観音	串崎新田	八幡神社	明治29年(1896)	駒型 74*29*22.5
174	石造物	道祖神	串崎新田	八幡神社	寛政3年(1791)	石祠 57
175	石造物	道祖神	串崎新田	八幡神社	慶応	石祠 58
176	石造物	山の神	串崎新田	八幡神社	寛政8年(1796)	石祠 59
177	石造物	天神	串崎新田	八幡神社	文化2年(1805)	石祠 62.5
178	石造物	疱瘡神	串崎新田	八幡神社	天保14年(1843)	石祠 42.5
179	石造物	稻荷明神	串崎新田	八幡神社	文化元年(1804)	石祠 53
180	石造物	石鳥居	串崎新田	八幡神社	平成6年(1994)	明神鳥居
181	石造物	石灯笼(一对)	串崎新田	八幡神社	文久2年(1862)	四角
182	石造物	手洗石	串崎新田	八幡神社	延享5年(1748)	47.5
183	石造物	手洗石	串崎新田	八幡神社	明治27年(1894)	19*62*33.5
184	石造物	不明	串崎新田	八幡神社	天保14年(1843)	石祠 43
185	石造物	庚申塔	串崎新田	路傍	明和4年(1767)	駒型 84.5*39.5*25
186	石造物	庚申塔	高塚新田	八幡神社	元禄2年(1689)	板碑型 108*43*22
187	石造物	庚申塔	高塚新田	八幡神社	元禄7年(1694)	板碑型 117*48*33
188	石造物	庚申塔	高塚新田	八幡神社	天保12年(1841)	駒型 67.5*27.5*20
189	石造物	庚申塔	高塚新田	八幡神社	嘉永4年(1851)	駒型 90.5*33*21
190	石造物	庚申塔	高塚新田	八幡神社	文久3年(1863)	駒型 61.5*25.5*20.5
191	石造物	庚申塔	高塚新田	八幡神社	文久3年(1863)	駒型 64.5*25.5*20.5
192	石造物	二十三夜塔	高塚新田	八幡神社	天明6年(1786)	駒型 47.5*21*14.5
193	石造物	念仏塔	高塚新田	八幡神社	元禄8年(1695)	光背型 97*41*21

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
194	石造物	聖徳太子供養塔	高塚新田	八幡神社	安政 3 年(1856)	駒型 60*26.5*18.5
195	石造物	神使(狛犬)	高塚新田	八幡神社	明治 40 年(1907)	丸彫 55
196	石造物	石鳥居	高塚新田	八幡神社	昭和 55 年(1980)	明神鳥居
197	石造物	石灯籠	高塚新田	八幡神社	寛政 11 年(1799)	火袋なし 106
198	石造物	石灯籠	高塚新田	八幡神社	文化 10 年(1813)	四角 164
199	石造物	石灯籠(一对)	高塚新田	八幡神社	明治	四角 254
200	石造物	石灯籠(一对)	高塚新田	八幡神社	昭和 54 年(1979)	六角 230
201	石造物	手洗石	高塚新田	八幡神社	文政 4 年(1821)	41*90.5*45
202	石造物	力石	高塚新田	八幡神社	-	自然石
203	石造物	地藏菩薩	高塚新田	路傍	享保 6 年(1721)	光背型 62*32*18
204	石造物	道祖神	高塚新田	路傍	寛政 4 年(1792)	石祠 40
205	石造物	地藏菩薩	高塚新田	路傍	享保 9 年(1724)	光背型 65*32*23
206	石造物	庚申塔	高塚新田	路傍	享保 19 年(1734)	駒型 118.5*49.5*26.5
207	石造物	庚申塔	高塚新田	路傍	明和 9 年(1772)	駒型 121*51*28
208	石造物	庚申塔	高塚新田	路傍	文政 6 年(1823)	駒型 124*45.5*26.5
209	石造物	庚申塔	高塚新田	路傍	嘉永 2 年(1849)	駒型 72.5*33*22.5
210	石造物	題目塔	高塚新田	路傍	元禄 7 年(1694)	光背型 89*38*33
211	石造物	水神	高塚新田	路傍	昭和 26 年(1951)	自然石 58*26*8
212	石造物	馬頭観音	高塚新田	路傍	慶応元年(1865)	駒型 43*23*9
213	石造物	水神	高塚新田	路傍	明治 29 年(1896)	駒型 28*19*4.5

小金原・五香地区

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
1	石造物	日蓮上人供養塔	小金原	安立寺	天明元年(1781)	櫛型 96*36*26
2	石造物	馬頭観音	小金原	安立寺	天保 5 年(1834)	駒型 65*25.5*17.5
3	石造物	馬頭観音	小金原	安立寺	明治 37 年(1904)	駒型 29*19*11
4	石造物	庚申塔	小金原	萬福寺	延宝 2 年(1674)	駒型 80*35
5	石造物	題目塔	小金原	萬福寺	文化 7 年(1810)	山状角柱 93*36*28
6	石造物	富士講碑	小金原	七面神社	明治 42 年(1909)	自然石 99.5
7	石造物	大山講供養塔	小金原	七面神社	大正 3 年(1914)	自然石 68
8	石造物	天神	小金原	七面神社	文久 9 年(1812)	石祠 49
9	石造物	神使(狛犬)	小金原	七面神社	大正 2 年(1913)	丸彫 45
10	石造物	石鳥居	小金原	七面神社	大正 2 年(1913)	明神鳥居
11	石造物	石燈籠	小金原	七面神社	大正 2 年(1913)	四角 163
12	石造物	手洗石	小金原	七面神社	天保 2 年(1831)	□*78*37
13	石造物	庚申塔	小金原	茂侶神社	寛延 2 年(1749)	駒型 101.4*41.4*16
14	石造物	庚申塔	小金原	茂侶神社	寛政元年(1789)	駒型 105*40*23
15	石造物	庚申塔	小金原	茂侶神社	文政 2 年(1819)	駒型 90*35*24
16	石造物	庚申塔	小金原	茂侶神社	天保 4 年(1833)	駒型 95*37*23
17	石造物	二十三夜塔	小金原	茂侶神社	天保 14 年(1843)	角柱型 68*30*20
18	石造物	二十三夜塔	小金原	茂侶神社	天保 15 年(1844)	角柱型 75*34*20
19	石造物	聖徳太子供養塔	小金原	茂侶神社	寛政 12 年(1800)	駒型 76*34*20
20	石造物	聖徳太子供養塔	小金原	茂侶神社	明治	駒型 74*30*26
21	石造物	聖徳太子供養塔	小金原	茂侶神社	大正 6 年(1917)	山状角柱 73*35.5*20.5
22	石造物	富士講碑	小金原	茂侶神社	明治 42 年(1909)	自然石 118

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
23	石造物	富士講・大山講	小金原	茂侶神社	大正 11 年(1922)	自然石 122
24	石造物	大山講供養塔	小金原	茂侶神社	明治 35 年(1902)	自然石 105
25	石造物	山の神	小金原	茂侶神社	天保 12 年(1841)	駒型 61*23*19.5
26	石造物	神使(狛犬)	小金原	茂侶神社	明治 32 年(1899)	丸彫 54.5
27	石造物	石鳥居	小金原	茂侶神社	大正 4 年(1915)	神明鳥居 360
28	石造物	手洗石	小金原	茂侶神社	天保 10 年(1839)	55*108*54
29	石造物	不明	小金原	茂侶神社	元文 5 年(1740)	石祠 65
30	石造物	力石	小金原	茂侶神社脇	-	自然石
31	石造物	庚申塔	金ヶ作	祖光院	弘化 4 年(1847)	駒型 70*27*17
32	石造物	光明真言塔	金ヶ作	祖光院	大正 13 年(1924)	山状角柱 77*30*48
33	石造物	六地藏	金ヶ作	祖光院	-	光背型
34	石造物	虚空蔵菩薩	金ヶ作	祖光院	明治 23 年(1890)	自然石 59
35	石造物	牛頭天王	金ヶ作	祖光院	明治 23 年(1890)	駒型 45*22*12
36	石造物	庚申塔	金ヶ作	路傍	弘化 4 年(1847)	角柱型 66*32*20
37	石造物	参拝塔	金ヶ作	八坂神社	安政 3 年(1856)	炎光背型 58*30*20
38	石造物	道祖神	金ヶ作	八坂神社	安永	石祠 39
39	石造物	子安観音	金ヶ作	八坂神社	慶応元年(1865)	石祠 94
40	石造物	石鳥居	金ヶ作	八坂神社	昭和 54 年(1979)	明神鳥居
41	石造物	手洗石	金ヶ作	八坂神社	明治 13 年(1880)	43.5*92.5*43.5
42	石造物	庚申塔	金ヶ作	熊野神社	天保 8 年(1837)	駒型 66*28*37
43	石造物	二十三夜塔	金ヶ作	熊野神社	弘化 4 年(1847)	角柱型 66*30*18
44	石造物	神使(狛犬)	金ヶ作	熊野神社	大正 11 年(1922)	丸彫 61
45	石造物	石鳥居	金ヶ作	熊野神社	昭和 40 年(1965)	明神鳥居
46	石造物	手洗石	金ヶ作	熊野神社	文久 3 年(1863)	60*120*58
47	石造物	不明	金ヶ作	熊野神社	天保 3 年(1832)	石祠 71
48	石造物	庚申塔	金ヶ作	八坂神社	安永 2 年(1773)	駒型 90*36*23
49	石造物	庚申塔	金ヶ作	八坂神社	安政 5 年(1858)	自然石 98
50	石造物	十九夜塔	金ヶ作	八坂神社	安政 2 年(1855)	駒型 64*26.5*19
51	石造物	馬頭観音	金ヶ作	八坂神社	平成 25 年(2013)	石祠 97
52	石造物	巡拝塔	金ヶ作	八坂神社	貞享元年(1684)	笠付角柱 194
53	石造物	稻荷明神	金ヶ作	八坂神社	明治 35 年(1902)	自然石 47.5
54	石造物	石鳥居	金ヶ作	八坂神社	平成 10 年(1998)	神明鳥居
55	石造物	石灯籠(一对)	金ヶ作	八坂神社	昭和 48 年(1973)	六角 186
56	石造物	庚申塔	金ヶ作	路傍	文化 6 年(1809)	駒型 64*30*18
57	石造物	庚申塔	金ヶ作	路傍	明和 4 年(1767)	駒型 63.5*30*16
58	石造物	馬頭観音	金ヶ作	路傍	昭和 13 年(1938)	駒型 30*19*15
59	石造物	庚申塔	金ヶ作	路傍	文化 6 年(1809)	駒型 79*30*18
60	石造物	馬頭観音	金ヶ作	路傍	-	駒型 32*18*14
61	石造物	名号塔	五香	善光寺	明治 11 年(1878)	櫛型 45*23*15
62	石造物	名号塔	五香	善光寺	明治 29 年(1896)	皿形角柱 59*24.5*20.5
63	石造物	名号塔	五香	善光寺	昭和 18 年(1943)	自然石 126*64*9
64	石造物	光明真言塔	五香	善光寺	昭和 3 年(1928)	山状角柱 92*29*24
65	石造物	万霊塔	五香	善光寺	昭和 32 年(1957)	自然石 213*94.5*17
66	石造物	無縁塔	五香	善光寺	明治 25 年(1892)	光背型 90*38*27

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
67	石造物	馬頭観音	五香	善光寺	明治 15 年(1882)	駒型 62*25*17
68	石造物	子安観音	五香	善光寺	—	光背型 60*24.5*14
69	石造物	石燈籠	五香	善光寺	寛延 4 年(1751)	六角
70	石造物	弘法大師供養塔	六高台	高靈神社	昭和 39 年(1964)	自然石 116
71	石造物	俱利伽羅不動	六高台	高靈神社	昭和 29 年(1954)	駒型 74.5*31*18.5
72	石造物	巡礼塔	六高台	高靈神社	大正 3 年(1914)	角柱型 103.5
73	石造物	出羽三山供養塔	六高台	高靈神社	昭和 18 年(1943)	自然石 127
74	石造物	出羽三山供養塔	六高台	高靈神社	昭和 52 年(1977)	自然石 155
75	石造物	伊勢講碑	六高台	高靈神社	昭和 41 年(1966)	自然石 115
76	石造物	神使(狛犬)	六高台	高靈神社	昭和 21 年(1946)	丸彫 63*96
77	石造物	石鳥居	六高台	高靈神社	昭和 46 年(1971)	明神鳥居
78	石造物	石灯籠	六高台	高靈神社	—	自然石 147
79	石造物	石灯籠(一对)	六高台	高靈神社	昭和 32 年(1957)	四角 208
80	石造物	手洗石	六高台	高靈神社	明治 25 年(1892)	45.5*130*45.5
81	石造物	地藏菩薩	六高台	路傍	明治 26 年(1893)	光背型 62*32*21
82	石造物	馬頭観音	六実	路傍	明治 42 年(1909)	駒型 60*25*19
83	石造物	馬頭観音	六実	路傍	大正 4 年(1915)	自然石 82.5*32*10
84	石造物	馬頭観音	六実	路傍	昭和 11 年(1936)	自然石 112*44*10
85	石造物	馬頭観音	六実	路傍	—	駒型 31.5*17.5*10
86	石造物	山の神	六実	路傍	明治 32 年(1899)	自然石 55*37*11
87	石造物	駒形明神	六実	路傍	明治 39 年(1906)	自然石 92*35*12
88	石造物	手児奈明神	六実	路傍	昭和 31 年(1956)	光背型 64*25*23.5
89	石造物	手児奈明神	六実	路傍	昭和 31 年(1956)	自然石 130*61*8
90	石造物	神使(狐)	六実	路傍	昭和 42 年(1967)	丸彫 53.5
91	石造物	神使(狐)	六実	路傍	—	丸彫 29
92	石造物	石鳥居	六実	路傍	昭和 48 年(1973)	明神鳥居
93	石造物	石灯籠(一对)	六実	路傍	昭和 41 年(1966)	六角 187
94	石造物	手洗石	六実	路傍	昭和 29 年(1954)	—

松戸地区

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
1	石造物	庚申塔	平潟	来迎寺	貞享 4 年(1687)	山状角柱 94.5*30.5*30
2	石造物	庚申塔	平潟	来迎寺	元禄 10 年(1697)	山状角柱 96*42.5*40.5
3	石造物	庚申塔	平潟	来迎寺	天明 8 年(1788)	山状角柱 77*37*21.5
4	石造物	万霊塔	平潟	来迎寺	享保 8 年(1723)	山状角柱 86.5*24.5*24.5
5	石造物	万霊塔	平潟	来迎寺	明治 26 年(1893)	丸彫
6	石造物	六面幢形六地藏	平潟	来迎寺	元禄 16 年(1703)	六角幢形 154.5
7	石造物	六地藏	平潟	来迎寺	—	丸彫
8	石造物	不明	平潟	来迎寺	寛文 13 年(1673)	65*24.5*22
9	石造物	不明	平潟	来迎寺	—	笠付角柱 65*24.5*22
10	石造物	念仏塔	松戸	西連寺	延宝 7 年(1679)	光背型 101*39.5*23
11	石造物	手洗石	松戸	西連寺	享和元年(1802)	54.5*86.5*51
12	石造物	六地藏	松戸	善照寺	文化 2 年(1805)	光背型
13	石造物	巡礼塔	松戸	善照寺	文化 6 年(1809)	山状角柱 107*23.5*18.5
14	石造物	石灯籠(一对)	松戸	善照寺	昭和 59 年(1987)	四角 228

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
15	石造物	手洗石	松戸	善照寺	文政3年(1820)	56.5*103*56
16	石造物	庚申塔	松戸	宝光院	貞享2年(1685)	板碑型 124*50*30
17	石造物	六地藏	松戸	宝光院	明和3年(1766)	光背型
18	石造物	参拝塔	松戸	宝光院	明治17年(1884)	自然石 125
19	石造物	巡礼塔	松戸	宝光院	文化4年(1807)	山状角柱 151*28*22.5
20	石造物	稻荷明神	松戸	宝光院	昭和4年(1929)	駒型 31*17*12
21	石造物	手洗石	松戸	宝光院	明治30年(1897)	40.5*92*45
22	石造物	庚申塔	松戸	松龍寺	延宝2年(1674)	光背型 146.8*40*28
23	石造物	徳本念仏塔	松戸	松龍寺	文政2年(1819)	皿形角柱 115*36.7*36.7
24	石造物	弘法大師供養塔	松戸	松龍寺	元治2年(1865)	櫛型 88*30.5*18.5
25	石造物	弘法大師供養塔	松戸	松龍寺	慶応3年(1867)	自然石 79
26	石造物	弘法大師供養塔	松戸	松龍寺	明治8年(1875)	自然石 104
27	石造物	弘法大師供養塔	松戸	松龍寺	-	自然石 108
28	石造物	弘法大師供養塔	松戸	松龍寺	文久2年(1862)	自然石 78
29	石造物	大日如来	松戸	松龍寺	-	自然石 57
30	石造物	六地藏	松戸	松龍寺	明和3年(1766)	丸彫
31	石造物	巡礼塔	松戸	松龍寺	文久3年(1863)	自然石 79.5
32	石造物	巡礼塔	松戸	松龍寺	文化5年(1808)	皿形角柱 119
33	石造物	水神	松戸	松龍寺	昭和2年(1927)	自然石 58.5
34	石造物	石灯篭	松戸	松龍寺	明治4年(1871)	四角 334
35	石造物	手洗石	松戸	松龍寺	文政6年(1823)	32*69*35
36	石造物	手洗石	松戸	松龍寺	明治2年(1869)	36*73*40.5
37	石造物	弘法大師供養塔	松戸	慈眼寺跡	明治18年(1885)	自然石 125
38	石造物	弘法大師供養塔	松戸	慈眼寺跡	昭和9年(1934)	角柱型 210*44*26
39	石造物	巡礼塔	松戸	慈眼寺跡	文化5年(1808)	皿形角柱 88.5*36*25
40	石造物	稻荷明神	松戸	慈眼寺跡	文政9年(1826)	石祠 40.5
41	石造物	愛宕権現	松戸	慈眼寺跡	享和3年(1803)	石祠 75
42	石造物	手洗石	松戸	慈眼寺跡	明治14年(1881)	56.5*93*58.5
43	石造物	庚申塔	松戸	円慶寺	延宝3年(1675)	光背型 147.5*70*33
44	石造物	読誦塔	松戸	円慶寺	元禄13年(1700)	櫛型 78*31.5*24
45	石造物	地藏菩薩	松戸	円慶寺	寛文2年(1662)	光背型 129*55*40
46	石造物	阿弥陀如来	松戸	円慶寺	元禄6年(1693)	光背型 136*57*40
47	石造物	弘法大師供養塔	松戸	円慶寺	-	丸彫 34
48	石造物	無縁塔	松戸	円慶寺	大正5年(1916)	櫛型 26*19*11.5
49	石造物	巡礼塔	松戸	円慶寺	昭和12年(1937)	山状角柱 96*16.5*16
50	石造物	巡礼塔	松戸	円慶寺	昭和13年(1938)	角柱型 62*27*20
51	石造物	巡礼塔	松戸	円慶寺	-	角柱型 62*25*22
52	石造物	妙見塔	松戸	円慶寺	-	石祠 57
53	石造物	庚申塔	松戸	大正寺	元禄13年(1700)	光背型 128*50*30
54	石造物	庚申塔	松戸	大正寺	宝永7年(1710)	光背型 124*48*26
55	石造物	日蓮上人供養塔	松戸	大正寺	天明元年(1781)	笠付角柱 178
56	石造物	三十番神	松戸	大正寺	享保7年(1722)	駒型 116*54.5*29
57	石造物	三十番神	松戸	大正寺	明和4年(1767)	山状角柱 74*18.5*17
58	石造物	石灯籠	松戸	大正寺	文化4年(1807)	四角 124

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
59	石造物	石灯笼	松戸	大正寺	文化7年(1810)	四角 159
60	石造物	万霊塔	松戸	清光寺	昭和3年(1928)	丸彫
61	石造物	無縁塔	松戸	清光寺	昭和25年(1950)	笠付角柱 63
62	石造物	石灯笼	松戸	清光寺	天保12年(1841)	六角
63	石造物	神使(狛犬)	平潟	平潟神社	大正6年(1917)	丸彫 49
64	石造物	石鳥居	平潟	平潟神社	文化7年(1810)	明神鳥居
65	石造物	石鳥居	平潟	平潟神社	万延元年(1860)	明神鳥居
66	石造物	石灯笼(一对)	平潟	平潟神社	文化7年(1810)	四角 167
67	石造物	手洗石	平潟	平潟神社	享和2年(1802)	56.5*86.5*56.5
68	石造物	手洗石	平潟	平潟神社	天保6年(1835)	35*70*41.5
69	石造物	庚申塔	松戸	松戸神社	元禄9年(1696)	駒型
70	石造物	弁財天	松戸	松戸神社	昭和25年(1950)	駒型 30*22*15.5
71	石造物	富士講碑	松戸	松戸神社	明治30年(1897)	自然石 143
72	石造物	富士講碑	松戸	松戸神社	-	自然石 99
73	石造物	富士講碑	松戸	松戸神社	-	自然石 54
74	石造物	三峰講供養塔	松戸	松戸神社	明治26年(1893)	石祠 66
75	石造物	三峰講供養塔	松戸	松戸神社	大正9年(1920)	石祠 67
76	石造物	水神	松戸	松戸神社	寛政11年(1799)	石祠
77	石造物	水神	松戸	松戸神社	明治2年(1869)	石祠 111
78	石造物	水神	松戸	松戸神社	昭和6年(1931)	石祠 43
79	石造物	稻荷明神	松戸	松戸神社	安永7年(1778)	石祠 52
80	石造物	稻荷明神	松戸	松戸神社	文化3年(1806)	石祠 32
81	石造物	稻荷明神	松戸	松戸神社	文政11年(1828)	石祠 34
82	石造物	稻荷明神	松戸	松戸神社	明治40年(1907)	石祠 51.4
83	石造物	稻荷明神	松戸	松戸神社	大正元年(1912)	石祠 51
84	石造物	稻荷明神	松戸	松戸神社	大正6年(1917)	石祠 45
85	石造物	稻荷明神	松戸	松戸神社	昭和6年(1931)	駒型 30.5*1707*12
86	石造物	八幡明神	松戸	松戸神社	文化6年(1809)	石祠 50
87	石造物	松尾神社	松戸	松戸神社	安永9年(1780)	石祠 136
88	石造物	神使(狛犬)	松戸	松戸神社	天保12年(1841)	丸彫 78.8
89	石造物	神使(狛犬)	松戸	松戸神社	明治26年(1893)	丸彫 23
90	石造物	神使(狐)	松戸	松戸神社	-	丸彫 46.5
91	石造物	神使(狼)	松戸	松戸神社	-	丸彫 45
92	石造物	石鳥居	松戸	松戸神社	明治6年(1873)	明神鳥居 280
93	石造物	石鳥居	松戸	松戸神社	昭和3年(1928)	神明鳥居 300
94	石造物	石鳥居	松戸	松戸神社	昭和8年(1933)	神明鳥居 270
95	石造物	石鳥居	松戸	松戸神社	昭和36年(1961)	神明鳥居 560
96	石造物	石鳥居	松戸	松戸神社	昭和45年(1970)	神明鳥居
97	石造物	石灯笼	松戸	松戸神社	文久3年(1863)	火袋なし 228.5
98	石造物	石灯笼	松戸	松戸神社	昭和4年(1829)	四角 148.5
99	石造物	石灯笼(一对)	松戸	松戸神社	享保12年(1727)	六角 213
100	石造物	石灯笼(一对)	松戸	松戸神社	寛延2年(1749)	四角 233.5
101	石造物	石灯笼(一对)	松戸	松戸神社	文政5年(1822)	四角 262
102	石造物	石灯笼(一对)	松戸	松戸神社	文政5年(1822)	四角 263.5

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
103	石造物	石灯笼(一对)	松戸	松戸神社	文政5年(1822)	四角 255
104	石造物	石灯笼(一对)	松戸	松戸神社	文政5年(1822)	四角 263
105	石造物	石灯笼(一对)	松戸	松戸神社	文政5年(1822)	四角 272
106	石造物	石灯笼(一对)	松戸	松戸神社	大正6年(1917)	四角 342
107	石造物	石灯笼(一对)	松戸	松戸神社	-	四角 178
108	石造物	石灯笼(一对)	松戸	松戸神社	-	四角 152
109	石造物	手洗石	松戸	松戸神社	慶応3年(1867)	83*94.5*93
110	石造物	手洗石	松戸	松戸神社	明治8年(1875)	49.5*78*48
111	石造物	手洗石	松戸	松戸神社	-	28.5*56*28.5
112	石造物	百度石	松戸	松戸神社	明治4年(1871)	179*34.5*28
113	石造物	百度石	松戸	松戸神社	明治45年(1912)	133*30*21
114	石造物	庚申塔	松戸	松先稻荷	-	光背型 79*29*24
115	石造物	弁才天	松戸	松先稻荷	昭和9年(1934)	駒型 46*21*17
116	石造物	稻荷明神	松戸	松先稻荷	-	石祠 37
117	石造物	神使(蛇)	松戸	松先稻荷	-	丸彫 15.5
118	石造物	石鳥居	松戸	松先稻荷	大正14年(1925)	神明鳥居 285
119	石造物	庚申塔	松戸	松先稻荷	文政10年(1827)	駒型 39*20.5*13
120	石造物	石灯笼(一对)	松戸	松先稻荷	文政5年(1822)	四角 174
121	石造物	手洗石	松戸	松先稻荷	寛政2年(1790)	44*117*44
122	石造物	慰霊塔	松戸	路傍	昭和5年(1930)	角柱型 72*30*32
123	石造物	巡礼塔	松戸	路傍	明治44年(1911)	自然石 121*91*16
124	石造物	巡礼塔	松戸	路傍	明治42年(1909)	角柱型 63*26.5*19
125	石造物	馬頭観音	松戸	路傍	寛政2年(1790)	光背型 105*47*31
126	石造物	馬頭観音	松戸	路傍	明治3年(1870)	駒型 30*21*12
127	石造物	巡礼塔	松戸	路傍	-	丸彫 55
128	石造物	巡礼塔	松戸	路傍	-	丸彫 48
129	石造物	庚申塔	本町	如来院	享保13年(1728)	駒型 118*40.5*36
130	石造物	庚申塔	本町	如来院	宝暦10年(1760)	駒型 81.5*42*25
131	石造物	庚申塔	本町	如来院	宝暦10年(1760)	光背型 95.5*43*27
132	石造物	徳本念仏塔	本町	如来院	文化15年(1818)	皿形角柱 126.5*36*23
133	石造物	読誦塔	本町	如来院	宝暦10年(1760)	駒型 91*36*26.5
134	石造物	万霊塔	本町	如来院	享保3年(1718)	櫛型 131.5*34*29.5
135	石造物	地藏菩薩	本町	如来院	享保6年(1721)	櫛型 204*71*54
136	石造物	廻国塔	本町	如来院	享保4年(1719)	宝篋印塔 204
137	石造物	十九夜塔	小山	増長院	貞享3年(1686)	光背型 106*45*30
138	石造物	十九夜塔	小山	増長院	元禄10年(1697)	光背型 94.5*43*30
139	石造物	弘法大師供養塔	小山	増長院	-	丸彫 34
140	石造物	弘法大師供養塔	小山	増長院	-	丸彫 31
141	石造物	弘法大師供養塔	小山	増長院	-	丸彫 62*31.5*19.5
142	石造物	巡礼塔	小山	増長院	-	丸彫 58.5*28*18
143	石造物	巡礼塔	小山	増長院	-	丸彫 60*27*19.5
144	石造物	巡礼塔	小山	増長院	-	山状角柱 119*24*14
145	石造物	地藏菩薩	小山	増長院	-	光背型 98*40*25
146	石造物	地藏菩薩	小山	増長院	-	光背型 40.5*37.5*20

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
147	石造物	六地藏	小山	増長院	享保 3 年(1718)	光背型
148	石造物	庚申塔	小山	浅間神社	元禄 11 年(1698)	笠付角柱 106
149	石造物	庚申塔	小山	浅間神社	享保 2 年(1717)	光背型 113*54*29
150	石造物	庚申塔	小山	浅間神社	明和 7 年(1770)	駒型 79*33*20.5
151	石造物	庚申塔	小山	浅間神社	天明 4 年(1784)	山状角柱 74*33*22
152	石造物	庚申塔	小山	浅間神社	文化 12 年(1815)	駒型 148.5*37*23.5
153	石造物	庚申塔	小山	浅間神社	大正 5 年(1916)	駒型 50*25*18.5
154	石造物	廻国塔	小山	浅間神社	享保 5 年(1720)	笠付角柱 64
155	石造物	富士講碑	小山	浅間神社	明治 35 年(1902)	角柱型 82*20*19.5
156	石造物	富士講碑	小山	浅間神社	明治 35 年(1902)	自然石 97
157	石造物	富士講碑	小山	浅間神社	明治 35 年(1902)	自然石 114
158	石造物	富士講碑	小山	浅間神社	-	自然石 147
159	石造物	三峰講供養碑	小山	浅間神社	明治 21 年(1888)	自然石 43
160	石造物	三峰講供養碑	小山	浅間神社	昭和 37 年(1962)	石祠 74.3
161	石造物	水神	小山	浅間神社	昭和 37 年(1962)	石祠 73.5
162	石造物	水神	小山	浅間神社	-	石祠 57.8
163	石造物	稻荷明神	小山	浅間神社	大正元年(1912)	石祠 71
164	石造物	稻荷明神	小山	浅間神社	昭和 45 年(1970)	石祠 66.8
165	石造物	稻荷明神	小山	浅間神社	-	石祠 37
166	石造物	神使(狛犬)	小山	浅間神社	嘉永 5 年(1852)	丸彫 40.5
167	石造物	神使(狛犬)	小山	浅間神社	明治 29 年(1896)	丸彫 73
168	石造物	神使(狛犬)	小山	浅間神社	明治 36 年(1903)	丸彫 35.5
169	石造物	神使(狛犬)	小山	浅間神社	昭和 46 年(1971)	丸彫 46.5
170	石造物	神使(猿)	小山	浅間神社	-	丸彫 46
171	石造物	石鳥居	小山	浅間神社	平成 24 年(2012)	明神鳥居
172	石造物	石鳥居	小山	浅間神社	寛政 7 年(1795)	明神鳥居
173	石造物	石鳥居	小山	浅間神社	大正 15 年(1926)	神明鳥居 330
174	石造物	石灯笼	小山	浅間神社	元文 3 年(1738)	四角 146
175	石造物	石灯笼	小山	浅間神社	文化 8 年(1811)	四角 146
176	石造物	石灯笼	小山	浅間神社	天保 9 年(1838)	四角 113.5
177	石造物	石灯笼(一对)	小山	浅間神社	文化 9 年(1812)	火袋なし 175
178	石造物	石灯笼(一对)	小山	浅間神社	文政 9 年(1826)	四角 194
179	石造物	石灯笼(一对)	小山	浅間神社	天保 10 年(1839)	四角 149.5
180	石造物	石灯笼(一对)	小山	浅間神社	-	四角 391
181	石造物	手洗石	小山	浅間神社	明治 40 年(1907)	26*55.5*33
182	石造物	手洗石	小山	浅間神社	昭和 37 年(1962)	76*136*91
183	石造物	手洗石	小山	浅間神社	-	29*61.5*34
184	石造物	手洗石	小山	浅間神社	文化元年(1803)	45.5*88.5*43.5
185	石造物	道標	小山	浅間神社	-	自然石 116
186	石造物	不明	小山	浅間神社	安永 3 年(1774)	石祠 38.5
187	石造物	不明	小山	浅間神社	嘉永 6 年(1853)	石祠 145.9
188	石造物	不明	小山	浅間神社	明治 35 年(1902)	自然石 132.5
189	石造物	剣ヶ峰	小山	浅間神社	-	自然石 90
190	石造物	馬頭観音	小山	路傍	寛政元年(1789)	駒型 92*24*16

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
191	石造物	馬頭観音	小山	路傍	明治14年(1881)	駒型 52*23*13.5
192	石造物	馬頭観音	小山	路傍	大正5年(1916)	駒型 23*19.5*13
193	石造物	馬頭観音	小山	路傍	—	駒型 39*22*14.5
194	石造物	牛供養塔	小山	路傍	昭和4年(1929)	駒型 26*15*13
195	石造物	巡礼塔	小山	路傍	—	丸彫 66
196	石造物	巡礼塔	小山	路傍	—	丸彫 58.5
197	石造物	不明	小山	路傍	—	駒型 30*20*9.5
198	石造物	手洗石	小山	路傍	文化元年(1804)	46*88.5*43.5
199	石造物	巡礼塔	小山	路傍	—	丸彫 61.5
200	石造物	巡礼塔	小山	路傍	明治43年(1910)	丸彫 61
201	石造物	巡礼塔	小山	路傍	—	丸彫 65
202	石造物	庚申塔	二十世紀ヶ丘 萩町	路傍	明和6年(1769)	駒型 76.5*32.5*17
203	石造物	庚申塔	二十世紀ヶ丘 萩町	路傍	天保3年(1832)	駒型 94*39.5*30
204	石造物	巡拝塔	二十世紀ヶ丘 萩町	路傍	嘉永7年(1854)	自然石 111

矢切・栗山地区

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
1	石造物	庚申塔	上矢切	宝蔵院	正徳5年(1715)	光背型 123*54*27
2	石造物	庚申塔	上矢切	宝蔵院	正徳6年(1716)	駒型 115*54.5*27
3	石造物	十九夜塔	上矢切	宝蔵院	元禄10年(1697)	光背型 126.5*55*37
4	石造物	十九夜塔	上矢切	宝蔵院	宝永6年(1709)	光背型 113*54*32
5	石造物	弘法大師供養塔	上矢切	宝蔵院	天保13年(1842)	山状角柱 151*33*22
6	石造物	弘法大師供養塔	上矢切	宝蔵院	明治16年(1883)	皿状角柱 97*36*27.5
7	石造物	六地藏	上矢切	宝蔵院	明和2年(1765)	光背型 76*30*26
8	石造物	巡礼塔	上矢切	宝蔵院	昭和12年(1937)	山状角柱 86.5*16.5*17
9	石造物	手洗石	上矢切	宝蔵院	天保6年(1835)	23*59.5*30
10	石造物	庚申塔	上矢切	神明神社	正徳4年(1714)	光背型 114*55*29
11	石造物	庚申塔	上矢切	神明神社	寛政元年(1789)	駒型 98*30.5*17.5
12	石造物	庚申塔	上矢切	神明神社	享和3年(1803)	山状角柱 77*34*22.5
13	石造物	巡礼塔	上矢切	神明神社	—	丸彫 30
14	石造物	馬頭観音	上矢切	神明神社	文久3年(1863)	角柱型 39*22*15.5
15	石造物	馬頭観音	上矢切	神明神社	明治27年(1894)	山状角柱 64*29.5*28
16	石造物	地藏菩薩	上矢切	神明神社	享保5年(1720)	光背型 115*51*25
17	石造物	地藏菩薩	上矢切	神明神社	明治30年(1897)	光背型 50*45.5*37.5
18	石造物	巡礼塔	上矢切	神明神社	—	丸彫 58
19	石造物	金毘羅講供養塔	上矢切	神明神社	文政7年(1824)	石祠 48.5
20	石造物	水神	上矢切	神明神社	安永5年(1776)	石祠 78.5
21	石造物	水神	上矢切	神明神社	文政8年(1825)	石祠 65.5
22	石造物	水神	上矢切	神明神社	文政8年(1825)	石祠 74.5
23	石造物	天神	上矢切	神明神社	安永7年(1778)	石祠 77
24	石造物	天神	上矢切	神明神社	天明2年(1782)	石祠 83.5
25	石造物	稻荷明神	上矢切	神明神社	安永7年(1778)	石祠 53
26	石造物	稻荷明神	上矢切	神明神社	大正6年(1917)	石祠 34.5*19.5*12

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
27	石造物	神使(狛犬)	上矢切	神明神社	明治28年(1895)	丸彫 53
28	石造物	神使(狛犬)	上矢切	神明神社	明治29年(1896)	丸彫 49
29	石造物	神使(狛犬)	上矢切	神明神社	-	丸彫 43
30	石造物	石鳥居	上矢切	神明神社	-	神明鳥居
31	石造物	石灯笼(一对)	上矢切	神明神社	享保6年(1721)	152
32	石造物	石灯笼(一对)	上矢切	神明神社	弘化2年(1845)	四角 183
33	石造物	石灯笼(一对)	上矢切	神明神社	明治28年(1895)	四角 289
34	石造物	石灯笼(一对)	上矢切	神明神社	明治28年(1895)	火袋なし 167
35	石造物	手洗石	上矢切	神明神社	文化2年(1805)	42.5*84*43
36	石造物	手洗石	上矢切	神明神社	-	73*94*64
37	石造物	不明	上矢切	神明神社	明治29年(1896)	石祠 58.5
38	石造物	庚申塔	上矢切	路傍	安政7年(1860)	駒型 87*36*22.5
39	石造物	巡礼塔	上矢切	路傍	-	丸彫 40
40	石造物	地藏菩薩	上矢切	路傍	-	光背型 125*47*42
41	石造物	巡礼塔	上矢切	路傍	-	丸彫 51.5
42	石造物	神使(蛇)	上矢切	路傍	昭和9年(1933)	丸彫 41.5
43	石造物	手洗石	上矢切	路傍	文久元年(1862)	31*68.9*39.5
44	石造物	奉納額	上矢切	路傍	昭和12年(1937)	自然石 25*51*5
45	石造物	馬頭観音	上矢切	路傍	大正11年(1922)	自然石 62*31*6
46	石造物	庚申塔	上矢切	路傍	寛政6年(1794)	山状角柱 71*33*24
47	石造物	庚申塔	上矢切	路傍	文化11年(1814)	駒型 84.5*32.5*23.5
48	石造物	道祖神	上矢切	路傍	大正7年(1918)	石祠 51.5
49	石造物	石猿	上矢切	路傍	-	丸彫 48
50	石造物	巡礼塔	上矢切	路傍	明治43年(1910)	丸彫 85
51	石造物	巡礼塔	上矢切	路傍	-	丸彫 60
52	石造物	巡礼塔	上矢切	路傍	-	丸彫 62
53	石造物	地藏菩薩	上矢切	路傍	-	47*30*16
54	石造物	不明	上矢切	路傍	-	46*31*13
55	石造物	日蓮上人供養塔	中矢切	浄安寺	寛文7年(1667)	光背型 115*46*28
56	石造物	清正公	中矢切	浄安寺	天保3年(1832)	皿形円柱 161
57	石造物	日蓮上人供養塔	中矢切	浄安寺	明治14年(1881)	櫛型 104*35.5*30
58	石造物	地藏菩薩	中矢切	浄安寺	昭和7年(1932)	丸彫 63.5
59	石造物	天神	中矢切	香取神社	文化2年(1805)	石祠 68
60	石造物	神使(狛犬)	中矢切	香取神社	明治26年(1893)	丸彫 57
61	石造物	石灯笼	中矢切	香取神社	貞享3年(1686)	四角 232
62	石造物	石灯笼	中矢切	香取神社	天保6年(1835)	四角 232
63	石造物	石灯笼	中矢切	香取神社	平成25年(2013)	四角 108
64	石造物	手洗石	中矢切	香取神社	天保10年(1839)	37*83*37
65	石造物	不明	中矢切	路傍	明治30年(1897)	石祠 47.5
66	石造物	馬頭観音	中矢切	路傍	寛政3年(1791)	駒型 29.5*16*12
67	石造物	念仏塔	下矢切	西連寺	寛文2年(1662)	光背型 149
68	石造物	廻国塔	下矢切	西連寺	天明4年(1784)	山状角柱 85*34*34
69	石造物	巡礼塔	下矢切	西連寺	文化5年(1808)	山状角柱 109*33.5*24.5
70	石造物	巡礼塔	下矢切	西連寺	-	丸彫 59.5

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
71	石造物	題目塔	下矢切	妙法寺	昭和 20 年(1945)	自然石
72	石造物	馬頭観音	下矢切	妙法寺	—	自然石 79.5
73	石造物	水神	下矢切	矢切神社	元文 5 年(1740)	石祠 74
74	石造物	疱瘡神	下矢切	矢切神社	寛政元年(1789)	石祠 63
75	石造物	稻荷明神	下矢切	矢切神社	天保 11 年(1840)	石祠 51
76	石造物	第六天	下矢切	矢切神社	天保 13 年(1842)	石祠 55
77	石造物	神使(狐)	下矢切	矢切神社	明治 14 年(1881)	丸彫 60
78	石造物	神使(狛犬)	下矢切	矢切神社	明治 42 年(1909)	丸彫 60
79	石造物	神使(狐)	下矢切	矢切神社	—	丸彫 50
80	石造物	石鳥居	下矢切	矢切神社	昭和 45 年(1970)	神明鳥居
81	石造物	石鳥居	下矢切	矢切神社	大正 10 年(1921)	神明鳥居 350
82	石造物	石灯笼(一对)	下矢切	矢切神社	明治 16 年(1883)	四角 286
83	石造物	石灯笼(一对)	下矢切	矢切神社	大正 8 年(1919)	四角
84	石造物	石灯笼(一对)	下矢切	矢切神社	—	四角 120
85	石造物	手洗石	下矢切	矢切神社	文化 7 年(1810)	42*72*42
86	石造物	手洗石	下矢切	矢切神社	安政 6 年(1859)	62*75*46
87	石造物	力石	下矢切	矢切神社	明治 38 年(1905)	自然石
88	石造物	力石	下矢切	矢切神社	大正 12 年(1923)	自然石
89	石造物	力石	下矢切	矢切神社	昭和 11 年(1936)	自然石
90	石造物	力石	下矢切	矢切神社	—	自然石
91	石造物	力石	下矢切	矢切神社	—	自然石
92	石造物	力石	下矢切	矢切神社	—	自然石
93	石造物	力石	下矢切	矢切神社	—	自然石
94	石造物	力石	下矢切	矢切神社	—	自然石
95	石造物	力石	下矢切	矢切神社	—	自然石
96	石造物	不明	下矢切	矢切神社	天保 11 年(1840)	石祠 55
97	石造物	弁財天	下矢切	路傍	寛政 7 年(1795)	石祠 63
98	石造物	馬頭観音	下矢切	路傍	寛保 2 年(1742)	光背型 55
99	石造物	馬頭観音	下矢切	路傍	明治 42 年(1909)	自然石 69*57*6
100	石造物	遣祖神	下矢切	路傍	—	石祠 41
101	石造物	庚申塔	下矢切	路傍	安永 5 年(1776)	駒型 80.5
102	石造物	庚申塔	下矢切	路傍	寛政 12 年(1800)	山状角柱 84.5*35.5*35
103	石造物	馬頭観音	下矢切	路傍	明治 39 年(1906)	山状角柱 70*30*30
104	石造物	地藏菩薩	下矢切	路傍	享保 18 年(1733)	光背型 97
105	石造物	巡礼塔	下矢切	路傍	—	丸彫 83.5
106	石造物	十九夜塔	下矢切	路傍	延宝 2 年(1674)	光背型 107*51*28
107	石造物	十九夜塔	下矢切	路傍	元禄 6 年(1693)	光背型 85*38*15
108	石造物	十九夜塔	下矢切	路傍	宝永 3 年(1706)	光背型 88*41*25
109	石造物	十九夜塔	下矢切	路傍	天明 4 年(1784)	光背型 68*29*17
110	石造物	不明	下矢切	路傍	享保 13 年(1728)	光背型 88*29*21
111	石造物	庚申塔	栗山	本久寺	文化 8 年(1811)	駒型 64.8*26.5*18
112	石造物	題目塔	栗山	本久寺	寛延 3 年(1750)	山状角柱 89.5*36.5*29.5
113	石造物	題目塔	栗山	本久寺	文化 13 年(1816)	山状角柱 99*37*30
114	石造物	日蓮上人供養塔	栗山	本久寺	明治 13 年(1880)	皿形角柱 102*34*33

No.	区分	名称	所在地	管理者等	年代	形状・高*幅*厚(cm)
115	石造物	石燈籠	栗山	本久寺	—	88*103*94
116	石造物	力石	栗山	本久寺	—	自然石
117	石造物	題目塔	栗山	本久寺	明和5年(1768)	山状角柱 115*28*19
118	石造物	題目塔	栗山	本久寺	文化13年(1816)	櫛型 147*39*27.5
119	石造物	水神	栗山	日枝神社	—	石祠 77
120	石造物	神使(狛犬)	栗山	日枝神社	昭和8年(1933)	丸彫 56
121	石造物	石鳥居	栗山	日枝神社	—	神明鳥居 353
122	石造物	石灯籠	栗山	日枝神社	—	四角 115
123	石造物	手洗石	栗山	日枝神社	明治6年(1873)	37*63*38.5
124	石造物	不明	栗山	日枝神社	天保14年(1843)	石祠 50
125	石造物	弁財天	栗山	路傍	昭和3年(1928)	駒型 32*19.5*11

(3)有形文化財・美術工芸品

小金地区

No.	区分	名称	関係・所在	所有者等	時代	備考
1	絵画	明治期奉納絵画群	根木内	稲荷神社	明治時代	『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
2	絵画	東漸寺所蔵資料	小金	東漸寺	江戸時代	『東漸寺所蔵資料目録』
3	古文書	渡辺忠明氏寄贈文書	幸田	市史編纂	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
4	古文書	長谷山本土寺所蔵文書	平賀	本土寺	—	『松戸市古文書目録(三)』『本土寺文書他』『松戸市史 史料編(四)本土寺史料』
5	古文書	島根幸造氏所蔵文書	東平賀	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
6	古文書	杉浦光太郎氏所蔵文書	東平賀	個人	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』
7	古文書	加藤元治郎氏所蔵文書	大谷口	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
8	古文書	池田清氏所蔵文書	大谷口	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
9	古文書	大熊義光氏所蔵文書	大谷口	教育委員会	—	『松戸市史 史料編(五)大谷口村名主大熊家文書』
10	古文書	旧村概況・水戸街道関係	大谷口	市史編纂	—	『松戸市史 史料編(2)』
11	古文書	旧村概況資料	大谷口	個人	—	『松戸市史料(1)』
12	古文書	御鹿狩関係	大谷口	個人	—	『松戸市史料(3)』
13	古文書	鈴木甫治氏所蔵文書	中金杉	個人	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』
14	古文書	旧村概況	中金杉	市史編纂	—	『松戸市史 史料編(2)』
15	古文書	東漸寺所蔵資料	小金	東漸寺	江戸 ～近現代	『松戸市史 史料編(六)東漸寺史料』 『東漸寺所蔵資料目録』
16	古文書	吉田まき氏所蔵文書	小金	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
17	古文書	綿貫政治氏所蔵文書	小金	個人	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』
18	古文書	大塚三郎氏所蔵文書	小金	個人	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』
19	古文書	鈴木文夫氏所蔵文書	小金	個人	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』
20	古文書	旧村概況	小金	市史編纂	—	『松戸市史 史料編(4)』
21	古文書	小金牧関係	小金	個人	—	『松戸市史料(3)』
22	古文書	旧村概況資料	小金	個人	—	『松戸市史料(1)』
23	古文書	坂川の歴史関係	小金	個人	—	『松戸市史料(2)』
24	古文書	小山清氏所蔵文書	二ツ木	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
25	古文書	湯浅定治氏所蔵文書	二ツ木	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
26	古文書	吉野盛正所蔵文書	二ツ木	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
27	古文書	坂川の歴史関係	二ツ木	市史編纂	—	『松戸市史料(2)』
28	歴史資料	東漸寺所蔵資料(額・雲板・棟札)	小金	東漸寺	江戸時代	『東漸寺所蔵資料目録』

馬橋地区

No.	区分	名称	関係・所在	所有者等	時代	備考
1	古文書	萬満寺史料	馬橋	萬満寺	—	『松戸市史 史料編(三)』『万満寺史料』
2	古文書	福昌寺所蔵文書	幸谷	福昌寺	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
3	古文書	関茂雄氏所蔵文書	幸谷	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
4	古文書	長谷川敏行氏所蔵文書	幸谷	市史編纂	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
5	古文書	関武夫氏所蔵文書	幸谷	教委・個人	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』『松戸市古文書目録(三)』『酒井家文書』
6	古文書	酒井美千代氏所蔵文書	幸谷	教委・個人	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』
7	古文書	大川五兵衛氏所蔵文書	幸谷	個人	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』
8	考古資料	王子神社境内出土常滑壺	馬橋	教育委員会	中世	松戸市立博物館『研究紀要 第6号』

明地区

No.	区分	名称	関係・所在	所有者等	時代	備考
1	絵画	千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)関係作品	岩瀬	教育委員会	明治～昭和	—
2	絵画	千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)関係作品	岩瀬	個人	大正～昭和	—
3	絵画	長田国夫作品	仲井町	教育委員会	昭和時代	—
4	グラフィックデザイン	千葉大学工学部(旧東京工芸学校)関係作品	岩瀬	教育委員会	大正～昭和	—
5	版画	千葉大学工学部(旧東京工芸学校)関係作品	岩瀬	教育委員会	昭和時代	—
6	写真	千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)関係作品	岩瀬	教育委員会	明治～昭和	—
7	彫刻	千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)関係作品	岩瀬	教育委員会	昭和時代	—
8	工芸品	千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)関係作品	岩瀬	教育委員会	大正～昭和	—
9	陶芸	宮之原謙作品	上本郷	教育委員会	昭和時代	—
10	インテリア	千葉大学工学部(旧東京高等工芸学校)関係作品	岩瀬	教育委員会	大正～昭和	—
11	古文書	本福寺所蔵文書	上本郷	本福寺	—	『松戸市史 史料編(2)』『社寺信仰関係』
12	古文書	中山敏子氏所蔵文書	上本郷	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
13	古文書	大塚敏郎氏所蔵文書	上本郷	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
14	古文書	松村董司氏所蔵文書	上本郷	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
15	古文書	小宮実氏所蔵文書	上本郷	市史編纂	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
16	古文書	高橋みつゑ氏所蔵文書	仲井町	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
17	古文書	斎藤八郎氏所蔵文書	根本	市史編纂	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
18	古文書	坂川の歴史関係	樋野口	個人	—	『松戸市史料(2)』
19	古文書	芦田弘一郎氏寄贈文書	松戸新田	市史編纂	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
20	古文書	芦田重治氏所蔵文書	松戸新田	個人	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』
21	歴史資料	千葉大学工学部(旧東京工芸学校)関係資料	岩瀬	教育委員会	室町～昭和	—
22	歴史資料	千葉大学工学部(旧東京工芸学校)関係その他作品	岩瀬	教育委員会	明治～昭和	—

新松戸・古ヶ崎地区

No.	区分	名称	関係・所在	所有者等	時代	備考
1	古文書	関武平氏所蔵文書	七右衛門新田	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
2	古文書	七右衛門新田部落有文書	七右衛門新田	部落	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』
3	古文書	戸張伝兵衛氏所蔵文書	栄町	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
4	古文書	待山重雄氏所蔵文書	古ヶ崎	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
5	古文書	坂川の歴史関係	古ヶ崎	個人	—	『松戸市史料(2)』
6	古文書	坂川の歴史関係	九郎左衛門新田	個人	—	『松戸市史料(2)』
7	古文書	谷口博昭氏所蔵文書	大谷口新田	個人	—	『松戸市古文書目録』『諸家文書』

高木地区

No.	区分	名称	関係・所在	所有者等	時代	備考
1	絵画	丸木位里作品	八ヶ崎	教育委員会	昭和時代	—
2	絵画	丸木俊作品	八ヶ崎	教育委員会	昭和時代	—
3	絵画	岩崎巴人作品	八ヶ崎	教育委員会	昭和時代	—
4	絵画	竹内栄三郎作品	中和倉	教育委員会	大正～昭和	—
5	古文書	金谷寺所蔵文書	八ヶ崎	金谷寺	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
6	古文書	八ヶ崎部落有文書	八ヶ崎	部落	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』
7	古文書	成嶋重時氏所蔵文書	八ヶ崎	個人	—	『松戸市古文書目録(二)』『諸家文書』
8	古文書	水戸街道関係	八ヶ崎	個人	—	『松戸市史 史料編(1)』
9	古文書	水戸街道関係	八ヶ崎	個人	—	『松戸市史 史料編(2)』
10	古文書	土屋武氏所蔵文書	千駄堀	個人	—	『松戸市古文書目録(一)・(二)』『諸家文書』
11	古文書	金町松戸開所関係	千駄堀	個人	—	『松戸市史 史料編(2)』
12	古文書	御鹿狩関係	千駄堀	個人	—	『松戸市史 史料編(3)』
13	古文書	小金牧関係	千駄堀	個人	—	『松戸市史 史料編(3)』
14	古文書	安蒜好一氏所蔵文書	日暮	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
15	古文書	小金牧関係	日暮	個人	—	『松戸市史 史料編(3)』
16	考古資料	千葉県立松戸高等学校所蔵史料	中和倉	千葉県立松戸高等学校	縄文時代	『松戸市史考古資料集2』

東部地区

No.	区分	名称	関係・所在	所有者等	時代	備考
1	写真	及川修次作品	大橋	教育委員会	昭和～平成	—
2	古文書	秋谷惣一郎氏所蔵文書	和名ヶ谷	市史編纂	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
3	古文書	秋谷仁右衛門氏所蔵文書	和名ヶ谷	個人	—	『松戸市史 史料編(五)秋谷家文書』『松戸市古文書目録(四)』『秋谷家文書』
4	古文書	御鷹場関係	河原塚	個人	—	『松戸市史 史料編(3)』
5	古文書	渡辺多佳氏所蔵文書	秋山	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
6	古文書	旧村概況	秋山	個人	—	『松戸市史 史料編(2)』
7	古文書	旧村概況資料	秋山	個人	—	『松戸市史料(1)』
8	古文書	湯浅権蔵氏所蔵文書	紙敷	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
9	古文書	湯浅甚衛氏所蔵文書	紙敷	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
10	古文書	湯浅よし氏所蔵文書	紙敷	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
11	古文書	岡田藤樹氏所蔵文書	高塚新田	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』『諸家文書』
12	考古資料	湯浅喜代治考古コレクション	紙敷	教育委員会	縄文時代 古墳時代	松戸市立博物館 『湯浅喜代治考古コレクション-夢を追った70年-』

小金原・五香地区

No.	区分	名称	関係・所在	所有者等	時代	備考
1	絵画	原安佑作品	常盤平	教育委員会	昭和時代	-
2	古文書	渡辺寛氏所蔵文書	金ヶ作	個人	-	『松戸市古文書目録(一)』「諸家文書」
3	古文書	小金牧関係	金ヶ作	個人	-	『松戸市史料(3)』
4	古文書	小暮高一氏所蔵文書	金ヶ作	個人	-	『松戸市古文書目録(一)』「諸家文書」
5	古文書	小金牧関係	栗ヶ沢	個人	-	『松戸市史料(3)』

松戸地区

No.	区分	名称	関係・所在	所有者等	時代	備考
1	絵画	田中寅三作品	松戸	教育委員会	明治～昭和	-
2	絵画	板倉鼎作品	松戸	教育委員会	大正～昭和	-
3	絵画	板倉昇・須美子作品	松戸	教育委員会	昭和時代	-
4	絵画	明治・大正期奉納絵画群	松戸	松戸神社	明治時代	『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
5	絵画	奉納絵画(佐竹永湖作)	松戸	松戸神社	江戸時代	『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
6	絵画	奉納絵画(佐竹永郎作)	松戸	松戸神社	明治時代	『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
7	絵画	奉納絵画(松本楓湖作)	松戸	松戸神社	明治時代	楓湖敬忠『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
8	絵画	書額	松戸	松戸神社	江戸時代	『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
9	絵画	書額	松戸	松戸神社	明治時代	『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
10	絵画	三十六歌仙額群	松戸	松戸神社	江戸時代	『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
11	絵画	弓術射的額	松戸	松戸神社	江戸時代	110*260『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
12	絵画	講中記念額	松戸	松戸神社	大正時代	100*140 御額師升田『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
13	古文書	青木源内氏所蔵文書	松戸	個人	-	『松戸市古文書目録(二)』「諸家文書」
14	古文書	高木利吉氏所蔵文書	松戸	個人	-	『松戸市古文書目録(一)』「諸家文書」
15	古文書	吉岡太郎氏所蔵文書	松戸	個人	-	『松戸市古文書目録(一)』「諸家文書」
16	古文書	平野好吉郎氏寄贈文書	松戸	市史編纂	-	『松戸市古文書目録(一)』「諸家文書」
17	古文書	倉田信平氏所蔵文書	松戸	個人	-	『松戸市古文書目録(二)』「諸家文書」
18	古文書	米井セツ子氏所蔵文書	松戸	市史編纂	-	『松戸市古文書目録(二)』「諸家文書」
19	古文書	旧村概況	松戸	市史編纂	-	『松戸市史料(1)』
20	古文書	旧村概況資料	松戸	市史編纂	-	『松戸市史 史料編(2)』
21	古文書	旧村概況	松戸	個人	-	『松戸市史 史料編(2)』
22	古文書	旧村概況資料	松戸	個人	-	『松戸市史料(1)』
23	古文書	水戸街道関係	松戸	個人	-	『松戸市史料(1)』
24	古文書	御鹿狩関係	松戸	個人	-	『松戸市史料(3)』
25	古文書	坂川の歴史関係	松戸	個人	-	『松戸市史料(2)』
26	古文書	坂川の歴史関係	小山	個人	-	『松戸市史料(2)』
27	古文書	石井勝介氏所蔵文書	小山	個人	-	『松戸市古文書目録(一)』「諸家文書」

矢切・栗山地区

No.	区分	名称	関係・所在	所有者等	時代	備考
1	絵画	奥山儀八郎作品	下矢切	教育委員会	昭和時代	《松戸市教育委員会所蔵奥山儀八郎作品目録》
2	絵画	渋谷克己作品	下矢切	教育委員会	昭和～平成	—
3	絵画	明治期奉納絵画	下矢切	矢切神社	明治時代	『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
4	絵画	明治期奉納絵画	中矢切	香取神社	明治時代	『千葉県文化財実態調査報告書 絵馬・奉納額・建築彫刻』
5	古文書	近藤正二氏所蔵文書	下矢切	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』「諸家文書」
6	古文書	伊藤三郎氏所蔵文書	下矢切	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』「諸家文書」
7	古文書	坂川の歴史関係	下矢切	個人	—	『松戸市史料(2)』
8	古文書	御鷹場関係	下矢切	個人	—	『松戸市史料(3)』
9	古文書	深山清吉氏所蔵文書	栗山	個人	—	『松戸市古文書目録(一)』「諸家文書」
10	古文書	坂川の歴史関係	栗山	個人	—	『松戸市史料(2)』

(4)民俗文化財

小金地区

No.	区分	名称	調査地	その他	備考
1	人生儀礼	婚姻・葬送習俗	幸田	小金	『農村松戸の民俗』
2	人生儀礼	産育習俗	小金	小金	『農村松戸の民俗』
3	生産生業	生産生業	幸田	小金	『農村松戸の民俗』
4	村落・家	村落・家	幸田	小金	『農村松戸の民俗』
5	村落・家	村落・家	中金杉	小金	『農村松戸の民俗』
6	村落・家	村落・家	大谷口	小金	『農村松戸の民俗』
7	村落・家	村落・家	二ツ木	小金	『農村松戸の民俗』
8	信仰	天神・地藏・大師講、おびしゃ、疱瘡待、日待	幸田	小金	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
9	信仰	念仏・天神・題目講、おびしゃ、疱瘡待	東平賀	小金	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
10	信仰	題目講、おびしゃ、日待	平賀	小金	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
11	信仰	子安・念仏講、おびしゃ、疱瘡待	殿平賀	小金	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
12	信仰	念仏・天神・題目講、おびしゃ、疱瘡待	久保平賀	小金	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
13	信仰	庚申・念仏講	小金	小金	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
14	信仰	念仏・大師講、おびしゃ、疱瘡待、日待	二ツ木	小金	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
15	信仰	念仏・弁天・天神・大師講、おびしゃ、疱瘡待、日待	中金杉	小金	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
16	信仰	念仏・弁天・天神・大師講、おびしゃ、疱瘡待、日待	大谷口	小金	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
17	信仰	念仏・道祖神・題目・初午講、おびしゃ	上総内	小金	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
18	信仰	題目・手児奈講、おびしゃ	根木内	小金	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」

馬橋地区

No.	区分	名称	調査地	その他	備考
1	信仰	子安・念仏・天神・題目講、おびしゃ	新作	馬橋	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
2	信仰	子安・念仏・天神講、おびしゃ	中根	馬橋	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
3	信仰	念仏講、疱瘡待	三ヶ月	馬橋	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
4	信仰	念仏・天神・観音講	幸谷	馬橋	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
5	信仰	子安・念仏・弁天・天神・大師講、おびしゃ、日待	馬橋	馬橋	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」

明地区

No.	区分	名称	調査地	その他	備考
1	工芸技術	手描友禅 指定 111	上本郷	伝承者：篠原清治	染色品 『伝統的工芸品一覧』
2	信仰	念仏・天神・辻切・大杉様・大師・不動・神明講、おびしゃ、日待	松戸新田	明	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
3	信仰	念仏・天神・二十三夜講、おびしゃ、疱瘡待、日待	上本郷	明	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
4	信仰	念仏・大師講、おびしゃ、疱瘡待	南花島	明	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
5	信仰	念仏・天神・観音講、おびしゃ、疱瘡待、日待	岩瀬	明	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
6	信仰	庚申・念仏・天神・題目講、おびしゃ	根本	明	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」

新松戸・古ヶ崎地区

No.	区分	名称	調査地	その他	備考
1	人生儀礼	婚姻・産育・葬送習俗	伝兵衛新田	新松戸・古ヶ崎	『農村松戸の民俗』
2	人生儀礼	産育・葬送習俗	大谷口新田	新松戸・古ヶ崎	『農村松戸の民俗』
3	村落・家	村落・家	伝兵衛新田	新松戸・古ヶ崎	『農村松戸の民俗』
4	村落・家	村落・家	七右衛門新田	新松戸・古ヶ崎	『農村松戸の民俗』
5	信仰	念仏・天神・観音・題目・初午講、おびしゃ、疱瘡待	横須賀	新松戸・古ヶ崎	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
6	信仰	念仏・天神講、おびしゃ、疱瘡待	大谷口新田	新松戸・古ヶ崎	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
7	信仰	念仏・天神・女化講、疱瘡待	九郎左衛門新田	新松戸・古ヶ崎	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
8	信仰	庚申・念仏・天神・初午・宮講、疱瘡待	七右衛門新田	新松戸・古ヶ崎	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
9	信仰	念仏・弁天・題目講、疱瘡待	主水新田	新松戸・古ヶ崎	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
10	信仰	念仏・天神道祖神・大杉・大山講、日待	伝兵衛新田	新松戸・古ヶ崎	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
11	信仰	念仏・弁天講、おびしゃ	古ヶ崎	新松戸・古ヶ崎	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」

高木地区

No.	区分	名称	調査地	その他	備考
1	人生儀礼	産育・葬送習俗	八ヶ崎	高木	『農村松戸の民俗』
2	人生儀礼	葬送習俗	千駄堀	高木	『農村松戸の民俗』
3	生産生業	生産生業	千駄堀	高木	『農村松戸の民俗』
4	信仰	念仏講、おびしゃ	日暮	高木	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
5	信仰	子安・念仏・天神・観音講、おびしゃ	千駄堀	高木	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」

東部地区

No.	区分	名称	調査地	その他	備考
1	人生儀礼	婚姻・産育・葬送習俗	和名ヶ谷	東部	『農村松戸の民俗』
2	人生儀礼	産育・葬送習俗	大橋	東部	『農村松戸の民俗』
3	人生儀礼	葬送習俗	紙敷	東部	『農村松戸の民俗』
4	生産生業	生産生業	大橋	東部	『農村松戸の民俗』
5	村落・家	村落・家	大橋	東部	『農村松戸の民俗』
6	村落・家	村落・家	和名ヶ谷	東部	『農村松戸の民俗』
7	村落・家	村落・家	紙敷	東部	『農村松戸の民俗』
8	村落・家	村落・家	高塚新田	東部	『農村松戸の民俗』
9	信仰	庚申・子安・念仏講、おびしゃ	秋山	東部	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
10	信仰	庚申・子安・念仏・道祖神講、おびしゃ	大橋	東部	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
11	信仰	天神・道祖神講、おびしゃ、疱瘡待	高塚新田	東部	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
12	信仰	念仏・天神講、おびしゃ、疱瘡待	河原塚	東部	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
13	信仰	念仏講、おびしゃ	和名ヶ谷	東部	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」
14	信仰	庚申・子安・念仏・弁天・天神・観音・題目講、おびしゃ、疱瘡待	紙敷	東部	『農村松戸の民俗』「集落別講調査」

小金原・五香地区

No.	区分	名称	調査地	その他	備考
1	村落・家	村落・家	栗ヶ沢	小金原・五香	『農村松戸の民俗』
2	村落・家	村落・家	五香六実	小金原・五香	『農村松戸の民俗』
3	信仰	念仏・弁天・天神・題目講、おびしゃ	栗ヶ沢	小金原・五香	『農村松戸の民俗』『集落別講調査』
4	信仰	念仏・大師講、おびしゃ	金ヶ作	小金原・五香	『農村松戸の民俗』『集落別講調査』
5	信仰	子安・念仏・観音・大師講、おびしゃ	五香六実	小金原・五香	『農村松戸の民俗』『集落別講調査』
6	信仰	念仏・弁天・天神・題目講、おびしゃ	串崎新田	小金原・五香	『農村松戸の民俗』『集落別講調査』

松戸地区

No.	区分	名称	調査地	その他	備考
1	工芸技術	友禅染 指定 57	松戸	伝承者:中澤英高	染色品 『伝統的工芸品一覧』
2	工芸技術	野鍛冶	小山	伝承者:伊原健蔵	農具・刃物 『千葉県の特産品』
3	工芸技術	下総鍔 指定 96	小山	伝承者:野崎吉之助	金工品 『伝統的工芸品一覧』
4	工芸技術	下総打刃物 指定 117	小山	伝承者:伊原健蔵	金工品 『伝統的工芸品一覧』 農具・刃物 『千葉県の特産品』
5	信仰	庚申・念仏・題目・地藏・天神・観音・稲荷・大師・富士講、おびしゃ、日待	松戸	松戸	『農村松戸の民俗』『集落別講調査』
6	信仰	庚申・念仏・弁天・観音・大師・富士講、疱瘡待	小山	松戸	『農村松戸の民俗』『集落別講調査』

矢切・栗山地区

No.	区分	名称	調査地	その他	備考
1	信仰	庚申・念仏・弁天・天神・観音・題目・十七日講、ほうそう待	上矢切	矢切・栗山	『農村松戸の民俗』『集落別講調査』
2	信仰	庚申・念仏・天神・題目講、おびしゃ	中矢切	矢切・栗山	『農村松戸の民俗』『集落別講調査』
3	信仰	庚申・題目講、おびしゃ、日待	栗山	矢切・栗山	『農村松戸の民俗』『集落別講調査』

(5)埋蔵文化財

No.	遺跡名	所在地	立地	種別	遺構 遺物(種類、形式)	備考
1	幸田	幸田1・2丁目	台地	貝塚 集落跡	旧:石器 縄:貝塚(前)、炉穴(早)、住居跡(前)、土坑(前)等、土器(早～後)、石器、骨角器 墳:住居跡(中)、土器(中)、石製品 中近:陶器、土器、石製品、銭貨	調査:第1次～第20次調査 重要文化財「千葉県幸田貝塚出土品」 市指定文化財史跡「幸田貝塚」
2	中芝	幸田4・5丁目	台地	集落跡	縄:土器(早～中)、石器 弥:住居跡、土器(後) 墳:住居跡(前～中)、土坑(中)、土器(前～中)、土製品、石器、石製品	調査:第1～第16地点
3	木戸口	中金杉1・2丁目	台地	貝塚	縄:貝塚、土器(前) 墳:土坑、土器(中)	調査:第1地点(昭46)
4	道六神	中金杉4丁目	台地	集落跡	縄:土器(早～晩) 墳:住居跡(前～後)	調査:第1地点(昭34)
5	中金杉台	中金杉4丁目	台地	貝塚	縄:貝塚、土器(早～後)	消滅
6	殿平賀	殿平賀(五郎兵衛屋敷台)	台地	貝塚 集落跡	縄:貝塚(後)、住居跡(後)、土坑(後)等、土器(後)、土製品、石器、骨角器、貝製品、人骨 中近:地下式坑、空堀、斜面の普請跡等、陶磁器	調査:第1～第4地点
7	馬屋敷	大谷口(馬屋敷)	台地	集落跡	旧:ブロック、石器 縄:土器(前～後)、石器 弥:土器(後) 墳:住居跡(後)、土坑、土器(後) 中:掘立柱建物跡、地下式坑、竪穴遺構、土坑、空堀、大穴遺構等、貝層、陶磁器、土器、石製品、金属製品、革札、銭貨	調査:第1地点(平7)
8	大谷口	大谷口(本城、外番場)	台地	集落跡	縄:炉穴(早)、土坑、土器(早～中)、石器 弥:住居跡(中)、土器(中～後)、 墳:住居跡(後)、土器(後)、石器、石製品、鉄製品	調査:第1～第3地点
9	外番場	大谷口(外番場)	台地	貝塚	縄:貝塚、土器(早～中)	調査:第1～第3地点
10	達摩	大谷口(達摩)	台地	貝塚	縄:貝塚、土器(早～中) 墳:住居跡、土器 中近:土器	調査:昭24、第1～第2地点

No.	遺跡名	所在地	立地	種別	遺構 遺物(種類、形式)	備考
11	小金城跡	大谷口(本城、馬屋敷、番場、外番場、中郷、達摩、根郷屋)、殿平賀(向山)、大金平1・2・3丁目、新松戸1丁目	台地	城跡	中近 :掘立柱建物跡、推定櫓跡、腰曲輪、土橋、空堀、地下式坑、土坑、整地跡、土塁、鍛冶関連遺構、井戸状遺構等、陶磁器、土器、土製品、石製品、金属製品、銭貨、漆器、羽口、鉄・銅滓、人骨	調査:第1地点～第20地点
12	殿平賀向山	殿平賀(向山)、大谷口(達摩)	台地	貝塚	旧 :石器 縄 :貝塚(前)、住居跡(前)、炉穴(早)、土坑、土器(早～後)、土製品、石器、石製品、貝製品 墳 :住居跡(前～後)、土器(前～後)、石製品、鉄製品	調査:第1～第4地点
13	中郷	大谷口(達摩、中郷)、殿平賀(向山)、小金(西)	台地	集落跡	縄 :住居跡、炉穴(早)、土器(前)	調査:第1地点(平28)
14	小金古墳群	小金(西)、大谷口(中郷)、殿平賀(向山、慶林寺台)	台地	古墳	墳 :円墳、周溝、円筒埴輪、形象埴輪	調査:第1～第2地点
15	西	小金(西)	台地	貝塚	縄 :貝塚、住居跡、土器(前～後)	消滅
16	東平賀	東平賀(大門前)、殿平賀(向堀、大門付)、平賀(大門通)	台地	貝塚集落跡	旧 :石器 縄 :貝塚(中)、住居跡(前・中)、土坑等、土器(早～後)、土製品、石器、骨角器、貝製品、人骨 墳 :住居跡(中)、土器(中) 中近 :竪穴遺構、井戸状遺構、陶磁器、土器、石製品	調査:第1～第30地点
17	仲通	東平賀(仲通)	台地	集落跡	旧 :ブロック、石器 縄 :土坑(早?)、土器(早～後) 墳 :住居跡(中)、土坑(中)、土器(中)	調査:第1～第7地点
18	東平賀向台	東平賀(向台)、小金きよしヶ丘1丁目	台地	包蔵地	墳 :土器	-
19	根木内城跡	根木内(城の内、宿畑、北の台、宿畑)	台地	城跡	旧 :石器 縄 :住居跡(前・中)、土坑(後)、土器(早～後)、石器、石製品 弥 :土器(後) 中近 :掘立柱建物跡、土坑、地下式坑、柵列、空堀、土塁、土橋等、陶磁器、土器、石製品、鉄製品、漆器、銭貨	調査:第1～第13地点
20	根木内	根木内(宿畑、北の台)	台地	貝塚集落跡	旧 :ブロック、石器 縄 :貝塚(中)、住居跡(前・中)、土坑(前～後)等、土器(早～後)、土製品、石器、石製品、骨角器、貝製品、人骨	調査:第1～第16地点
21	辻	根木内(辻)	台地	包蔵地	縄 :土器(前・後)	-
22	宮の後	根木内(宮の後、辻)	台地	包蔵地	縄 :土坑(中)、土器(前～中)、土製品	調査:第1～第3地点
23	殿内	小金原2丁目	台地	貝塚	縄 :貝塚、土器(前～後)	消滅
24	境外	小金(境外)	台地	貝塚	縄 :貝塚(後～晩?)、土器(前・後・晩)	-
25	久保平賀	小金きよしヶ丘2・3丁目	台地	包蔵地	縄 :土器(前～中)	-
26	久保平賀古墳	小金きよしヶ丘3丁目	台地	古墳	墳 :円墳	-
27	幸谷城跡	幸谷(熊ノ脇、観音下9、二ツ木(花輪))	台地	城跡	中近 :段切り遺構、溝状遺構、井戸状遺構、地下式坑、土坑、土塁(?)、陶磁器、土器、石製品、金属製品、銭貨、人骨	調査:第1～第2地点
28	観音下	幸谷(観音下)	台地	貝塚	縄 :貝塚、土器(早～後)	-
29	二ツ木溜台	二ツ木(二葉町)、小金きよしヶ丘5丁目、小金原1・4丁目	台地	集落跡	縄 :住居跡、土器(前)	-
30	後田	二ツ木(後田、東、新屋敷、溜井下、房山)	台地	貝塚集落跡	縄 :貝塚(後)、住居跡(後)、土坑、土器(早～晩)、土製品、石器、石製品	調査:第1～第4地点
31	二ツ木向台	二ツ木(向台)	台地	貝塚	縄 :貝塚(前)、土器(早～後)、石器、骨角器 墳 :土器	調査:昭25 二ツ木式土器の標式遺跡
32	上野台	二ツ木(上の台)	台地	包蔵地	墳 :土器	消滅
33	勢至前	二ツ木(作台、宮前)、八ヶ崎3丁目	台地	貝塚	縄 :貝塚、土器(早～前) 墳 :土器(後)	調査:昭25、第1地点(平8) 消滅

No.	遺跡名	所在地	立地	種別	遺構 遺物(種類、形式)	備考
34	馬橋城跡	三ヶ月(島谷、島谷台)	台地	城跡	-	鎌倉期の小金城? 消滅
35	北道合	八ヶ崎8丁目	台地	貝塚集落跡	縄: 貝塚(前)、住居跡(前)、土坑、土器(早~後)、石器 中近: 陶磁器、土器	調査: 第1~第10地点
36	南道合	八ヶ崎7丁目	台地	貝塚	縄: 貝塚、土器(早~前)、石器	調査: 昭27、第1地点(平25)
37	新井	八ヶ崎5・6・7丁目	台地	貝塚	縄: 貝塚、土器(前~後) 墳: 土器	消滅
38	新井古墳	八ヶ崎6丁目	台地	古墳	墳: 古墳(?), 土器	調査: 第1地点(昭39) 消滅
39	馬橋城跡	馬橋(南竜房)	台地	城跡	-	鎌倉期の小金城? 消滅
40	八ヶ崎	八ヶ崎4・5丁目	台地	貝塚集落跡	旧: ブロック、石器 縄: 貝塚(中)、住居跡(早~中)、竪穴状遺構、土坑(中)、土器(早~後)、土製品、石器、石製品	調査: 第1地点~第27地点
41	中堀込	八ヶ崎5丁目	台地	包蔵地	縄: 土器(前~後)	-
42	入	八ヶ崎2丁目	台地	包蔵地	旧: 石器 縄: 土器(早~前)	調査: 第1地点(令1)
43	八ヶ崎貝の花	八ヶ崎3丁目、小金原8丁目	台地	集落跡	縄: 土坑(中)、土器(中)、石器 奈・平: 道路状遺構、土器	調査: 第1~第10地点
44	貝の花	小金原8丁目	台地	貝塚集落跡	縄: 貝塚(中~晩)、住居跡(中~晩)、土坑等、土器(前~晩)、土製品、石器、石製品、骨角器、貝製品、人骨	調査: 第1地点(昭39・40・41) 消滅
45	根切	小金原8丁目	台地	貝塚	縄: 貝塚(中)、住居跡(中)、土器(中~後)	調査: 第1地点(昭41)
46	水戸家御鷹場役所	小金原6丁目	台地	陣屋跡	-	消滅
47	谷ソコI	小金原5丁目	台地	貝塚	縄: 貝塚(後?), 土器(早・中~後)	-
48	谷ソコII	小金原5丁目	台地	貝塚	縄: 貝塚、土器(早)	-
49	若芝	小金原8丁目	台地	貝塚集落跡	縄: 貝塚(中~後)、住居跡(中)、土坑(中~後)、土器(前~中)、土製品、石器、石製品	調査: 昭39、第1~第8地点
50	笹塚	小金原9丁目	台地	包蔵地	縄: 土器(中)	-
51	大作	小金原9丁目、金ヶ作(大作、ホダシ内)	台地	包蔵地	縄: 土器	-
52	中根城の越	中根(1丁目)	台地	包蔵地	旧: 石器 墳: 土器	消滅
53	中根城跡	中根(1・2丁目)	台地	城跡	-	室町期? 消滅
54	北台	北松戸2丁目	台地	包蔵地	弥: 土器(後)	消滅
55	上本郷	上本郷(北台)、1・2丁目、北松戸2丁目	台地	貝塚集落跡	旧: 石器 縄: 貝塚(中~後)、住居跡(前~中)、土坑等、土器(早~晩)、土製品、石器、石製品、骨角器、貝製品、人骨 弥: 土器(中~後) 近: 土器、銭貨	調査: 大11・昭3、第1地点~第22地点
56	上本郷七畝割	上本郷(七畝割、2・4丁目)	台地	集落跡	旧: 石器 縄: 土器(早~晩) 弥: 住居跡(後)、土器(後) 墳: 土器(前) 奈・平: 土器	調査: 第1地点(昭37)
57	戸張	不明	台地	包蔵地	弥: 石器?	-
58	鉄砲塚	上本郷3丁目	台地	塚	-	調査: 第1地点(昭40) 消滅
59	新堀	上本郷3丁目、松戸新田(新堀)	台地	包蔵地	墳: 土師器(中)	-
60	寒風台	松戸新田(寒風台、久兵衛分)	台地	集落跡	旧: 石器 縄: 貝塚(前)、住居跡(前~中)、土坑(中)等、土器(早~中)、土製品、石器	調査: 第1地点(昭56)
61	中和倉寒風	中和倉(寒風、寒風沖、一反割)	台地	集落跡	縄: 土器(前~後) 墳: 住居跡(前)、土器(前)、石製品	調査: 第1地点(昭37)
62	千駄堀寒風	中和倉(一反割)、千駄堀(前新田、向新田)	台地	貝塚集落跡	旧: 石器 縄: 貝塚(中)、住居跡(中)、土坑(中)等、土器(草~後)、土製品、石器、骨角器、人骨 中近: 土坑、陶磁器、土器、土製品、銭貨	調査: 昭8・38・39~41、第1~第3地点
63	大六天	千駄堀(第六天、天神脇)	台地	包蔵地	旧: ブロック、石器 縄: 貝塚(中)、住居跡(前・中)、土坑、土器(早~中)、石器 墳: 住居跡(前)、土器(前) 中近: 地下式坑、墓壇、土坑、井戸状遺構等 陶磁器、土器、土製品、石製品 金属製品、銭貨、人骨、馬骨	調査: 第1~第5地点

No.	遺跡名	所在地	立地	種別	遺構 遺物(種類、形式)	備考
64	北郷	千駄堀(北郷、西郷)	台地	包蔵地	縄:土器(前~中) 墳:(前)	-
65	南屋敷	千駄堀(南屋敷)	台地	包蔵地	縄:土器(前~中)	-
66	芋ノ作塚	千駄堀(寒風)	台地	塚	-	江戸時代
67	清水台	千駄堀(清水台、外清水)	台地	包蔵地	縄:土器(前~後)、石器	調査:第1~第2地点
68	四ツ窪台	千駄堀(諸面、清水)、金ヶ作(四ツ窪台)	台地	包蔵地	縄:土器(前)	消滅
69	外清水塚	千駄堀(向山)	台地	塚	-	消滅
70	出来山	千駄堀(出来山、小原、諸面、向山)	台地	集落跡	旧:ブロック、礫群、石器 縄:住居跡(前)、炉穴(早)、土坑(前)等、土器(草~中)、土製品、石器 中近:土坑、土製品、銭貨、馬骨	調査:昭56、第1~第15地点
71	登戸	千駄堀(登戸、新堀)	台地	包蔵地	縄:土器(早~後)	調査:第1地点(平10)
72	小塚前	金ヶ作(小塚前、佐野)	台地	貝塚	旧:ブロック 石器 縄:貝塚、土坑、土器(中)	調査:第1地点(平23)
73	金ヶ作陣屋跡	常盤平陣屋前、金ヶ作(陣屋前、とふか山)、日暮1丁目	台地	陣屋跡	-	江戸時代(小金牧の役所)
74	陣屋前Ⅱ	金ヶ作(とふか山)、日暮(陣屋前)、日暮1丁目	台地	貝塚	縄:貝塚、土器(中)、石器	-
75	陣屋前Ⅰ	金ヶ作(とふか山)、日暮(陣屋前)、日暮1丁目	台地	包蔵地	縄:土器(中)	-
76	日暮塚	日暮6丁目	台地	塚	-	明治時代に築造された塚 調査:第1地点(昭50) 消滅
77	子和清水	日暮6・7丁目、牧の原1丁目	台地	貝塚 集落跡	旧:石器 縄:貝塚(中)、住居跡(中)、土坑(中)等、土器(中~後)、土製品、石器、石製品、骨角器、貝製品、人骨	調査:昭37・43、第1地点(昭47~50) 消滅
78	新山	日暮7丁目、牧の原2丁目、五香西5丁目	台地	貝塚	縄:貝塚、住居跡、土器(中)	消滅
79	初富飛地Ⅰ	五香西4・5丁目	台地~斜面部	包蔵地	縄:土器(早~後)、石器	-
80	初富飛地Ⅱ	五香西4丁目	台地	包蔵地	旧:石器 縄:土器(中)、石器	-
81	五香六実元山Ⅰ	五香西3丁目	台地	包蔵地	縄:土器(中~後)	調査:第1~第2地点
82	五香六実元山Ⅱ	五香西2・3丁目	台地	包蔵地	旧:石器	-
83	鳥井戸	五香西2丁目	台地~斜面部	貝塚	縄:貝塚、土器(早~晩)	調査:第1~第3地点
84	お立場	五香西1丁目	台地	その他	-	江戸時代 消滅
85	竹ヶ花古墳	小根本(久保)	台地	古墳	墳:円墳 鉄製品	調査:昭36 消滅
86	台	根本(台)	台地	包蔵地	墳:土師器(後)	消滅
87	相模台古墳群	岩瀬(相模台)	台地	古墳	墳:古墳?	消滅
88	けいせい塚	岩瀬(向山)	台地	塚	近:塚	現在のものは平成7年に移築市指定文化財史跡「経世塚」
89	相模台城跡	岩瀬(相模台、向山、塚田、離山、中ノ町、殿井戸)、松戸(向山、谷)	台地	城跡	-	調査:平21(県)、第1地点~第8地点 室町期?
90	戸定	松戸(根古屋)	台地	包蔵地	奈・平:土器 中:板碑	消滅
91	松渡城跡	松戸(戸定、巻台、赤発毛、神田)	台地	城跡	縄:土坑、土器	調査:第1~第2地点

No.	遺跡名	所在地	立地	種別	遺構 遺物(種類、形式)	備考
92	松戸七畝割Ⅰ	松戸(七畝割)	台地	貝塚	縄:貝塚、土器(後)	消滅
93	松戸七畝割Ⅱ	松戸(七畝割)	台地	集落跡	墳:土器(前)	消滅
94	南花島	緑ヶ丘1・2丁目、胡録台(大畑)	台地	集落跡	奈・平:住居跡、土器、石器、鉄製品	調査:第1地点(昭45) 消滅
95	柿の木台	二十世紀が丘柿木町、三矢小台5丁目	台地	貝塚	縄:貝塚(後)、住居跡、土器(早・後)、土製品、石器、石製品、骨角器、貝製品 墳:土器(前?)、埴輪	-
96	陣ヶ前	松戸(貝台、白山)	台地	貝塚 集落跡	旧:石器 縄:貝塚(中~後)、住居跡(後)、土坑(中~後)等、土器(早・中~晩)、土製品、石器、石製品、骨角器 中近:土器	調査:昭26、第1~第8地点
97	平次郎屋舗	松戸新田(平次郎屋舗、吉兵衛屋敷)	台地	集落跡	縄:土器(中~後) 墳:住居跡、土器(後)	調査:第1~第3地点 消滅
98	毛無山	松戸新田(毛無山、平次郎屋敷)、和名ヶ谷(二反割)	台地	集落跡	縄:土器 墳:住居跡、土器	-
99	和名ヶ谷溜台	和名ヶ谷(溜台、諏訪原)	台地	貝塚 集落跡	旧:石器 縄:貝塚(後)、住居跡(後)、土坑(中~後)、土器(中~後)、石器 墳:土器	調査:第1地点(平3~5)
100	下水	松戸新田(不動前、吉兵衛屋舗、定使山)、和名ヶ谷(下水)	台地	貝塚 集落跡	旧:ブロック 石器 縄:貝塚(中~後)、住居跡(中~後)、集石(後)、土坑(中~後)等、土器(前~後)、土製品、石器、石製品、貝製品、人骨 奈・平:土器 近:道路状遺構	調査:第1~第13地点
101	通源寺	和名ヶ谷(通源寺、二反割、堀込)	台地	貝塚 集落跡	旧:ブロック、石器 縄:貝塚(中)、住居跡(中)、土器(前~後)、土製品、石器、石製品、貝製品、人骨 近:段切り遺構、土坑等、陶磁器、土器、土製品	調査:昭25、第1~第5地点
102	諏訪原	和名ヶ谷(諏訪原、白幡)	台地	集落跡	旧:石器 縄:土器(前~後) 弥:住居跡(後)、土器(後) 墳:住居跡(前~後)、土坑、土器(前~後)、石器、石製品、鉄製品 奈・平:土器	調査:第1地点(昭43~45)
103	清水	和名ヶ谷(清水)	台地	包蔵地	縄:土坑、土器 弥:住居跡(後)、土器 墳:土器 中近:陶磁器、土製品、鉄製品	調査:第1~第3地点
104	富山	稔台、和名ヶ谷(外山、花山)	台地	その他	墳:方形周溝墓、土器(前)	調査:第1地点(昭42)
105	稔台	稔台、和名ヶ谷(清水)	台地	集落跡	旧:ブロック、石器 縄:土器(前~後) 弥:住居跡(後)、土器(後)、石器 墳:住居跡(前~後)、土器(前~後)、土製品 奈・平:住居跡、土器、鉄製品 近:陶磁器	調査:第1~第10地点
106	天神山古墳	松戸新田(天神山)	台地	古墳	墳:古墳 近:土器、銭貨	調査:第1~第2地点
107	生松	田中新田(生松)	低台地	包蔵地	縄:土器(前~後)	消滅
108	矢深作	田中新田(矢深作)、河原塚(ハイ松)	低台地	包蔵地	縄:土器(前~後)、石製品	-
109	北山	串崎新田(北山) 松飛台(御厩)	台地	包蔵地	縄:土器(中~後)	-
110	南花	河原塚(南花、初崎)	台地	包蔵地	縄:土器	消滅
111	初崎	河原塚(初崎)	低台地	包蔵地	縄:土器(早~後)	-
112	河原塚古墳群	河原塚(狐塚、大割)、紙敷(西金楠台)	台地	古墳	墳:円墳、土器、鉄製品、石製品、骨角器、ガラス小玉、人骨	調査:昭30(1号墳)・昭52(4号墳)・昭51(2号墳) 市指定文化財史跡「河原塚1号墳」「河原塚4号墳」
113	河原塚	河原塚(大割、中割)、紙敷(西金楠台)	台地	貝塚 集落跡	縄:貝塚(後)、住居跡(後)、土坑(後)等、土器(早~後)、土製品、石器、石製品、貝製品	調査:第1~第3地点
114	西金楠台	紙敷(西金楠台)	台地	貝塚 集落跡	旧:石器 縄:貝塚(後)、住居跡(後)、土坑(後)、土器(中~後)、土製品、石器 奈・平:住居跡、土器	調査:昭48
115	坂之台	紙敷(坂之台、東金楠台、西金楠台、向堀込)	台地	貝塚 集落跡	旧:ブロック、礫群、石器 縄:貝塚(中)、住居跡(中~後)、土坑、土器(早~晩)、土製品、石器	調査:第1~第4地点

No.	遺跡名	所在地	立地	種別	遺構 遺物(種類、形式)	備考
116	新橋台Ⅰ	紙敷(坂之台、向堀込)、紙敷2・3丁目	台地	集落跡	旧:石器 縄:土器(中～後)、石器 奈・平:住居跡、土器	調査:昭61、第1～第2地点
117	坂之台古墳群	紙敷(坂之台)、2丁目	台地	古墳	墳:円墳?	消滅
118	新橋台塚	紙敷2丁目	台地	塚	近:塚	-
119	新橋台Ⅱ	紙敷2丁目	台地	集落跡	縄:土坑、土器(中～後)	調査:第1～第2地点
120	関台	紙敷1丁目	台地	集落跡	旧:ブロック、石器 縄:土坑、土器(前～後)、石器 奈・平:土坑、土器	調査:第1～第2地点
121	坂花	紙敷1・3丁目	低台地	集落跡	縄:土器(後) 奈・平:土器	調査:第1～第2地点 市指定有形文化財【坂花遺跡出土「国厨」銘骨藏器(蔵骨器)】
122	串崎新田古和清水	串崎新田8古和清水、木戸前、東里	台地	包蔵地	旧:石器 縄:土器(前～後)	-
123	下ノ宮	紙敷(下ノ宮、初崎)	低台地	集落跡	縄:土器(早～後) 墳:住居跡?、土器(中)	調査:第1～第3地点
124	島崎	紙敷(島崎)	低台地	包蔵地	旧:石器 縄:土器(前～後)、石器	調査:昭46、第1地点(昭59)
125	雨砂	紙敷(雨砂、薄浦)	低台地	包蔵地	縄:土器(前～中)	-
126	大久保	紙敷(大久保、丹後山)	低台地	包蔵地	縄:土器(前～後)	調査:第1地点(昭51)
127	権現山	紙敷(権現山)	低台地	包蔵地	縄:土器(前～中)	調査:第1地点(昭51) 消滅
128	新田前	紙敷(新田前、下屋敷)	低台地	集落跡	縄:土器(前～中) 墳:住居跡、土器(中)、石製品	-
129	妙見前	紙敷(妙見前)	低台地	包蔵地	縄:土器(中)	-
130	木戸場	紙敷(木戸場)	低台地	包蔵地	縄:土器(前～中)	調査:第1地点(昭61)
131	中内	紙敷(中内、根之神台)	台地	集落跡	旧:ブロック、石器 縄:貝層(中)、住居跡(中)、土坑(中～後)等、土器(前～後)、土製品、石器	調査:昭60～63、第1～第2地点 消滅
132	根之神台	紙敷(根之神台)	台地	集落跡	旧:ブロック、石器 縄:住居跡(中)、土坑、土器(前～後)、土製品、石器	調査:昭60・昭63
133	中峠	紙敷(中峠)、高塚新田(受原)	台地	貝塚集落跡	旧:石器 縄:貝塚(中)、住居跡(中)、土坑(中)、土器(早～後)、土製品、石器、石製品、骨角器、貝製品、人骨 近:銭貨	調査:昭38～45・昭48・昭52・昭62(下総)、昭63(県)、第1～第3地点 中峠式土器の標式遺跡
134	受原	高塚新田(受原)	台地	集落跡	旧:石器 縄:住居跡、土坑、土器(前～中)	調査:第1～第2地点
135	内野	紙敷(中峠)、高塚新田(内野)	台地	貝塚集落跡	旧:石器 縄:貝塚(中～後?)、住居跡(中)、土坑、土器(中～後)、土製品、石器	調査:第1～第3地点
136	内野古墳群	紙敷(中峠)、高塚新田(内野)	台地	古墳	墳:古墳	消滅
137	紙敷	紙敷(花輪、向、外花輪、名木)	台地～低台地	貝塚集落跡	旧:ブロック、礫群、石器 縄:貝塚(中)、住居跡、土坑、遺物集中部、土器(早～晩)、土製品、石器、石製品、骨角器、貝製品、人骨 奈・平:土器 中近:竪穴状遺構、掘立柱建物跡、地下式坑、井戸状遺構、土坑、土坑墓、炉跡、段切り遺構、陶磁器、土器、金属製品、石製品、人骨、獣骨、銭貨	調査:昭25・昭27、第1～第5地点
138	名木	紙敷(名木、重兵衛山)	台地	包蔵地	縄:土器(中～後)	-
139	新堀込	紙敷(重兵衛山)、高塚新田(新堀込)	台地	貝塚	縄:貝塚、住居跡(中)、土器(中～後)	調査:第1～第2地点
140	栗芝台	紙敷(栗芝台、大山)	台地	貝塚	縄:貝塚、土器(早～後)	-
141	新橋	紙敷3丁目	低台地	包蔵地	縄:土器(前～中)、土製品	調査:第1地点(平5)
142	秋山向山	秋山(向山、宿)	台地～低台地	貝塚集落跡	旧:石器 縄:貝塚(中)、住居跡(中)、土坑(中)、土器(早～後)、土製品、石器、貝製品、人骨 墳:方墳、住居跡?、土器(前) 中近:掘立柱建物跡、埋納遺構、土坑、陶磁器、銭貨	調査:第1～第11地点

No.	遺跡名	所在地	立地	種別	遺構 遺物(種類、形式)	備考
143	前原Ⅰ	秋山(前原、向堀込)	台地	包蔵地	旧:石器 縄:土坑、土器(早~後) 近:土製品	調査:昭60、第1地点(昭62) 消滅
144	前原Ⅱ	秋山(前原)、高塚新田(杵本松)	台地	包蔵地	縄:土器(早・中) 弥:土器 近:銭貨	調査:第1地点(昭62) 消滅
145	牧之内	秋山(牧之内、神宿、堀込)	台地	貝塚集落跡	旧:石器 縄:貝塚(中~後)、住居跡(中~後)、土坑(中~後)、墓壇(後)、土器(早~後)、土製品、石器、骨角器、人骨 弥:住居跡(後)、土器(後) 墳:住居跡(前~後)、土器(前~後) 奈・平:土器	調査:第1~第4地点
146	稲堀込	秋山(稲堀込、道崎)	低台地	包蔵地	縄:土器(前~中)	-
147	堀込	秋山(堀込、松葉)	台地	貝塚	縄:貝塚、土器(中~後)、石器	-
148	小浜屋敷	高塚新田(小浜屋敷)	台地	包蔵地	縄:土器(中)	-
149	芝居向	高塚新田(芝居向、小浜屋敷)	台地	包蔵地	縄:土器(後)	-
150	木戸前	高塚新田(木戸前、八町分)	台地	貝塚集落跡	縄:貝塚(中)、土坑(中)、土器(中~後)、石器 墳:住居跡(中~後)、土器(中~後)、石製品、鉄製品	調査:第1~第3地点
151	大塚越	大橋(大塚越、大塚)、二十世紀が丘梨元町	台地	貝塚集落跡	縄:貝塚、土坑(後)、土器(中~後)、石器	調査:第1地点(昭45)
152	内山	大橋(内山)、二十世紀が丘梨元町	台地	貝塚集落跡	旧:石器 縄:貝塚(中)、住居跡(中)、土坑(中)等、土器(中~後)、土製品、石器、石製品	調査:第1~第2地点
153	白幡	大橋(白幡)	台地	貝塚	旧:石器 縄:貝塚、土器(前~後)、石器 弥:土器(後) 墳:土器(前~中)	消滅
154	馬乗場	大橋(馬乗場、北谷津)	台地	包蔵地	旧:石器 縄:土器(中~後)、石器	-
155	台畑	大橋(台畑、北台、中郷、稲荷山)	台地	包蔵地	縄:土器(中~後)	-
156	南台	大橋(南台、稲荷山)	台地	貝塚集落跡	縄:貝塚(中~後?)、住居跡、土器(中~後)、石器	-
157	南台畑	大橋(南台畑、長割)	台地	貝塚集落跡	縄:貝塚(後?)、住居跡、土器(中~後)、石器	調査:第1~第3地点
158	丸山	大橋(丸山)	台地	集落跡	墳:土器?	-
159	大橋向山	大橋(向山、南山)	台地	貝塚集落跡	旧:石器 縄:貝塚(後)、土坑(後)、土器(中~後)、土製品、人骨 墳:土器(中・後)	調査:第1~第3地点
160	彦八山	大橋(彦八山、向山)	台地	集落跡	旧:ブロック、石器 縄:貝塚(後)、住居跡(中~後)、土坑(中~後)、土器(早~後)、土製品、石器、石製品 弥:住居跡(後)、土器(後) 墳:住居跡(前~後)、土坑、土器(前~後)、石製品 中近:竪穴遺構、道路状遺構、土坑等、陶磁器、土器、土製品、石製品、銭貨	調査:第1~第10地点
161	天神山	栗山(天神山、塚之越、寺上)	台地	包蔵地	旧:石器 墳:周溝、住居跡、土器、埴輪 奈・平:土器	調査:第1~第3地点
162	栗山古墳群	栗山(立出し、佐原、寺上、天神山)、下矢切(南台)	台地	古墳	墳:円墳、周溝、土器、埴輪、鉄製品 近:土器	調査:第1~第3地点
163	寺田	馬橋(寺田)	低地	貝塚	墳~奈・平:貝塚?	消滅
164	根本城跡	竹ヶ花(拾石)	台地	城跡	-	消滅
165	内畑	中和倉(内畑)	台地	包蔵地	墳:土器(前)	調査:第1地点(平27)
166	原の山	殿平賀(原の山)	台地	集落跡	旧:石器 縄:住居跡(前)、土坑、土器(早~後)、土製品、石器、石製品 弥:住居跡(後)、土坑?、土器(後) 墳:住居跡(中)、土器(中)、ガラス小玉、奈・平:住居跡、土器	調査:第1地点(昭61) 消滅
167 A	行人台	久保平賀(行人台)、小金きよしヶ丘2丁目	台地	集落跡	旧:石器 縄:住居跡(早)、土坑(早~前)、炉穴(早)、土器(早~後)、土製品、石器 墳:住居跡(中~後)、土坑(中)、土器(中~後)、石製品、ガラス小玉、鉄製品	調査:第1~第5地点
167 B	行人台城跡	久保平賀(行人台)、小金きよしヶ丘2丁目	台地	城跡	中近:空堀、土塁、方形区画溝、段切り遺構、盛土、ピット列、墓壇等、陶磁器、土器、土製品、石製品、鉄製品、人骨、銭貨	調査:第1~第5地点

No.	遺跡名	所在地	立地	種別	遺構 遺物(種類、形式)	備考
168	溜ノ上	新松戸東、幸谷(溜ノ上、ボッケ)	台地	集落跡	旧:ブロック、石器 縄:住居跡(前~中)、土坑、土器(早~晩)、土製品、石器、石製品 墳:住居跡、方形周溝墓(前)、土器、土製品、鉄製品 中近:土坑墓、人骨、銭貨	調査:第1~第2地点(昭57・平8)
169	向山	千駄堀(向山)	台地	集落跡	旧:ブロック、石器 縄:貝塚(前)、住居跡(中~後)、土坑(前~後)等、土器(早~後)、土製品、石器 弥:土器(後) 墳:土器(中)	調査:第1地点(平3)
170	小野	胡録台(小野、柘野)、松戸新田(野間木戸)	台地	集落跡	旧:ブロック、石器 縄:貝塚(前)、住居跡(前)、土坑、土器(早~前・後)、土製品、石器、石製品、貝製品 奈・平:住居跡、掘立柱建物跡、土器、石製品、鉄製品 近世以降:土坑、防空壕等、陶磁器、土器、土製品、銭貨	調査:第1~第41地点
171	東出山	紙敷(東出シ山、西出シ山)、高塚新田(清原)	台地	貝塚集落跡	旧:ブロック、石器 縄:貝塚(中)、住居跡(中)、土坑(中)、土器(早~後)、石器、石製品 弥:土器(後) 墳:埴輪 近:陶磁器	調査:第1~第2地点
172	野見塚	高塚新田(野見塚、荻本松、受原、清原)	台地	包蔵地	旧:ブロック、石器 縄:土器(中)、石器 近:陶磁器	調査:昭60・昭61・第1地点(昭62)
173	秋山神宿	秋山(神宿、郷)	低台地	集落跡	縄:土器(前~中)、石器 弥:住居跡(後)、土器(後)、石製品 墳:貝塚(後)、住居跡(前~後)、土坑(後)、土器(前~後)、土製品、石製品 近:陶磁器、土器	調査:第1~第6地点
174	池ノ台	高塚新田(池ノ台)	台地	集落跡	縄:土坑、土器(前~後)、石器 弥:土器(後) 墳:住居跡(中~後)、土器(中~後)、石器、石製品、鉄製品 近:銭貨	調査:第1~第6地点
175	一の谷西	高塚新田(一ノ谷)	台地	貝塚集落跡	縄:貝塚(中~後)、住居跡(中~後)、土坑(中~後)等、土器(前~後)、土製品、石器、石製品	調査:第1~第2地点(昭58・平27)
176	熊ノ脇	幸谷(熊之脇、宮下、ボッケ)	台地	包蔵地	旧:石器 縄:住居跡(前)、土坑、炉穴(早)、土器(草~後)、石器 弥:土器 中近:道路状遺構、炭窯跡	調査:第1~第5地点
177	木戸前Ⅱ	高塚新田(木戸前)	台地	貝塚集落跡	縄:貝塚(中)、土坑(前~中)、土器(前~後)、土製品、石器、貝製品 近:土製品、銭貨	調査:第1地点(平6)
178	山王前	小金上総町	台地	集落跡	縄:住居跡(中)、土坑、土器(前~後)、土製品	調査:第1~第2地点
179	境外Ⅱ	小金(境外、西)	台地	貝塚集落跡	旧:ブロック、礫群、石器 縄:貝塚(前)、住居跡(前)、土坑(前)等、土器(早~中)、土製品、石器、石製品 墳:土器、埴輪	調査:第1~第4地点
180	立出し	栗山(立出し、佐原)	台地	集落跡	旧:ブロック、石器 縄:土坑、土器(早~後)、石器 弥:住居跡(中)、土器(中)、石器、銅製品 墳:古墳(周溝)、埴輪、土器(後) 中近:土坑墓、道路状遺構、陶磁器、土器、銭貨	調査:第1~第2地点
181	殿平賀向堀	殿平賀(向堀)、平賀(大門通)	台地	集落跡	旧:石器 縄:住居跡(中)、土坑、土器(早~中~後)	調査:第1~第5地点
182	吾妻	八ヶ崎3丁目	台地	集落跡	縄:住居跡(中)、土坑、土器(中~後)、石器	調査:第1~第5地点
183	岩瀬塚田	岩瀬(塚田)	台地	集落跡	縄:土器(前~後) 墳:住居跡(後)、土器(後)、石製品	調査:平6
184	登戸Ⅱ	千駄堀(登戸)	台地	集落跡	縄:住居跡、土坑、炉穴(早)、土器(早~後)	調査:第1地点(昭60)
185	根木内北の台	根木内(北の台、辻)	台地~斜面部	集落跡	縄:土器(前) 中近:井戸状遺構等、土器	調査:第1地点(昭56)
186	八柱霊園内	紙敷(東金桶台、下馬原作)	台地	集落跡	旧:石器 縄:土坑	調査:第1地点(平5)
187	相模台	岩瀬(相模台、向山、塚田、離山、中ノ町、殿平賀)	台地	集落跡	縄:土器(早~後) 弥:住居跡(後)、土器(後) 墳:住居跡、土器(後) 奈・平:住居跡、土器、鉄製品	調査:平21、第1~第8地点
188	上矢切南台	上矢切(南台、富士見台)、中矢切(坂上、向台、杉之内、北台)	台地	集落跡	旧:ブロック、石器 弥:住居跡(後)、環濠 奈・平:住居跡、土器	調査:平9~17・26、第1地点
189	下矢切東台	下矢切(東台)、中矢切(杉之内、向台)、三矢小台1・2丁目	台地	包蔵地	旧:ブロック、石器 奈・平:道路状遺構	調査:平9~17
190	殿平賀天神山	殿平賀(天神山、向台北割、向台南割)	台地	包蔵地	縄:土器(早~前) 墳:土器 近:陶磁器	調査:第1~第3地点
191	作	八ヶ崎2丁目	台地	集落跡	縄:土坑、土器(早~中)、石器	調査:第1~第4地点

No.	遺跡名	所在地	立地	種別	遺構 遺物(種類、形式)	備考
192	平賀長谷	平賀(長谷)	台地	包蔵地	縄:土器(前) 中近:陶磁器、土器、石製品	調査:第1地点(平8)
193	関場	河原塚(関場、小屋後、橋戸、台畑、作畑、木戸場、宮ノ内、宮ノ台)、田中新田(握台)	台地	集落跡	旧:ブロック、礫群、石器 縄:土坑、土器(早~後)、土製品、石器 墳:住居跡、土器 中近:土坑、土坑墓、陶磁器、人骨、銭貨	調査:第1~第5地点
194	幸田Ⅱ	幸田2・3丁目	台地	貝塚集落跡	縄:貝塚(前)、土器(前)	-
195	東雷神社	東平賀(仲通)	台地	貝塚集落跡	縄:貝塚(前)、土器(前)	消滅
196	笹塚Ⅱ	小金原9丁目	台地	包蔵地	縄:土器(中~後)	-
197	上本郷Ⅱ	上本郷(宮下)、上本郷1丁目	台地	集落跡	縄:土器(前)	調査:第1地点(平25)
198	高塚丸山	高塚新田(丸山)	台地	包蔵地	旧:石器 縄:土器(前~中)、石器	-
199	西Ⅱ	小金(西)	台地	集落跡	縄:住居跡、土坑、土器(早~後)、石器	調査:第1~第5地点

	区分名称	立地	所在地	備考
A	常盤平野馬除土手	台地	常盤平5~7丁目、常盤平柳町、五香1丁目、五香西1丁目、松飛台(御立場)、五香六実(元山)、五香南1丁目	調査:昭58(県)・31地点
B	五香六実野馬除土手	台地	五香4・6~8丁目、六高台1~6・8丁目、高柳(上瀬上、下瀬上)、高柳新田(×切内)	調査:昭63(県2)、46地点
C	松戸新田野馬除土手	台地	松戸新田(大作)	-
D	松飛台野馬除土手	台地	松飛台(御阻、中原)	-
E	六実野馬除土手	台地	六実3~5丁目	-
F	串崎新田野馬除土手	台地	串崎新田(東里)	調査:昭63(県3)
G	紙敷野馬除土手	台地	紙敷2・3丁目	-
H	和名ヶ谷野馬除土手	台地	二十世紀が丘山町	調査:2地点

*『松戸市埋蔵文化財分布地図』(2008)に令和3年度末までの記録を加えて更新しました。

(6)記念物

No.	区分	名称	所在地	所有者等	時代	備考
1	遺跡	松戸の樋門群 小山樋門橋	小山地先 松戸地区	-	-	『近代遺跡調査報告書 -交通・運輸・通信業-』
2	名勝	矢切の渡しの景観と野菊の墓 文学碑	矢切 矢切・栗山地区	所有:国 管理:松戸市	明治時代1898	『名勝に関する総合調査』
3	動物・植物 地質鉱物	松戸貝層	根本 松戸地区	-	沖積世	-

4. 市民アンケート調査の概要

(1) 調査の目的

文化財行政の現状、ニーズ等について、市民の皆様の意見を伺い、計画策定の基礎資料とするため実施しました。

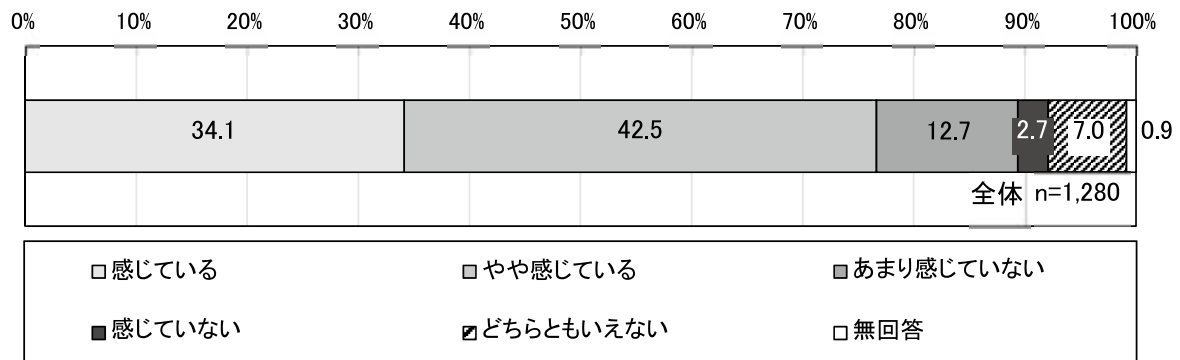
(2) 実施方法

- ・調査対象: 松戸市在住の満18歳以上の市民 3,000人
- ・調査方法: 郵送調査
- ・調査期間: 令和3年10月15日～令和3年11月8日
- ・有効回収数: 1,280件(42.7%)

(3) 調査結果

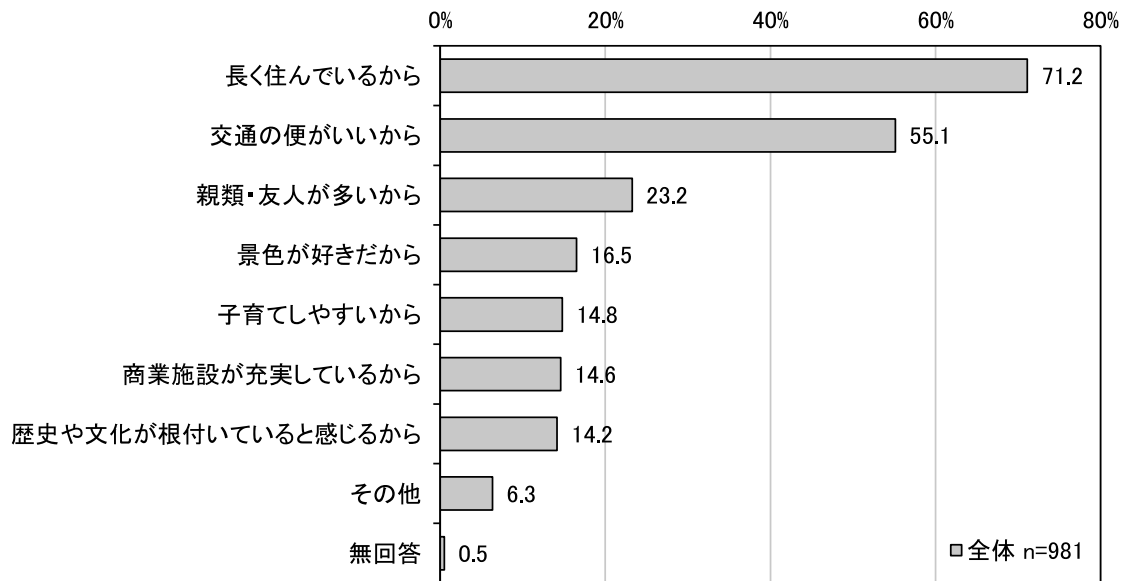
① 歴史文化に対する興味・関心について

問1 あなたは「松戸市」に魅力や愛着を感じますか。(1つ)



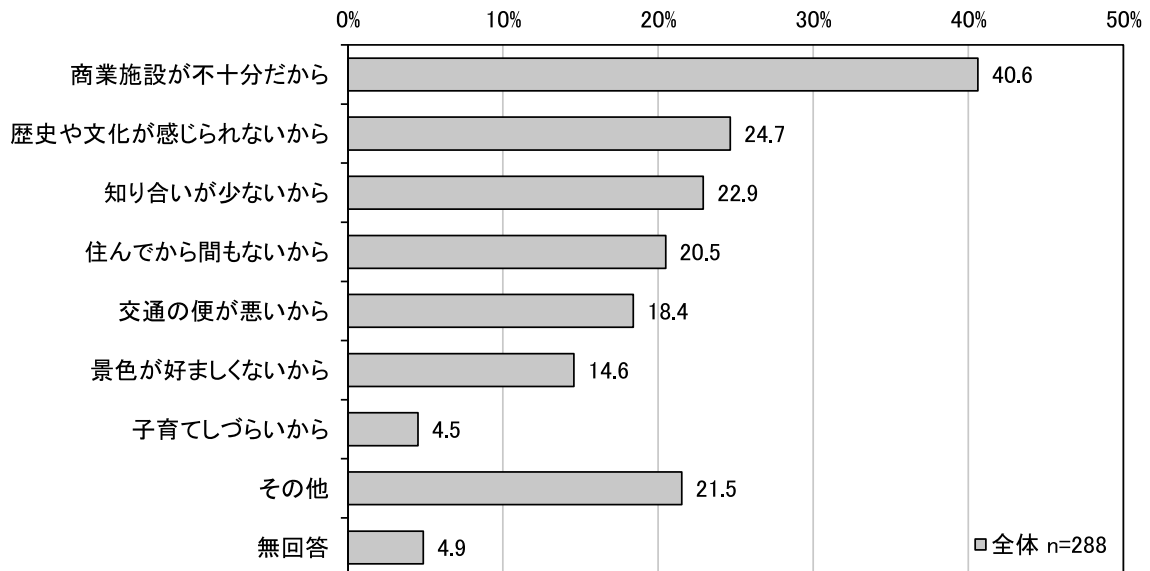
【問1で「感じている」「やや感じている」のいずれかをお答えの方】

問1-1 どこに魅力や愛着を感じますか。(すべて)



【問1で「あまり感じていない」「感じていない」「どちらともいえない」のいずれかをお答えの方】

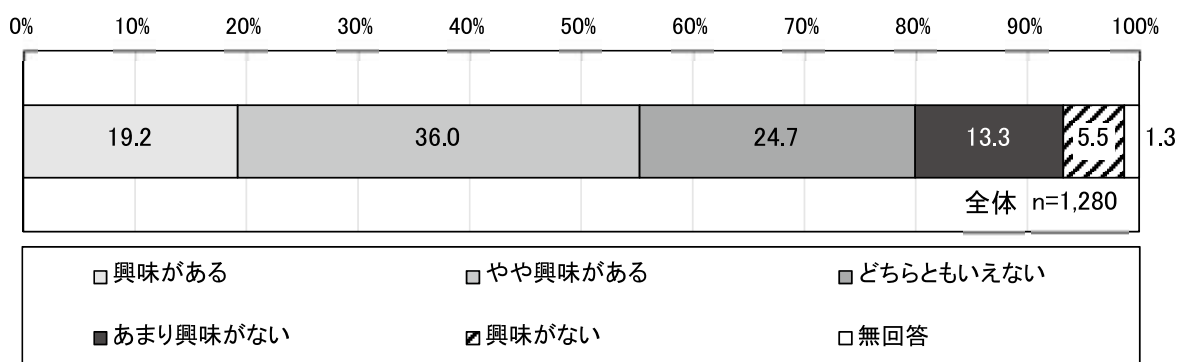
問1-2 魅力や愛着を感じていない理由は何ですか。(3つまで)



問2 あなたが思う松戸市の自慢したい場所を教えてください。(自由記述)

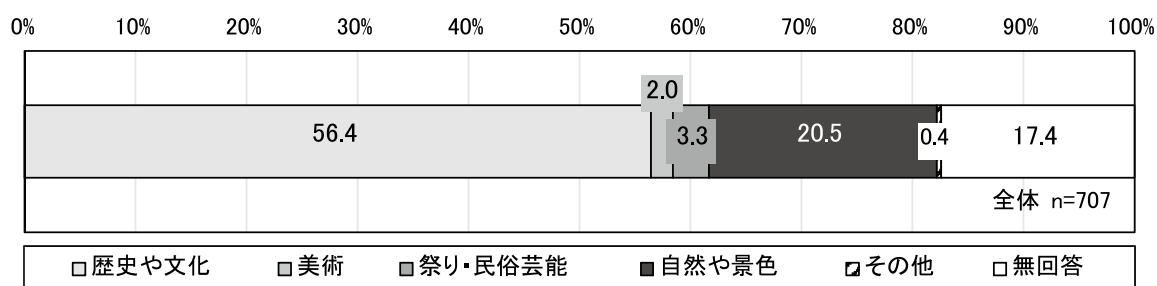
松戸市の自慢したい場所については、「21世紀の森と広場」が226件で最も多く、次いで「戸定邸」が183件、「本土寺」が105件となっている。また、その他にも多い意見としては「江戸川」「矢切の渡し」「さくら通り(五香～八柱)」等が上位の回答となっている。

問3 あなたは松戸市の歴史や文化に興味がありますか。(1つ)

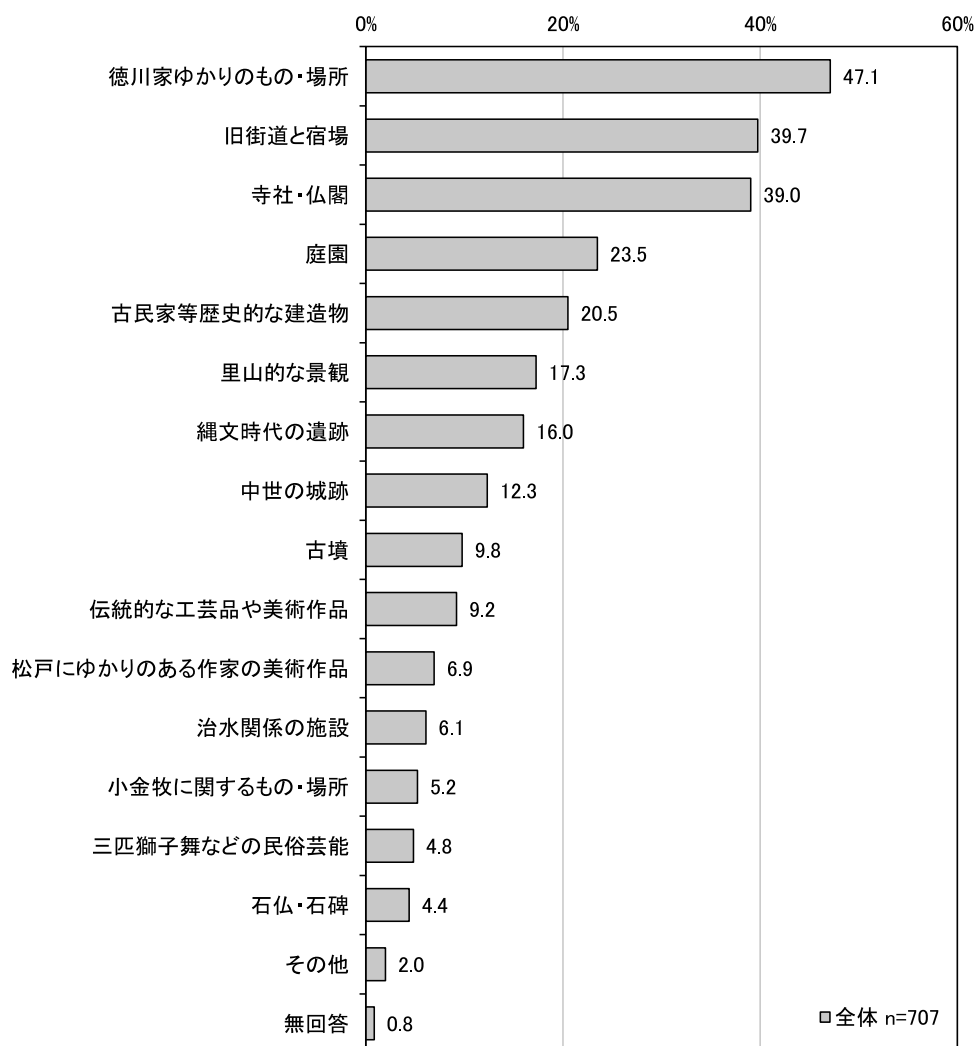


【問3で「興味がある」「やや興味がある」のいずれかをお答えの方】

問3-1 市内の歴史文化に関わるもののうち、特に興味がある分野を教えてください。(あてはまるもの1つ)

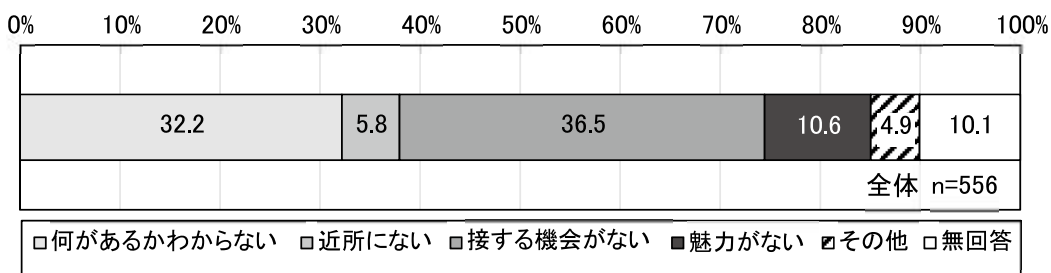


問3-2 特に関心がある対象を教えてください。(3つまで)

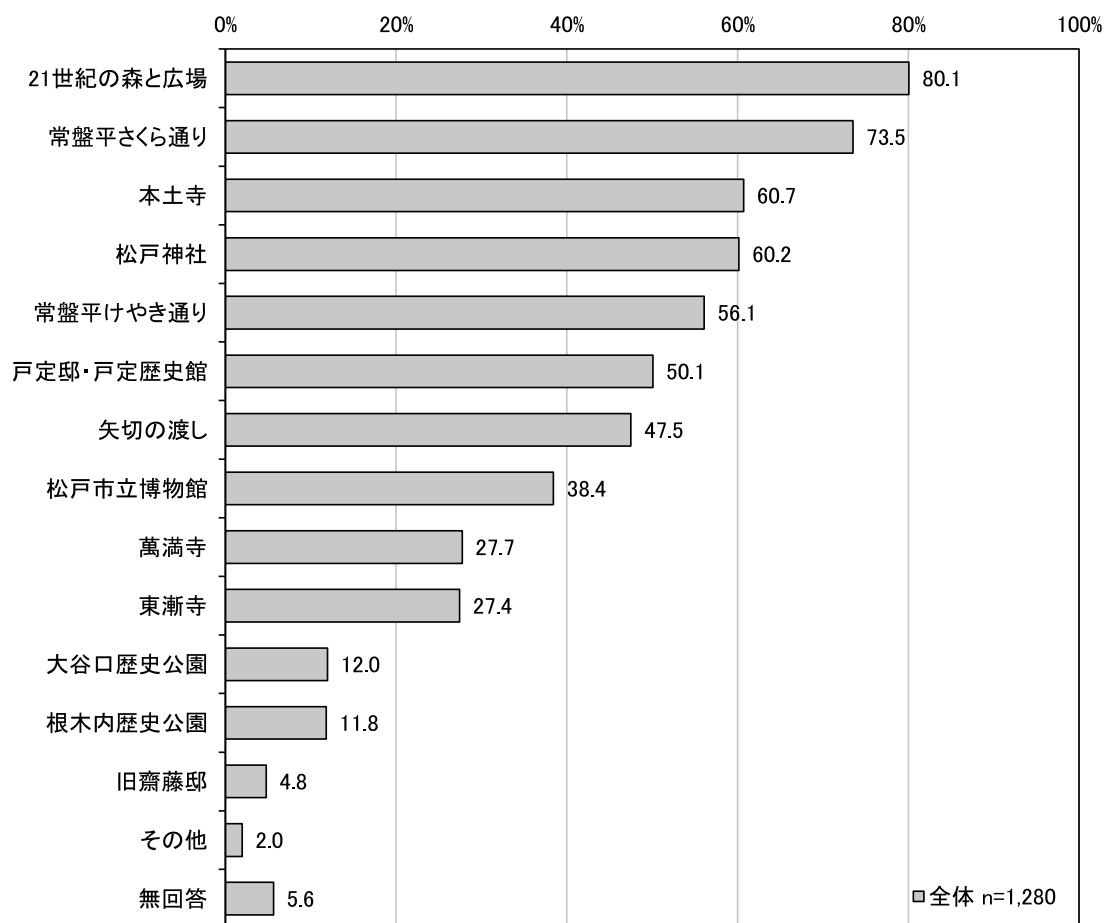


【問3で「どちらともいえない」「あまり興味がない」「興味がない」のいずれかをお答えの方】

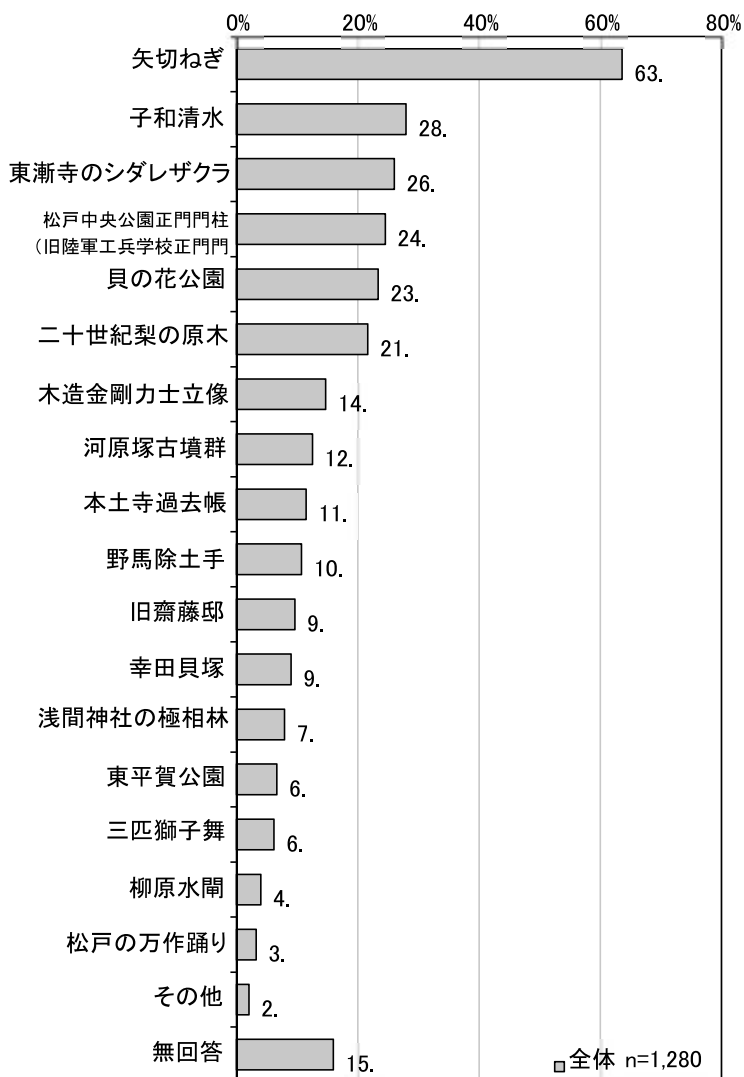
問3-3 興味がない理由として一番近いものを選んでください。(1つ)



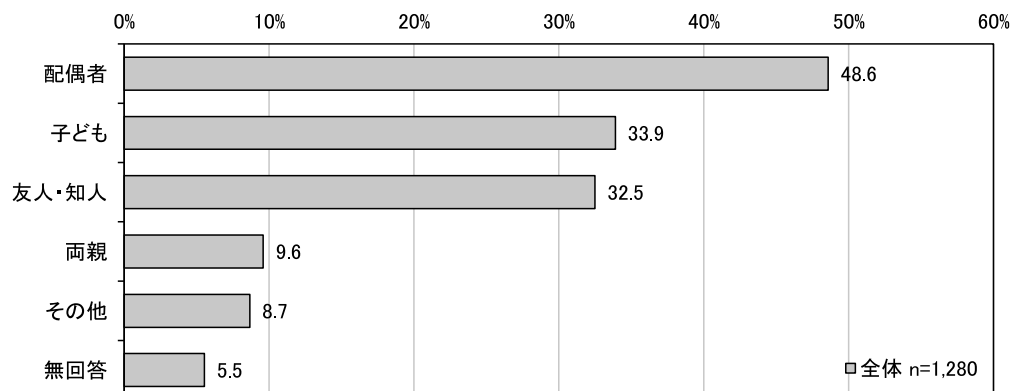
問4 行ったことがある場所を教えてください。(すべて)



問5 知っているものや場所を教えてください。(すべて)



問6 今後、歴史文化に関わる場所に行くとすれば、どなたと一緒にいきたいですか。(すべて)

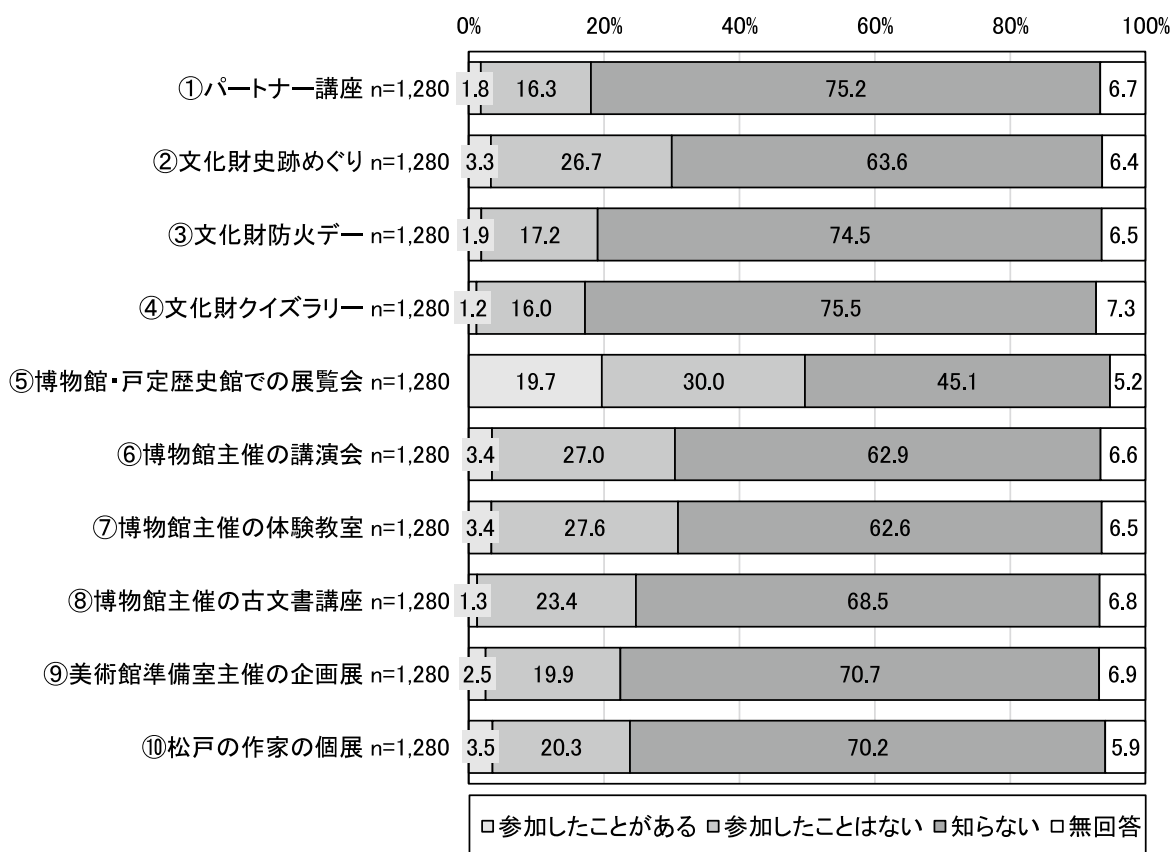


問7 あなたの住んでいる地域のお宝（「大切なもの」「失いたくないもの」「なくなると寂しいもの」）を教えてください。（自由記述）

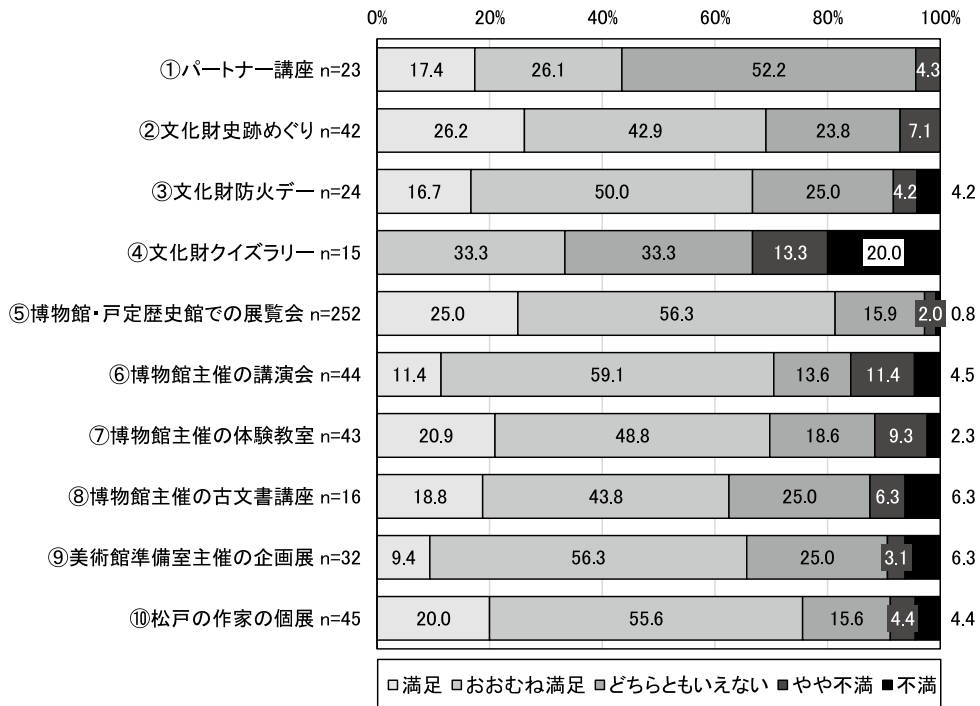
住んでいる地域のお宝（「大切な物」「失いたくないもの」「なくなると寂しいもの」）については、「さくら通り（五香～八柱）」が79件で最も多く、次いで「公園」が68件、「21世紀の森と広場」が62件となっている。また、その他にも多い意見としては「寺（本土寺、東漸寺、萬満寺）」「祭り」「自然」等が上位の回答となっている。

②文化財に関する啓発普及事業について

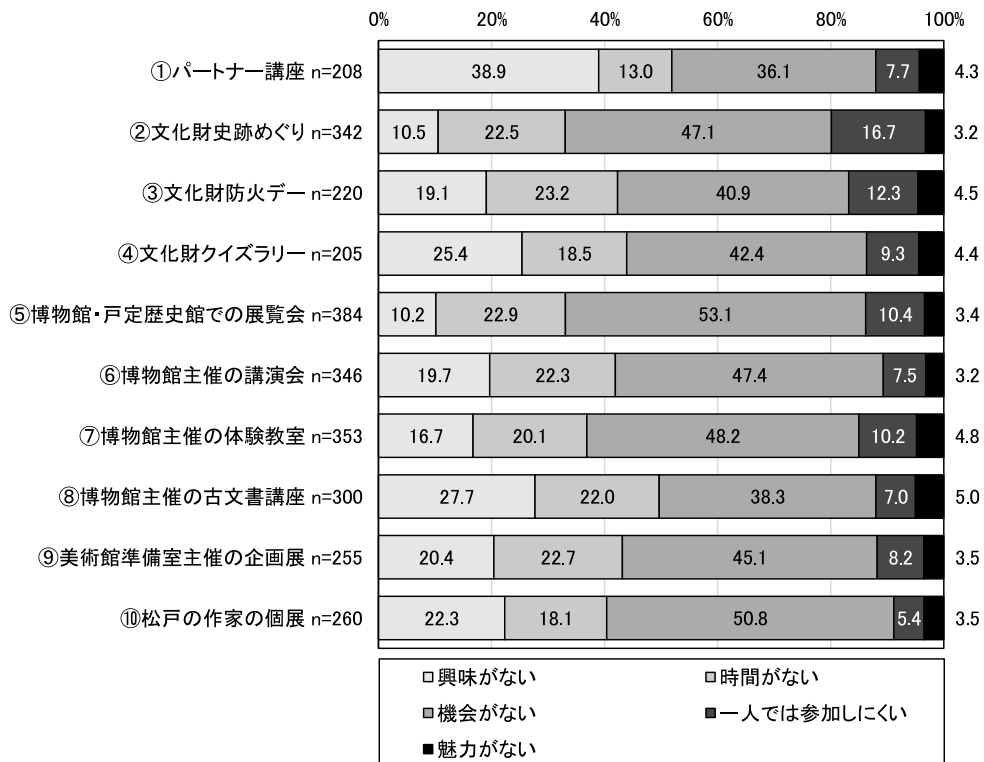
問8 市が行っている①～⑩の事業について、参加したことがあるものは感想から、知っているが参加したことがないものは理由から選んでください。また、知らない場合は「知らない」を選んでください。（事業毎に1つ）



■参加者の感想

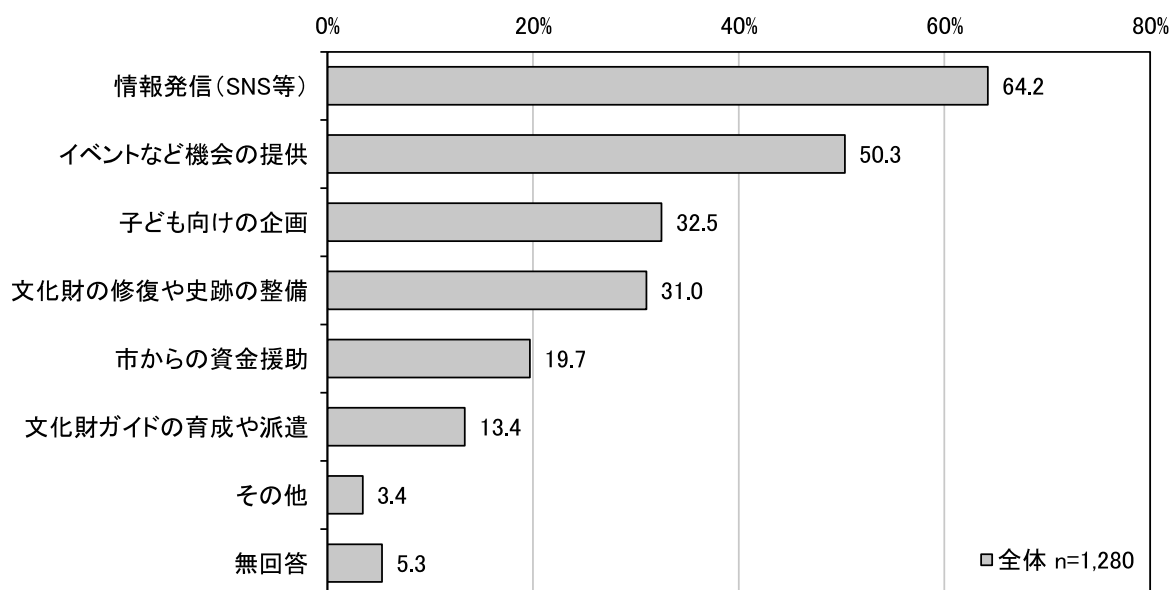


■不参加の理由

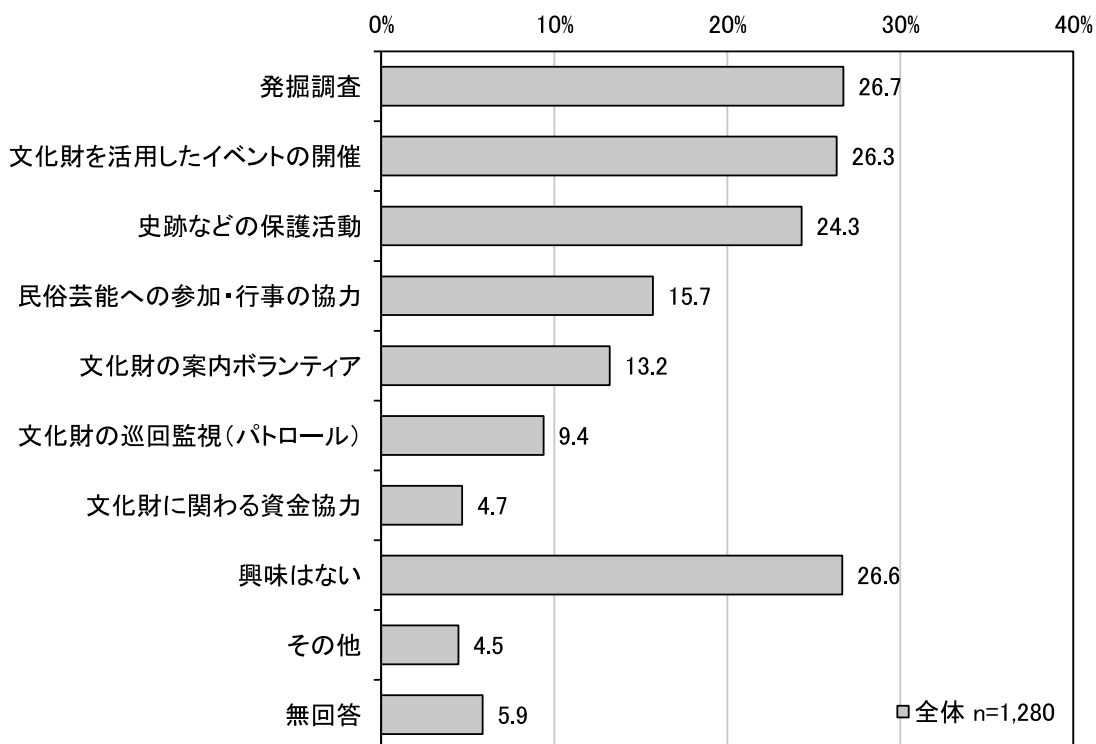


③文化財の保存・活用について

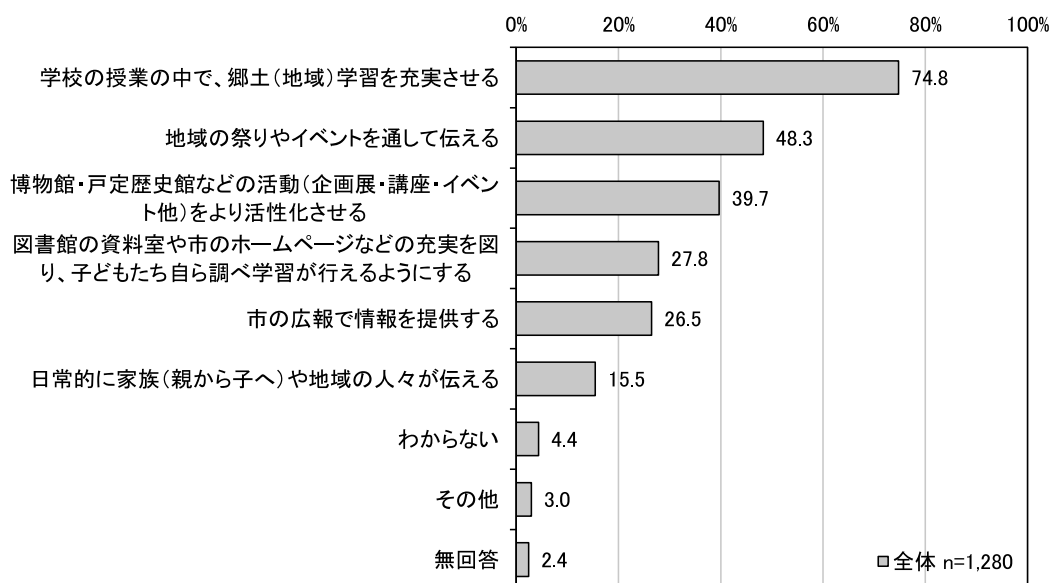
問9 松戸市の文化財の保存・活用を推進するため、市としてどのような取り組みが必要だと思いますか。(3つまで)



問10 あなたが文化財の保存・活用事業に関わるとしたら、どの活動に興味がありますか。(あてはまるもの3つまで)

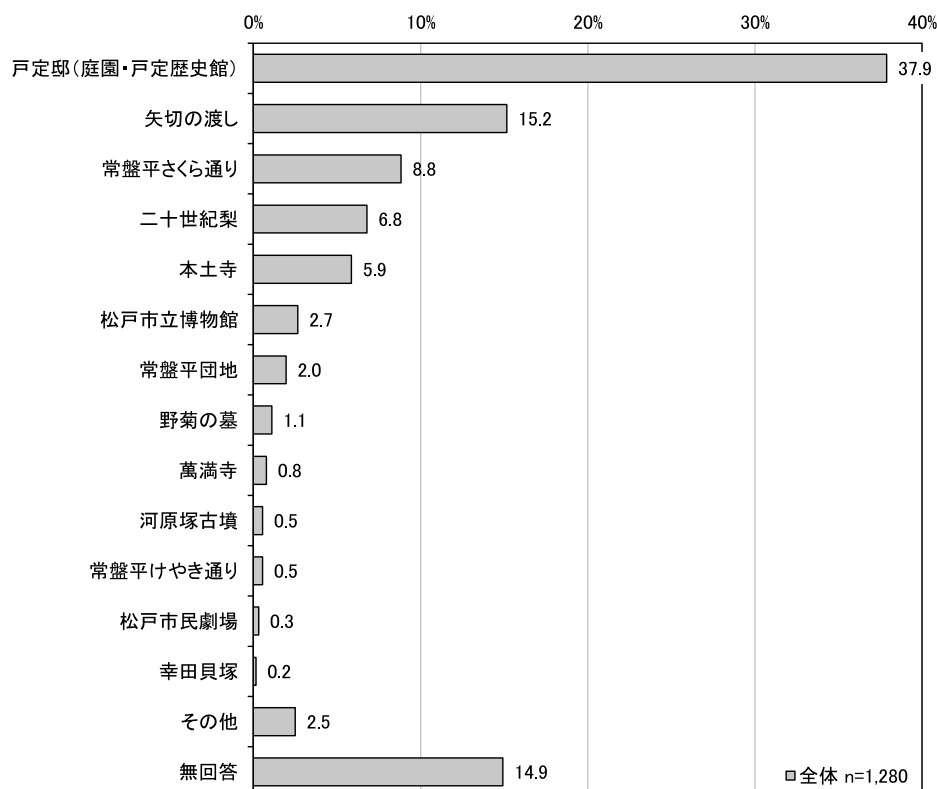


**問 11 歴史文化を子どもたちに伝えていくためにふさわしい方法は何だと思いますか。
(3つまで)**



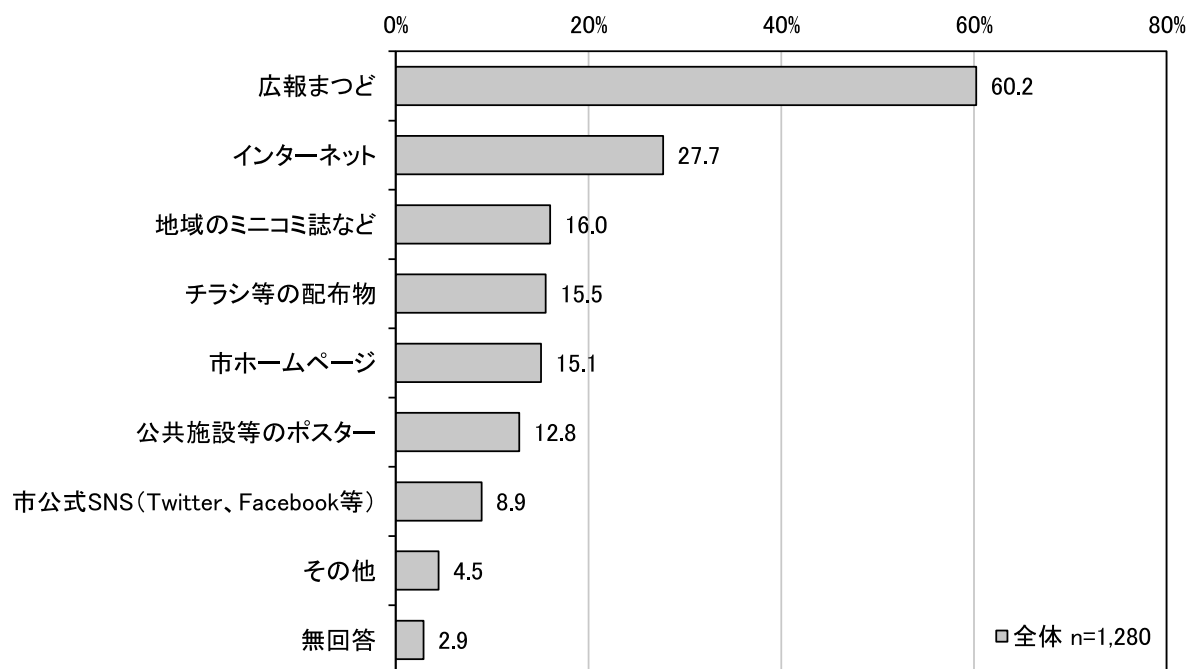
④松戸市の歴史文化のシンボルについて

**問 12 松戸市の歴史文化のシンボルとして、あなたがイメージするものは何ですか。
(1つ)**



⑤歴史文化に関する情報収集について

問 13 あなたは主にどのような方法で情報を得ますか。(2つまで)



松戸市文化財保存活用地域計画

令和 5(2023)年 7 月 認定

編集・発行／松戸市教育委員会生涯学習部文化財保存活用課
〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀 671 番地
TEL 047-382-5570 FAX 047-384-8194